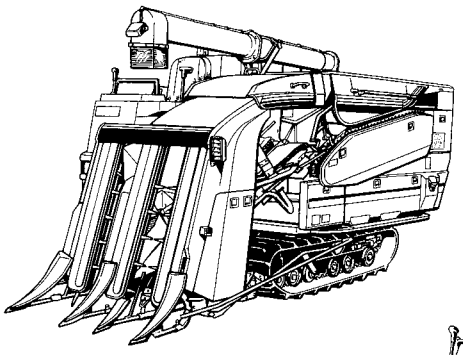
クボタコンバイン

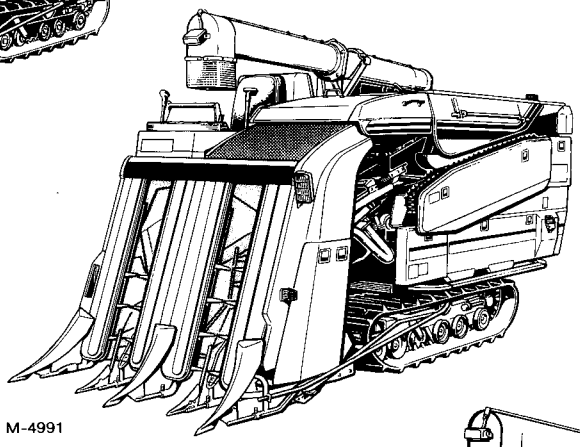
取扱説明書

スカイロードプロ

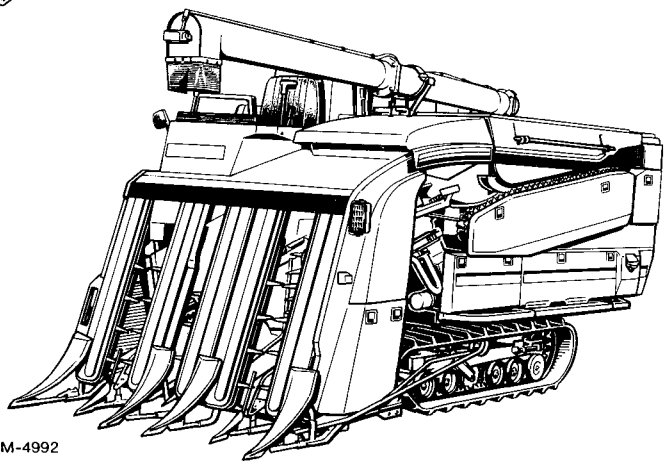
R1-301
351
401
451
551



M-4990



M-4991



M-4992

安全宣言

安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。これらの表示に従って誤操作のないようご使用ください。

…ヘッドランプ

…ヘッドランプと作業灯

…ホーン

…ウインカの操作方向

…ウインカランプの作動を点滅で示す

…燃料

…エンジン油圧

…バッテリ充電

…水温

…エンジン回転数低速

…エンジン回転数高速

…２番スクリュー

…排わらチェーン

…アンローダの移動方向，車高調節の方向

専門用語

グロー …… エンジンの始動を容易にする為の予熱
パワーステアリングレバー …… 油圧式の操向操作レバーと刈取部昇降レバー
スピンターン …… 左右のプーラが互いに反対方向に駆動されて方向を変える・旋回
リフトターン …… 左右のプーラの回転差で方向を変える旋回
超音波センサ …… 非接触で刈取部の高さを検出するセンサー
デバイダ …… 穀稈を分けすくい上げる部分
ドレーン（プラグ） …… エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
刈取一方クラッチ …… 後進のとき刈取部の駆動を絶つ部品
ＨＳＴ …… 油圧式の変速装置
アジャスト …… 調節を意味する
シフトレバー …… **“前進”“後進”**の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
イージーチェッカ …… 誤りなどのトラブルの箇所を表示する部分
１番スクリュ …… 精選された穀粒を横搬送するスクリュコンベア
２番スクリュ …… 粗選された穀粒やワラクズを横搬送するスクリュコンベア
チャフ …… 穀粒を粗選する桟状の板
トウミ …… 選別風を発生させるファン
グレンシーブ …… 穀粒を精選する網体
送じん調節レバー …… こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
排じん調節 …… 選別されたワラクズの排出に抵抗をかける板
こぎ胴 …… 脱こくするドラム
フィードチェーン …… 稲を挟時搬送するチェーンコンベア
縦スクリュ …… 精選された穀粒を縦搬送するスクリュコンベア
フルアップこぎ胴 …… こぎ胴を上に上げる機構
揺動板（シーブケース） …… 揺動運動して穀粒を選別する装置
アンローダ …… グレンタンクから“もみ”を排出する筒

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

58672-8511-8

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様と装備

この取扱説明書は仕様の異なった次の製品を合わせて表示していますので，お買い上げの製品の仕様をお確かめの上，お間違いのないようご活用ください。

商品名	R_1-301					R_1-351, R_1-401				R_1-451				R_1-551		
仕様区分	K	D	HD	SD	SDT	K	D	SD	SDT	K	D	SD	SDT	D	SD	SDT
●自動こぎ深さ制御装置付き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
●自動エンジン停止付き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
●自動方向制御装置付き	—	○	○	○	○	—	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
●自動脱こく制御装置付き	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
●刈取りオートクラッチ付き	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
●防じんカバー装置付き	—	—	○	○	○	—	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
●自動シャッタ付き【ホッパ仕様】	—	—	○	○	—	—	○	○	—	○	○	○	○	—	—	—
●アンローダ自動旋回付き【グレンタンク(G)仕様】	—	—	—	○	○	—	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
●グレンタンク張出し開閉リモコン操作	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○
●自動車速制御装置付き	—	—	—	○	○	—	—	○	○	—	—	○	○	—	○	○
●自動刈高さ制御装置付き	—	—	—	○	○	—	—	○	○	—	—	○	○	—	○	○
●自動車体水平制御装置付き【M仕様】	—	○	○	○	○	—	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○
●L形クローラ付き【L仕様】	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
●W形クローラ付き【W仕様…GM仕様限定】	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—
●LL形クローラ付き【LL仕様…GM仕様限定】	—	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—	○	○	—	○	○
●スピンターン・ソフトターン機能付き【T仕様…GM仕様限定】	—	—	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—	○	—	—	○

目　次

⚠安全に作業するために…… ⚠-1

1.安全運転のために次のことがらを必ず守ってください。 …… ⚠-1
2.⚠表示ラベルと貼付位置 …… ⚠-11
3.⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-23

サービスと保証について …… 1

機体方向説明 …… 2

装置の知識について …… 3

スイッチとメータ …… 3
運転装置 …… 6
自動装置 …… 10

コンバイン使用前の点検について …… 22

上手な運転のしかた …… 25

エンジンの始動と停止について …… 25
路上走行について …… 26
停車について …… 29
トラックへの積み・降ろし …… 29
トラックでの輸送 …… 30

上手な収穫作業のしかた …… 31

コンバイン作業ができる作物とほ場の条件 …… 31
作物の条件 …… 31
ほ場の条件 …… 31
コンバイン作業前の準備 …… 32
ほ場の手刈り（枕刈り） …… 32
作業前の各部の準備 …… 32
コンバイン作業について …… 35
作業中の注意事項 …… 35
オーバヒート時の注意事項 …… 35
刈取部の操作のしかた …… 35
脱こく部の操作のしかた …… 37
走行部の操作のしかた …… 38
刈取部の条合せのしかた …… 39
ほ場内での回行のしかた …… 39
刈取作業のしかた …… 40
刈取作業中の注意事項 …… 40
枕刈りの脱こくのしかた …… 41
穀粒の排出方法 …… 42
排出作業時の注意事項[グレンタンク仕様] …… 45
穀粒排出量の調節[グレンタンク仕様] …… 45

カッタの取扱いについて …… 46

カッタの取付けかた …… 46
カッタ作業とドロッパ作業の切換え …… 47
カッタの開閉のしかた …… 47
切断長切換えのしかた …… 47
カッタ刃の交換のしかた …… 48
排ワラチェーン部,切断部の点検・掃除のしかた …… 50
排ワラ切換えワイヤの調整 …… 50

コンバインの簡単な手入れと処置 …… 51

各部の点検と交換 …… 51

点検・給油(水)一覧表 …… 51
ラジエータの冷却水の点検と交換 …… 52
エンジンオイルの点検と交換 …… 53
トランスミッションケースのオイル …… 54
刈取一方クラッチのグリース …… 54
油圧オイルタンクのオイル …… 54
バッテリの点検と交換 …… 55
車体水平制御アーム軸受部のグリース[M仕様] …… 57
脱こくチェーン駆動ケースのオイル …… 57
各部グリースの補給 …… 58
毎作業前注油箇所 …… 60

定期点検と処置 …… 62

定期点検一覧表 …… 62
エアークリーナの清掃 …… 64
パイプ・ホース類の点検 …… 64
フューエルフィルタの交換 …… 65
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 …… 65
HSTオイルフィルタ及び油圧オイルフィルタカートリッジの交換 …… 66
HST吸入フィルタの洗浄・交換 …… 66

ラジエータ吸気部の清掃 …… 67
各部ワイヤの調整 …… 67
ワイヤハーネス,
バッテリ⊕コードの点検・交換 …… 70
ヒューズ，電球の交換 …… 70
予備作業灯の使い方 …… 71
各部ベルトの張り調整 …… 72
クローラの張り調整 …… 75
クローラ交換時の組付け注意 …… 75
足回り部品の定期交換 …… 75
各部チェーンの張り調整 …… 76
縦スクリュ軸の組付け …… 79
刈刃の調整・交換 …… 79
ワラ切刃の交換 …… 81
ツースの交換 …… 82
各部開閉のしかた …… 83
刈取り部の脱着 …… 83
エンジンルームのフルオープン …… 84
グレンタンクオープン …… 85
フルアップこぎ胴 …… 87
こぎ胴受アミの脱着のしかた …… 87
シーブケーススライドの脱着 …… 89
機内の掃除のしかた …… 90
掃除口の箇所 …… 90
長期格納のしかた …… 91
使用者が行ってはいけない修理 …… 92
使用資材の処分について …… 92
コンバインの不調と処置 …… 93
付表 …… 103
主要諸元 …… 103
付属部品 …… 108
特別付属品(別売)…… 108
型式検査(国検)成績表…… 110
クボタ純オイル …… 114
ラットガード …… 115

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書および機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは，注文して再度貼り付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性を損ったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。

M-6215

適格者運転

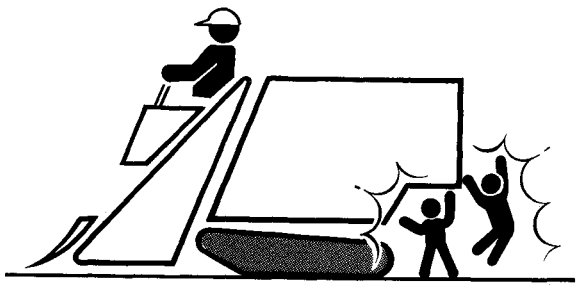
■運転操作には高度な技能が必要です。

- 病気中，飲酒中の人，１６才未満の人は運転操作しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

M-6216

子供が近づくのは危険

■点検・整備中および収穫作業中機械に子供を近づけないでください。見えないところでコンバインにさわったり，かくれたりして危険です。

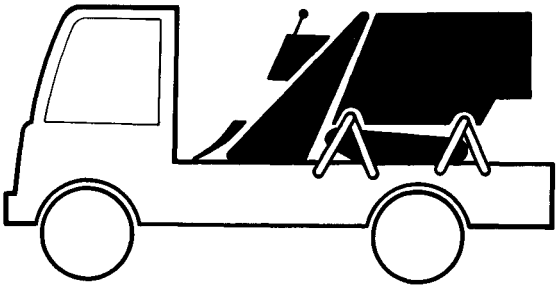


M-6217

⚠ 安全に作業するために

道路走行の注意

■このコンバインは“道路運送車両法”により公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送（29ページ参照）してください。

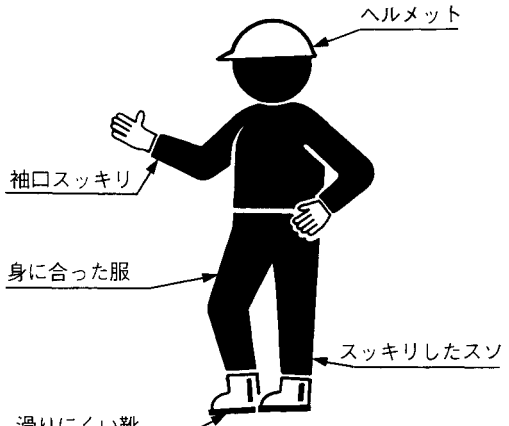


M-6218

安全な服装

■運転者・補助者とも作業に合った服を着用してください。

- だぶだぶの服や，袖口を止めていないときレバーや作動部に誤って引掛り，傷害を起こすことがありますので着用しないでください。



M-6219

排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転するときは，適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け，外気が十分入るようにしてください。

F-8842

燃料の取扱いは安全に—火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。
取扱いには注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気を近づけないでください。禁煙です。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとってください。

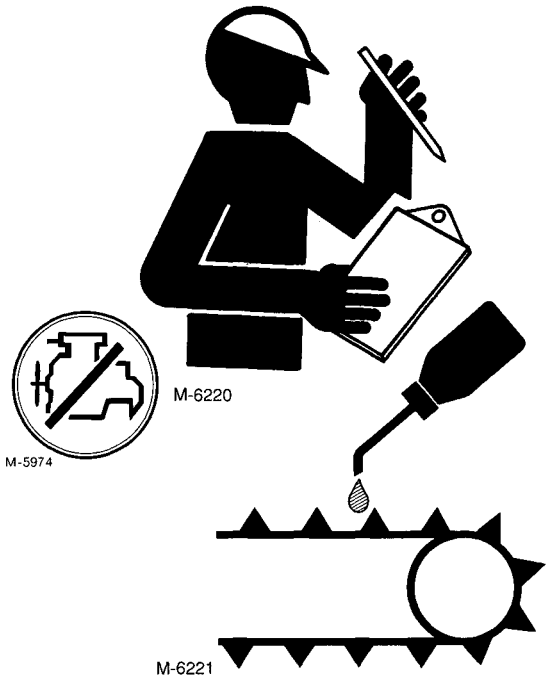
B-1499

作業前点検（日常点検）の実施

■運転の前には22ページの点検項目の点検をしてください。異常があれば直してから運転してください。

■点検・調整・掃除・給油・グリースアップするときはエンジンを必ず止めてください。

- 脱こくクラッチ・刈取りクラッチは**“切”**り駐車ブレーキをかけてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリ周辺にわら屑がたまっていると火災の原因となります。きれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。



M-6220

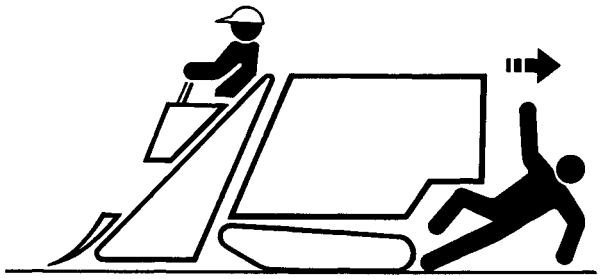
M-5974

M-6221

機械を動かす場合は安全に注意

■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは，シフトレバーを**“停止”**にし各クラッチを**“切”**りホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械の発進や各クラッチを入れるときは，ホーンを鳴らすなどの合図をして，人を機械に近付けないでください。
- 後進・旋回するときは，必ず周囲の安全を確かめてください。



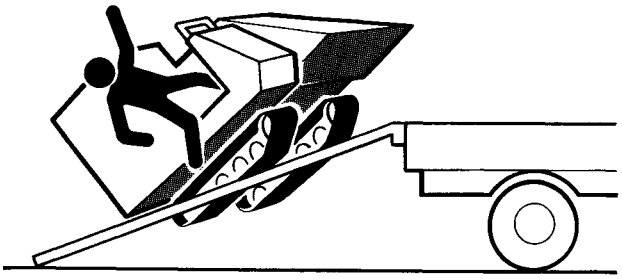
M-6222

⚠ 安全に作業するために

安全なトラック輸送

■トラックへの積み降ろしは，あゆみ板で平地を選び低速で行ってください。

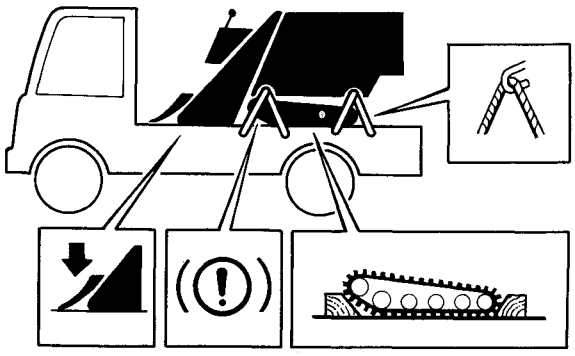
- あゆみ板は十分強く，すべり止めがあって段差の４倍以上の長さのあゆみ板を使ってください。
- あゆみ板の安定・平行をたしかめてください。
- 積込みは前進で，降ろすときは後進で行います。
- あゆみ板の途中でペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると機械が急降下し，落下する危険がありますので操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上に降りて向きを正し，再度上り直してください。



M-6223

■トラックの上では刈取部を床まで降ろし駐車ブレーキをかけ，ロープでしっかり床に固定します。

- アンローダを“受け”に収納し，浮き上がらないようにバンドで固定してください。
- カバー類が開いていると風圧で破損・脱落のおそれがありますので，必ずロック位置まで閉じること。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは荷動きが生じ危険ですから，絶対しないでください。

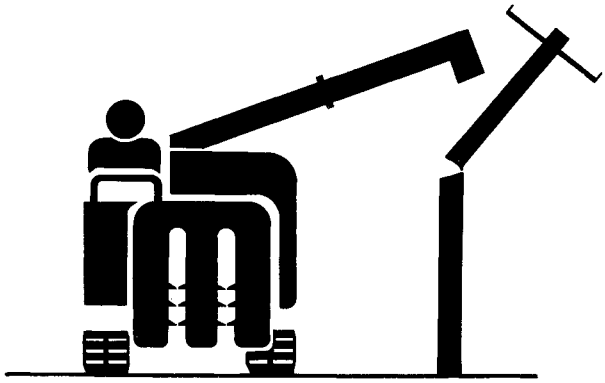


M-6224

安全な路上走行

■補助デッキ・左分草桿を収納して機体幅をせまくしてください。

- 刈取部の先にバンパを取付けてください。
- アンローダを受け部に収納してバンドをかけ，浮き上がりを防いでください。
- 各クラッチを切り，運転者以外乗らないでください。

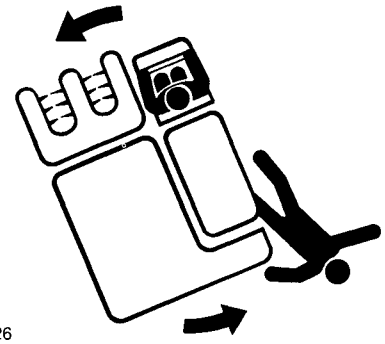


M-6225

高速走行の場合の注意

■高速走行するときは，パワーステアリングレバーを強く押すと急旋回し危険です。

- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。

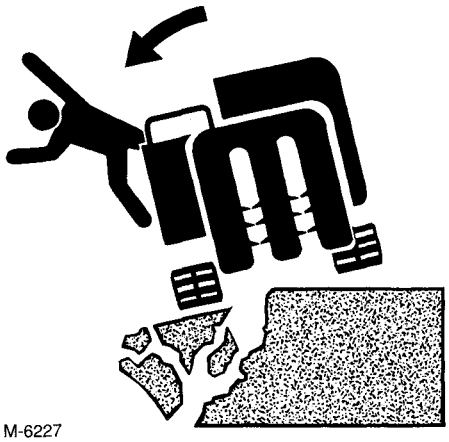


M-6226

転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあり，コンバインの重みでくずれる場合がありますので，走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道（土手）で運転を誤ると，転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。

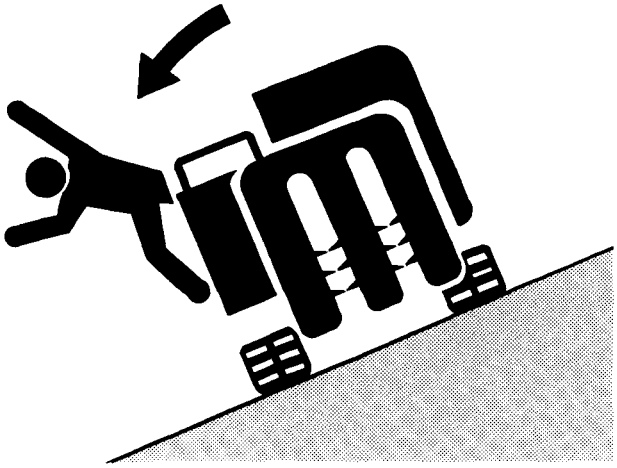


M-6227

転倒・転落注意

■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

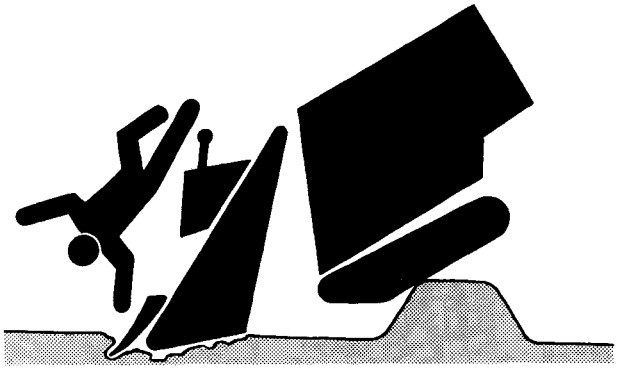
- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作しないでください。
- 斜め走行は危険です。機械を傾斜の方向に合わせた作業（走行）をしてください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。



M-6228

■10cm以上の段差のあるところでは，段差の4倍以上の長さで丈夫なあゆみ板を使ってください。

- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーの操作はしないでください。



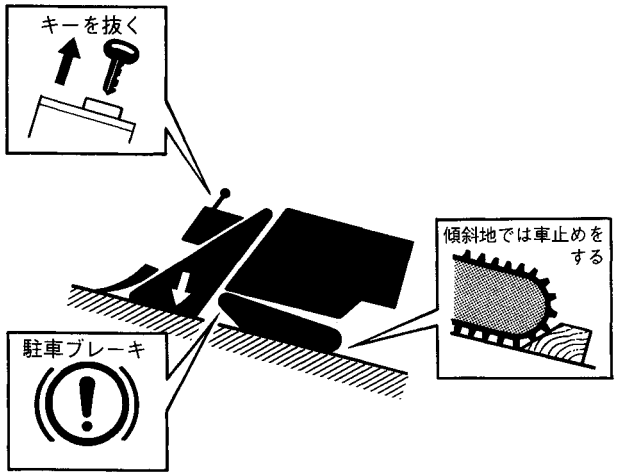
M-6229

⚠ 安全に作業するために

安全な駐車の仕方

■駐車するとき(運転席を離れるとき)は，駐車ブレーキをかけ，刈取部が地面に当たるまで降ろしキーを抜いてください。

- 傾斜地に駐車するときは，必らず車止めをしてください。



M-6230

運転者以外の搭乗禁止

■運転者以外の人を乗せて運転しないでください。

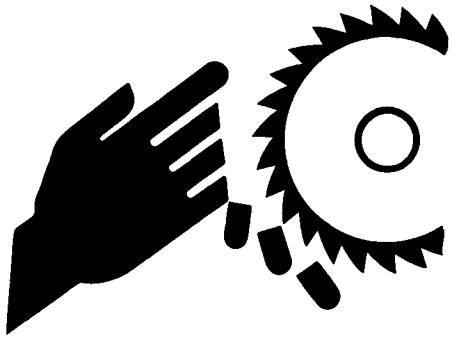
- 搭乗者がふり落とされたり，障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いているコンバインにとび乗ったり，とび降りたりしないでください。

M-6231

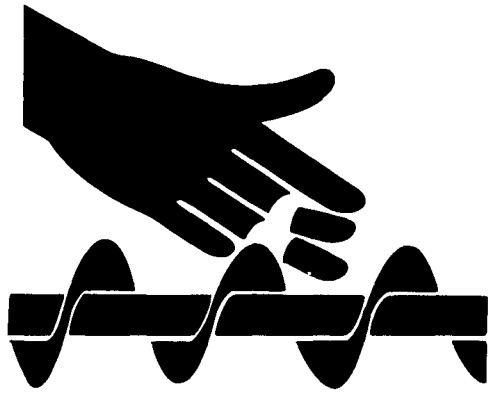
安全な収穫作業

■異常に気づいたらすぐエンジンを止めてください。

- 危険な作動部があちこちにあります。作動中にわらの巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタや結束機にわらが詰まったときは，すぐ各クラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には危険な回転物があります。カバーの下に手を入れたり，カバーを外したままで作動させないでください。
- あちこちの掃除口，点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを止めてください。

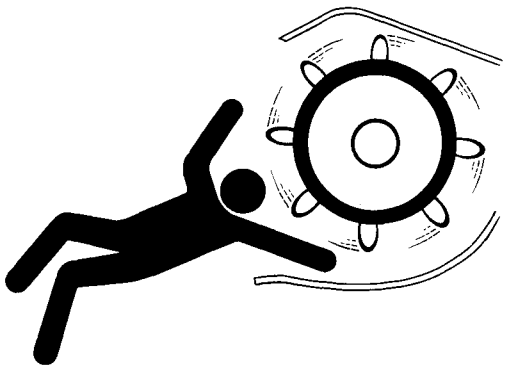


M-6232



M-6233

■こぎ胴をオープン・エンジンルームをオープン・カッタをオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また，エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



M-6234

▲ 安全に作業するために

安全な手こぎ作業

■コンバインの走行部・刈取部を止めて手と腕をチェーンの外側に位置させ，わらを少量ずつ送り込むこと。

●服装は，袖口をスッキリさせ，手袋は使用しないでください。

M-6235

共同作業の安全確保

■補助者は運転席から見えにくい位置にいることがあります。補助者の安全にも配慮してください。

●エンジン始動時，各クラッチを入れるときはホーンで合図し，補助者のＯＫをもらってください。

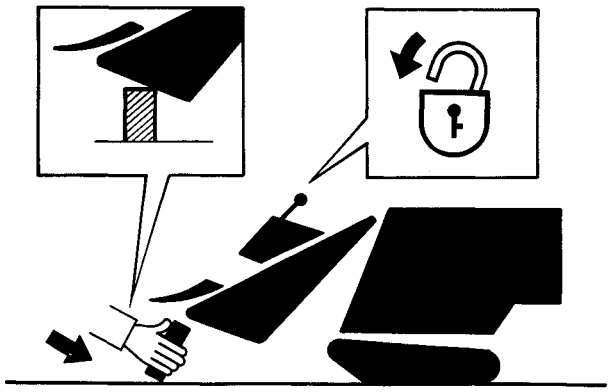
●補助者がコンバインに近づくときは，運転者に知らせることを教え込んでください。

M-6236

安全な点検・整備

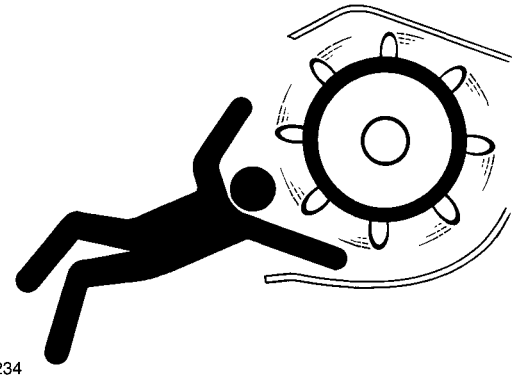
■エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキをかけてください。

●刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき，昇降をロックするとともに，落下防止の歯止めをしてください。



M-6237

■こぎ胴をオープン・エンジンルームをオープン・カッタをオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また，エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



M-6234

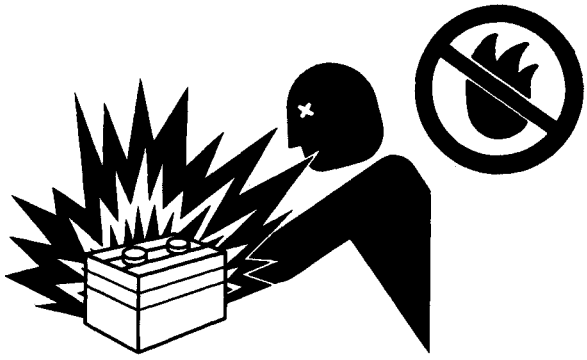
爆発・火災防止

■バッテリのガスは爆発するおそれがあります。

- バッテリの近くでスパークさせたり，マッチを点火したり，裸火を近付けたりしないでください。
- バッテリの充電は機械より取外して行ってください。

■わら屑は燃えやすく注意が必要です。

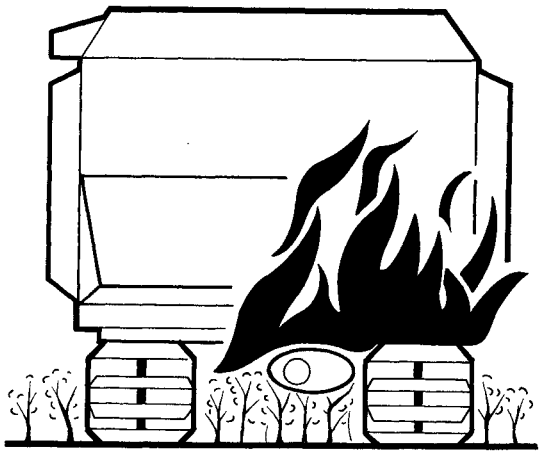
- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリ周辺にわら屑がたまっていると危険です。作業前・作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後わら屑の上や枯れた雑草の上に停車すると，火災のおそれがありますのでさけてください。



F-8836

■機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火災のおそれがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



M-6238

▲ 安全に作業するために

ヤケド防止

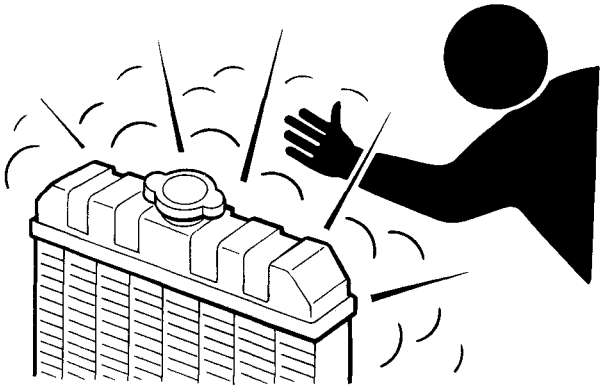
■高温の冷却水あるいは蒸気が皮膚に触れるとヤケドします。

● 運転後はエンジン冷却水は，高温であるとともに加圧されています。エンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータキャップを徐々にゆるめて圧を抜いてから作業してください。

■高温の油が皮膚に触れるとヤケドをします。

● 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるため十分に温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。

■エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。



B-1503

B-1502

このコンバインを他人に貸すときは

■取扱説明書をよく読んでいただくとともに，取扱い方法・安全な使い方を説明して，安全な作業ができるように指導してあげてください。

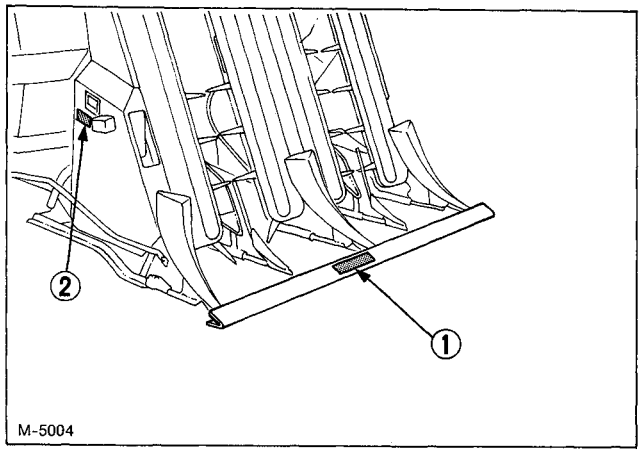
2．⚠表示ラベルと貼付位置

① 品番　59700-4332-2

⚠注意	デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

② 品番　53981-6432-1

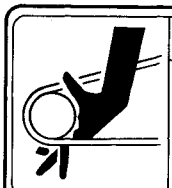
⚠ 注　　意
中に回転物がありケガをするので、 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



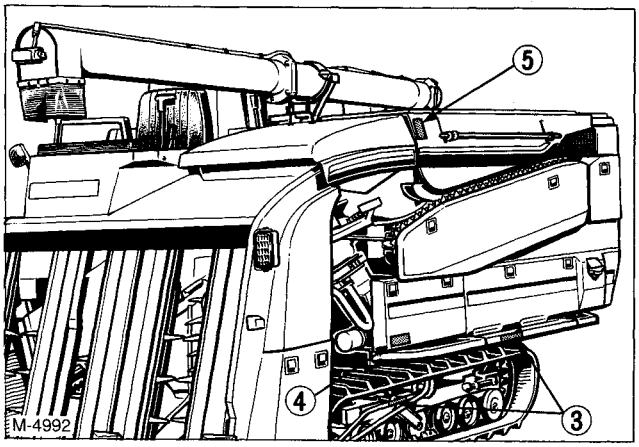
③ 品番　59700-2136-2

⚠注意	人に当たりけがをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

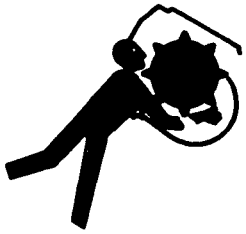
④ 品番　53981-6436-2



⚠ 注　　意
1．回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。 2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。 3．点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



⑤ 品番　53981-6431-3

⚠ 警　告

中で扱歯が高速で回転しているので，接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。

▲ 安全に作業するために

⑥ 品番　53981-6435-2

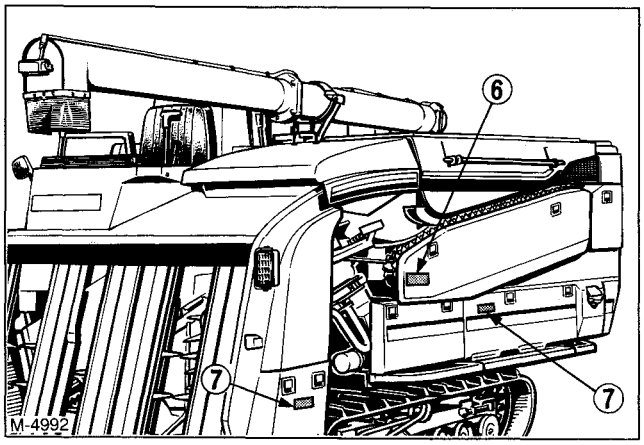
▲ 警　告

1. わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2. 手こぎ作業で手・腕をチェーンにはさまれてけがをするおそれがあるので、下記を守ること。
   - 平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
   - 手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しづつ送り込むこと。

⑦ 品番　53981-6432-1

▲ 注　意

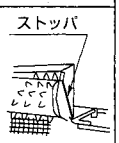
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

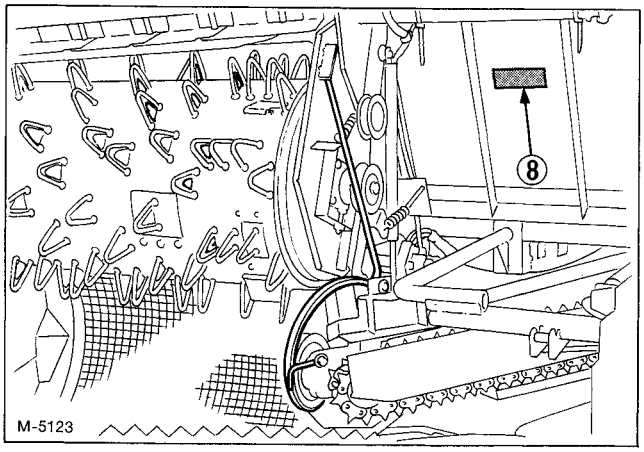


⑧ 品番　53981-6416-2

▲ 警　告

1. 扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2. 扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。

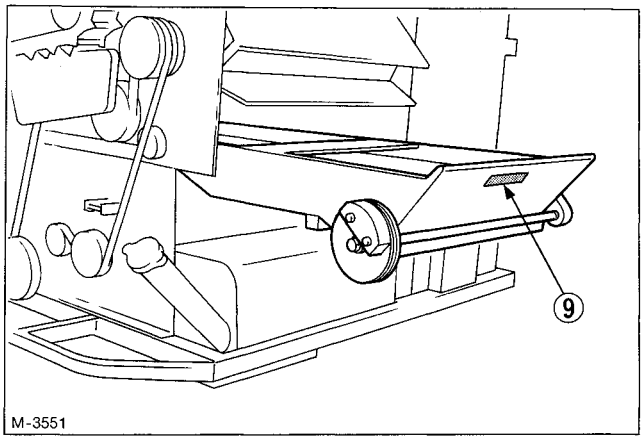




⑨ 品番　53981-6433-1

▲ 注　意

シーブケースは重いので脱着作業は2人で行うこと。

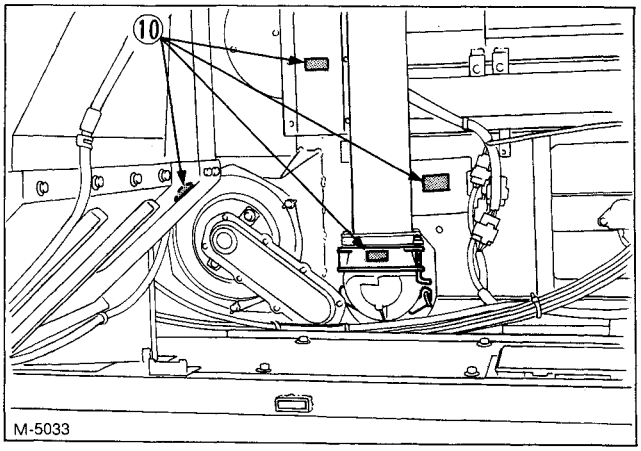


⑩ 品番　53981-6434-1

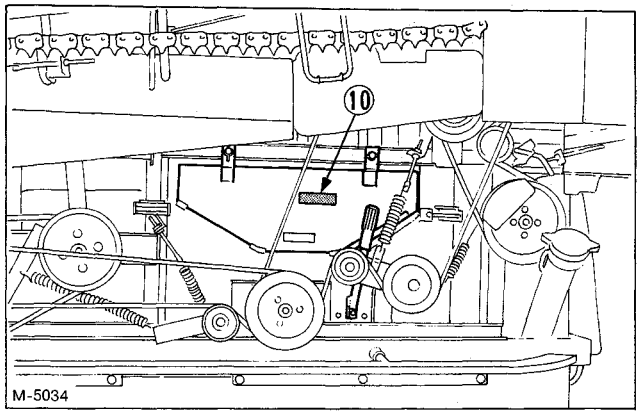
⚠ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



M-5033



M-5034

⚠ 安全に作業するために

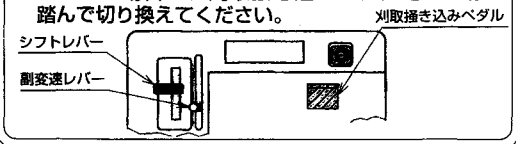
⑪ 品番　59700-4381-2

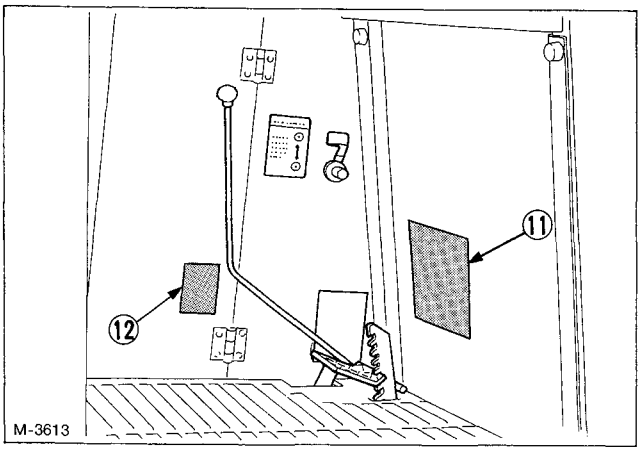
⚠ 注　意

1. シフトレバーが「停止位置にない」ときに刈取掻き込みペダルをはなすと、急発進してケガをするおそれがあるのでシフトレバーを必ず「停止」にすること。
2. 刈取掻き込みペダルを傾斜地やあゆみ板の上で踏むと暴走するので踏まないこと。

刈取掻き込みペダルの使用方法

1. 刈取掻き込みペダルは、エンジン回転2000rpm以上で使用してください。
2. あぜ際で機体を停止したまま穀稈を掻き込むときだけ、下記の手順に従って操作してください。
①刈取クラッチ・脱こくクラッチを「入」のままシフトレバーを「停止」にする。
②刈取掻き込みペダルをいっぱい踏み込み続ける。
③刈取部が穀稈を掻き込むまでシフトレバーを前進側へゆっくり倒す。
④シフトレバーを「停止」に戻す。
⑤掻き込み作業が終わったら刈取掻き込みペダルをはなす。
3. 副変速レバーおよび旋回切り換えレバーが切り換えにくい場合は、刈取掻き込みペダルをいっぱい踏んで切り換えてください。





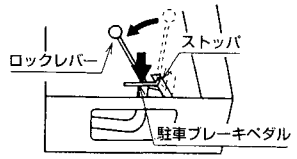
⑫ 品番　59700-4323-4

⚠ 注　意

1. 駐車ブレーキをかけるときは，副変速レバーを必ず「中立以外の位置」に入れること。
※副変速レバーが「中立」では，油圧ロックが作動しないため，坂道で駐車ブレーキを解除すると暴走し危険です。
2. 坂道で駐車するときは，暴走を防ぐため，必ず車止めをすること。

駐車ブレーキの取り扱い

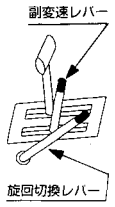
シフトレバーを完全に停止位置に戻してから，駐車ブレーキペダルを強くいっぱいに踏んでロックレバーで駐車ブレーキペダルに必ずストッパをかけてください。



⑬ 品番　52270-4382-4

⚠ 注　意

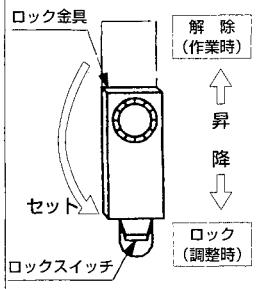
1.運転開始時や駐車ブレーキの操作時は，旋回切換レバーを「ソフトターン」「スピンターン」のどちらかに確実に入れること。
※旋回切換レバーが確実に入っていないときは，駐車ブレーキが効きません。また，発進すると自動的にエンジンが止まります。
2.坂道で副変速レバーを操作すると機械が，暴走するおそれがあるので，絶対に操作しないこと。

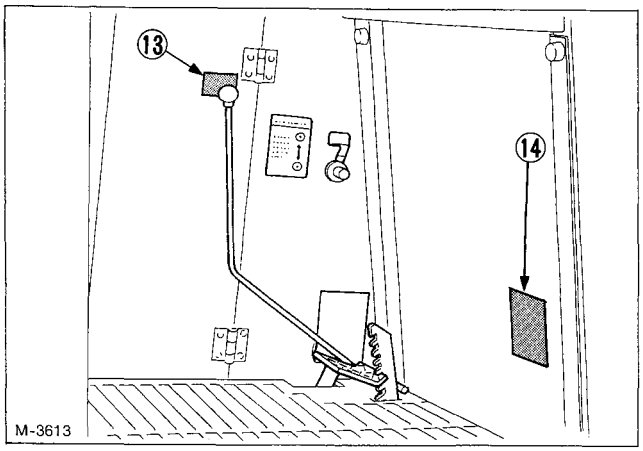


⑭ 品番　59700-4327-2

⚠ 注　意

刈取部を上げて点検・調整を行うときには、刈取部が不意に下降してはさまれることがあるので、ロックスイッチを下げて必ずロック金具をセットすること。





▲ 安全に作業するために

⑮ 品番　59700-4337-3

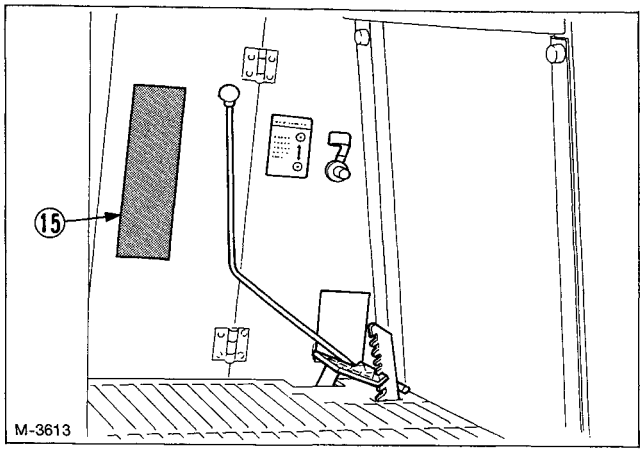
▲ 注　　意

作業前
1.安全に作業するために，取扱説明書を読んで，機械の使い方を覚えること。
2.エンジンを始動するときは，各クラッチを切り，シフトレバーを「停止」にすること。
3.屋内は排気ガスが溜まり易く，ガス中毒の危険があるので換気すること。
4.ケガをするおそれがあるので，掃除・点検・調整のときは，各クラッチを切りエンジンを必ず停止すること。

移動・作業中
1.発進するときや脱こく部・刈取部を作動するときは，周囲の安全を確かめ合図して，機械に人を近付けないこと。
2.転落・転倒事故の危険があるので，傾斜地・路肩の軟弱な道路・ガケ際などは走行しないこと。
3.走行を停止するときは，シフトレバーを操作して「停止」の位置にすること。
※シフトレバーのノブを握ると「停止」の位置がわかりにくくなるので，ノブを握らないこと。
4.道路交通法規定により，トラック運搬時（特にキャビン付）は，地上高3.8 m以下で運行すること。

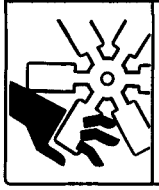
積込 ・積降ろし
1.転倒・転落事故の危険があるので，車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。
①積み込むときは前進で，降ろすときは後進にすること。
②副変速を倒伏にし，エンジンの回転を落として（2000rpm 以上），低速にすること。
③あゆみの上ではパワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは，いったん地上または荷台に戻って向きを正し，再度やり直すこと。
④あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さで，すべり止めがあり，丈夫なものを使用すること。
⑤「もみ」はすべて排出，あるいは降ろすこと。

駐・停車
1.火災の危険があるので，機械を停止するときは，切りワラや雑草の上に止めないこと。
2.急発進・暴走の危険があるので，副変速レバーを切り換えるときは，平坦な場所でシフトレバーを「停止」の位置にし，駐車ブレーキペダルをいっぱい踏むこと。
3.機械から離れるときは，エンジンを止めて始動キーを抜き，駐車ブレーキを必ずロックすること。また，坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防ぐこと。

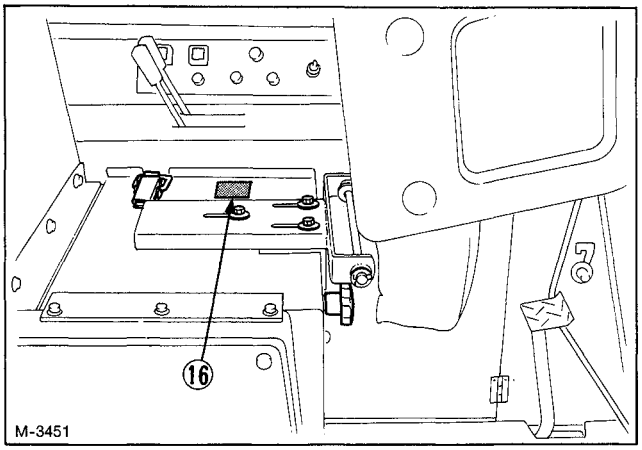


⑯ 品番　52320-3166-1

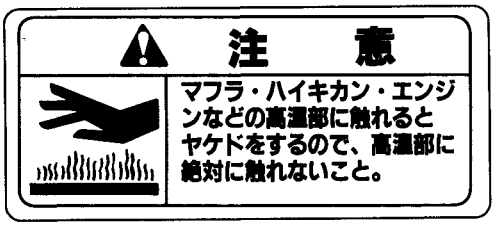
▲ 注　　意

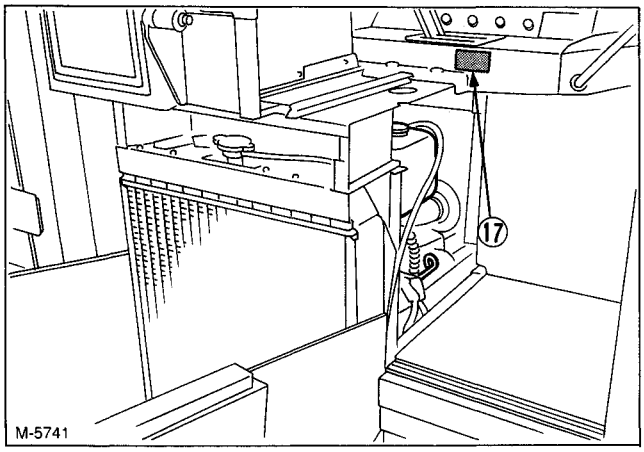


エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

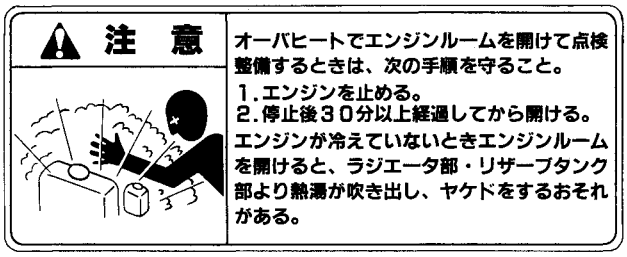


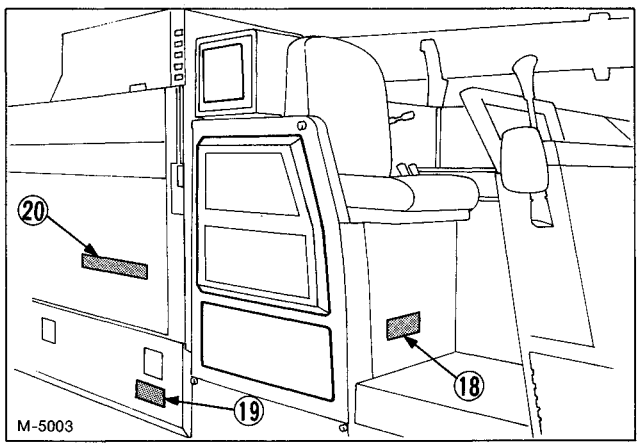
⑰ 品番　52320-3159-1



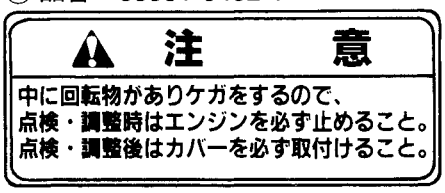


⑱ 品番　56431-5219-3

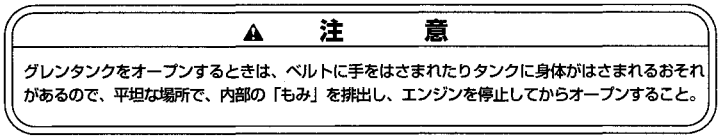




⑲ 品番　53981-6432-1



⑳ 品番　58062-6315-1



⚠ 安全に作業するために

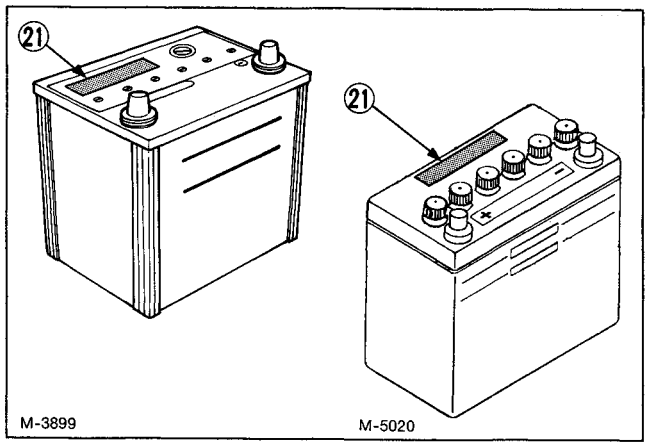
㉑

危険！バッテリの取扱いにご注意

取扱いを誤ると引火爆発することがあります。
- ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気は危険です。
- 充電や使用は通風のよいところでおこなって下さい。
- ブースタケーブル使用時には危険のないように取扱い下さい。

バッテリ液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。
- 目・皮膚・衣服についたときは直ちに多量の水で洗って下さい。
- なお目に入ったときは水洗い後、医師の治療をうけて下さい。

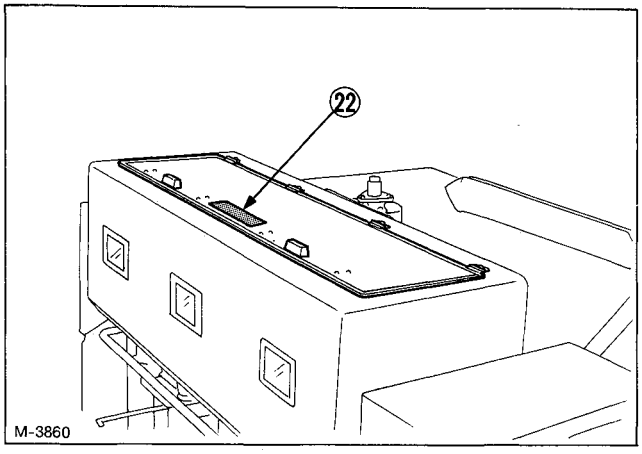
DANGER KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY.
ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.



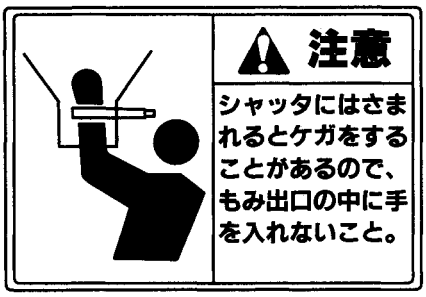
㉒ 品番　53690-3129-2

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

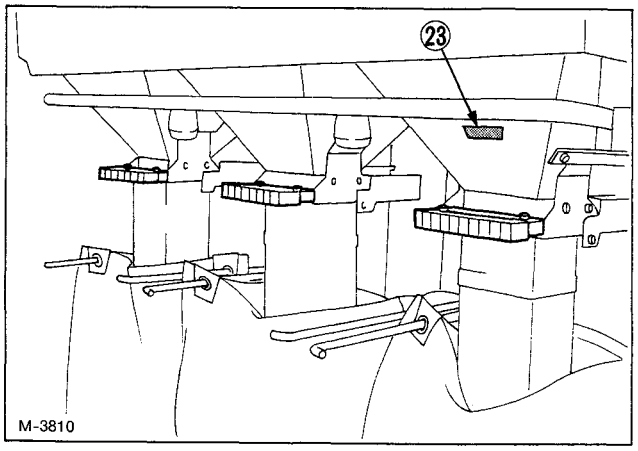


㉓ 品番　58020-6441-1



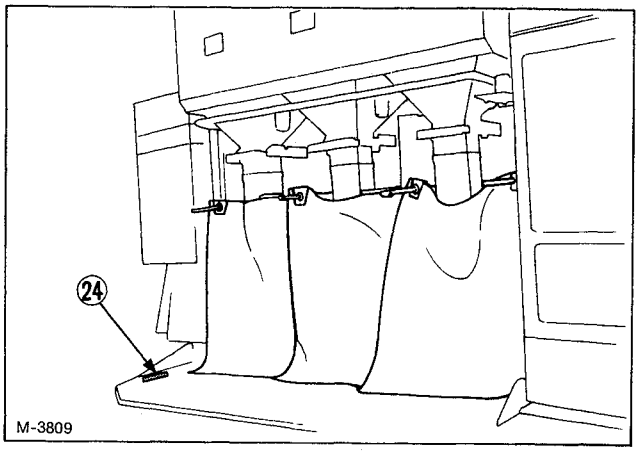
⚠ 注意

シャッタにはさまれるとケガをすることがあるので、もみ出口の中に手を入れないこと。



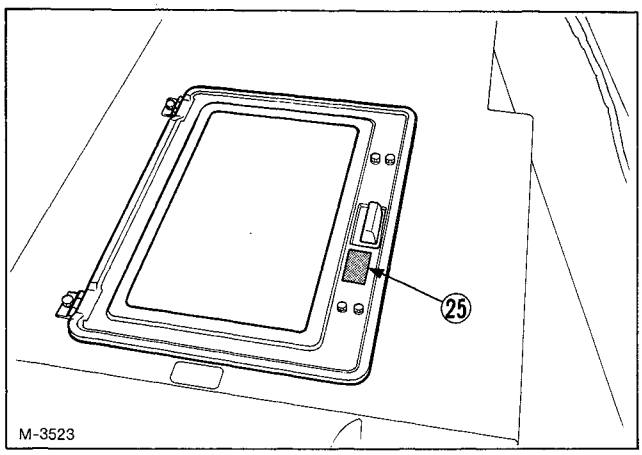
㉔ 品番　52166-2119-2

⚠注意	1．転落のおそれがあるので補助デッキには乗らないこと。 2．移動するときは、人に当たってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

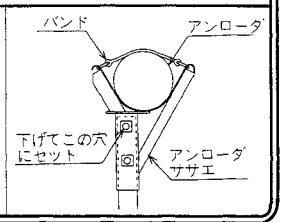


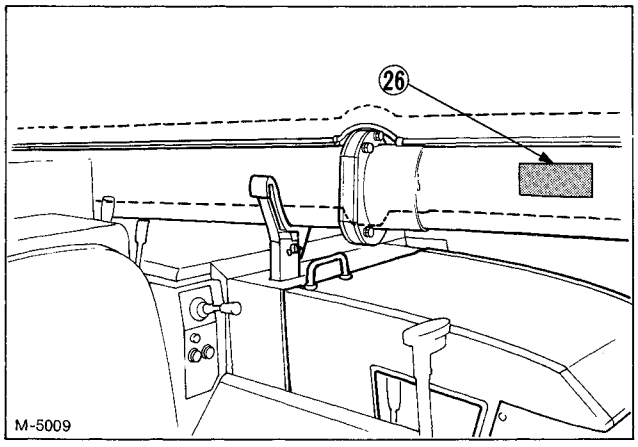
㉕ 品番　53690-3129-2

⚠注　意
中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。



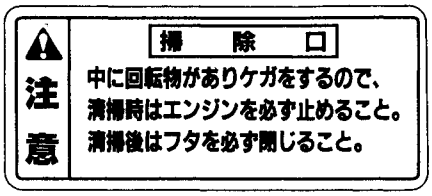
㉖ 品番　58062-7113-3

⚠　注　意	
あぜ越え，移動走行時及びトラック等で輸送する場合，アンローダがササエから外れると人や物に当たり，ケガや損傷のおそれがあるのでアンローダは必ず，次の通りに収納固定すること。 1.アンローダササエを下げてセットする。 2.アンローダを収納する。 3.アンローダが浮き上がらないようバンドで確実に固定する。	

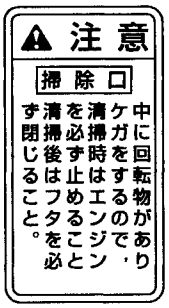


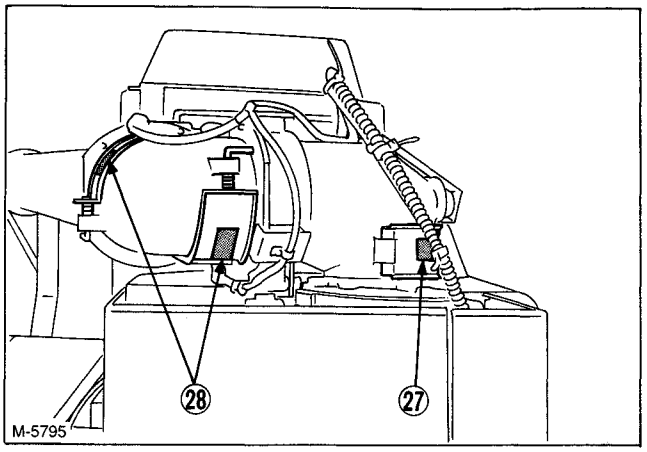
▲ 安全に作業するために

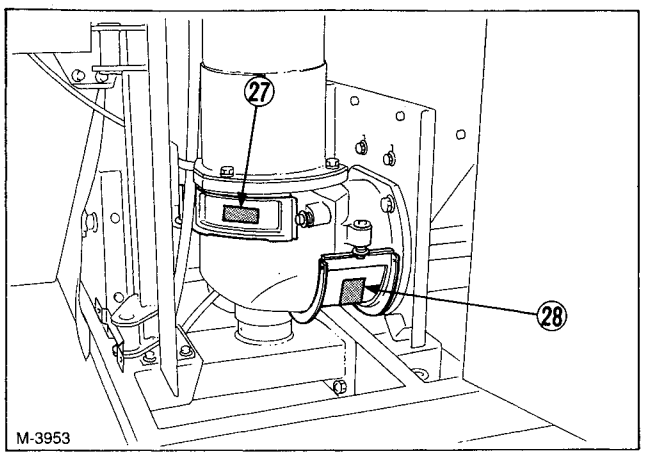
㉗ 品番　53981-6434-1

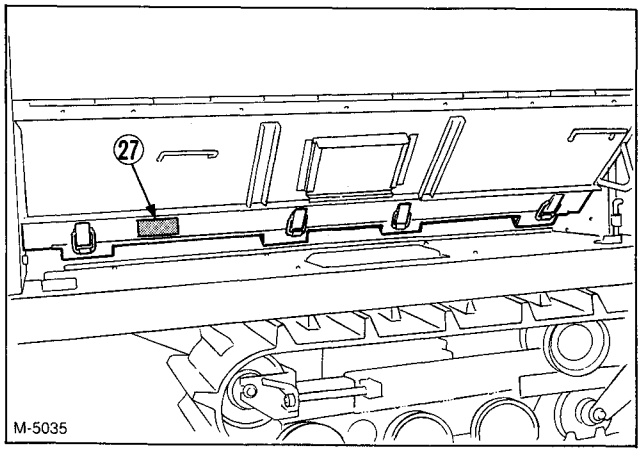


㉘ 品番　58071-8174-1







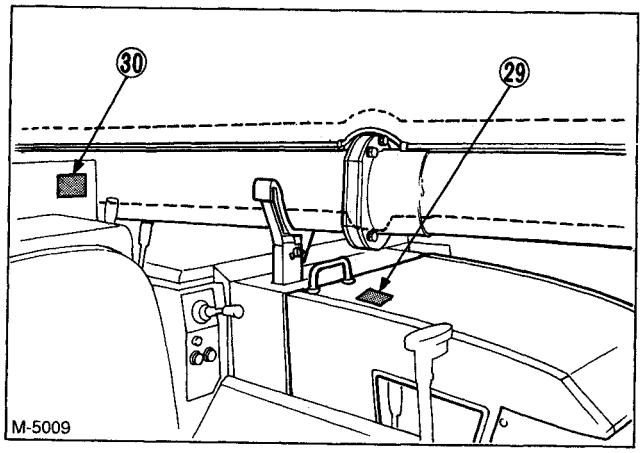


㉙ 品番　52000-7917-2

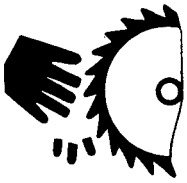
⚠ 注　意
トラックで輸送するときは，風圧でカバーが浮き破損・脱落し，ケガをさせるおそれがあるので，刈取部を下げて，ボウジンカバーを閉じ，ロープ等で浮き上がりを防ぐこと。

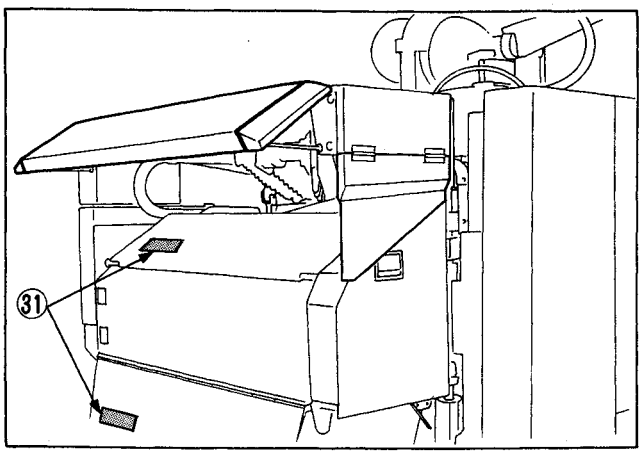
㉚ 品番　58071-8173-1

⚠ 注意		
	1.手をはさみ，けがをするおそれがあるので，アンローダササエの上に手を置かないこと。	2.アンローダ先端が大きく動き，けがをするおそれがあるので，アンローダの作用範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないこと。



㉛ 品番　57745-5315-3

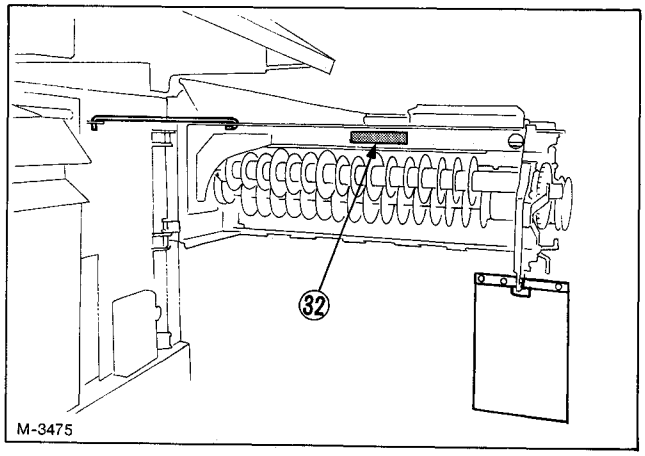
⚠警告	1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。 2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
	



▲ 安全に作業するために

㉜ 品番　57745-5124-1

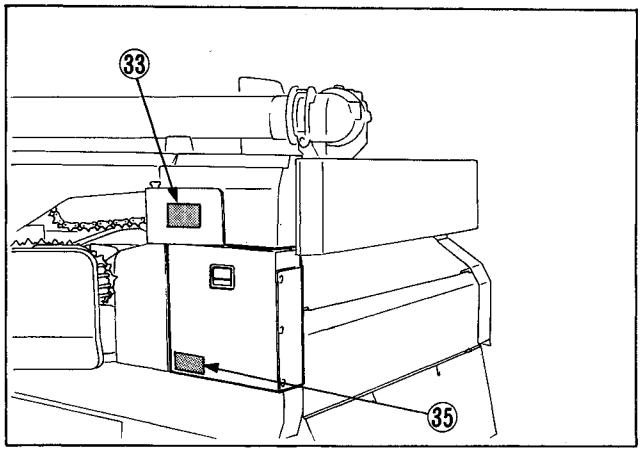
▲注意
1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。



㉝ 品番　53981-6188-2

▲警告

1. カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。



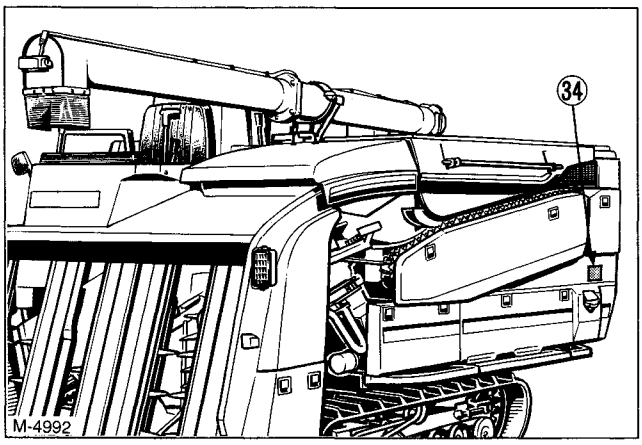
㉞ 品番　52166-2575-1

▲注　意

火気厳禁

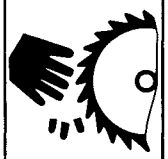
・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油



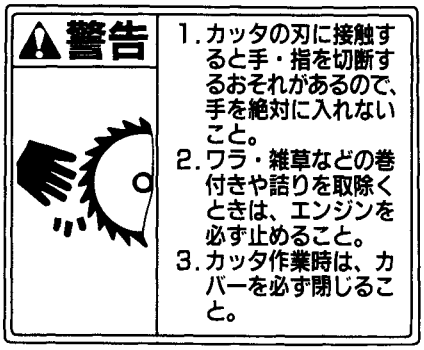
㉟ 品番　57745-5314-2

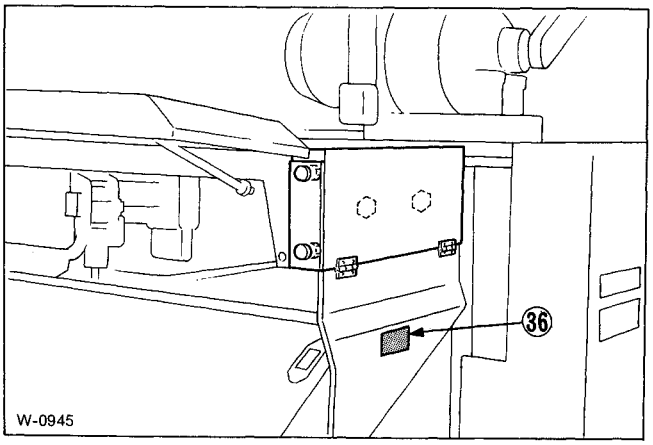
▲警告



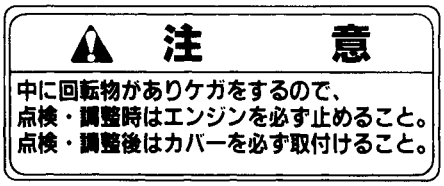
1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので，手を絶対に入れないこと。
2. チェーン・ベルトに接触すると，手をケガするので，手を絶対に入れないこと。
3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5. 点検・調整，ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6. 点検・調整などが終わったら，カバーを元通りに必ず取り付けること。

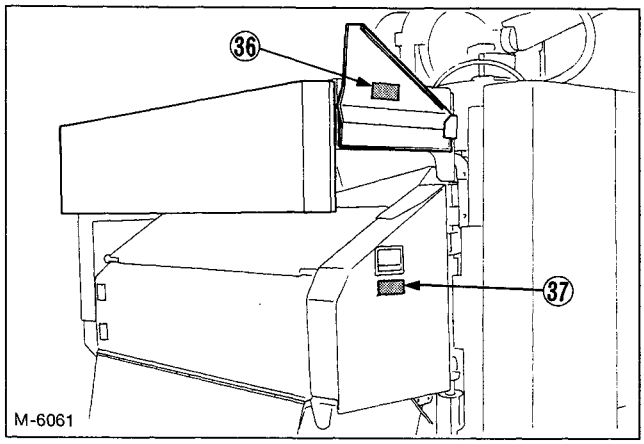
㊱ 品番　53981-6191-1





㊲ 品番　53981-6432-1





3．⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には、サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

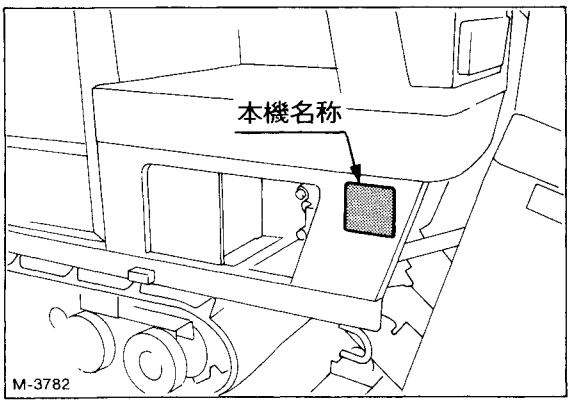
■ご相談窓口

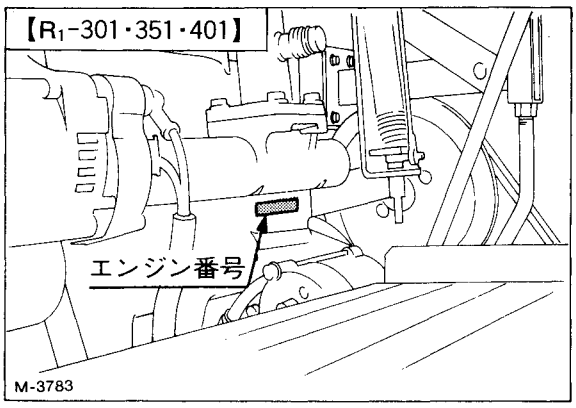
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は，お買い上げいただいた販売店・JA農協・弊社支店または㈱クボタアグリにそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　**(1)商品名と車台番号**
　　(2)搭載機関の型式名と機関番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，販売店に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

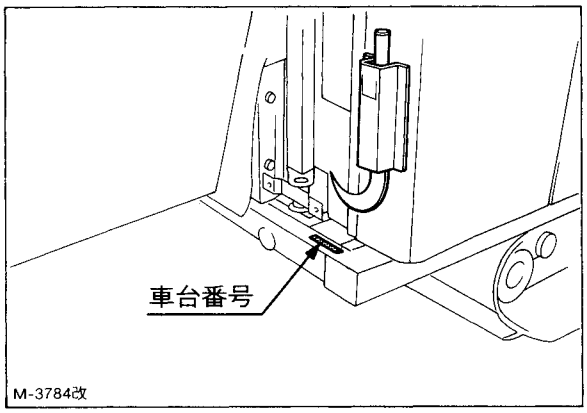
農業機械の種類		コンバイン(自脱型)
農機型式名		●●●●●
商品名		
区分		
車両型式名		●●●●●
車台番号		
刈取条数		●●●
とう載機関	型式名	
	機関番号	
	最大出力	●●●●●●●●●
	無負荷最高回転速度	●●●●●
製造元		株式会社クボタ

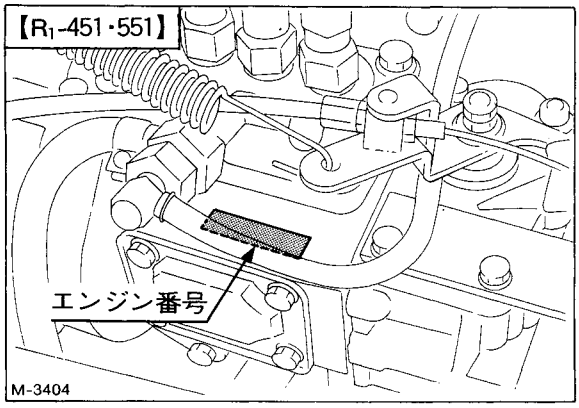
警　告

機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。









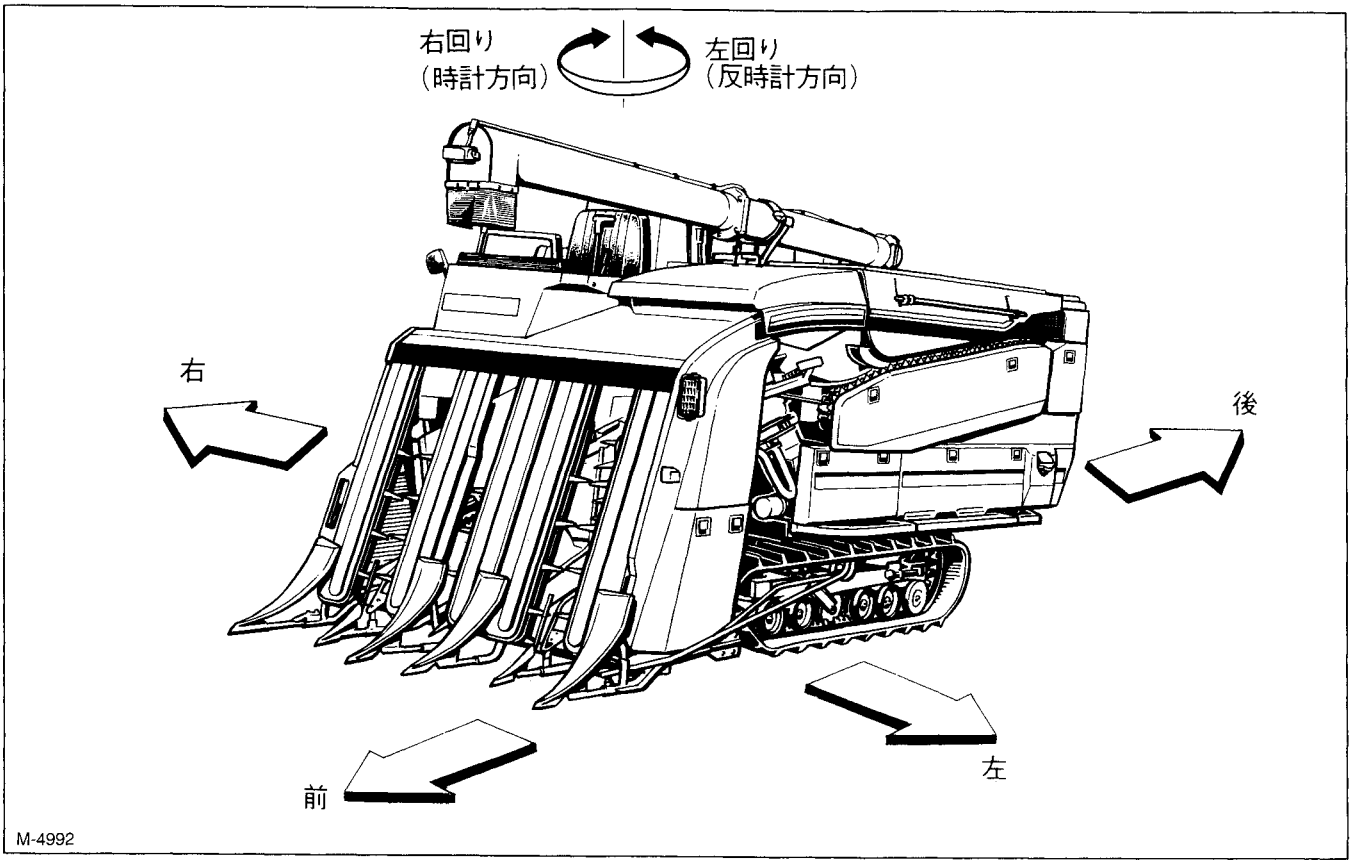
◆認定番号

安全鑑定・型式検査(国検)の農機型式名および番号が必要な場合は，下記の型式名および番号をご使用ください。

商品名	農機型式名	安全鑑定番号	型式検査(国検)合格番号	車両型式名	型式認定番号	大型特殊小型特殊の区別	摘要
R_1-301	クボタR8803	1308012	——	——	——	——	ホッパ仕様
R_1-301G	クボタR8803G	1308013	92046	C301	農1753号	小型特殊	グレンタンク仕様
R_1-301GT	クボタR8803G	1308013	——	——	——	——	グレンタンク仕様
R_1-351	クボタR8807	1308027	——	——	——	——	ホッパ仕様
R_1-351G	クボタR8807G	1308028	——	C402	農1764号	小型特殊	グレンタンク仕様
R_1-351GT	クボタR8807G	1308028	——	——	——	——	グレンタンク仕様
R_1-401	クボタR8808	1308029	——	——	——	——	ホッパ仕様
R_1-401G	クボタR8808G	1308030	91070	C403	農1765号	小型特殊	グレンタンク仕様
R_1-401GT	クボタR8808G	1308030	——	——	——	——	グレンタンク仕様
R_1-451	クボタR8802	1308010	——	——	——	——	ホッパ仕様
R_1-451G	クボタR8802G	1308011	91071	C401	農1754号	小型特殊	グレンタンク仕様
R_1-451GT	クボタR8802G	1308011	——	——	——	——	グレンタンク仕様
R_1-551G	クボタR9101G	15169	91072	C502	——	——	グレンタンク仕様
R_1-551GT	クボタR9101G	15169	——	——	——	——	グレンタンク仕様

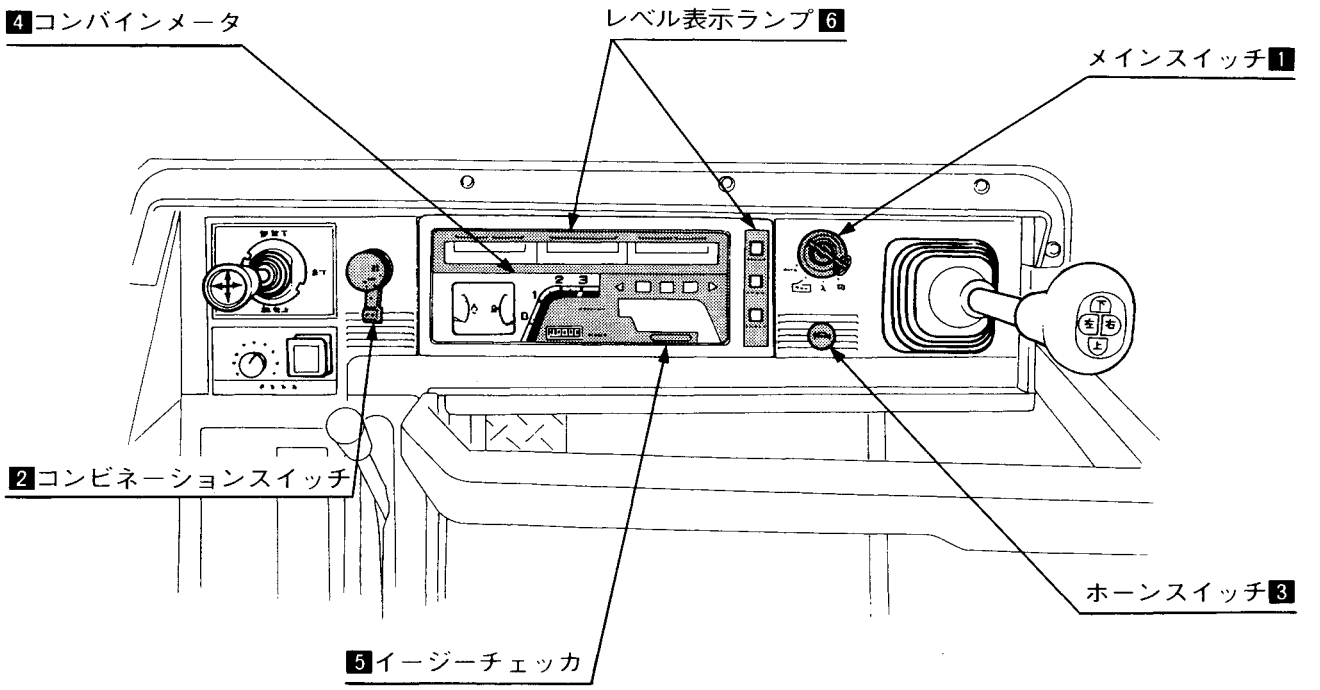
■機体方向説明

この取扱説明書で使用している**“前後・左右・左回り・右回り”**などの方向は，図示の通りに決めています。



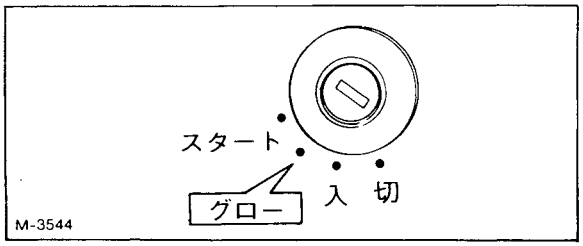
装置の知識について

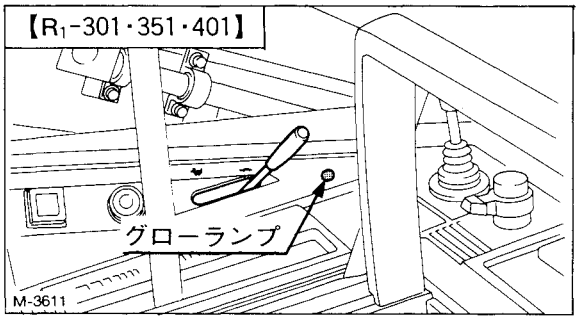
スイッチとメータ



1メインスイッチ

“切”……キーが抜差しできる位置。
“入”……エンジン回転中の位置。
“グロー”……燃焼室内が予熱される位置。
サイドスイッチパネルのグローランプ点灯【R_1-301·351·401】。
“スタート”……シフトレバーを**“停止”**にして，エンジンを始動する位置。





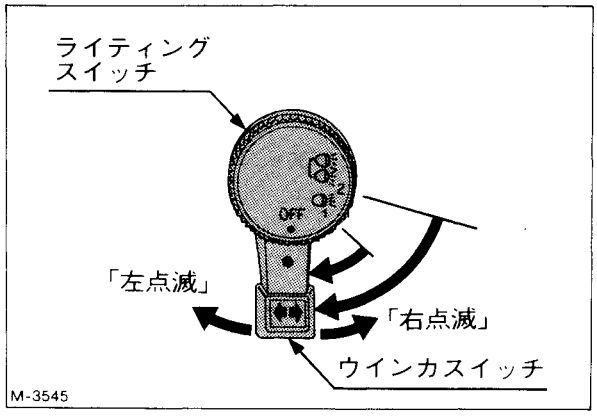
2コンビネーションスイッチ

◆ライティングスイッチ

ＯＦＦ……ヘッドランプ・作業灯消灯位置。
1……ヘッドランプのみ点灯。
1
2 ……ヘッドランプ・作業灯点灯。

◆ウインカスイッチ

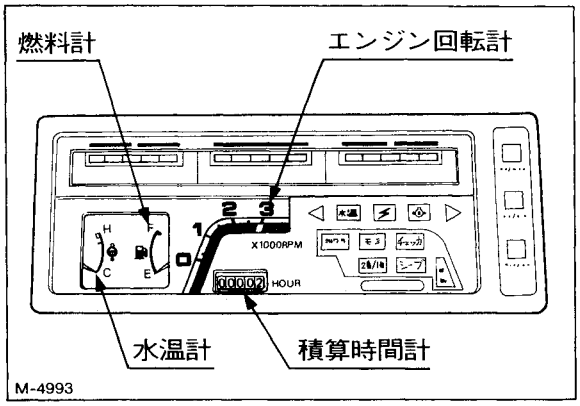
(1)旋回方向に操作すると，ウインカランプ及びメータパネル内のパイロットランプが点滅します。
(2)旋回が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



3ホーンスイッチ

メインスイッチを“入”の位置にし，ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。
モミ警報中にホーンスイッチを押すと，ホーンは停止します。

4コンバインメータ



◆積算時間計(アワーメータ)

エンジンを定格回転で使用した場合の積算時間を示します。
白わく内の数字を６倍すると“分”単位の時間となります。〔例〕0012 4 ……12時間24分

◆エンジン回転計

１分間のエンジン回転数を示します。

◆燃量計

メインスイッチを“入”にしたときに燃料タンク内の残量を示します。
メインスイッチが“入”以外では，指針は“E”より下にあります。

補　足

＊“E”に近づいたら早めに燃料を補給してください。

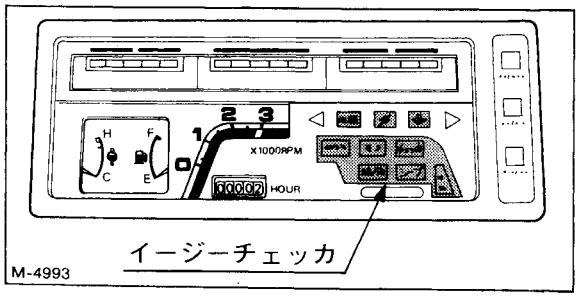
◆水温計(オーバヒート警報)

メインスイッチが“入”のときに冷却水温を示します。
メインスイッチが“入”以外では，指針は“C”より下の位置にあります。
高温になるとオーバヒート警報が作動し，ホーンが鳴り，水温ランプが点滅します。こんな場合は，
(1)冷却水の有無・漏れ，
(2)ファンベルトのゆるみ，
(3)防じんカバー及びラジエータ，オイルクーラに，泥やゴミが付着していないか，
を点検してください。

注　意

＊オーバヒート等でエンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジンを停止する。
❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊エンジンが冷えてないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部等より熱湯が吹出し，あるいは高温部に接触してヤケドする恐れがあります。

5イージーチェッカ



モミ　モミ警報ランプ
グレンタンク及びホッパが満杯になったとき，ランプが点滅し、ホーンが鳴ります。

２番/１番　２番/１番警報ランプ
２番口または１番口が詰まったとき，点滅し、ホーンが鳴ります。

シーブ
シーブが詰まったとき，点滅し、ホーンが鳴ります。

排ワラ　排ワラ警報ランプ(自動停止)
排ワラチェーンにワラが詰まったとき点滅し、ホーンが鳴ります。
【結束機仕様の場合】
＊結束機のビルにひもが巻きついたときとひもがないときに点滅し、ホーンが鳴ります。

水温　水温ランプ
エンジン冷却水が高温になったとき点滅し、ホーンが鳴ります。

オイルランプ
エンジン回転中，潤滑系統が**異常のとき点灯**する油圧警告灯です。
エンジン停止中にメインスイッチを**“入”**にすると点灯し，始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

チャージランプ
エンジン回転中，充電系統が**異常のとき点灯**する充電警告灯です。
エンジン停止中にメインスイッチを**“入”**にすると点灯し，始動すると消灯します。

刈取り警報ランプ(自動停止)
刈取り部の搬送チェーンにワラが詰まったとき点滅します。

チェッカ 自己診断警報ランプ
マイコンが自動装置の異常を検出すると点滅します。

◆使用方法

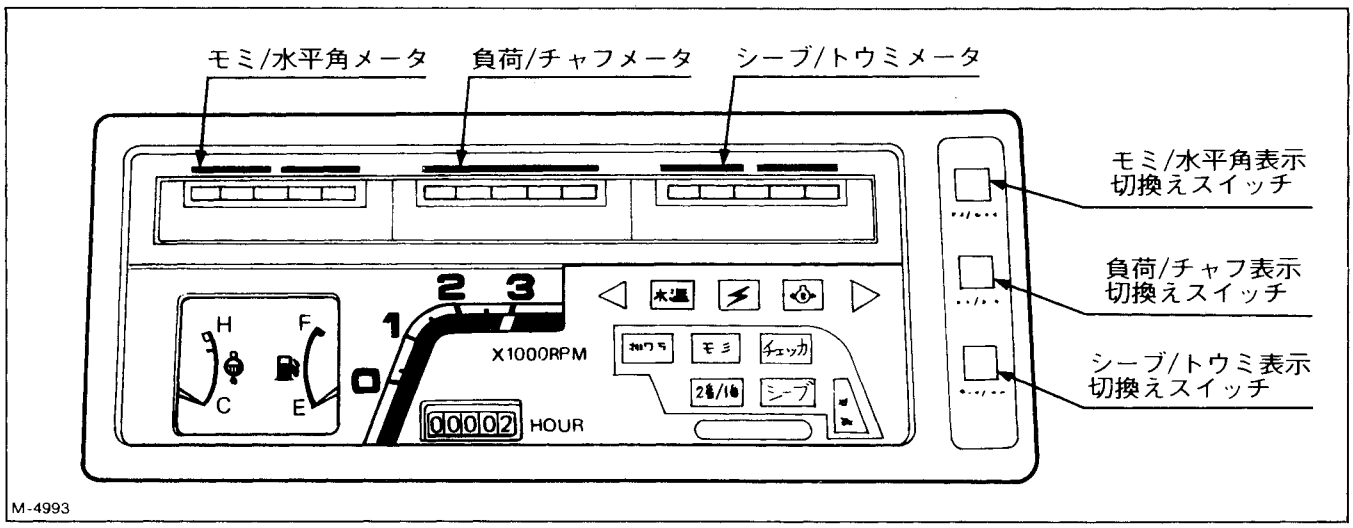
(1)エンジン停止中にメインスイッチを**“入”**にすると，全てのランプが点灯し，検知箇所に異常がなければ消灯します。ただし，オイルランプ，チャージランプは点灯したままです。エンジンを始動すると消灯します。

(2)エンジン回転中に検知箇所に異常があればランプが点灯し異常を知らせます。

重 要

＊イージーチェッカのみで日常点検を済ませないで，点検は確実に行なってください。

6 レベル表示ランプ



◆モミ／水平角メータ

メインスイッチを**“入”**にするとモミが表示されます。切換えスイッチをONするごとに，モミと水平角が切換って表示されます。

モミメータ

グレンタンク及びホッパのモミ量に応じてランプが点灯します。

水平角メータ 【M仕様】

機体の水平角度に応じてランプが点灯します。中央の位置が水平位置です。

◆シーブ／トウミメータ

メインスイッチを**“入”**にするとシーブが表示されます。切換えスイッチをONするごとに，シーブとトウミが切換って表示されます。

シーブメータ

脱こく機のシーブ上の穀粒量に応じてランプが点灯します。

トウミメータ

トウミの回転数に応じてランプが点灯します。

◆負荷／チャフメータ

メインスイッチを**“入”**にすると負荷が表示されます。切換えスイッチをONするごとに負荷とチャフが切換って表示されます。

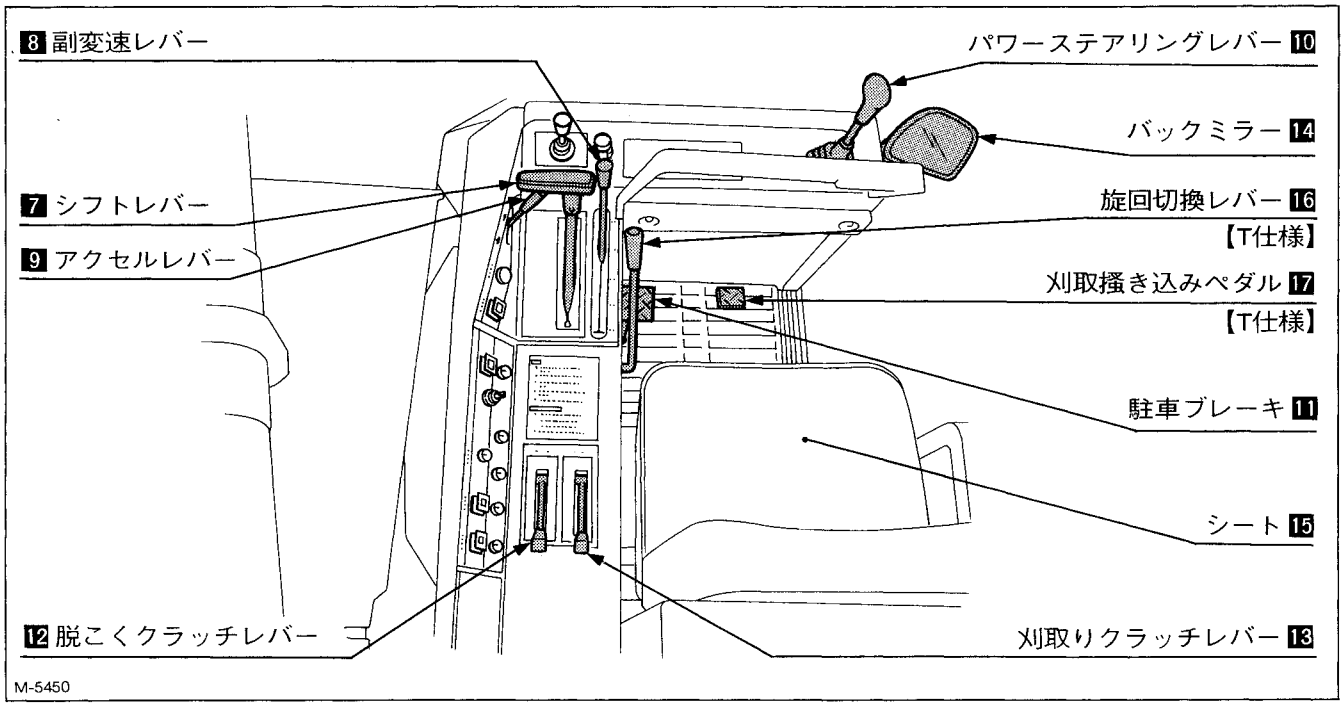
負荷メータ

作業中のエンジン負荷の大きさを数字で示しています。数字が大きくなる程，エンジンに大きな負荷がかかっています。

チャフメータ

チャフの開度に応じてランプが点灯します。

運転装置



7シフトレバー

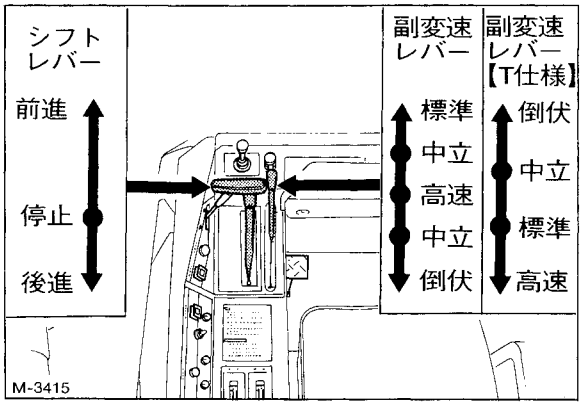
レバーを前方に倒すと**“前進”**し，後方に倒すと**“後進”**します。

補　足

＊“後進”位置に入れる場合は，必ずシフトレバーのノブを引上げながら倒してください。

8副変速レバー

２本のレバー操作を組合せることにより，**“標準”**位置で前進・後進０～1.25ｍ/秒（T仕様は０～1.26ｍ/秒）の車速が得られますので，稲の状況により適切な車速を選択してください。



補　足

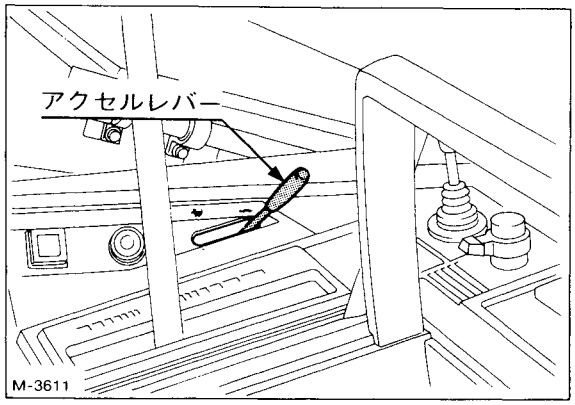
＊副変速レバーの切換えは，必ずシフトレバーを“停止”位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

9アクセルレバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。

“🐢”……エンジンアイドリング時の位置。

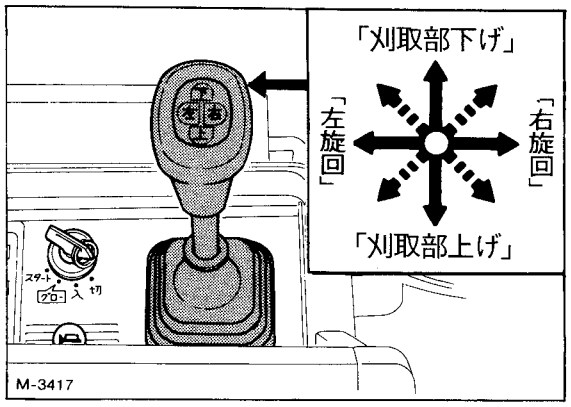
“🐇”……作業中の位置。



10パワーステアリングレバー

レバー１本で刈取部の上げ下げと方向修正・旋回ができます。また，各々の同時併用操作も可能です。

(1)レバーを前・後に操作すると，刈取部の上げ下げができます。

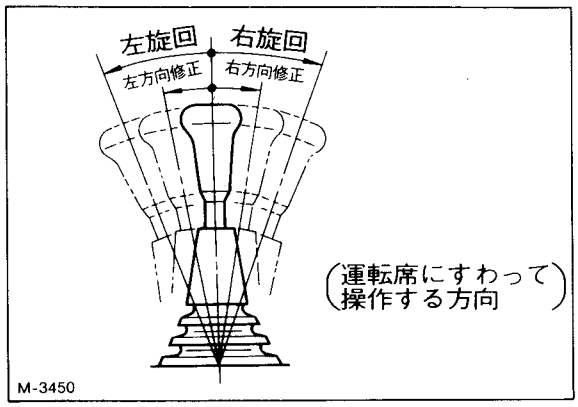


(2)レバーを左・右に操作すると，方向修正から旋回までできます。

レバーの倒し量に応じて，ブレーキ力が変りますので，ゆるやかな方向修正からコーナ旋回まで，条件に合せて操作してください。

＊ゆるやかな方向修正……左・右に軽く倒します。

＊コーナ旋回……左・右に一杯倒します。

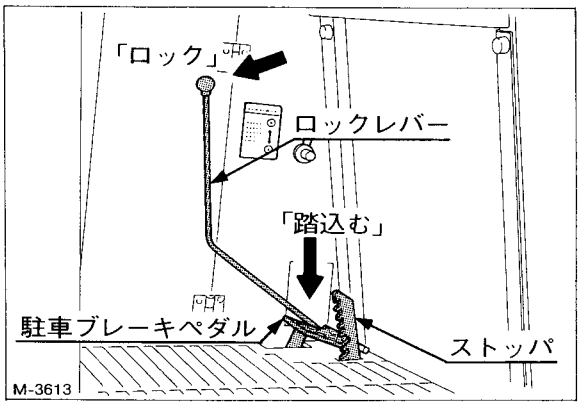


(3)レバーを斜方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行なえます。

11駐車ブレーキ

(1)駐車ブレーキペダルをいっぱい強く踏込んでロックレバーで駐車ブレーキペダルにストッパをかけると，駐車ブレーキがかかります。

(2)外すときは，駐車ブレーキペダルを強く踏んでください。



重　要

＊T仕様の場合は，旋回切換レバーが確実に入っていないと，駐車ブレーキが作動しませんので，駐車ブレーキをかけるときは，必ず旋回切換レバーが“スピンターン”か“ソフトターン”のどちらかに確実に入っていることを確認してください。

注　意

＊坂道で駐車ブレーキを掛けるときは，速やかに一杯踏込んでください。中途半端に踏込むと，片ブレーキになり，機体が傾き危険です。

12脱こくクラッチレバー

脱こく部駆動切換えレバーです。

“入”……脱こく部が駆動します。

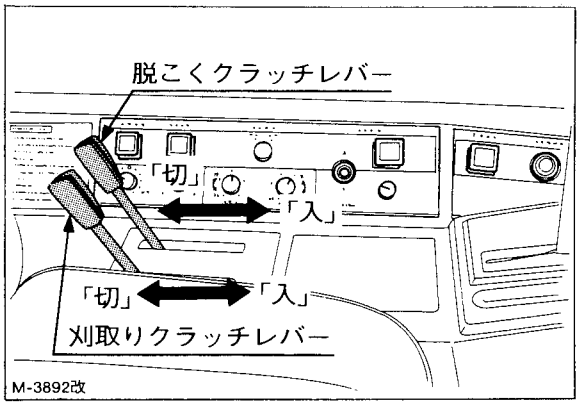
“切”……脱こく部が停止します。

13刈取りクラッチレバー

刈取り部駆動切換えレバーです。

“入”……刈取部が駆動します。

“切”……刈取部が停止します。

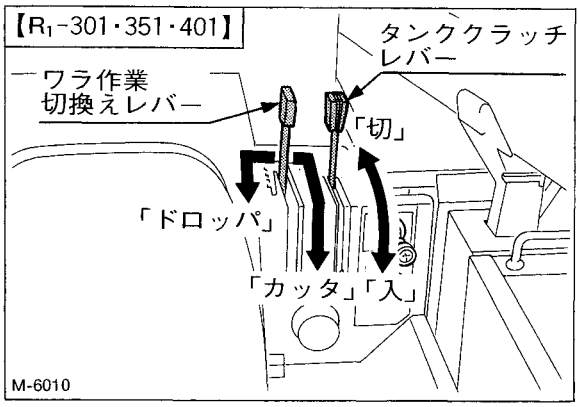


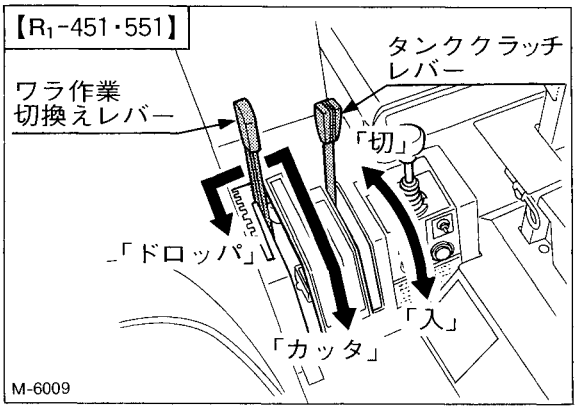
■タンククラッチレバー
【グレンタンク仕様】

グレンタンク内の穀粒の排出を切換えるレバーです。
“入”……穀粒が排出されます。
“切”……穀粒の排出が止まります。

■ワラ作業切換えレバー

レバー操作により，カッタ⟷ドロッパの切換えができます。





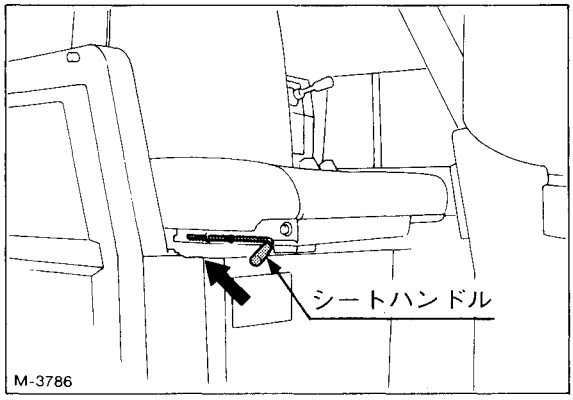
14バックミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。

15シート

＊【R1-301・351・401】

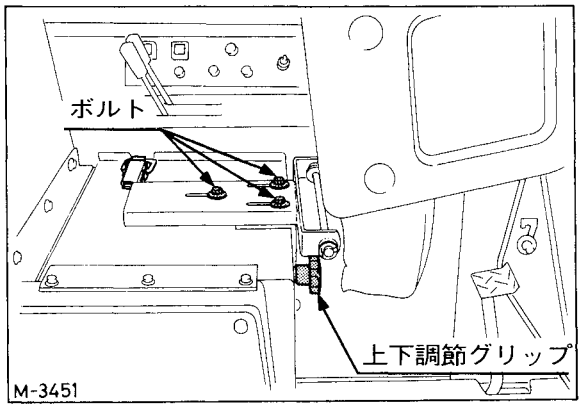
前後調節はシート右下のハンドルを矢印方向に引きながらずらしてください。



＊【R1-451・551】

(1)上下調節はグリップをゆるめて位置をずらしてください。

(2)前後調節はシートを前に倒し，シートの下のボルトをゆるめてずらしてください。



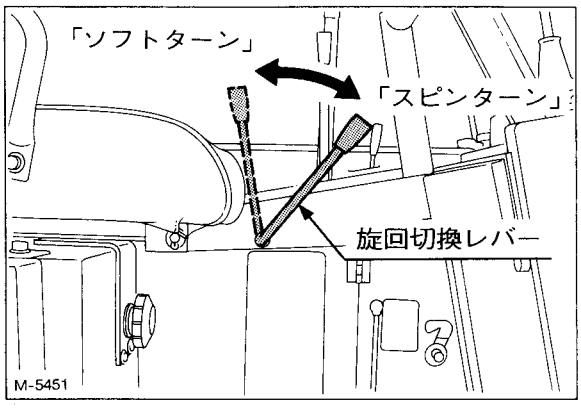
16旋回切換レバー【T仕様】

レバーを切換える事により，旋回方式を選択することができます。

作業条件に応じて切換えてください。

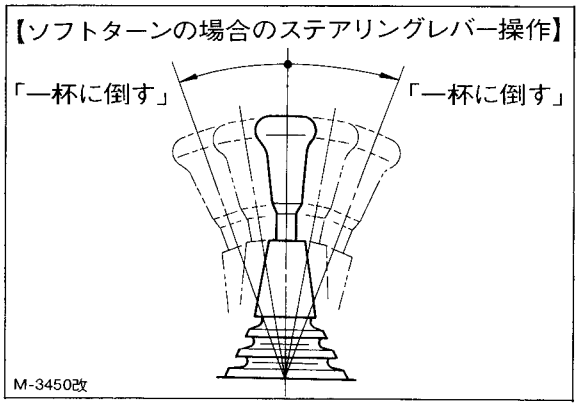
“スピンターン”……パワーステアリングレバーの倒し量に応じて左右のクローラが互いに反対方向に駆動されて旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用してください。

“ソフトターン”……左右のクローラの回転差で方向を変え旋回します。旋回半径は，やや大きくなりますが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合，また移動走行時に使用してください。



【操作のポイント】

＊ソフトターンでのパワーステアリングレバー操作は，左右に一杯に倒した状態で使用してください。特に湿田では，方向修正の状態で使用しないでください。両輪での駆動でなくなるので，**“ソフトターン”**の効果が発揮できません。



補　足

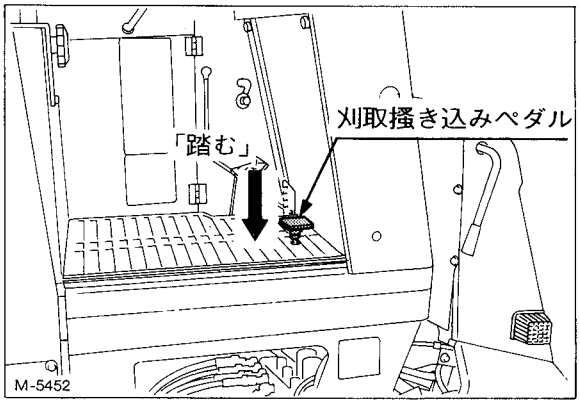
＊副変速“高速”のときは，“スピンターン”には入りません。また“スピンターン”のときは，副変速は“高速”には入りません。

＊旋回切換レバーが確実に切換え位置にないときに発進すると，自動的にエンジンが停止します。
切換レバーが確実に入っている事を確認して，発進してください。

17刈取掻き込みペダル【T仕様】

(1)あぜぎわで機体を停止したまま穀稈をかき込むときに，ペダルを踏み，シフトレバーを前進側に倒してください。

(2)副変速レバーや旋回切換レバーが切換えにくいときに，ペダルを踏んで切換えてください。



重　要

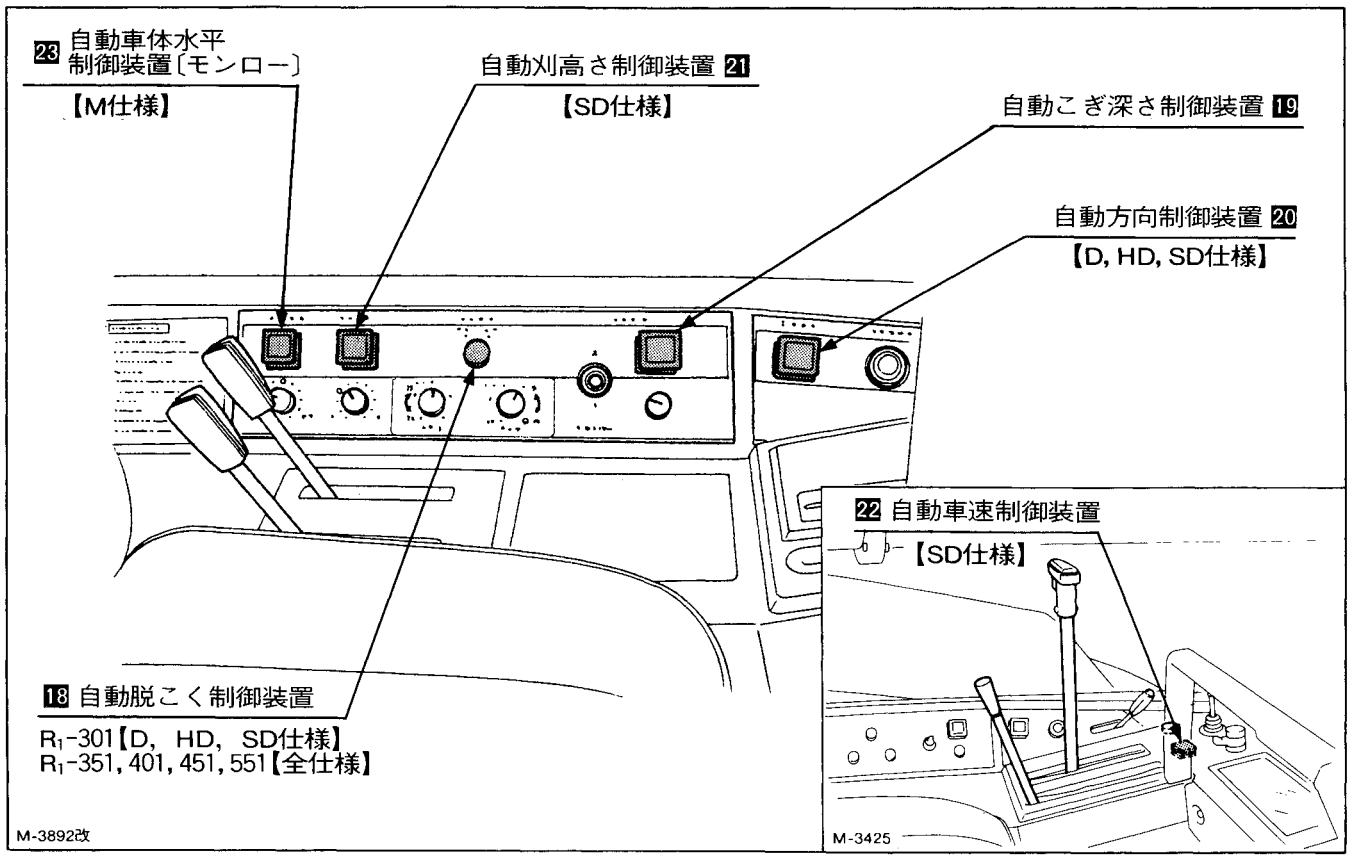
＊停止するときは，刈取掻き込みペダルを使用せず，必ずシフトレバーで行なってください。

＊シフトレバーが“停止”以外のときにペダルを離すと急発進して非常に危険です。必ずシフトレバーを“停止”にしてからペダルを離してください。

＊ペダルは，坂道やアユミ板の上では，暴走しますので絶対に踏まないでください。

＊ペダルは，エンジン回転2000rpm以上で使用してください。

自動装置



■自動装置装着一覧表

機種区分 / 自動装置	R1-301				R1-351・401			R1-451			R1-551	
	K	D	HD	SD	K	D	SD	K	D	SD	D	SD
自動エンジン停止・警報	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
集中注油装置	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自動脱こく制御	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
刈取りオートクラッチ	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自動方向制御	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○
アンローダ自動旋回【グレンタンク仕様】	—	—	—	○	—	○	○	—	○	○	○	○
グレンタンク張出し開閉リモコン【グレンタンク仕様】	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
自動刈高さ制御	—	—	—	○	—	—	○	—	—	○	—	○
自動車速制御(ピタコン)	—	—	—	○	—	—	○	—	—	○	—	○
自動車体水平制御【M仕様】	—	○	○	○	—	○	○	—	○	○	○	○
自動シャッタ【ホッパ仕様】	—	—	○	○	—	○	○	○	○	○	—	—

○……標準採用

—……なし

■自動エンジン停止・警報

◆自動エンジン停止

刈取り供給搬送チェーン・排ワラ搬送チェーン部・カッタ部にワラが詰まったり，結束機の結節部にワラ・ひもが巻付いたとき及び旋回切換レバーが確実に入っていないとき【T仕様】自動的にエンジンが停止する装置です。

◆作業負荷ランプの使いかた

作業負荷ランプによって，脱こく部の負荷状態を数字で示しています。
数字が大きくなる程，脱こく機に大きな負荷がかかっていることを示します。

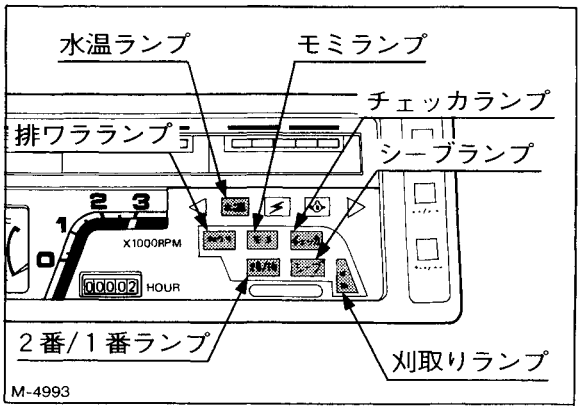
❶負荷ランプによる車速選択法。
負荷ランプによって適正な車速を選択してください。

段階	負荷ランプ・ホーン	変速指示
1	1	加速可能
2	1 2	加速可能
3	1 2 3	適正速度
4	1 2 3 4	最高速度
5	1 2 3 4 5	減速必要
6	1 2 3 4 5，ホーン断続	即時減速

❷ピタコン有無での適正な脱こく作業法。

＊【SD仕様】
ピタコン“OFF”で作業する場合は，“3”のランプまでの範囲で刈取り作業を行なってください。

＊【SD仕様以外】
ピタコンがありませんので，手動で“3”のランプまでの範囲で刈取り作業を行なってください。

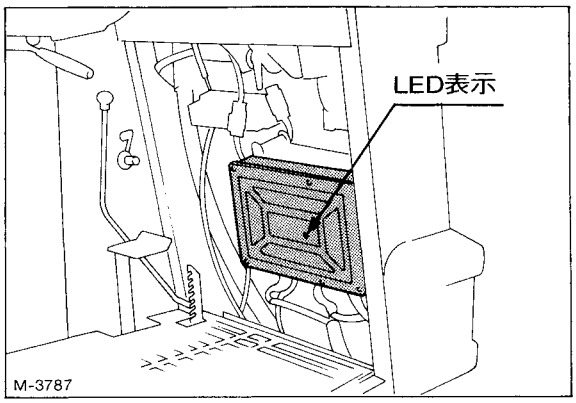


＊警報

点滅するランプ	ホーン	エンジン停止	異常の内容	処置
排ワラランプ	断続	作動	排ワラ搬送が詰まりました。	• 排ワラ詰まりを除去してください。
			結束機がひも切れです。	• 結束機にひもをセットしてください。
モミランプ	断続	—	グレンタンク又はホッパが満杯です。	• 刈取りを中止してモミを排出してください。
2番/1番ランプ	断続	—	2番詰まり又は1番詰まりが発生しました。	• エンジンを停止させてから、モミ・ワラを取除いてください。
シーブランプ	断続	—	シーブ上に詰まりが発生しました。	• エンジンを停止させてから、シーブ上のモミ・ワラを取除いてください。 • チャフ調節ダイヤルを開方向に調節してください。
刈取りランプ	断続	作動	刈取り搬送が詰まりました。	• 刈取り詰まりを除去してください。
水温ランプ	断続	—	冷却水の温度が上がりすぎです。	• 冷却水の有無・漏れ， • ファンベルトのゆるみ • 防じんカバー及びラジエータ，オイルクーラに泥やゴミが付着していないか，を点検してください。
こぎ深さ自動ランプ チェッカランプ	断続	—	こぎ深さ制御作動時，ワラ・草が穂先センサにからんでいます。	• こぎ深さセンサ部の浮ワラ・雑草を除去してください。
刈高さ自動ランプ	—	—	超音波センサに泥・ワラなどが詰まっています。	• エンジンを停止させてから，泥・ワラを除去してください。 • 超音波センサのコードに異常がないか点検してください。

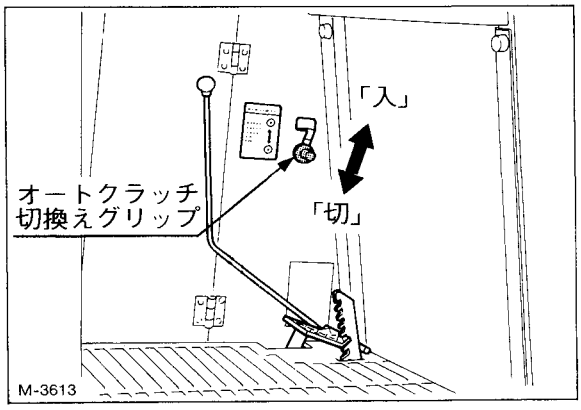
＊自己診断警報(チェッカランプ点滅時)

ＬＥＤ表示	セルフチェッカの内容	処置
E・1, E・2	穂先センサにワラや草がからんでいます。 穂先センサ又は配線が不良です。	• 自動こぎ深さ制御を停止してください。 • ワラや草を除去してください。 • 配線・コネクタを点検してください。 • センサを交換してください。
E・3, E・9	エンジン回転検出が不良です。	• 配線・コネクタを点検してください。 • 電磁ピックアップを交換してください。 • 自動車速制御を停止してください。
E・4	エンジン回転検出が不良，又は2番回転検出が不良です。	• 配線・コネクタを点検してください。 • 電磁ピックアップを交換してください。 • 2番センサを交換してください。 • 自動車速制御を停止してください。
E・5, E・8	車速検出不良です。	• 配線・コネクタを点検してください。 • 車速センサを交換してください。 • 自動車速制御を停止してください。
E・6	ニュートラルスイッチ又はバックスイッチ又は車速上限スイッチが不良です。	• 配線・コネクタを点検してください。 • センサを交換してください。 • 自動車速制御を停止してください。
E・7	2番回転検出が不良です。	• 配線・コネクタを点検してください。 • 2番センサを交換してください。
E・A	AESソレノイドへの出力が不良です。	• 配線・コネクタを点検してください。 • メインスイッチを**“切”**にしてください。



■刈取りオートクラッチ機構

刈取りオートクラッチ切換えグリップを**“入”**の位置にセットし，刈取部を上昇させると，刈取り・脱こくクラッチが入った状態で，自動的に刈取部及びフィードチェーンが止まります。また刈取部を下げると自動的に回り始めます。旋回時に刈取り搬送・フィードチェーンが自動的に停止しますので，搬送のみだれがなく，また排ワラを踏みつけたりする心配がありません。(点検・調整は69ページ参照)



■集中注油装置

集中注油装置により各作動部に一度に注油できます。
毎日の作業前に刈取部を中速回転しながら，
⊙R_1-301の場合，注油レバーを３～４回動かす。
⊙R_1-351,401,451,551の場合，注油スイッチを押してください。
なお，オイルタンクの油量も確認してください。

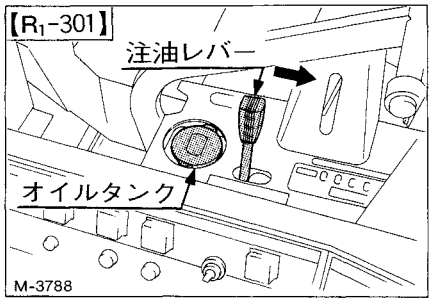
重　要

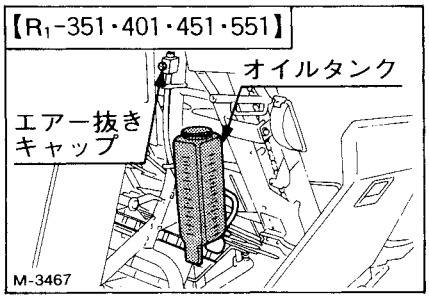
＊ディーゼルエンジンオイル，D10W-30又はD30をご使用ください。
＊指定オイル以外，又は廃油は使わないでください。ごみ類の混入は，ノズルの詰まり，バルブの不良の原因になります。

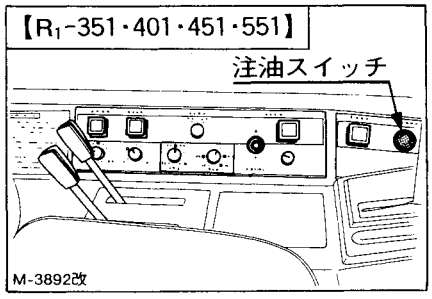
＊注油箇所

○……注油　　×……注油なし

注油箇所	R_1-301	R_1-351・401	R_1-451	R_1-551
引起しチェーン	○	○	○	○
右株元チェーン	○	○	○	○
中株元チェーン	—	—	—	○
左株元チェーン	○	○	○	○
右穂先チェーン	○	○	○	○
中穂先チェーン	—	—	—	○
左穂先チェーン	○	○	○	○
刈刃	○	○	○	○
フィードチェーン	×	×	○	○
排ワラチェーン２ヶ所	×	×	○	○
深さチェーン	×	○	○	○
供給チェーン	×	○	○	○







❶シフトレバー「停止」
副変速レバー「中立」
→ ❷メインスイッチ「入」
→ ❸エンジンスタート
回転数「中速回転」
（約2000rpm）
→ ❹刈取り部を地面から
５～15cm上げる
→ ❺刈取りクラッチ
レバー「入」
→ ❻シフトレバー中間まで前進
→ ❼注油レバー３～４回作動【R_1-301】
注油スイッチ「ON」【R_1-351,401,451,551】
→ ❽注油停止後１～２分運転

補　足

＊最初の１回目は，配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと，注油してください。R_1-351,401,451,551は配管内にオイルがゆきわたるまで約30秒かかりますので，配管内部に充満したことを確認したあと，タンク３目盛分（約150cc）又は約７秒間注油してください。

重　要

＊オイルタンクのオイル量を確認してから注油してください。
空状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因になります。【R_1-351, 401, 451, 551】

＊各チェーン部に巻付いたワラくずやごみはきれいに取除いてください。

＊各チェーン停止状態で注油レバーを操作しないでください。油が１カ所に固まってベルトやカバーに付着し，スリップしやすくなります。

＊チェーンは中速回転で注油してください。その際２番/１番警報が鳴りますが，異常ではありません。

＊必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。

＊気温が10℃以下になると各ノズルからの油の出かたが不均一になります。注油後，各チェーンの注油状態を確認し，不足箇所のないようにしてください。

＊万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアーが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は，前図のエアー抜きキャップをゆるめ，エアー抜きしてから作動してください。
【R_1-351, 401, 451, 551】

18自動脱こく制御装置
R_1-301【D, HD, SD仕様】
R_1-351・401・451・551【全仕様】

＊自動脱こく制御の特長

(1)車速に応じて適正に脱こく部を調節します。

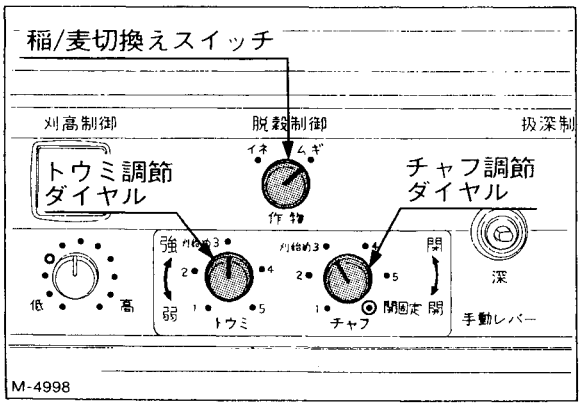
(2)回行時にも速やかに反応して，安定した制御をします。

(3)チャフとトウミの微調節ができますので，作物条件の変化に対しても最適な制御ができます。

◆稲／麦切換えスイッチ

“麦”……麦作業時には，**“ムギ”**位置に合せてください。

“稲”……稲作業時には，**“イネ”**位置に合せてください。



◆操作のしかた

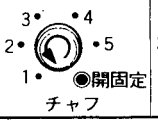
❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。

❷稲／麦切換えスイッチを作物に合せて設定します。

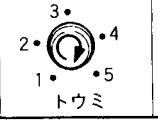
◆チャフ・トウミ調節ダイヤル設定方法

❶刈始めは，トウミ・チャフ共に**“３”**の目盛にセットする。

❷直線刈取り中，シーブモニタの表示が**“３”**又は，**“２”**となる様にまずチャフダイヤルで調整する。

	シーブモニタ「１」のとき	シーブモニタ「４」以上のとき
チャフ調節ダイヤルを回す方向		

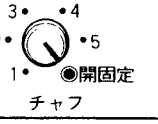
この時点で選別が悪い又は，ロスが多い場合はさらにトウミダイヤルで調整する。

	選別が悪いとき	ロスが多いとき
トウミ調節ダイヤルを回す方向		

刈終り旋回時（株元センサ〔OFF〕）においてシーブ警報が発生する場合は，チャフダイヤルを**“開”**方向に調整する。

補　足

＊高水分作物のときの調節で示しているように，チャフ調節ダイヤルを開固定位置に設定すると，チャフは全開位置に固定されます。またトウミは，トウミ調節ダイヤルで設定した回転数に固定されます。

	チャフ調節ダイヤルを回す方向	トウミ調節ダイヤルを回す方向
高水分作物のとき		

⑲自動こぎ深さ制御装置

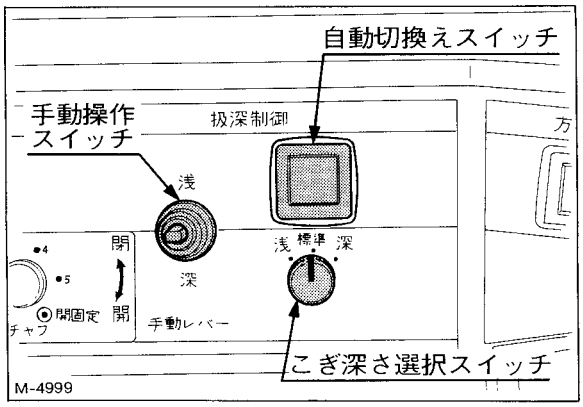
＊自動こぎ深さ制御の特長

(1)刈始めは稈長変化に速やかに追従して，適正なこぎ深さに調節します。
(2)刈取り中は短い周期の稈長変化に追従しないので，安定した制御をします。
(3)フィードバック制御の２個の穂先センサで，適正で安定した制御をします。
(4)こぎ深さ制御位置調節レバーにより，こぎ深さが微調節でき，常に最適なこぎ深さに設定できます。

◆自動切換えスイッチ

“自動”……スイッチが押込まれた位置でロックされますと自動位置となり，自動ランプが点灯します。

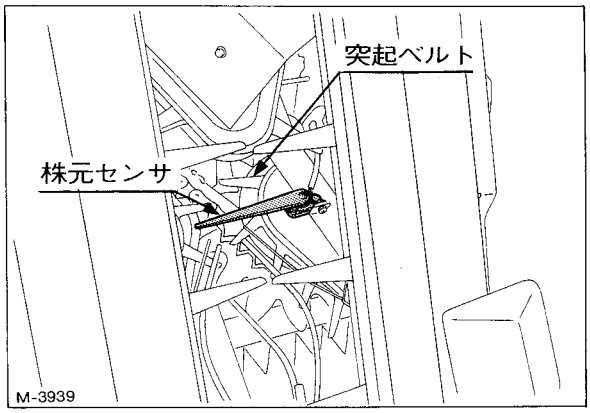
“手動”……スイッチを再び押してロックが解除されますと，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



◆操作のしかた

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。
❷刈取りクラッチレバーを**“入”**にし，刈取り部を下げます。
❸自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。
❹刈始めて，**株元センサ**注)が作物に接触すると，こぎ深さ制御が作動します。

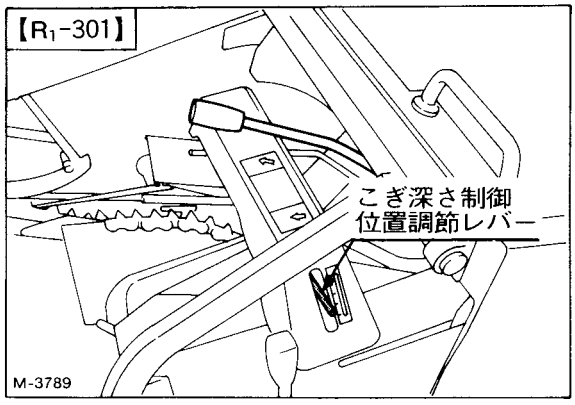
注)株元センサは左の突起付ベルトの上方位置にあります。

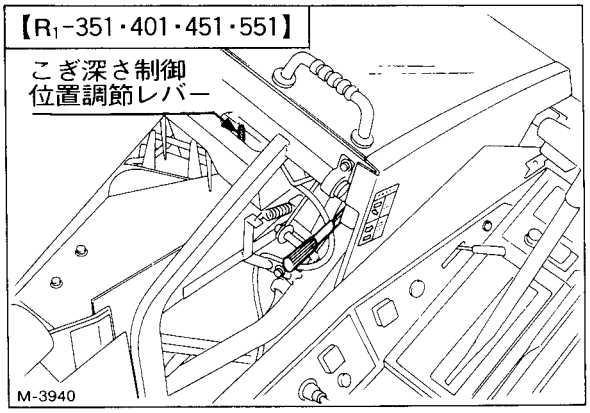


❺穂先が脱こく供給口の**“こぎ深さ指示マーク”**に合うように，こぎ深さ制御位置調節レバーを微調節します。調節は同じほ場では１～２度で十分です。
❻刈終って，株元センサが**“切”**になると，こぎ深さ制御は停止し，刈終りのこぎ深さを保持します。

◆こぎ深さ制御位置調節レバー

(1)通常は**“ほぼ中央”**に合せてください。
(2)レバーを**“深”**の方向に倒すと，深気味に保持されます。
(3)レバーを**“浅”**の方向に倒すと，浅気味に保持されます。





◆手動操作スイッチ(手動こぎ深さスイッチ)

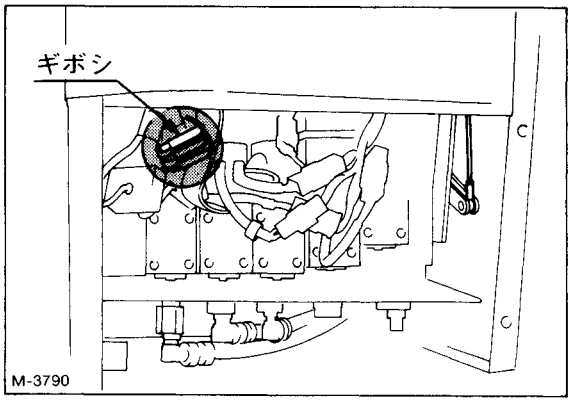
(1)手動でこぎ深さを調節するときに使用します。
(2)スイッチを**"深"**の方向に倒すと深扱になります。
(3)スイッチを**"浅"**の方向に倒すと浅扱になります。
(4)自動で作業中，手動操作スイッチを操作すると手動操作が優先され，自動ランプは消灯します。

◆こぎ深さ選択スイッチ(微調整用)

(1)通常は**"標準"**の位置に合せてください。
(2)スイッチを**"深"**の方向に回すと，深気味の制御ができます。麦・倒伏作物・雑草の多いときは，**"深"**に合せてください。
(3)スイッチを**"浅"**の方向に回すと，浅気味の制御ができます。

補　足

＊刈取り中に作物全長が大幅に変化する場合は，こぎ深さ制御位置調節レバー又は，手動操作スイッチで補正してください。
＊結束機使用時，結束ひもの位置がこぎ深さ調節により頻繁に変化するときは，下図のギボシ("扱深ジャンパ"の銘板貼付)を抜いてください。
＊浮きワラ・雑草の多いときは，手動で作業してください。



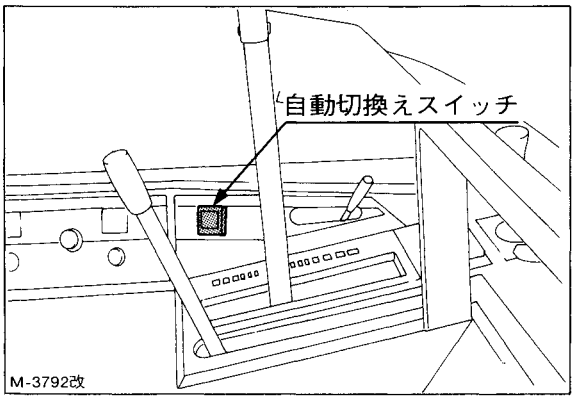
20自動方向制御装置
R_1-301【D, HD, SD仕様】
R_1-351・401・451・551【D, SD仕様】

＊自動方向制御の特長

(1)車速に応じて制御するので，安定した追従をします。
(2)横刈りになると，自動的に制御を停止するので，手動に切換えずに作業ができます。

◆自動切換えスイッチ

"自動"……スイッチが押込まれた位置でロックされますと自動位置となり，自動ランプが点灯します。
"手動"……スイッチを再び押してロックが解除されますと，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



◆操作のしかた

❶脱こくクラッチレバーを**"入"**にします。
(自動方向制御は刈取り作業中のみ作動します)
❷自動切換えスイッチを**"自動"**にし，自動ランプの点灯を確認します。
❸刈始めて，株元センサが作物に接触すると，自動制御が作動します。

重　要

＊刈始めの条合せは手動で行なってください。
＊自動方向制御で中割作業を行なうと，植幅によって，デバイダが株に割込むことがあります。植幅が合ないときは，手動で行なってください。

補　足

＊パワーステアリングレバーの操作は，自動に優先して操向しますので，切換えスイッチを"自動"のままで行なえます。
＊切換えスイッチ"入"のまま横刈りをした場合は，刈始めの3～4秒間は自動制御により機体が振れますが，それ以降は自動制御を停止し直進します。

■アンローダ自動旋回
R_1-301【グレンタンクのSD仕様】
R_1-351・401・451・551
【グレンタンクのD, SD仕様】

＊アンローダ自動旋回の特長

(1)ワンタッチ操作でアンローダを格納位置から排出位置まで，排出位置から格納位置まで動かすことができます。

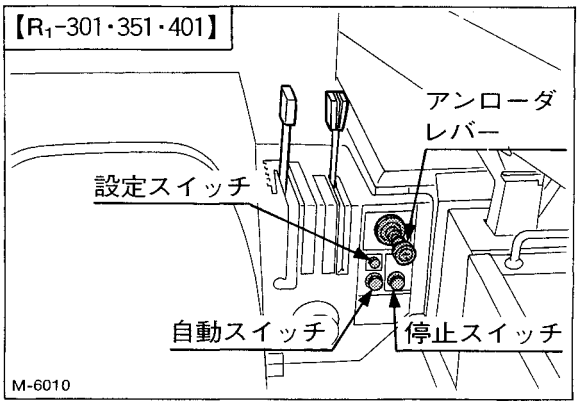
(2)排出位置は，作業に応じて３つの位置が選択できます。

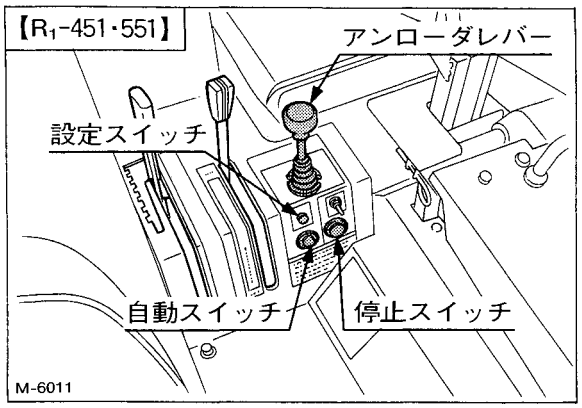
◆自動スイッチ

スイッチを押すと自動的に作動します。
排出停止位置は設定スイッチにより，左，右，後ろの３つの位置が選択できます。

◆停止スイッチ

自動制御作動中に停止スイッチを押すと自動制御は停止します。





◆操作のしかた

❶設定スイッチにより，排出位置を選択してください。
❷自動スイッチを押すとアンローダは上昇し，排出位置まで旋回します。
❸アンローダレバーを操作して，排出位置を調整してください。
❹もう一度自動スイッチを押すとアンローダは上昇し，格納位置に戻ります。

◆アンローダレバー

(1)レバーを**“上”**の方向に倒すと，アンローダは上昇します。

(2)レバーを**“下”**の方向に倒すと，アンローダは下降します。

(3)レバーを**“左回り”**の方向に倒すと，アンローダは左回り(反時計方向)に旋回します。

(4)レバーを**“右回り”**の方向に倒すと，アンローダは右回り(時計方向)に旋回します。

(5)自動制御作動中でもアンローダレバーの操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。

注　意

＊自動スイッチを押す前に，アンローダの可動範囲に障害物がないか確認してください。
＊走行しながら，アンローダ自動旋回操作を行なわないでください。機械故障の原因になります。

補　足

＊自動制御でアンローダが格納位置に戻った直後に，自動スイッチを押しても自動制御は作動しません。停止スイッチを押すか，10秒程度待ってから自動スイッチを押してください。

＊自動制御作動中，停止スイッチかアンローダレバーを操作すると，自動制御は停止します。
停止状態から自動スイッチを押すと，アンローダは格納位置に戻ります。

■タンク張出し開閉リモコン【R_1-551】

＊張出し開閉リモコン機能の特長

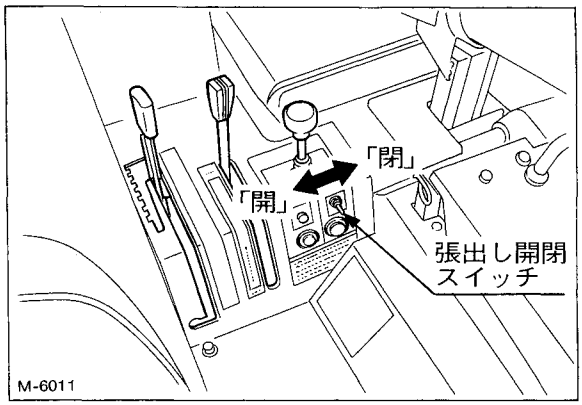
＊開閉スイッチの操作により，グレンタンクの張出し部の開閉が行なえます。

◆張出し開閉スイッチ

(1)スイッチを**“開”**にすると，グレンタンク内のモミ量に関わらず，張出し部が開きます。

(2)スイッチを**“閉”**にすると，グレンタンク内のモミ量が少ない(モミセンサ１未満)場合にのみ，張出し部が閉じます。

(3)開閉作動中，停止スイッチの操作により張出し部の開閉が停止します。



注　意

＊張出し部を開閉させるときは，周囲の安全を十分に確認してください。

補　足

＊停止スイッチにより開閉動作を停止させた後は，再び開閉スイッチを操作すると，張出し部が開閉します。

＊モミセンサ１(後方部)の位置以上モミがたまっているとスイッチを“閉”にしても張出し部は閉じません。警報ブザーが鳴ります。

21自動刈高さ制御装置【SD仕様】

＊自動刈高さ制御の特長

(1)超音波センサで高さ検出をするので，湿田でも使用できます。

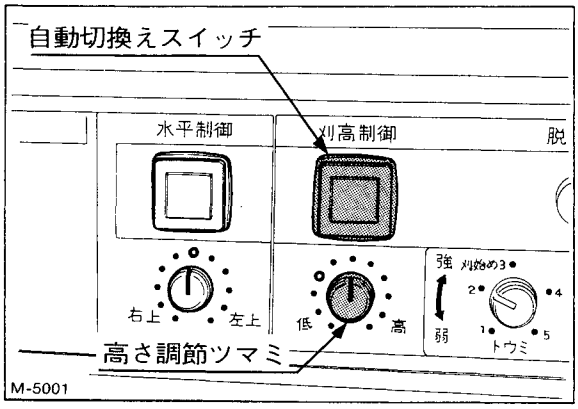
(2)刈始めは機体傾斜や凹凸に速やかに，反応して，高刈りやデバイダの突込みを防止します。

(3)刈取り中は凹凸に，小刻みに反応し，安定な刈高さを保持します。

◆自動切換えスイッチ

“自動”……スイッチが押込まれた位置でロックされますと自動位置となり，自動ランプが点灯します。

“手動”……スイッチを再び押してロックが解除されますと，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



◆操作のしかた

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。

❷自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。

❸パワーステアリングレバーを**“下げ”**にすると，自動制御に入ります。

＊刈取部が上がっているときに**“下げ”**にすると，刈取部は連続下降します。

注　意

＊ワンタッチで下降するので足元に注意してください。

❹刈終りに昇降レバーを**“上げ”**にすると，自動制御は停止し，刈取部は上がった位置を保持します。

＊株元センサが作物に接しているときは，刈取部を20cm以上上げたときに自動制御を停止します。

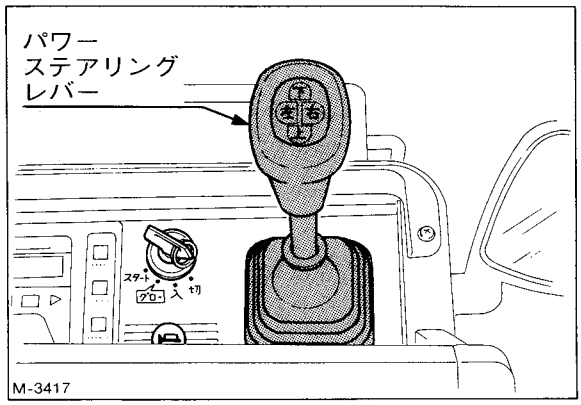
❺手動で刈取り中に自動切換えスイッチを**"自動"**にしますと，自動ランプが点灯し自動制御に入ります。

◆高さ調節ツマミ

(1)高さ調節ツマミは通常**"O"**にセットしてください。
(2)地面の状態によっては**"O"**で下がりすぎることがありますので，適正高さになるようツマミを調節してください。
(3)ツマミを**"高"**の方向に回すと、高刈りとなります。
(4)ツマミを**"低"**の方向に回すと、低刈りとなります。

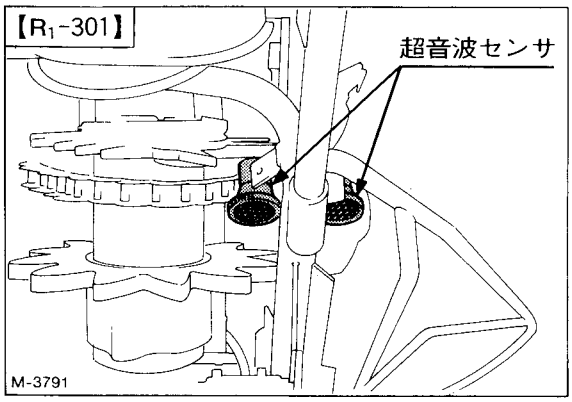
◆パワーステアリングレバー

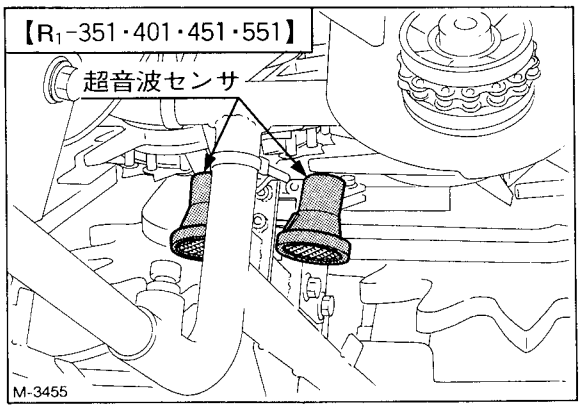
(1)手動で刈取り部を昇降するときに使用します。
(2)自動制御中でも手動が優先されます。
（詳細は7ページを参照してください）



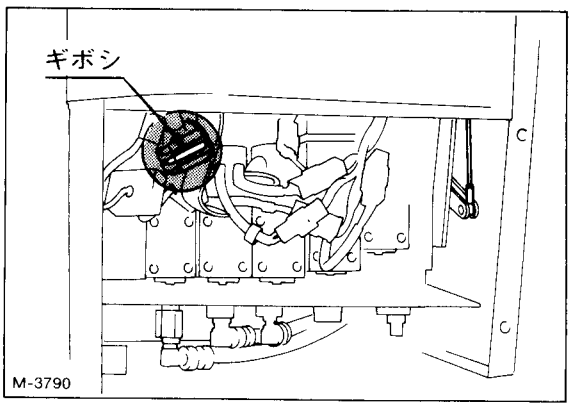
重　要

＊シフトレバーが"停止"位置にあるとき自動制御は停止します。
ただし，調節ツマミによる刈取り部の調節は可能です。
＊刈始めに，切ワラや土の盛上りをセンサが検知して刈取部が上昇する場合は,前進しながら,昇降レバーで適正高さに修正してください。
＊刈取部にからんだワラや雑草が，センサの下に来ると，誤動作をしますので取り除いてください。
＊湿田や湛水田でセンサに水や泥が付着すると，誤動作をすることがありますので，柔かい布で取り除いてください。
＊湿田で機体傾斜の激しいときには，自動制御は使用しないでください。
＊高さ調節ツマミを最低の付近で使用するときは，デバイダの突込みを生じやすいですから，機体傾斜や凹凸の激しい場所では車速を下げてください。
＊超音波センサの内部に異物が入ったときは誤動作を生じやすいので，センサの網つきキャップを外し，内部の異物を柔かい布で取り除いてください。
センサの奥にある振動部を強く押したり，突起物で突いたり水洗いしないでください。





＊刈高さ制御の反応が遅い場合は，下図のギボシ("刈高ジャンパ"の銘板貼付)を抜くと，動きが敏感になります。



22自動車速制御装置〔ピタコン〕

【SD仕様】

＊自動車速制御の特長

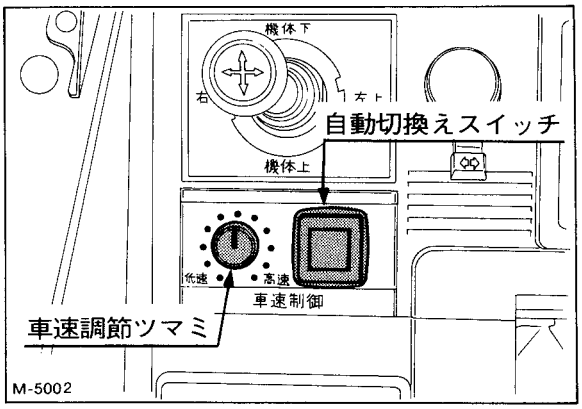
(1)エンジンの能力が最大に発揮できる車速に自動的にコントロールされ，効率のよい運転ができます。

(2)車速は車速調節ツマミで無段階に調節できますので，あぜぎわや倒伏刈取り時に便利です。

◆自動切換えスイッチ

“自動”……スイッチが押込まれた位置でロックされますと自動位置となり，自動ランプが点灯します。

“手動”……スイッチを再び押してロックが解除されますと，手動位置となり，自動ランプが消灯します。



◆操作のしかた

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。

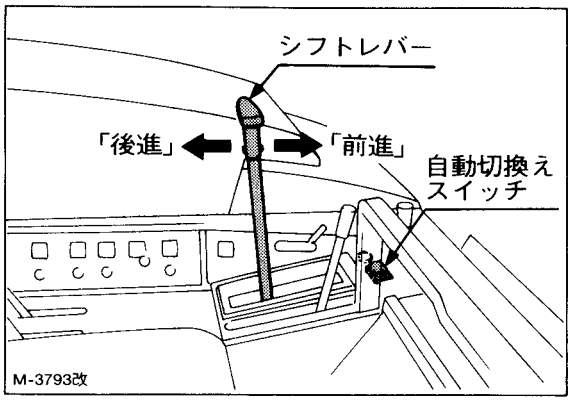
❷刈取りクラッチレバーを**“入”**にし，刈取部を下げます。

❸自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。

❹シフトレバーを手動で操作して，走行します。

❺刈始めて株元センサが作物に接触すると自動制御が作動して，最適な車速になるように自動的に増減速します。

❻刈終って旋回するとき，エンジンに過負荷が生じると自動的に減速します。



◆車速調節ツマミ

(1)車速調節ツマミを**“高速”**の方向に回すと，自動制御の上限車速が高くなります。

(2)車速調節ツマミを**“低速”**の方向に回すと，自動制御の上限車速が低くなります。

補　足

＊シフトレバーは手動優先になっていますので，緊急時には，シフトレバーを手動で停止に戻してください。

＊刈取り作業以外のときには，必ず自動切換えスイッチを“手動”にしてください。

23自動車体水平制御装置〔モンロー〕【M仕様】

＊自動車体水平制御の特長

(1)湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正し，手動の場合は機体全体を持上げることもできます。

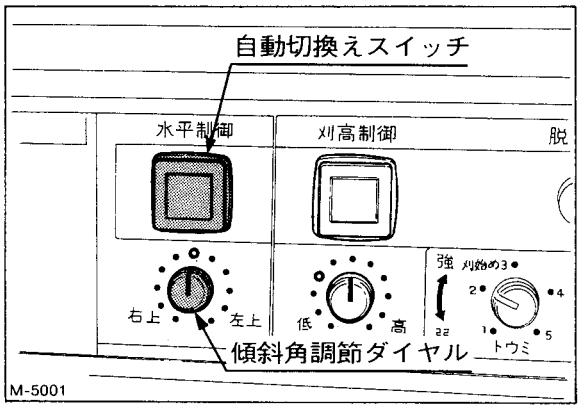
(2)傾斜角調節ダイヤルにより，機体の傾斜角を調節できますので，あぜぎわやうねでも適正な制御をします。

(3)機体が常に水平に保たれますので，湿田での運転がしやすくなります。

◆自動切換えスイッチ

“自動”……スイッチが押込まれた位置でロックされますと自動位置となり，自動ランプが点灯します。

“手動”……スイッチを再び押してロックが解除されますと手動位置となり，自動ランプが消灯します。



◆操作のしかた

❶脱こくクラッチレバーを**“入”**にします。

❷自動切換えスイッチを**“自動”**にし，自動ランプの点灯を確認します。

❸この状態で水平制御が作動します。

◆傾斜角調節ダイヤル

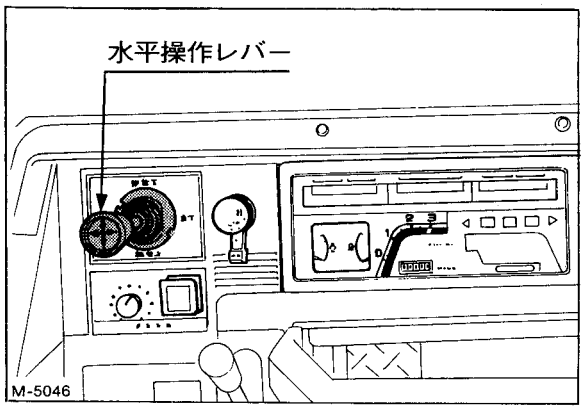
(1)通常は中央に合せてください。

(2)ダイヤルを**“右上”**の方向に回すと，右上り気味に制御します。

(3)ダイヤルを**“左上”**の方向に回すと，左上り気味に制御します。

(4)湿田で機体が左又は右にそれて直進しない場合は，傾斜角調節ダイヤルで機体の傾斜を調節すると直進性が良くなります。

◆水平操作レバー



(1)レバーを**“機体上”**の方向に倒すと，機体の左右とも上がります。

(2)レバーを**“機体下”**の方向に倒すと，機体の左右とも下がります。

(3)レバーを**“左上”**の方向に倒すと，機体の左が上がり，右が下がります。

(4)レバーを**“右上”**の方向に倒すと，機体の右が上がり，左が下がります。

(5)自動制御で作業中でも水平操作レバーが優先されます。

注　意

＊手動で操作した場合，その必要がなくなったときは，必ず一番下側に戻すことを忘れないようにしてください。

＊自動で作業した後，脱こくクラッチレバーを“切”にするか，又は自動切換えスイッチを“手動”にすると，機体は左右ともいったん一番下まで下がります。

＊下降中に，水平レバーを“機体上”の方向に操作すると停止します。

＊刈取り作業以外（特に道路走行時，運搬時，格納時）の場合は，機体を一番下まで下げてください。

＊傾斜地では使用しないでください。

コンバイン使用前の点検について

点検は，作業前欠かさず行なってください。

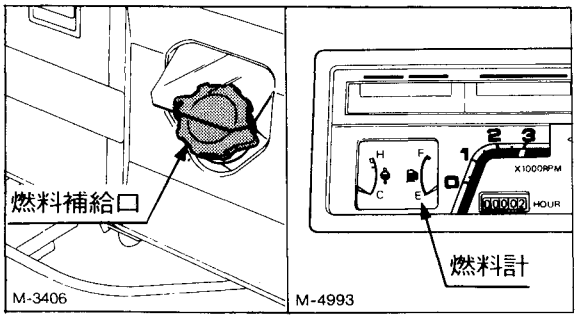
注　意

＊火気厳禁。
＊点検をするときは，必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをすることがあります。
＊エンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊エンジン・マフラ・脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内，バッテリにワラくずがたまっていると火災の原因になることがあります。時々点検をして取除いてください。

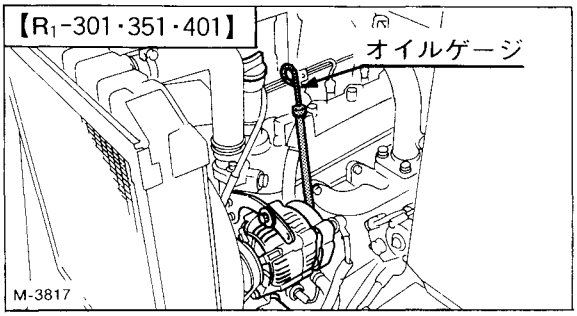
〈ここを〉		→ 〈こうする〉	
エンジンオイル		＊オイルゲージの上下刻線の間に油量があれば良い。	＊油面がオイルゲージの上下刻線間になるまで補給する。使用オイルについてはエンジンオイルの点検と交換の項(54ページ)を参照してください。
冷却水		＊リザーブタンクに適量あるか。（必ずFULLとLOWの間にあること）	＊不足していれば清水を適量補給する。（FULL以上には入れないこと）
エアークリーナ		＊エレメントにほこりが詰まっていないか。	＊清掃する。
メインスイッチを入れて	燃料計	＊作業に必要な燃料があるか。	＊補給する。（タンク容量50ℓ） R_1-301·351‥ディーゼル軽油又はクボタ401　ディーゼル重油 R_1-451·551……ディーゼル軽油 （ディーゼル重油は不可）
	イージーチェッカ	＊メインスイッチを入れた瞬間(約1.5秒間)，ランプが全て点灯するか。	＊球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ処置する。 ＊その他の場合は，販売店へ相談してください。
	ホーン	＊ホーンスイッチを押せば鳴るか。	
	ランプ類	＊正常に作動するか。	＊球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。
	バックブザー	＊シフトレバーを**“後進”**位置にしたとき，バックブザーが鳴るか。	＊ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。 ＊その他の場合は，販売店へ相談してください。
エンジンを始動して	イージーチェッカ	＊オイルランプ，チャージランプは消灯するか。 ＊回転計は正常に作動するか。	＊エンジンオイルを補給する。 ＊充電する。 ＊異常箇所を調べ，処置する。
反射器		＊汚れはないか。 ＊確実に取付けてあるか。	＊掃除する。 ＊締付けなどの処置をする。

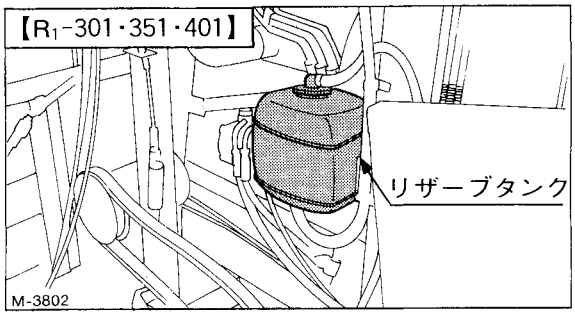
〈ここを〉		〈こうする〉
防じん網, ラジエータフィン オイルクーラフィン	＊防じん網の目詰まりはないか。 ＊ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはないか。	＊ブラシなどで，清掃してください。 ＊ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，水道水，又は圧縮空気で清掃してください。
チェーン, ワイヤ,クローラ	＊たるみ，損傷はないか。	＊正常に調整する。
ベルトカバー, マフラ回り	＊ワラくずがたまっていないか。	＊掃除する。

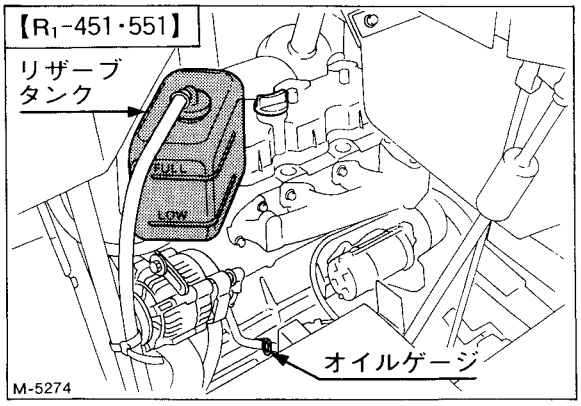
■燃料の点検



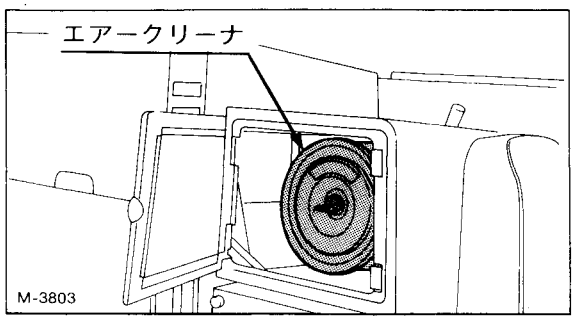
■エンジンオイル，冷却水の点検



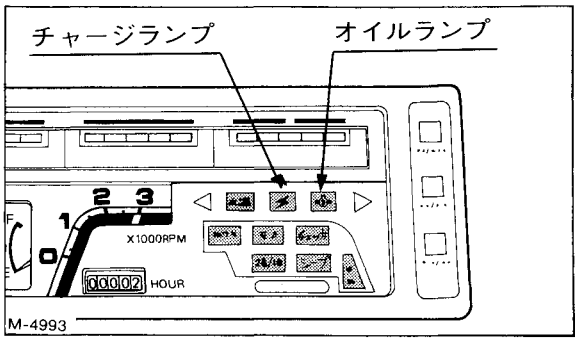




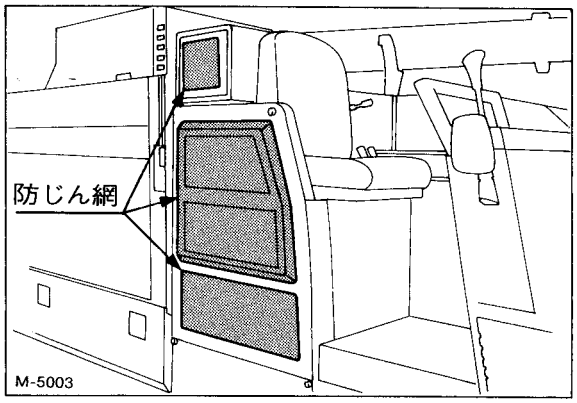
■エアークリーナの清掃

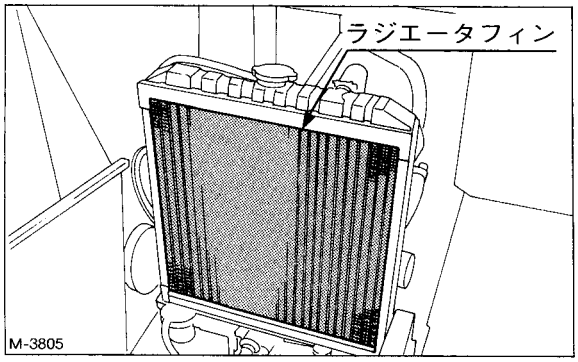


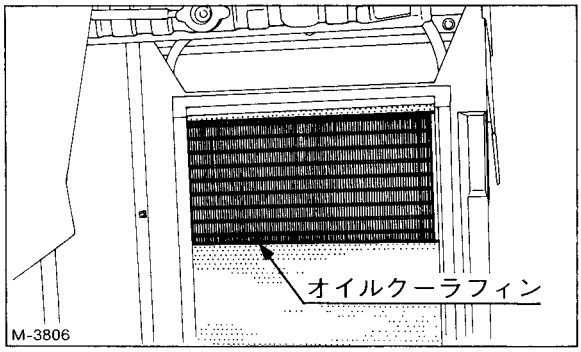
■イージーチェッカの点検



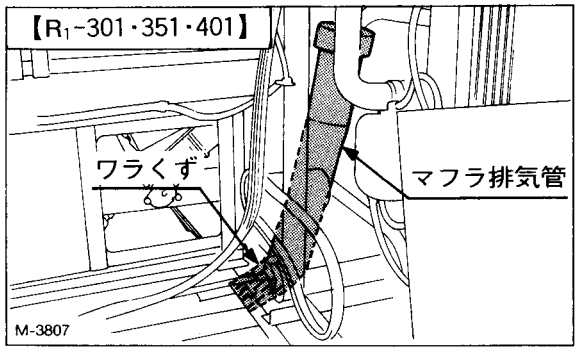
■防じん網，ラジエータフィン，オイルクーラフィンの点検

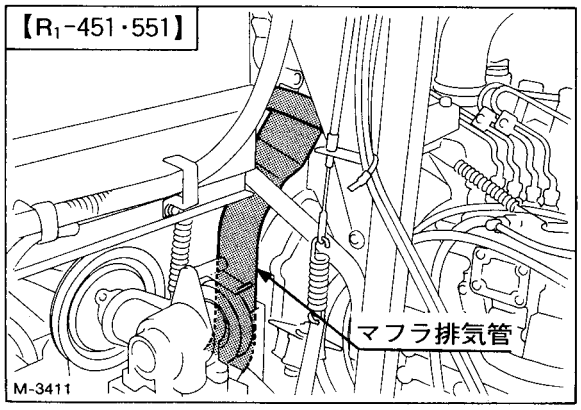




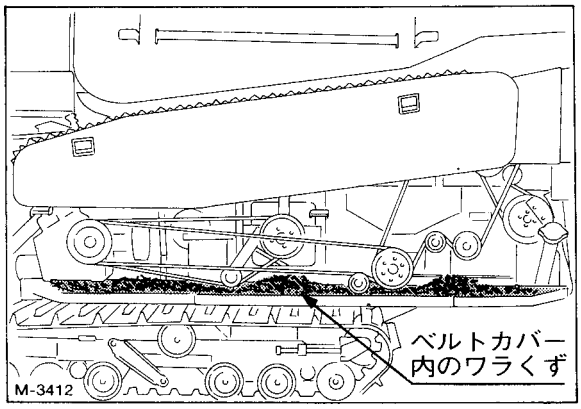


■マフラ排気管の清掃





■ベルトカバー内の清掃



上手な運転のしかた

エンジンの始動と停止について

注　意

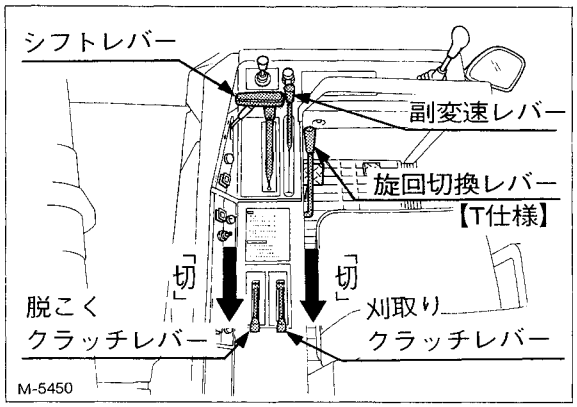
＊始動操作は，運転席で行なってください。
＊周囲の人に合図をしてから始動してください。
＊各クラッチレバーを“切”にして始動してください。

■始動のしかた

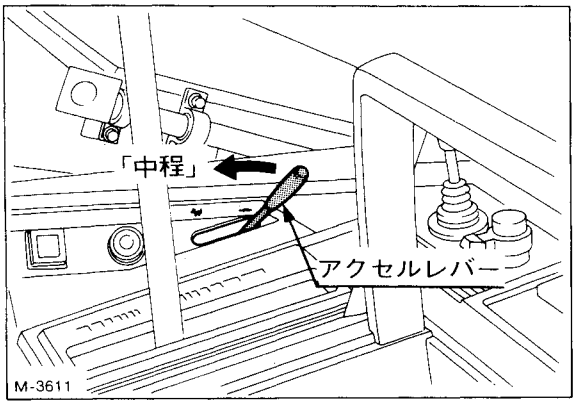
❶副変速レバーを**“中立”**，シフトレバーを**“停止”**にします。

❷刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを**“切”**の位置にします。

❸旋回切換レバーを**“スピンターン”**または**“ソフトターン”**のどちらかに確実に入れます。【T仕様】



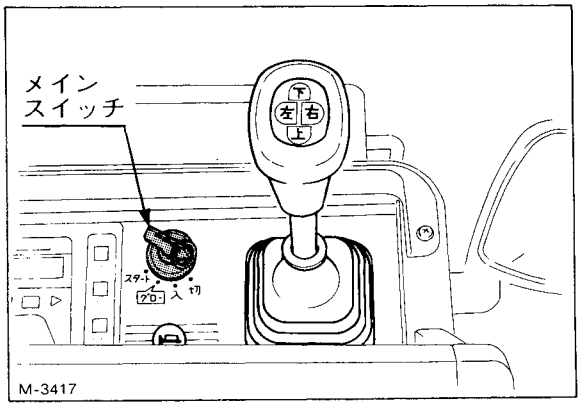
❹アクセルレバーを**“中程”**まで引きます。



❺周囲の人に始動の合図を送り，安全を確認してください。

❻メインスイッチにキーを差込み，**“スタート”**位置に回します。
エンジンが0℃以下に冷えきっているときは，キーを**“グロー”**の位置に回し，約10～30秒間予熱します。

❼エンジンが始動すれば，キーから手を放してください。

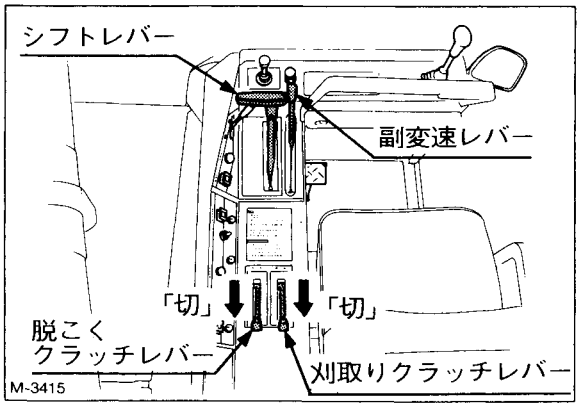


重　要

＊シフトレバーが“停止”の位置にないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。
＊メインスイッチを“スタート”にし，セルモータを回して10秒たっても始動しないときは，いったんメインスイッチを切って，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。
＊エンジンが始動すれば，５～10分間暖機運転し，その後作業に入ってください。
（特に0℃以下の場合は，オイルの循環が不十分ですので必ず行なってください。）
＊旋回切換レバーが確実に切換位置にないときに発進すると自動的にエンジンが停止します。【T仕様】

■停止のしかた

刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを**“切”**にし，メインスイッチを**“切”**に戻してからキーを抜取ります。(メインスイッチを**“切”**にするだけでエンジンは停止します。)



路上走行について

注 意

＊このコンバインは“道路運送車両法”により公道走行はできません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。

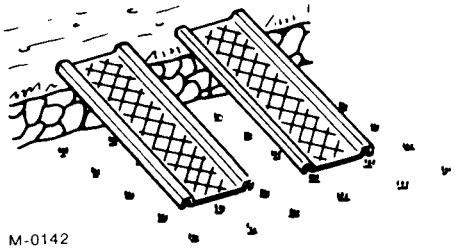
＊高速走行時の急旋回は危険ですので，旋回前には必ず減速してから，パワーステアリングレバーを徐々に左又は右に倒して旋回してください。

＊あぜの乗り越えは，グレンタンクのモミを取出した状態(空の状態)で低速であぜに直角に進入してください。10cm以上のあぜ，又はコンクリートの畦畔は必ずアユミ板を使用してください。機体は心ず一番下まで下げて行なってください。【M仕様】

＊グレンタンクを固定ピンで確実に固定してください。

【グレンタンク仕様】

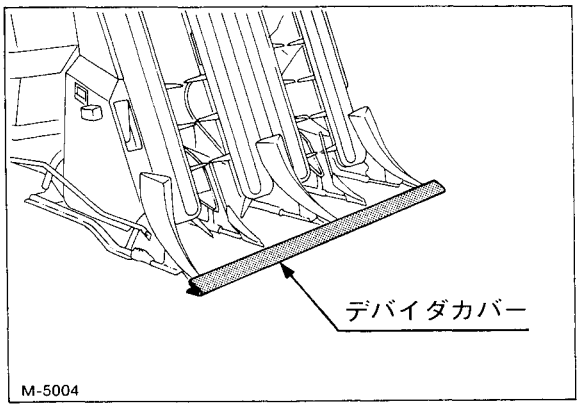
＊アンローダは，アンローダササエに確実に収納固定してください。【グレンタンク仕様】



＊踏切を渡る場合は必ず一旦停止し，列車通過の有無を確認の上，速やかに渡ってください。

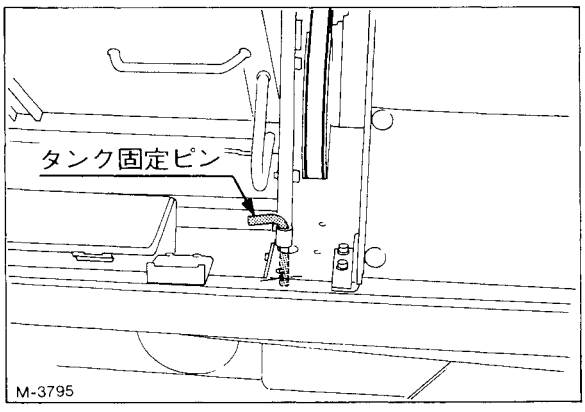
■走行のしかた

❶デバイダカバーを取付けます。



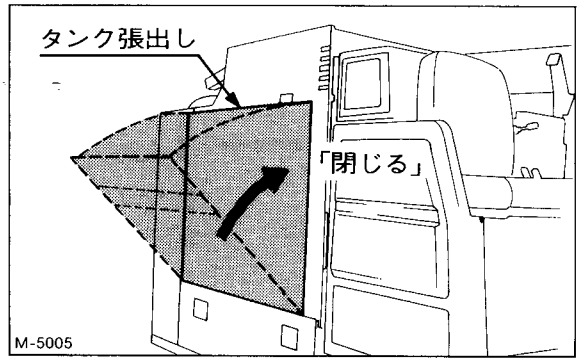
❷タンク固定ピンで固定します。

【グレンタンク仕様】



❸グレンタンク張出しを閉じます。

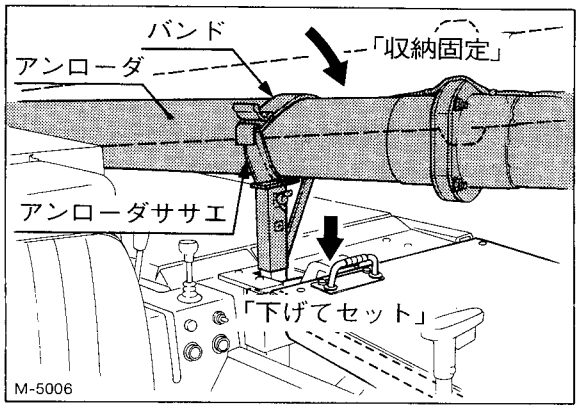
【グレンタンク仕様】



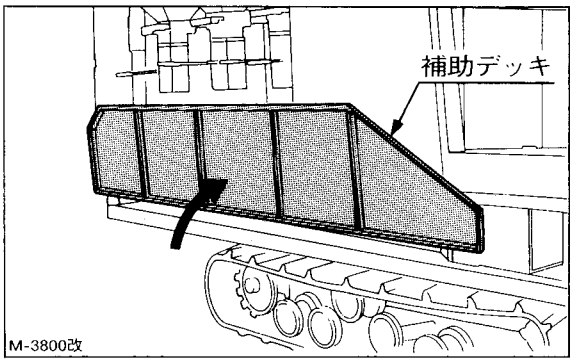
＊張出し開閉リモコン操作方法は19ページ参照。

【R_1-551】

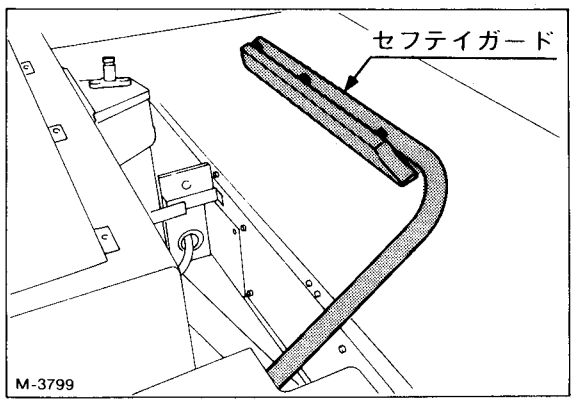
❹アンローダをアンローダササエに収納し，バンドで固定します。（アンローダササエは下げてセットしてください）　【グレンタンク仕様】



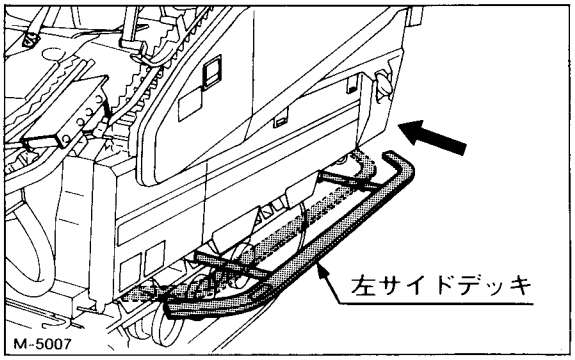
❺補助デッキを折りたたみます。【ホッパ仕様】

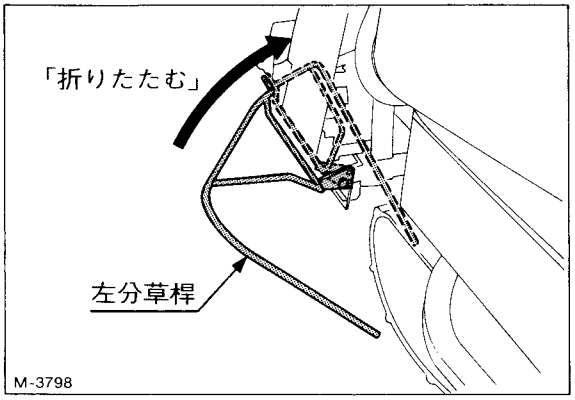


❻セフティガードを折りたたみます。【ホッパ仕様】



❼左サイドデッキを収納し、左分草桿を折りたたみます。



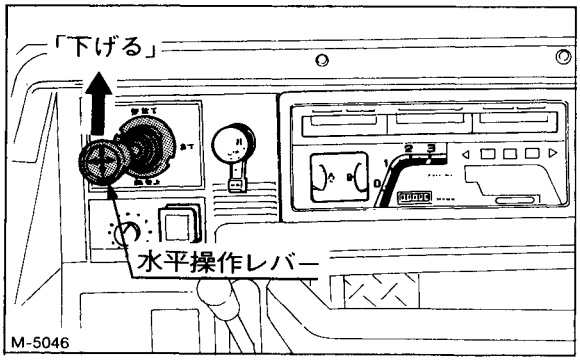


❽バックミラー・方向指示器・ホーン・ヘッドランプなどが確実に**“作用する”**か点検します。

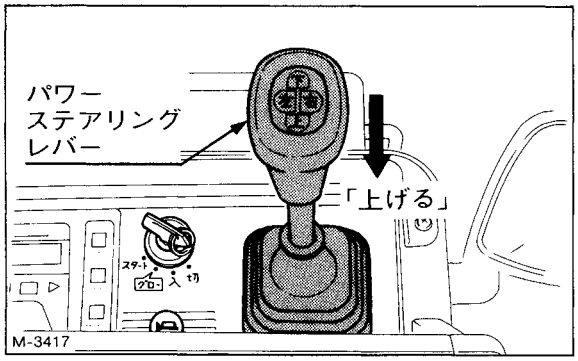
❾刈取り・脱こくクラッチレバーを**“切”**にし，シフトレバーを**“停止”**にしてエンジンを**“始動”**します。エンジン回転数は2000回転/分以上にセットしてください。

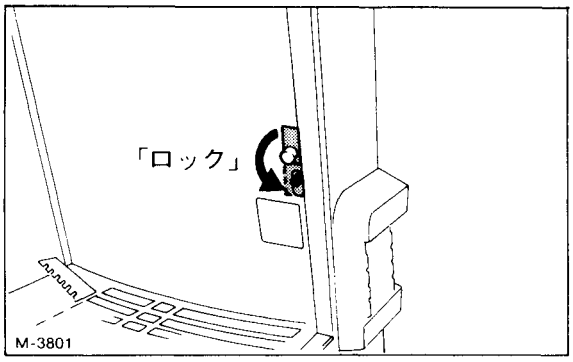
（シフトレバーを**“停止”**の位置にしないと，エンジンは始動しません。）

⑩自動車体水平制御は，水平操作レバーで最も低い位置まで下げてください。【M仕様】



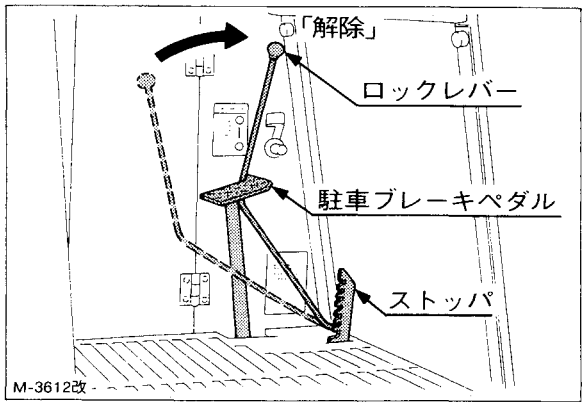
⑪パワーステアリングレバーで刈取り部を**“上げ”**，昇降ロックにします。



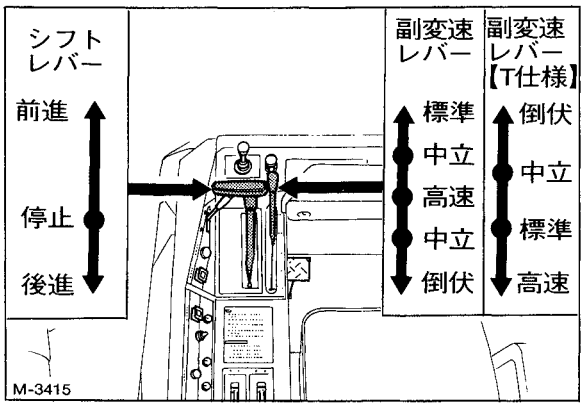


⑫方向変換のときは，パワーステアリングレバーを軽く左又は右に倒します。
強く倒すと急旋回しますので注意してください。

⑬駐車ブレーキペダルを踏込んでストッパを外します。



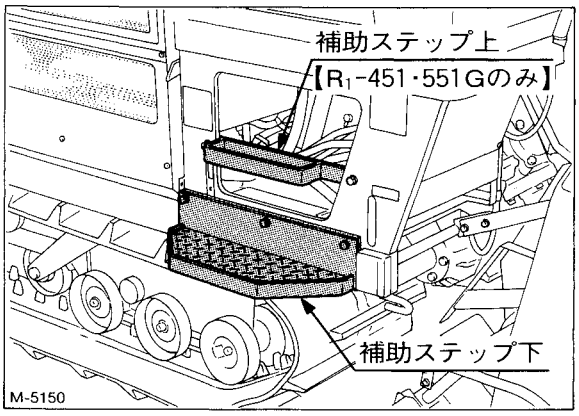
⑭副変速レバーで速度の選定をします。



⑮シフトレバーを徐々に前進側に倒すと**“前進”**しますので適当な速度で走行してください。
後進はシフトレバーのノブを引上げながら後進側に倒すと**“後進”**します。

重　要

＊砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障する恐れがありますので避けてください。
＊副変速レバーの切換えはシフトレバーを“停”位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。
＊走行時は，エンジン回転数2000回転/分以上で使用してください。
＊刈取り部は，上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。
＊道路走行時は，補助ステップを必ず取外してください。【グレンタンク仕様】



停車について

注 意

＊コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろしてエンジンを止め，駐車ブレーキをロックしてください。
＊駐車ブレーキペダルは，走行中及びトラックへの積み降し中は絶対に踏まないでください。
もし操作すると機体が左又は右に方向が変わる場合があります。
緊急停止を要するときは，シフトレバーを“停止”の位置にしてください。
＊坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

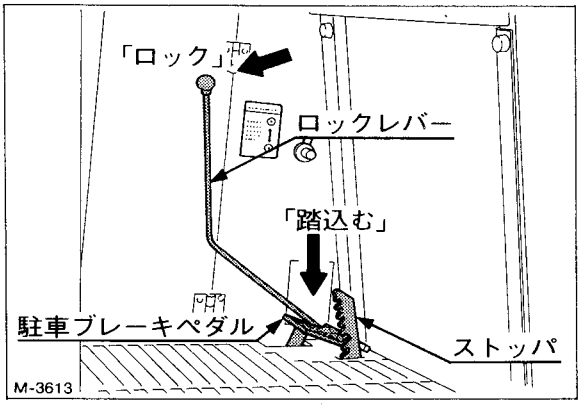
■停車のしかた

❶シフトレバーを**“停止”**にします。
❷副変速レバーを**“中立”**にします。
❸駐車ブレーキを**“ロック”**します。
❹エンジンを停止してキーを抜いてください。

◆駐車ブレーキ操作のしかた

▶ロック
＊駐車ブレーキペダルを強くいっぱい踏んで，ロックレバーで駐車ブレーキペダルにストッパをかけます。

▶解除
＊駐車ブレーキペダルを強く踏むとストッパが外れます。



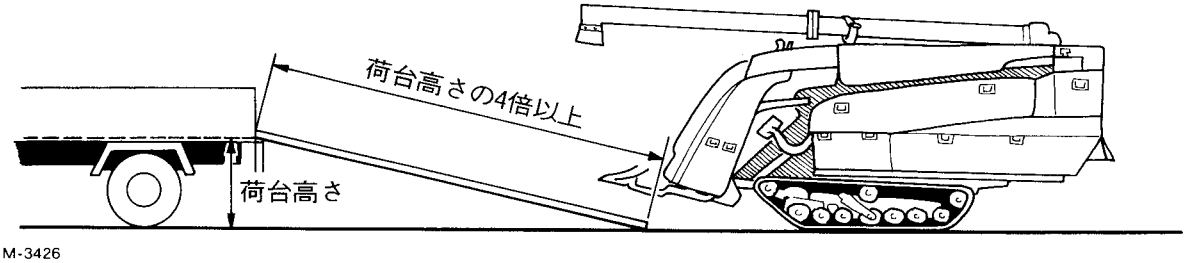
補 足

＊T仕様の場合は，駐車ブレーキペダルを踏むとシフトレバーが“停止”位置に戻ります。
また,駐車ブレーキペダルが“ロック”位置の場合は，シフトレバーは動きません。
＊T仕様の場合は，旋回切換レバーが確実に入っていないと，駐車ブレーキが作動しませんので，駐車ブレーキをかけるときは，必ず旋回切換レバーが“スピンターン”か“ソフトターン”のどちらかに確実に入っていることを確認してください。

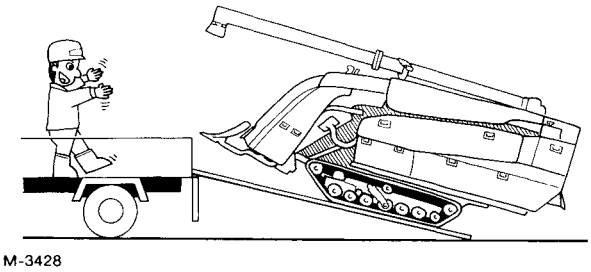
トラックへの積み・降ろし

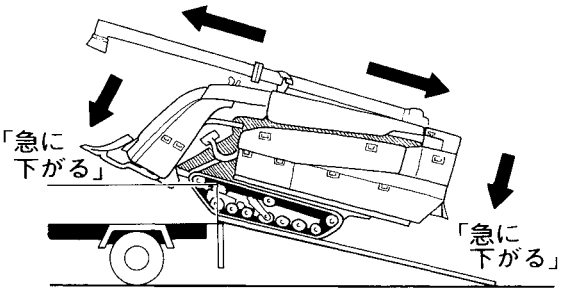
注 意

＊アユミ板は，十分な強度，幅(クローラの1.2倍以上)，長さ(高さの４倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。



＊アユミ板のフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように確実に掛けてください。
＊パワーステアリングレバーの左右操作は，アユミ板の上では行なわないでください。もし操作すると，急に方向転換し落下する恐れがあります。
＊万一にそなえて，コンバインの周辺には，人を近づけないでください。
＊平たん地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，コンバインの周辺に人を近づけないでください。
＊機体が凸部を越えるときは，急に姿勢が変わりますので十分注意してください。


M-3428



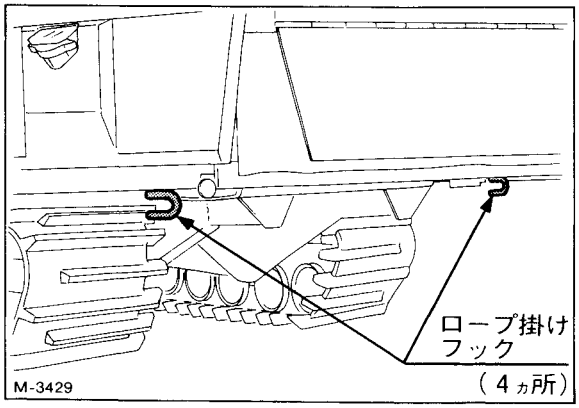
M-3427

■積み・降ろしのしかた

❶左分草桿とカッタの株元カバーを折りたたみ，左サイドデッキを収納します。
❷補助デッキとセーフティガードを折りたたみます。【ホッパ仕様】
❸グレンタンクの張出しを閉じます。【グレンタンク仕様】
❹刈取部を上限まで上げます。
❺エンジンは2000回転/分以上で使い，副変速レバーを**“倒伏”**位置にし，シフトレバーをゆっくり操作して，低速で使用してください。
❻アユミ板の上でパワーステアリングレバーを操作する必要のないように，アユミ板の中央に左右のクローラを合せてから積降ろしをしてください。

注 意

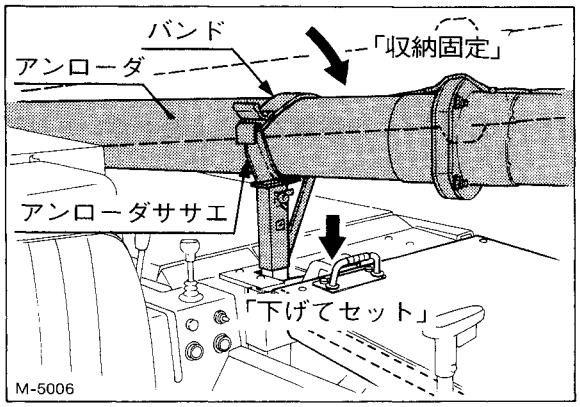
＊自動車やトレーラに積んで走るときは，ロープをフレームの所定の“ロープ掛けフック”(４ヵ所)に掛けてください。また，駐車ブレーキをかけペダルを“ロック”してください。



M-3429

トラックでの輸送

トラック等で輸送する場合，アンローダササエを必ず下げてセットし，アンローダが浮上がらないようバンドで確実に固定してください。【グレンタンク仕様】



M-5006

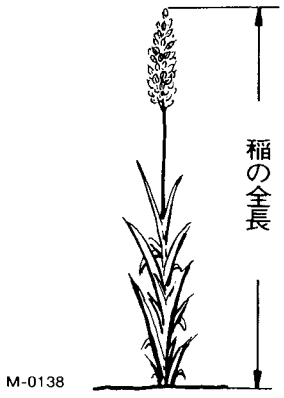
上手な収穫作業のしかた

コンバイン作業ができる作物とほ場の条件

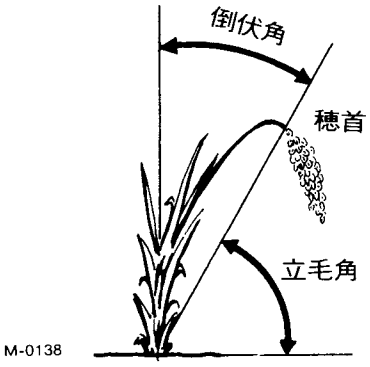
作物とほ場の条件によっては，正常なコンバイン作業ができないことがあります。先ず作物とほ場の条件を確認してください。

■作物の条件

(1)作物の長さ……全長55～130cm

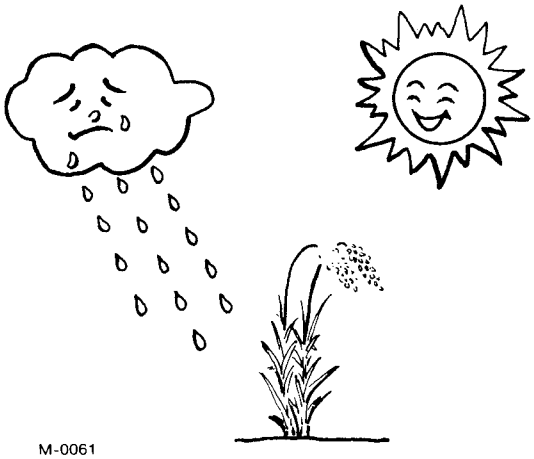


(2)作物の倒れ(倒伏角)…{ 追い刈り…85度以下。 向い刈り…70度以下。



(3)作物のぬれ……乾いていること。

(手でしごいてぬれない状態)

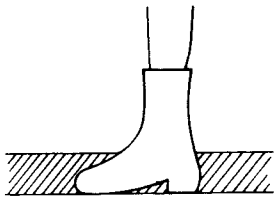


■ほ場の条件

(1)ほ場のぬかる度合

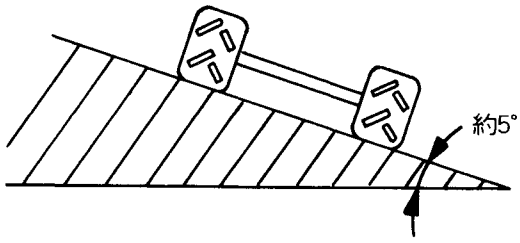
＊足の沈み量の目安

	R_1-301·351·401	R_1-451·551
M無し仕様	10cm	15cm
M仕様	15cm	20cm
MLL仕様	20cm	25cm



(長靴をはいた状態)

(2)機体の傾斜角度５度以上では，作業できません。



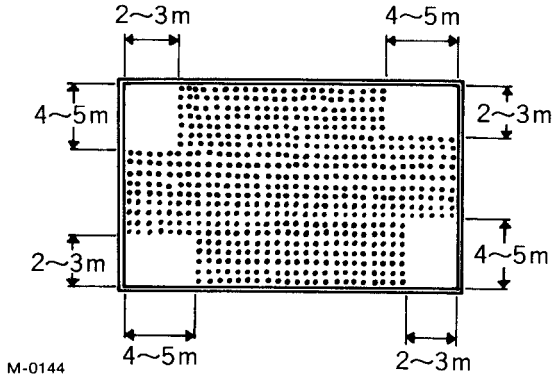
補　足

＊ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

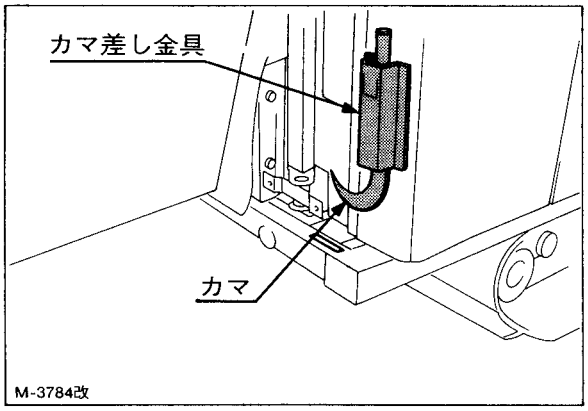
コンバイン作業前の準備

■ほ場の手刈り(枕刈り)

能率よく作業を進めるには，コンバインをほ場に入れる前に，図のように四すみ(旋回できる範囲)を手刈りします。



＊カマは下図の所に収納できます。



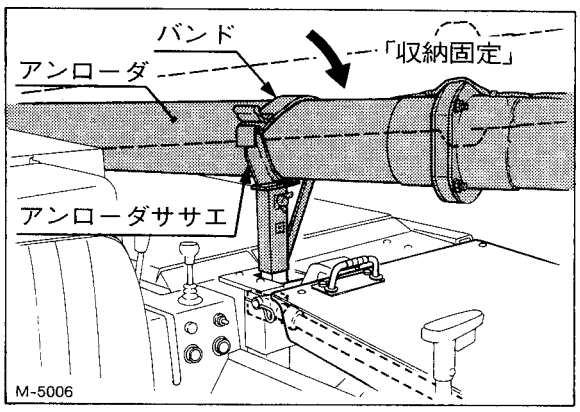
■作業前の各部の準備

注　意

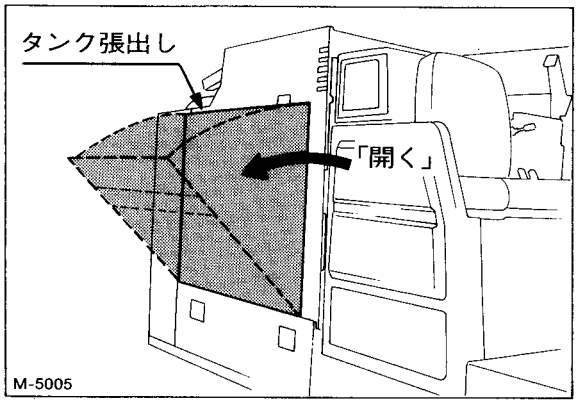
＊アンローダが中途半端な状態での作業は絶対にしないでください。

◆グレンタンクの張出し【グレンタンク仕様】

❶アンローダを固定しているバンドを外してください。アンローダはアンローダササエに確実に収納してください。



❷タンク張出しを開きます。

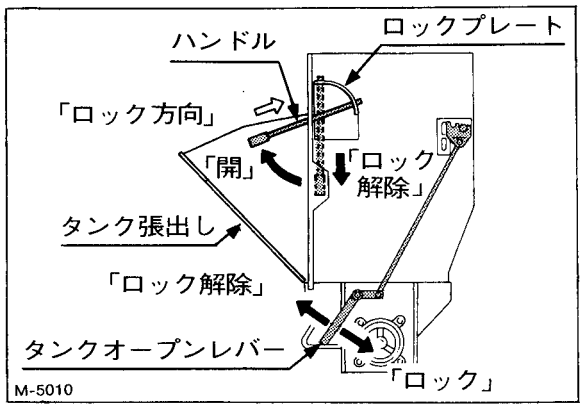


❸タンク張出し

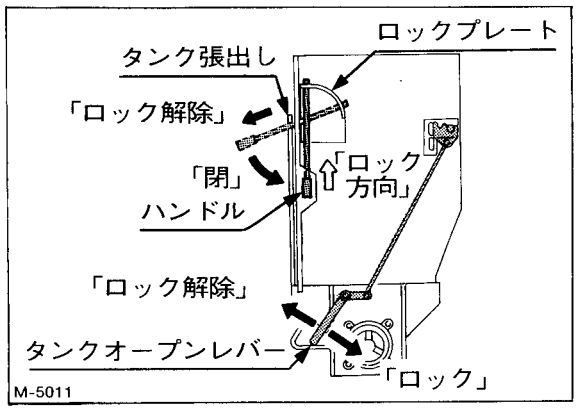
＊【R_1-301・351・401・451】

右手でハンドルを下方に引きロックを解除した後，左手でタンク張出しに手をかけて引張りながら，ハンドルを回動させて行なってください。

開閉後はハンドルを押し，ロックされていることを確認してください。



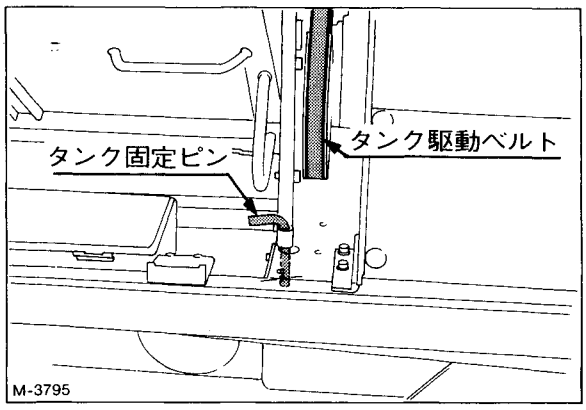
あぜぎわ刈りで石垣などが接近しているときは，タンク張出しを閉めた状態で作業してください。途中で止めると，穀粒もれの恐れがあります。



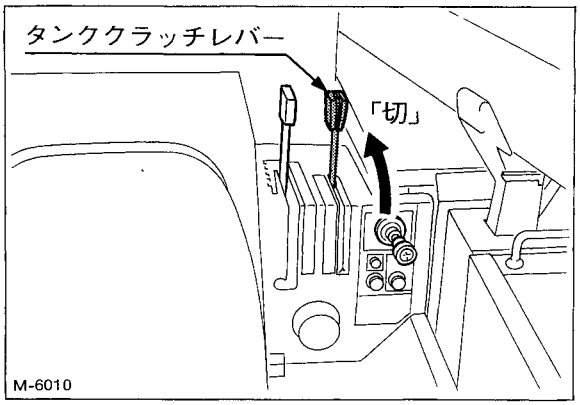
＊【R_1-551】

開閉がリモコン操作です。(18ページ参照)タンク張出し開閉リモコンの項を参照してください。

❹タンク駆動ベルトが外れていないか，タンク固定ピンを差し忘れていないか，タンクオープンレバーはロックされているか，確認してください。

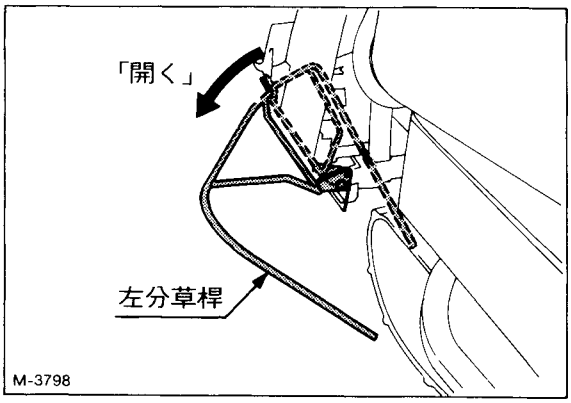


❺タンククラッチレバーが**"切"**の位置にあるか確認してください。



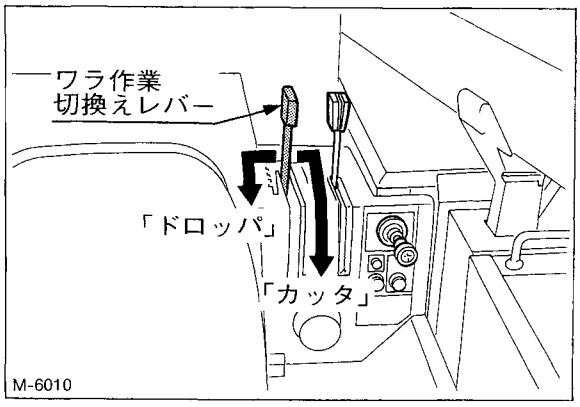
◆左分草桿

左分草桿を開きます。



◆排ワラ処理装置の選択

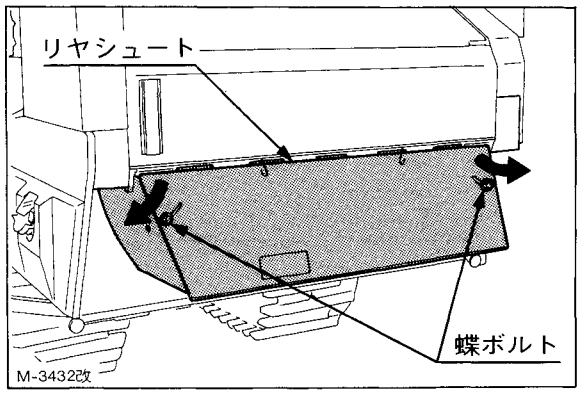
カッタ作業(排ワラの切断)，ドロッパ作業を切換えレバーで選択します。(47ページ参照)



◆リヤシュート

シュート止め金具を回動し，シュートを下に降ろします。

次に蝶ボルトで両サイドのシュートを締付けます。

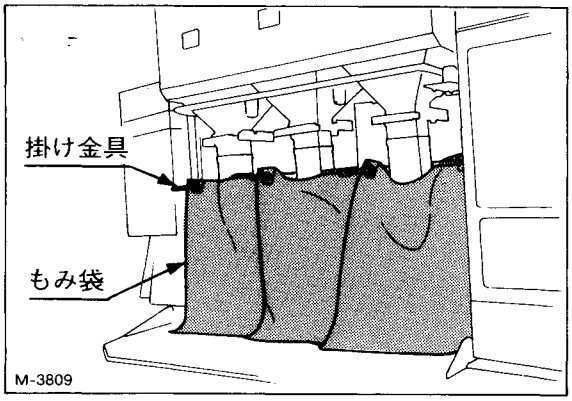


重 要

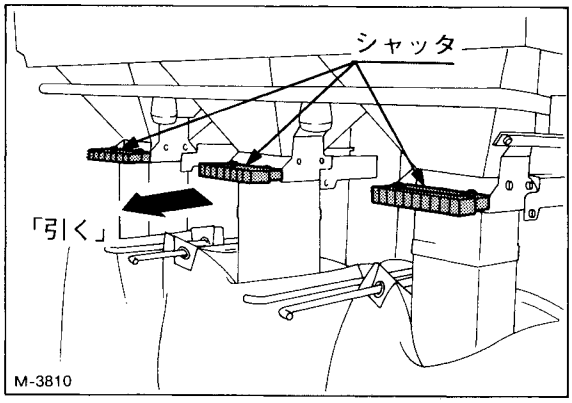
＊カッタ・バラ落し作業いずれの場合でもシュートは開いてください。

◆もみ袋の取付け【ホッパ仕様】

❶もみ袋のファスナを開き，図のように各袋を掛け金具に取付けます。

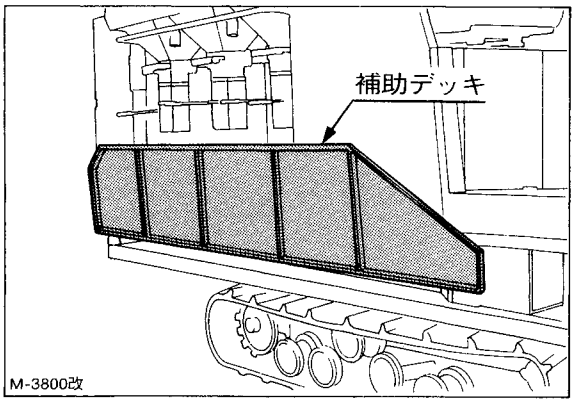


❷各吐出口のシャッタを開きます。



◆補助デッキ【ホッパ仕様】

補助デッキは，中割作業，あぜぎわ刈りのときは折りたたみます。

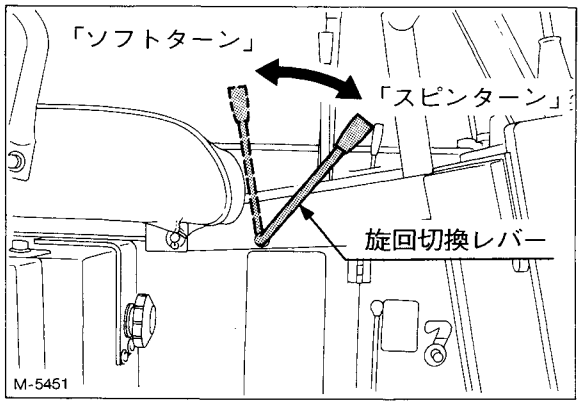


◆旋回方式の選択【T仕様】

作業条件に応じて旋回方式を選択してください。

“スピンターン”……パワーステアリングレバーの倒し量に応じて左右のクローラが互いに反対方向に駆動されて旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用してください。

“ソフトターン”……左右のクローラの回転差で方向を変え旋回します。旋回半径は，やや大きくなりますが湿田やほ場の荒れを少なく作業する場合，また移動走行時に使用してください。



コンバイン作業について

■作業中の注意事項

(1)脱こくクラッチは，**エンジン回転が低速のときは絶対に入れないでください。**脱こく機の詰まり，故障の原因になります。

(2)小さなほ場や，ほ場の隅では作業がしにくいので，**安全のため低速**で注意しながら作業を行なってください。

(3)カッタとドロッパ(オプション)の切換えは，脱こく部を停めてから行なってください。

(4)作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，**その都度清掃**してください。
防じん網全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，**エンジンオーバヒート**の原因になりますので注意してください。

(5)**"スピンターン"**で旋回時に，機体のショックが大きいほ場条件(特に麦畑など)では，**"ソフトターン"**で作業してください。【T仕様】

■オーバヒート時の注意事項

冷却水温が沸点近く又はそれ以上になったとき(いわゆるオーバヒート)には次の様に行動してください。

(1)安全な位置で機械の運転を止めてください。(エンジンの負荷を抜く。)

(2)蒸気が噴出しているときは機械から十分離れて待機してください。

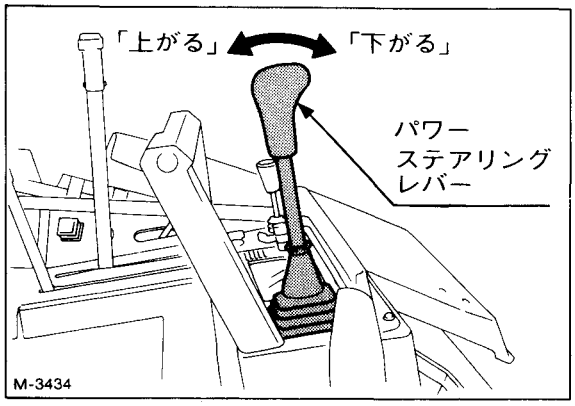
(3)オーバヒート等でエンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジンを停止する。
❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
エンジンが冷えていないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部等より熱湯が吹出し，あるいは高温部に接触してヤケドする恐れがあります。

(4)ヤケド等の危険性がなくなってから，オーバヒートの原因を**"コンバインの不調と処置"**の項(93ページ参照)に従って除去してください。その後，エンジンを再始動させてください。

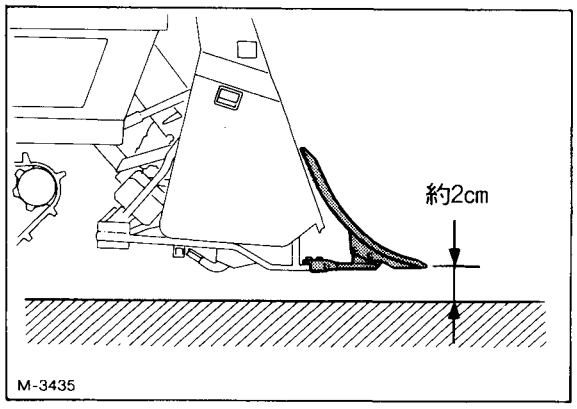
■刈取部の操作のしかた

◆刈取部の昇降

(1)パワーステアリングレバーで，デバイダの先端が地面に接しないように少し持上げてください。
(自動刈高さ制御については18，19ページ参照)



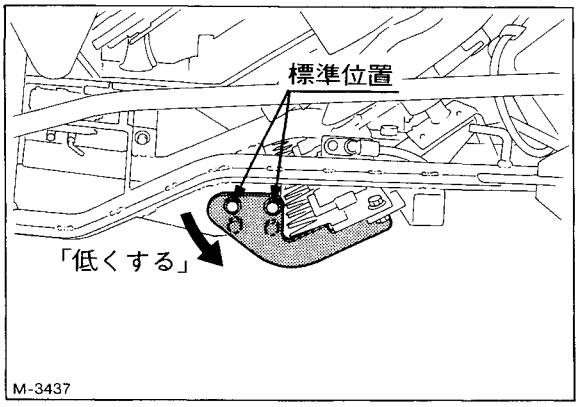
(2)通常は，地面からデバイダの先端まで約2㎝になるようセットしてください。



(3)長稈や麦・雑草のある場合は高刈りしてください。

◆刈刃の上下調整

刈刃の取付け位置を低くできますので，切株高さを低くしたいとき調整してください。



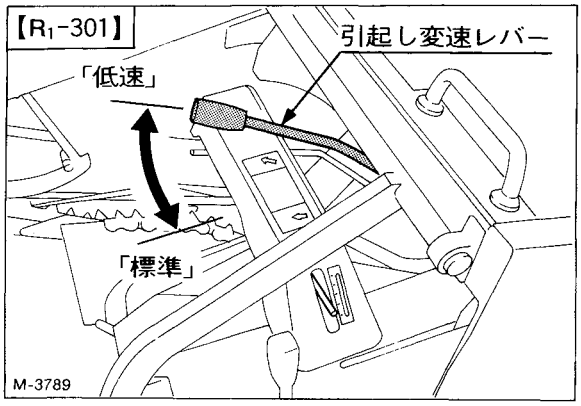
重　要

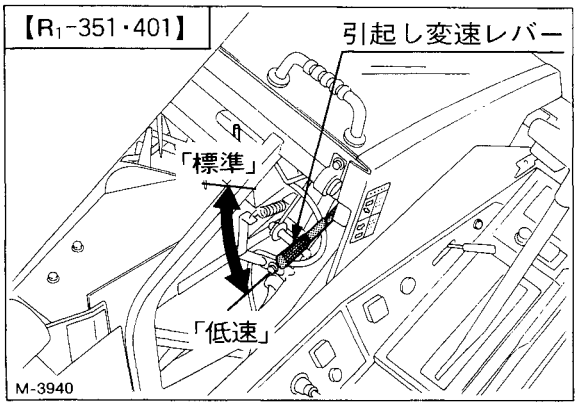
＊湿田・畝のある所では，刈刃に泥・土がかかりますので，標準位置にして使用してください。

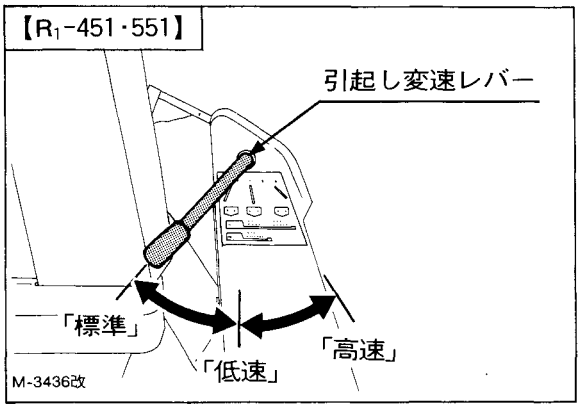
◆引起し変速・副変速の選定

作物・使用状況によって，引起し変速レバーと副変速レバーの組合せを下表のように行ないます。

作物条件		変速レバー位置	
倒伏度合	その他条件	副変速レバー位置	引起し変速レバー位置
直立	一般的作物	標準	標準
	周囲刈りなど低速走行作業	倒伏	
	脱粒しやすい作物（麦穂切れ大も含む）	標準	低速
倒伏	45°以下の倒伏		R_1-301・351・401の場合　標準 R_1-451・551の場合　高速
	45°以上の倒伏	倒伏	



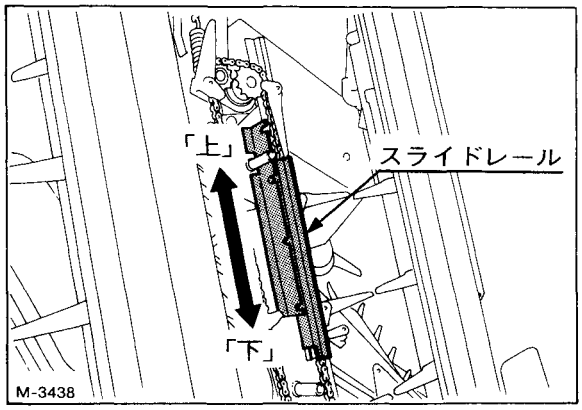


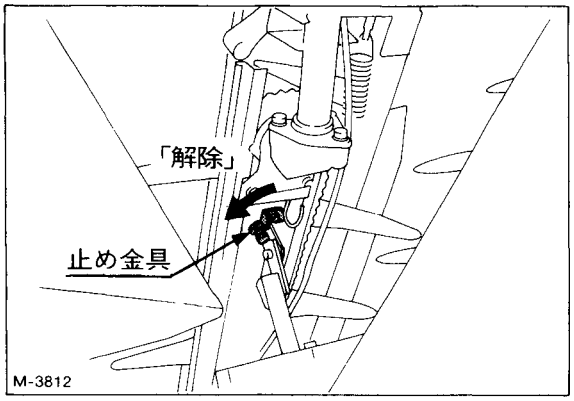


◆引起し爪高さの調整

❶脱粒しやすい品種を刈取りするときは，引起し爪の高さを，作物の穂部の下側になるよう調整してください。4段階に調節できます。

❷長稈で倒伏している状況では，引起し爪の高さを上側に調整してください。





❸引起しカバーの外し方は，上図のように止め金具を動かして，引起しカバーのロックを解除してください。（1本の引起しフレームに3ヵ所）

❹引起しカバーを平行に引きながら外してください。

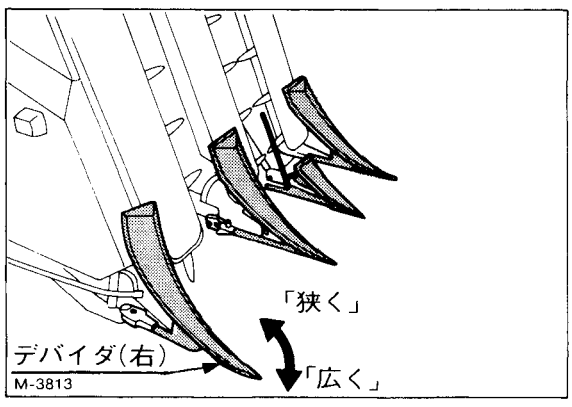
❺スライドレールを調整してください。

重　要

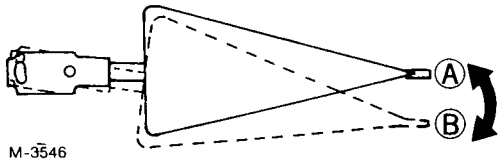
＊組立てるときは，引起しカバーを最後まで押し込んで，止め金具が垂直になるまで回動してください。

◆デバイダの調節方法

各デバイダの高さは必ず揃えてください。



〔左右調節のしかた〕



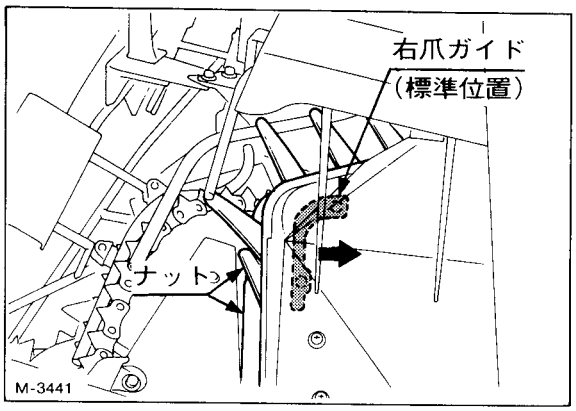
＊デバイダ右はA位置が標準です。

＊植付け条間の広いほ場での中割作業をするときは，B位置にセットしてください。

◆右爪ガイドの調整

脱粒しやすい稲で，ロスを少なくしたいときに調整してください。

下図のように右爪ガイドの下のナット(ケース裏側，２コ)をゆるめ，➡方向に移動させてナットを締付けてください。

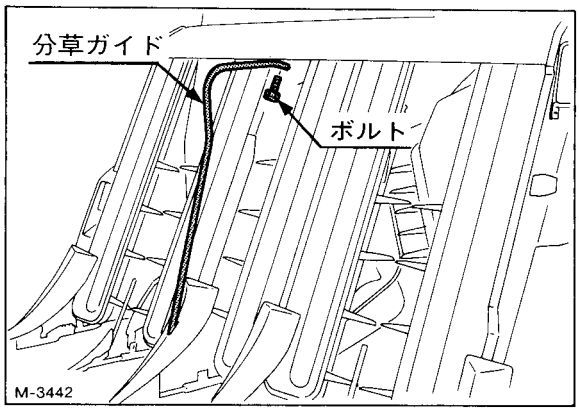


補　足

＊脱こくへの供給姿勢に乱れが多いときは，標準位置で使用してください。

◆分草ガイドの取付けかた【R_1-551】

長稈で倒伏した作物を刈取るとき，分草ガイドを取付けてください。



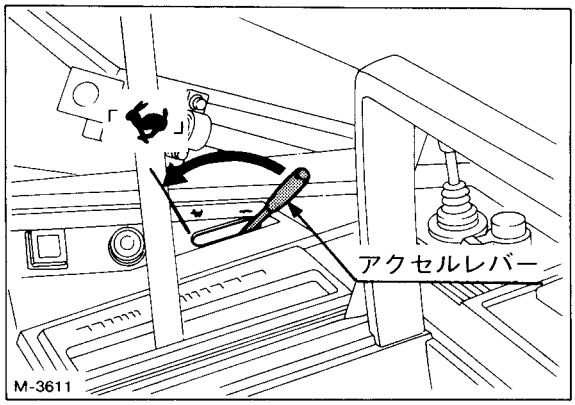
補　足

＊分草ガイドと取付け用ボルト(M８×14)２本は，付属部品箱に入っています。

■脱こく部の操作のしかた

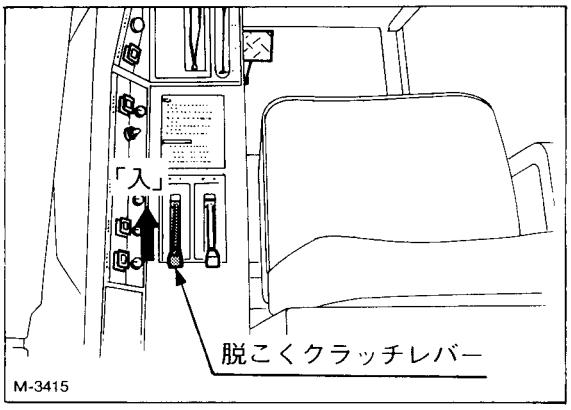
◆脱こく部の回転数

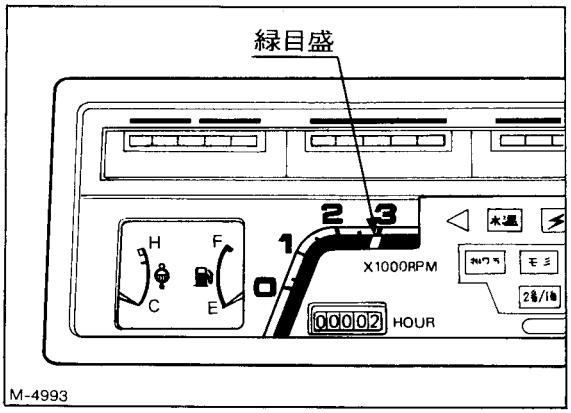
❶エンジンを始動させ，アクセルレバーを“🐇”側にしてください。



❷脱こくクラッチレバーを**“入”**にして，脱こく部を回転させてください。

❸脱こくクラッチを入れた状態で，アクセルレバーを調節して，緑目盛上限に合せてください。



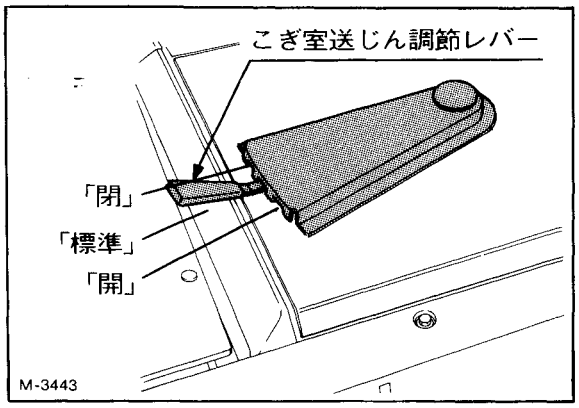


補　足

＊エンジン回転数は，脱こくクラッチを入れ，走行しない状態で合せてください。

◆こぎ室送じん調節のしかた

作業の状態をみて以下のように調節してください。



作　業　の　状　態	調節のしかた
倒伏した作物を刈取るとき こぎ胴負荷が大きいとき	開の方へ
通常作業	標準
排じんロスが多いとき ササリ粒が多いとき	閉の方へ

◆チャフ・トウミ調節のしかた

自動脱こく制御の項目(14ページ参照)を参照してください。

◆シーブケース波板補助の調節のしかた

❶左サイドカバーを外し，１番スクリュ掃除口を開けてください。

❷調節窓を開けます。グレンタンク仕様はグレンタンクをオープンしてください。(85ページ参照)

❸グレンシーブの取付けボルト(４個)をゆるめ，シーブケース波板補助を下の表にもとずいて調節してください。

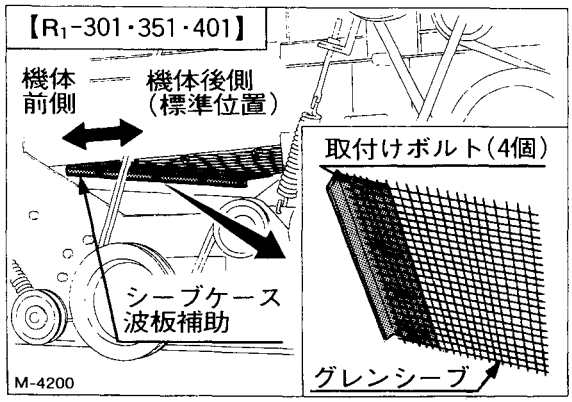
＊【R_1-301・351・401】

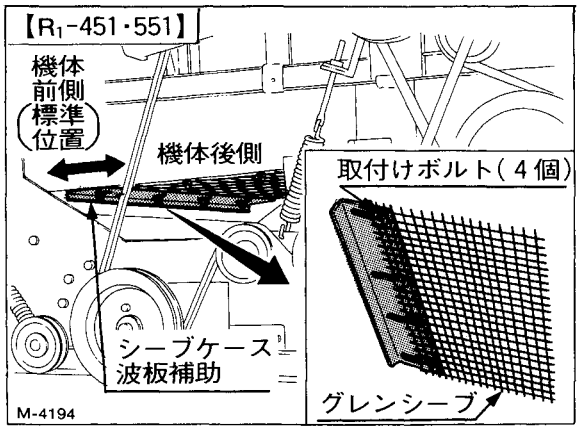
作　業　の　状　態	調節のしかた
標準位置	機体の後方側へ
もみの飛散が多い 脱ぶが多い	機体の前方側へ

＊【R_1-451・551】

作　業　の　状　態	調節のしかた
切ワラ，ゴミが入る。 (処理が悪い)	機体の後方側へ
標準位置	機体の前方側へ

❹調節終了後は，前述の逆の順番で組立ててください。





■走行部の操作のしかた

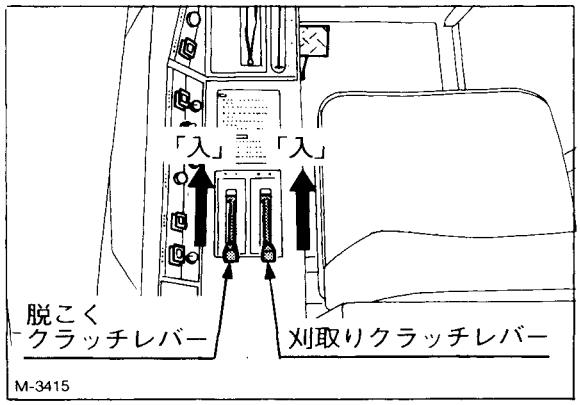
◆作業機部分の回転

❶脱こくクラッチレバーを**"入"**にします。

……脱こく機とカッタ部が回転する。

❷刈取りクラッチレバーを**"入"**にし，シフトレバーを**"前進"**側に倒します。

……刈取り部が回転する。



◆走行速度の調整

❶作物やほ場の条件に合せて，副変速レバーの位置，引起し変速レバーの位置を選びます。
(６，36ページ参照)

❷シフトレバーを操作して，前進，後進の速度を調整し，最適速度で作業してください。
(自動車速制御**"ピタコン"**については20ページ参照)

重　要

＊副変速レバー“高速”位置での刈取り作業は，トラブルの原因になりますので使用しないでください。

◆植付け状態に沿った方向制御

作物に合せて上手に刈取るために，パワーステアリングレバーを小刻みに操作して，植付け状態に沿って前進します。

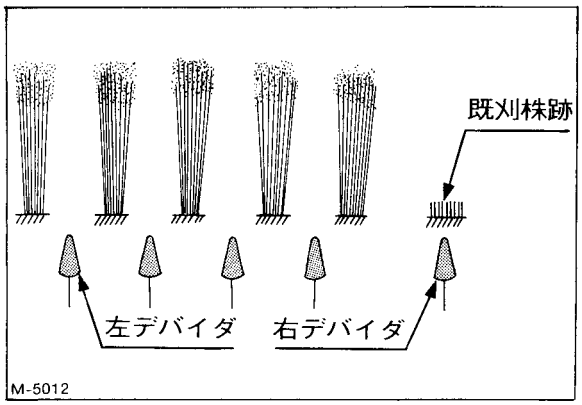
（自動方向制御については，16ページ参照）

■刈取部の条合せのしかた

作物の植幅に合せて，デバイダ右も調節してください。（36ページ参照）

◆通常の回り刈りのとき

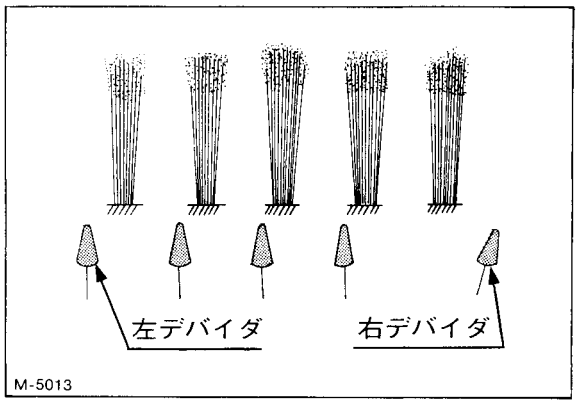
既刈側刈跡に右デバイダを合せる。



◆中割り作業のとき

(1)右デバイダ基準で刈取ってください。

(2)植付け条間が広い場合は右デバイダを広げてください。（36ページ参照）



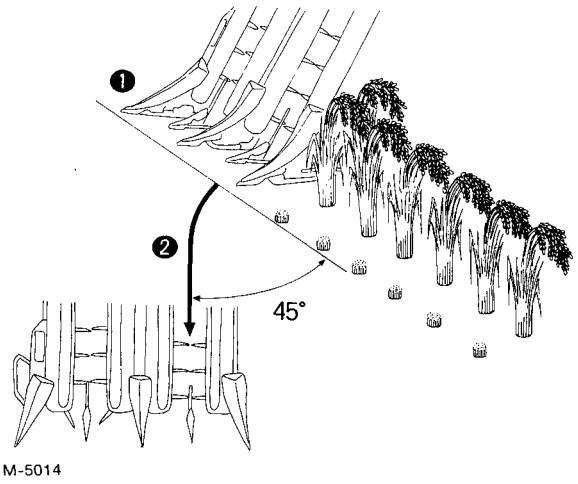
補　足

＊条合せのときは，パワーステアリングレバーを小刻みに操作してください。

■ほ場内での回行のしかた

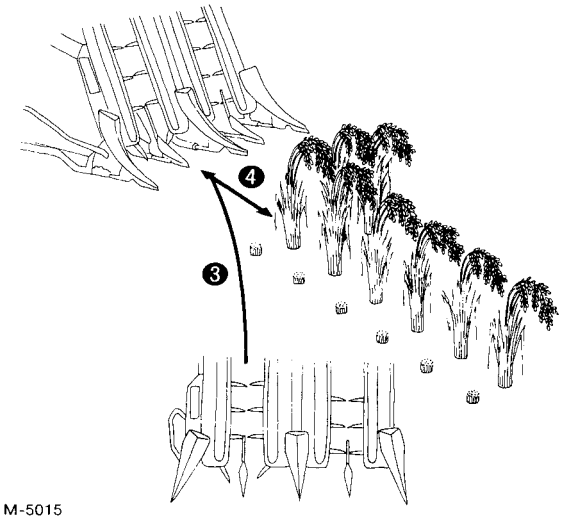
❶刈終ると，前進しながら刈取部を少し上げます。（早く上げすぎないように注意してください）

❷パワーステアリングレバーを左に一杯倒し，45度くらい回行した位置でストップします。



❸シフトレバーを**“後進”**側に入れ，バックしながらパワーステアリングレバーを右に一杯倒し，次に刈る方向にまっすぐに合せます。

❹刈取部を下げ，前進します。



補　足

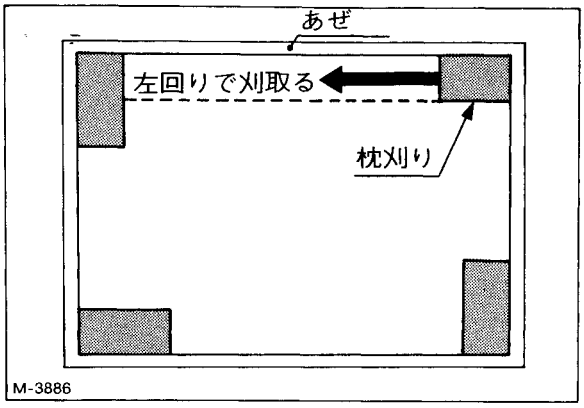
＊回行するときは必ず刈取部を上げてください。

＊刈取りオートクラッチを“入”にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため，回行が楽に行なえます。（12ページ参照）【R_1-301のK仕様・D仕様には刈取りオートクラッチがついておりません。】

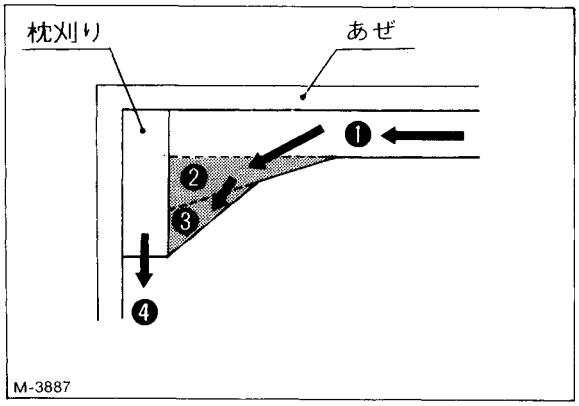
■刈取作業のしかた

◆一般的なほ場

(1)あぜぎわを左回りで刈取りします。



(2)回り刈り時のコーナ部の刈取りは下図のようにします。



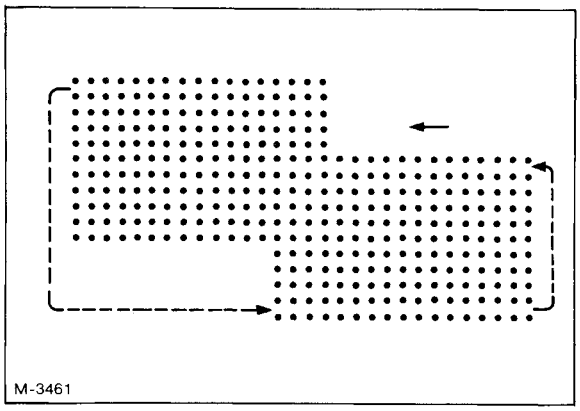
補　足

＊❷，❸の刈取りで回向しにくいときや湿田では３～４回刈取りしてください。

＊あぜぎわ刈りのときデバイダを突込んだり，右分草桿をぶつけないように注意してください。

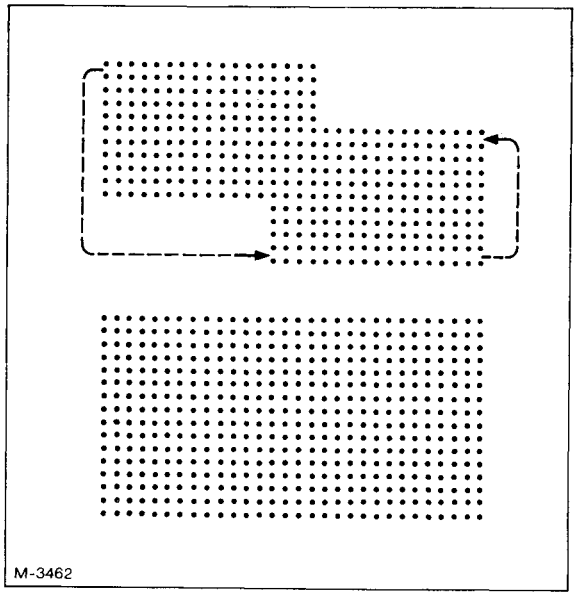
◆長方形のほ場

両端(枕地)を回行できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに回行し，長い２方向のみ刈取ってください。能率が上がります。



◆広いほ場

中割り刈りで分割して，前記の長方形のほ場と同じ要領で刈取ります。



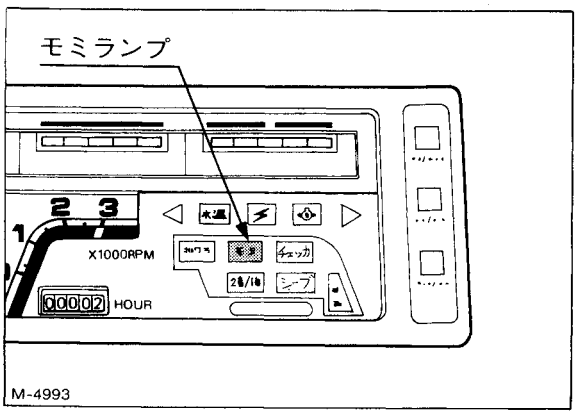
補　足

＊回行中はエンジン回転を下げないでください。下げると“選別を悪くしたり”“詰まりの原因”になります。

■刈取作業中の注意事項

❶雨などでほ場が湿田になったときは，ほ場を２周せずに１周で穀粒の排出をするなど，工夫してください。

❷グレンタンク及びホッパがいっぱいになるとイージーチェッカの“モミ”ランプが点滅し，警報ブザーが断続して鳴ります。このときは直ちに刈取り作業を中止し，穀粒を排出してください。
(穀粒の排出方法については42ページ参照)



補　足

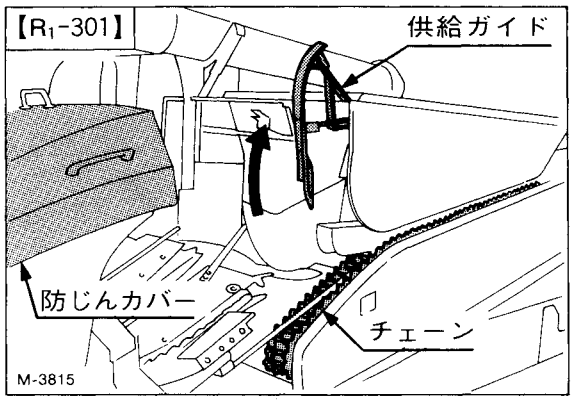
＊警報ブザーが鳴った後も刈取りを続けると，モミがあふれたり詰まったりして，故障の原因になります。

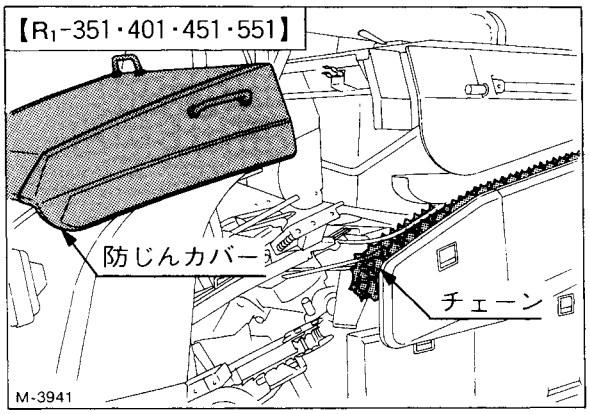
■枕刈りの脱こくのしかた

注 意

＊コンバインを移動しながら，枕脱こく作業をしては危険です。機体を平坦な所で停止させ，副変速レバーを“中立”の位置にしてから作業してください。
＊袖口が開いていたり，首にタオルを掛け端がたれていると，チェーンに巻込まれるので，きちんとした服装で作業してください。
＊チェーンに手を近づけないようにしてください。

枕刈りをした稲・麦は刈取り終了後に脱こくします。
❶シフトレバーを**“停止”**にします。
❷副変速レバーを**“中立”**にします。
❸刈取り部をいっぱい下げます。
❹防じんカバーを開けます。
（R_1-301【HD, SD仕様】, R_1-351, 401, 451, 551【D, SD仕様】）（運転席からも開閉できます）
❺供給ガイドを**“上”**げます。【R_1-301】

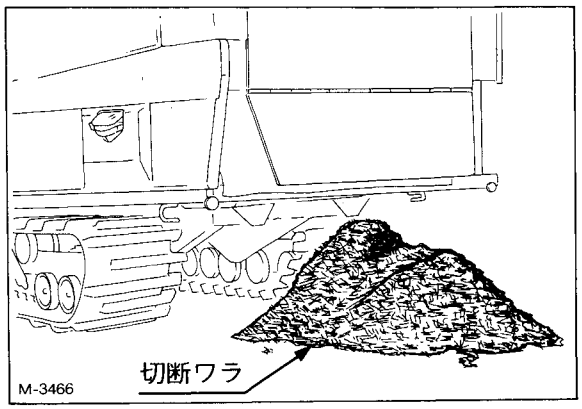




❻エンジンを始動させて脱こくクラッチレバーを**“入”**にし，エンジン回転数をアワーメータの緑の目盛に合せます。

重 要

＊枕脱こくは一度に多量の供給をしないでください。
＊１ヵ所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排ワラや切断ワラの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を移動させるか堆積ワラを取除いて作業してください。

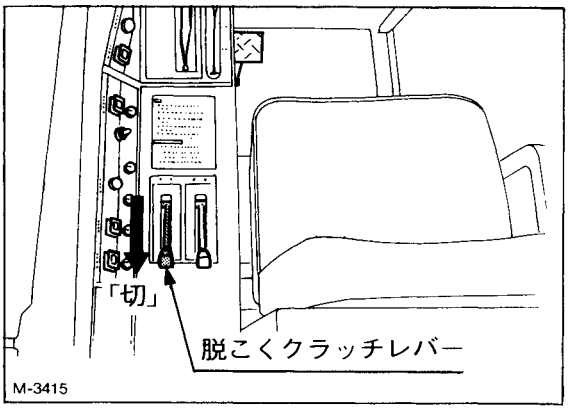


＊切断ワラがカッタワラ排出口に詰まった場合は，必ずエンジンを止めてください。

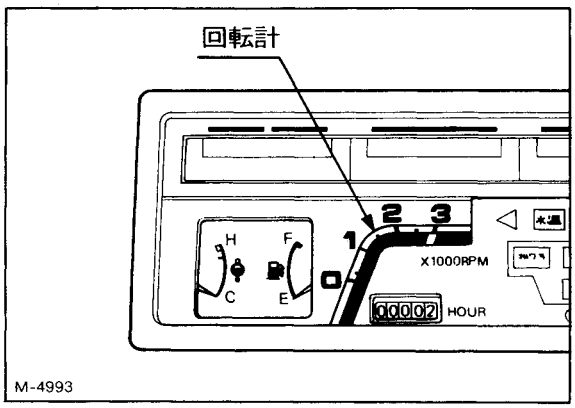
■穀粒の排出方法

◆グレンタンク仕様

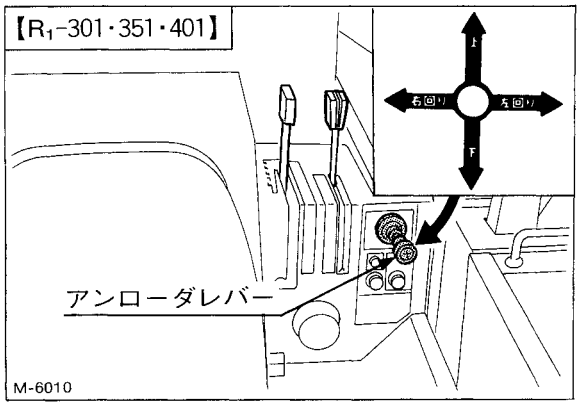
❶グレンタンクがいっぱいになり，警報ブザーが断続して鳴ると，直ちに刈取り作業を中止し，20～30秒たってから，脱こくクラッチレバーを**"切"**にし，所定の排出場所に移動してください。

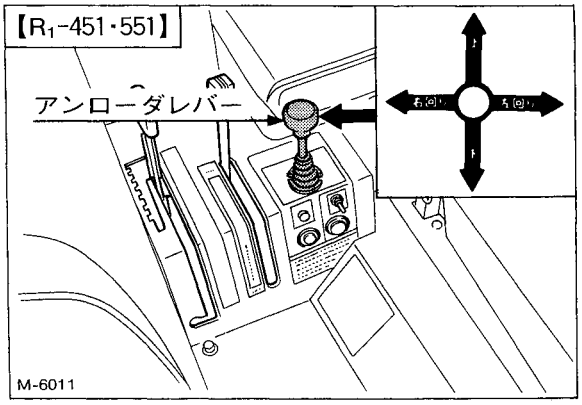


❷排出は刈取り作業時の回転のままでしてください。損傷のしやすい品種のときは，エンジン回転を2000回転／分程度まで下げてください。



❸アンローダの上下・旋回はアンローダレバー１本で操作できます。操作の方法は，下図の通りです。
（アンローダ自動旋回については17ページ参照）

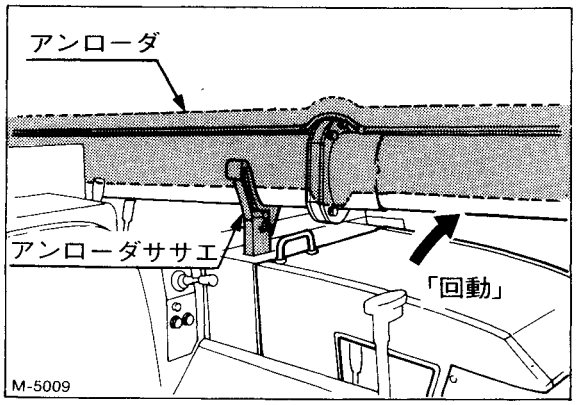




❹アンローダをアンローダ受けより上げてから，右旋回及び左旋回させて排出位置まで回してください。

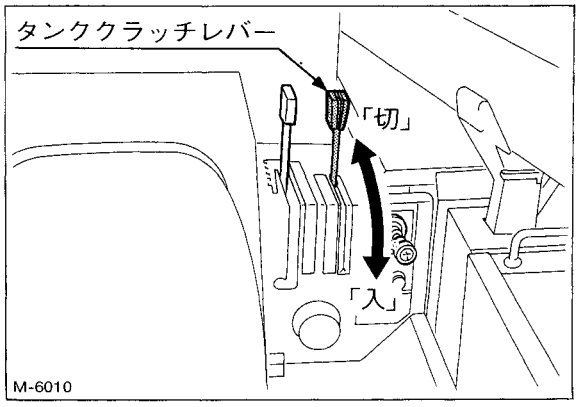
重　要

＊回動時，アンローダとタンクが接近しますので最上位置まで上げてから回動してください。
（運転席上方の回動範囲では，最上位でないと回動しません。）



❺タンククラッチレバーを**"入"**にすると穀粒が排出されます。

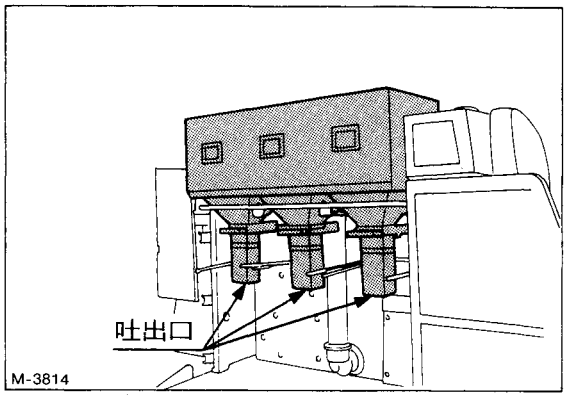
❻排出が終るとタンククラッチレバーを**"切"**にし，アンローダを最上位置まで上げてから回動させ，アンローダ受けに確実に収納してください。



◆ホッパ仕様

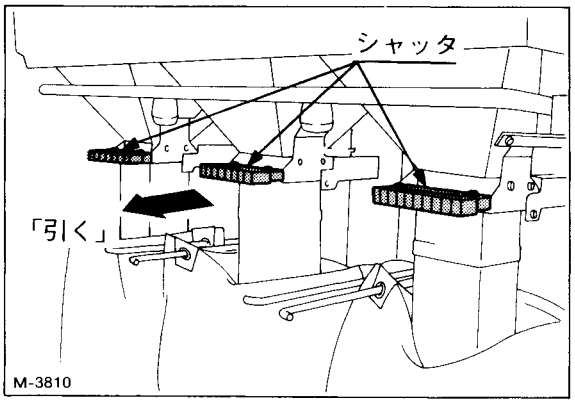
注 意

＊吐出口内に手を入れないでください。
シャッタが閉まりケガをします。

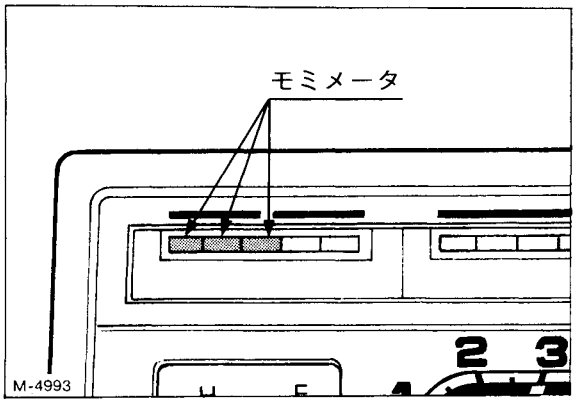


＊自動シャッタ付 R_1-301【HD, SD仕様】
R_1-351, 401, 451【D, SD仕様】

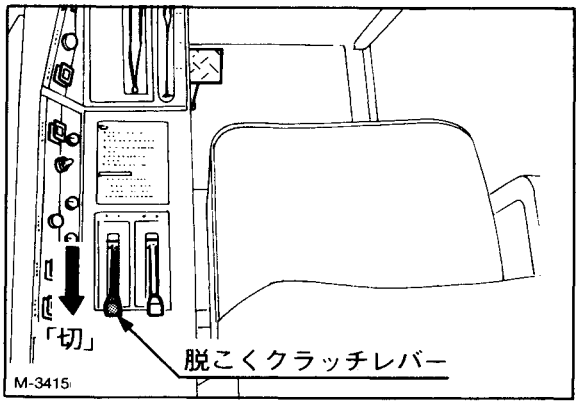
❶各シャッタを矢印の方向に**“ロック”**位置まで引き，吐出口を開いてください。



❷ホッパ下部のもみ袋がいっぱいになると，シャッタは自動的に順次締まり，全部のシャッタが締まるとモミメータが３個点灯します。



❸そのまま作業を続けますとホッパが満ぱいになり，モミメータが全灯し，イージーチェッカの**“モミ”**ランプが点滅し，警報ブザーが断続して鳴ります。直ちに刈取り作業を中止し，20～30秒たってから脱こくクラッチレバーを切ってください。

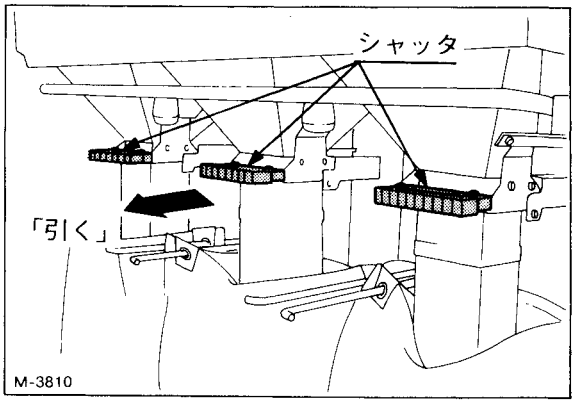


補 足

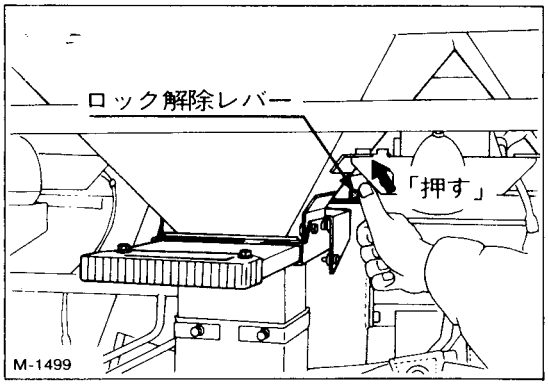
＊警報ブザーが鳴った後も刈取り作業を続けると，もみがあふれたり詰ったりして故障の原因となります。

❹シャッタが閉っていることを確認してからホッパ下部のもみ袋を取出してください。

❺各吐出口の下に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き，ホッパ内のもみを取出してください。



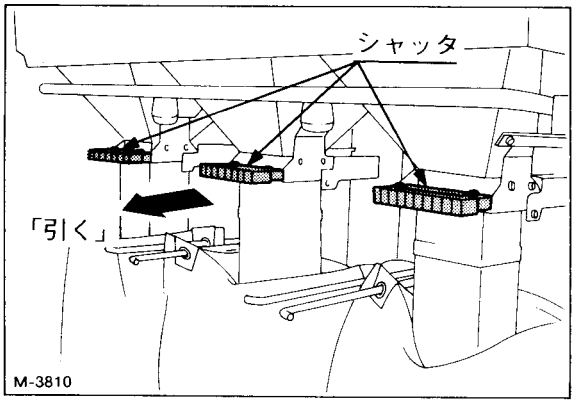
❻もみ袋がいっぱいになってもみの流出が止まればロック解除レバーを押して，手でシャッタを閉じてください。



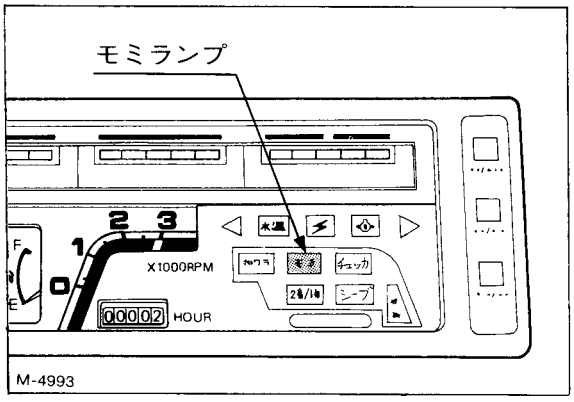
❼取出した吐出口に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き，作業を再開してください。

＊手動シャッタ付 R_1-301 【K, D仕様】
R_1-351, 401【K仕様】

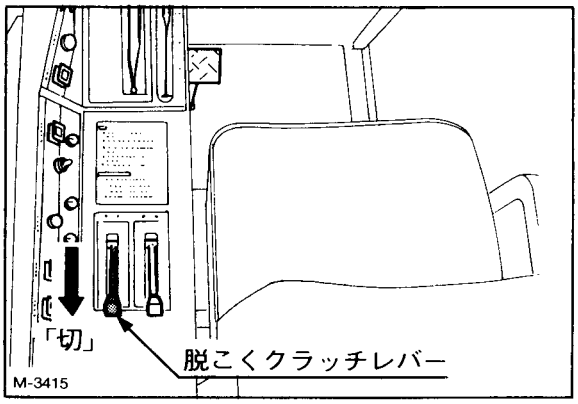
❶各シャッタを矢印の方向に**“ロック”**位置まで引き，吐出口を開いてください。



❷ホッパ下部のもみ袋とホッパがいっぱいになるとモミメータが全灯し，**イージーチェッカの“モミ”ランプが点滅**し，警報ブザーが断続して鳴ります。



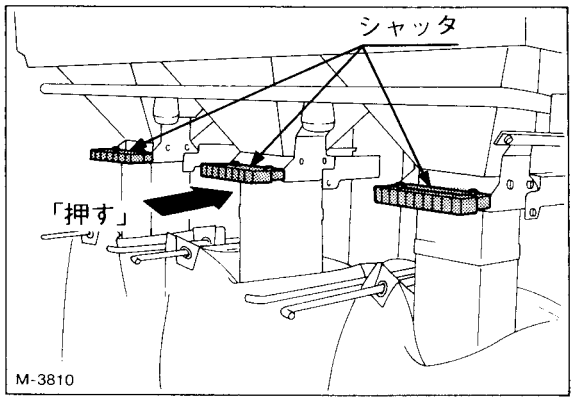
❸警報ブザーが断続して鳴ると，直ちに刈取り作業を中止し，20～30秒たってから脱こくクラッチレバーを切ってください。



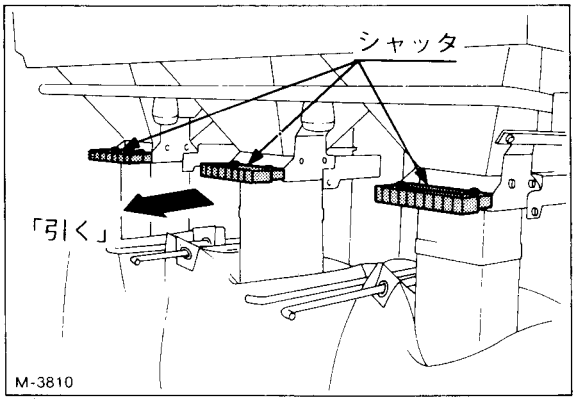
補　足

＊警報ブザーが鳴った後も刈取り作業を続けると，もみがあふれたり詰まったりして故障の原因となります。

❹シャッタを矢印の方向に押して閉じてからホッパ下部のもみ袋を取り出してください。



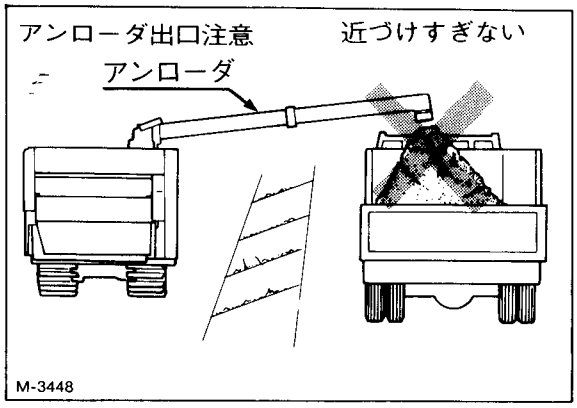
❺各吐出口の下に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き，ホッパ内のもみを取出してください。



❻取出した吐出口に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き，作業を再開してください。

■排出作業時の注意事項【グレンタンク仕様】

❶アンローダ吐出口をふさがないでください。

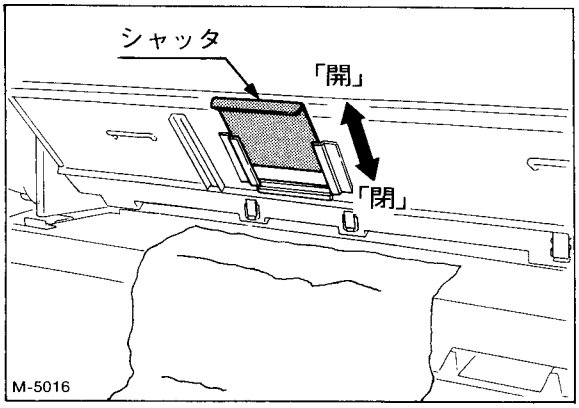


❷アンローダには，絶対物を吊るさないでください。

◆アンローダが詰まった場合

エンジンを停止し，原因を確めてください。

(1)異物がかみ込んでいる場合は，掃除口を開いて異物を取除き，異常がないか確認の上，再度タンククラッチを入れてください。

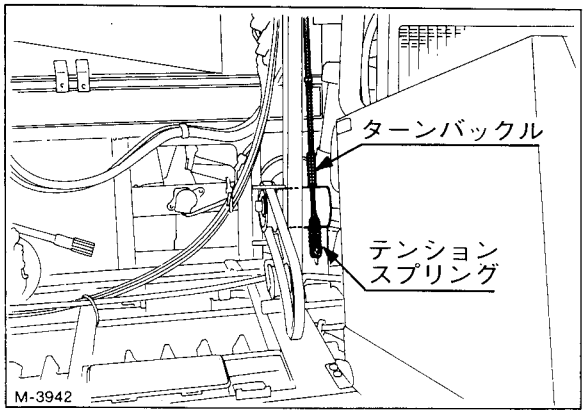


(2)ベルトの駆動不足により，タンク内にモミが一杯詰まっている場合は，次の要領で調整してください。

＊【R_1-301, 351, 401】

❶エンジンルームをオープンし，ターンバックルでテンションスプリングを張ってください。

❷エンジンルームを収納して，タンククラッチレバーを**“入”**にして，穀粒を排出してください。



＊【R_1-451, 551】

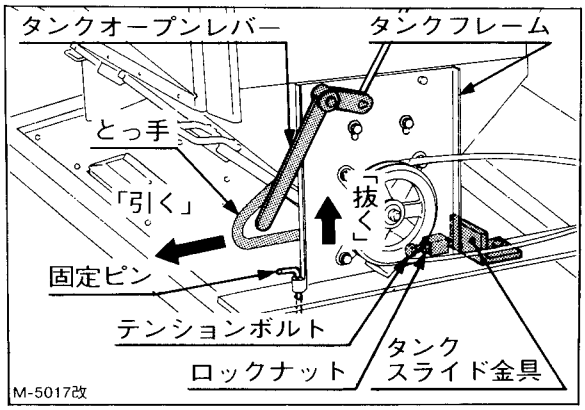
❶固定ピンを外し，ベルトをかけた状態でタンクオープンレバーを引き，とっ手を握りグレンタンクを外側に引出してください。

❷ロックナットをゆるめ，オープンレバーを引いた状態で，テンションボルトをタンクスライド金具に当るまで締込んでください。

❸この状態でタンククラッチレバーを**“入”**にして，穀粒を排出してください。

❹排出が終われば，グレンタンクを開いて(85ページ**“グレンタンクオープン”**参照)，タンククラッチワイヤ調節部でテンションスプリングの長さを調整してください。(73ページ参照)

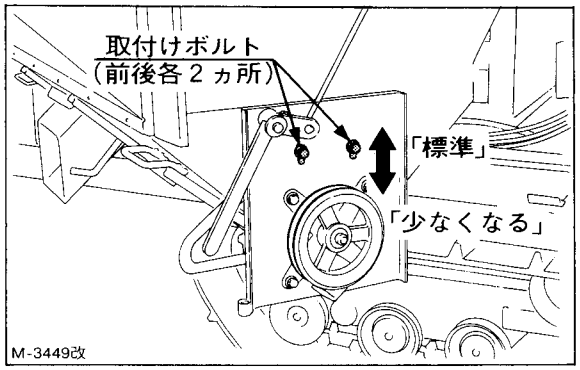
❺調整終了後はテンションボルトを元の状態に戻し，グレンタンクを閉じてください。(85ページ参照)



■穀粒排出量の調節【グレンタンク仕様】

グレンタンク前後，両側面の排出量調整板の取付けボルトをゆるめて上下に移動させることによって，排出量を変えることができます。**“グレンタンクオープン”**の項を参照してグレンタンクを開放し，作業してください。

❶損傷のしやすい品種の場合は，ボルト(調整板)を下げるか，エンジン回転を2000回転/分程度まで下げてください。



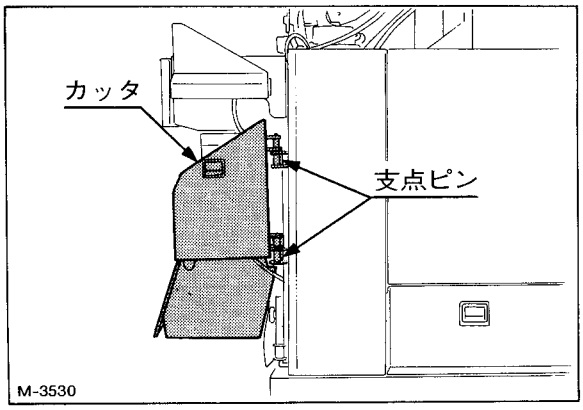
カッタの取扱いについて

注 意

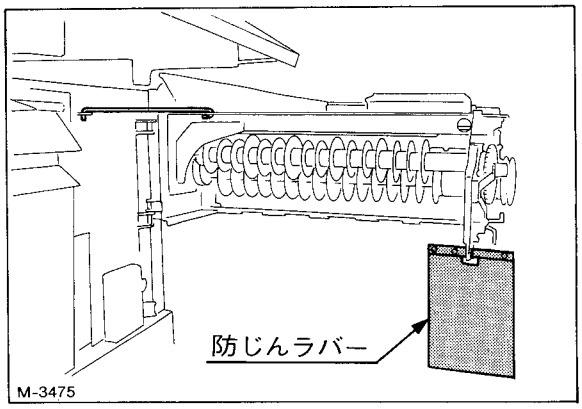
＊必ずエンジンを停止してから作業してください。

■カッタの取付けかた

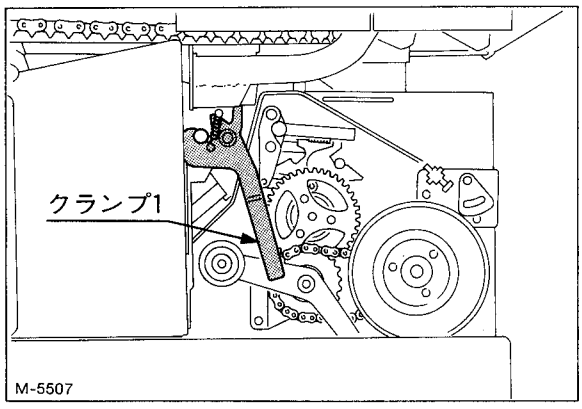
❶必ず２人でカッタを持ち，コンバインに取付けます。
（穂先側の支点ピンに入れます。）



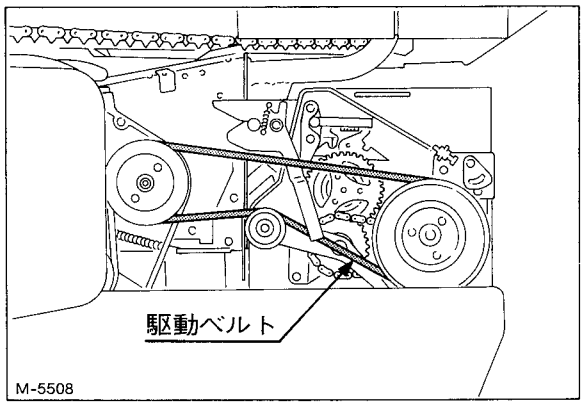
❷防じんラバーが下にさがっていることを確認してください。



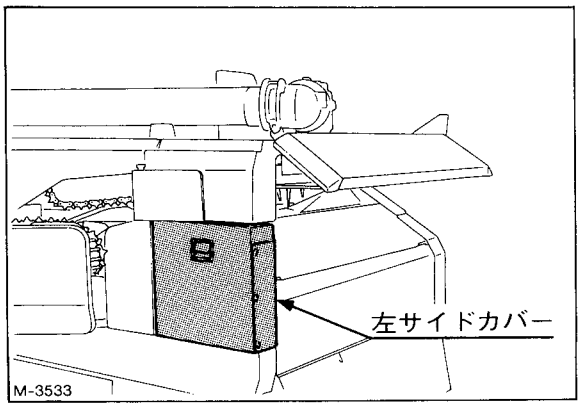
❸カッタを回動させ株元側でクランプしてください。



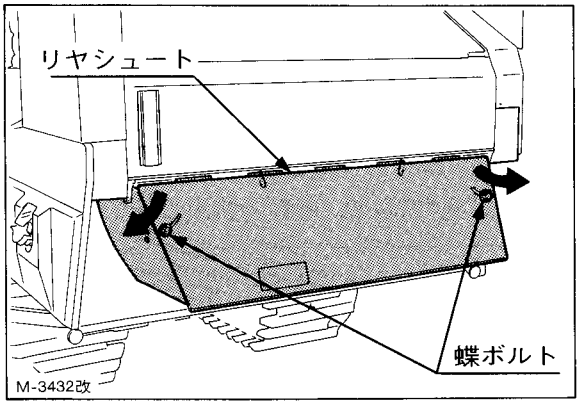
❹駆動ベルト(SB-55)を取付けます。



❺左サイドカバーを取付けます。



❻シュート吊り金具を外し，シュートを開け，蝶ボルトで固定します。



★カッタの取外しは，取付けの逆の順序で行なってください。

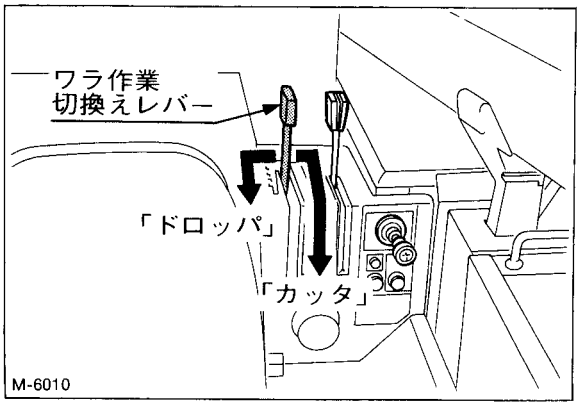
■カッタ作業とドロッパ作業の切換え

◆カッタ作業のとき

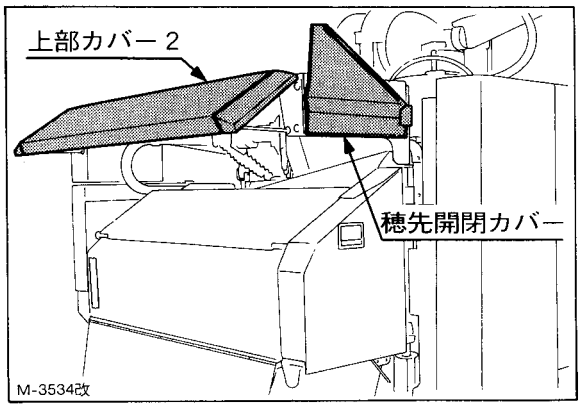
切換えレバーを**“カッタ”**に切換えます。

◆ドロッパ作業のとき

❶切換えレバーを**“ドロッパ”**に切換えます。



❷上部カバー２・穂先開閉カバーを開けます。



■カッタの開閉のしかた

◆カッタを開く場合

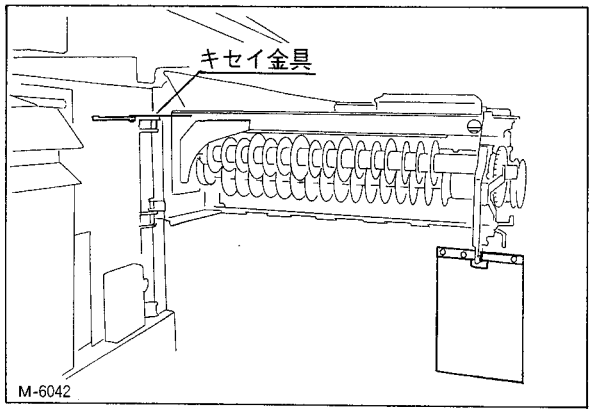
警　告

＊カッタの開放時は，刃物に十分注意してください。

注　意

＊傾斜地でのカッタの開閉はしないでください。

❶上部カバー２・穂先開閉カバーを開きます。
❷左サイドカバーを外します。
❸駆動ベルト(SB-55)を外します。
❹クランプ１を引き，カッタを静かに回動させキセイ金具が確実にロック状態になるまで開いてください。

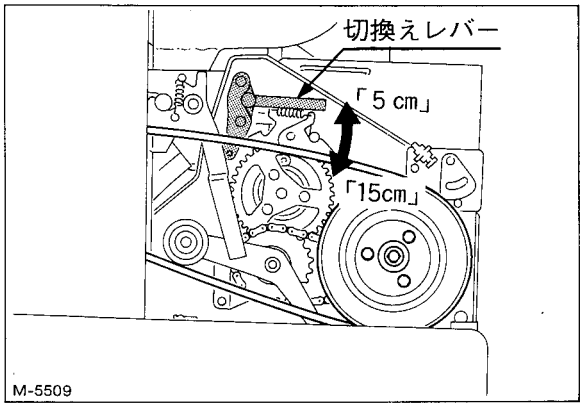


◆カッタを閉じる場合

❶キセイ金具中央部を手前(株元側)に引いてください。
❷カッタを開く場合の逆の手順で行なってください。
❸クランプ１が確実にロックされていることを確認してください。
❹ベルトを掛ける際は，掛け間違いのないよう行なってください。

■切断長切換えのしかた

サイドカバー内部の切換レバーを回転させ，**“５cm←→15cm”**に切断ワラ長さを変えてください。

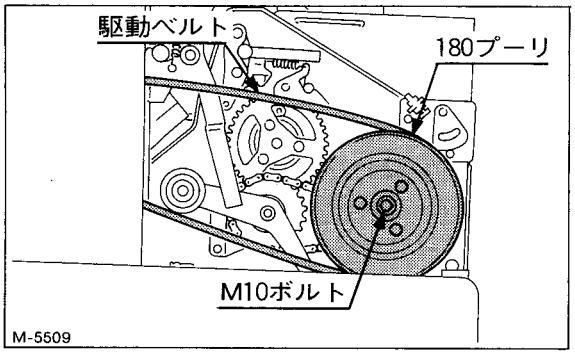


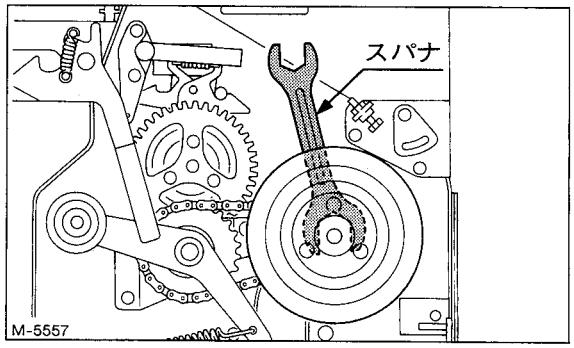
■カッタ刃の交換のしかた

❶左サイドカバーと右サイドカバーを外します。
❷駆動ベルト(SB-55)を外します。
❸180プーリを外します。(M10ボルト１個)

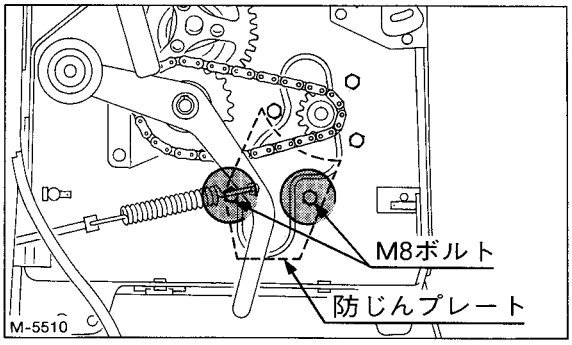
重　要

＊M10ボルトを外すときは，図の位置にスパナをかけてください。16歯車と38歯車の間にスパナ等をはさんで作業されますと，軸受等が破損する場合がありますので，注意してください。

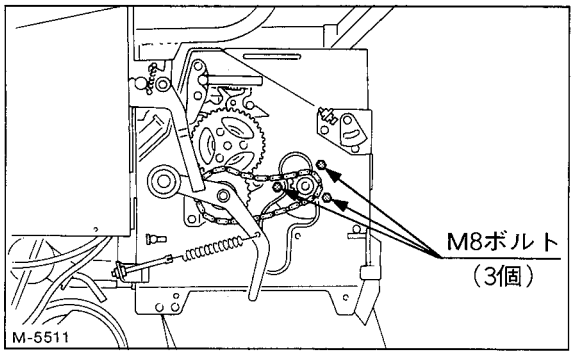




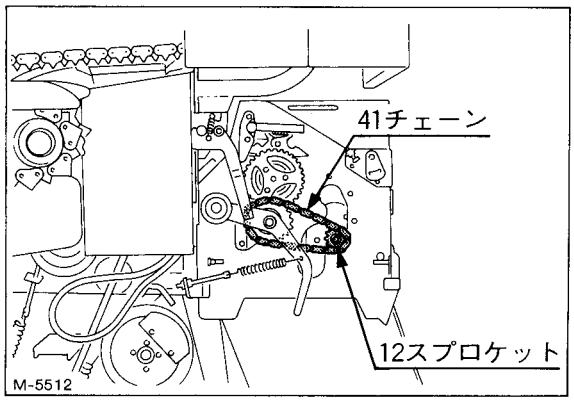
❹防じんプレートを外します。(Ｍ８ボルト２個)



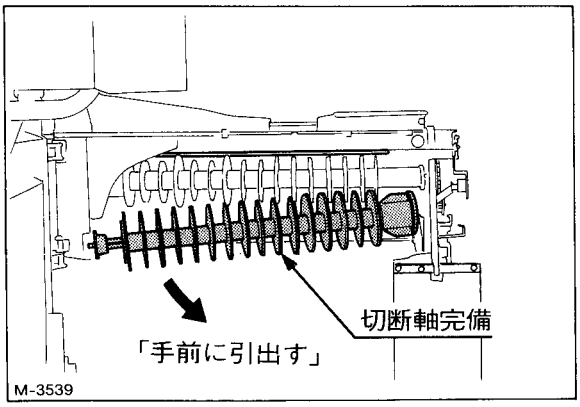
❺軸受けのＭ８ボルトを取外します。
(株元側－３個，穂先側－３個)



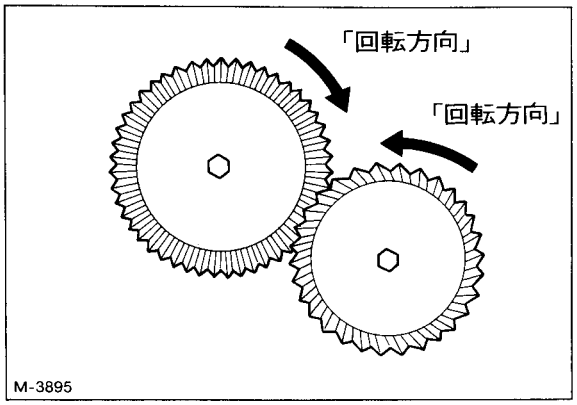
❻軸受けを下にずらしながら12スプロケット・41チェーン・16カラーを外します。

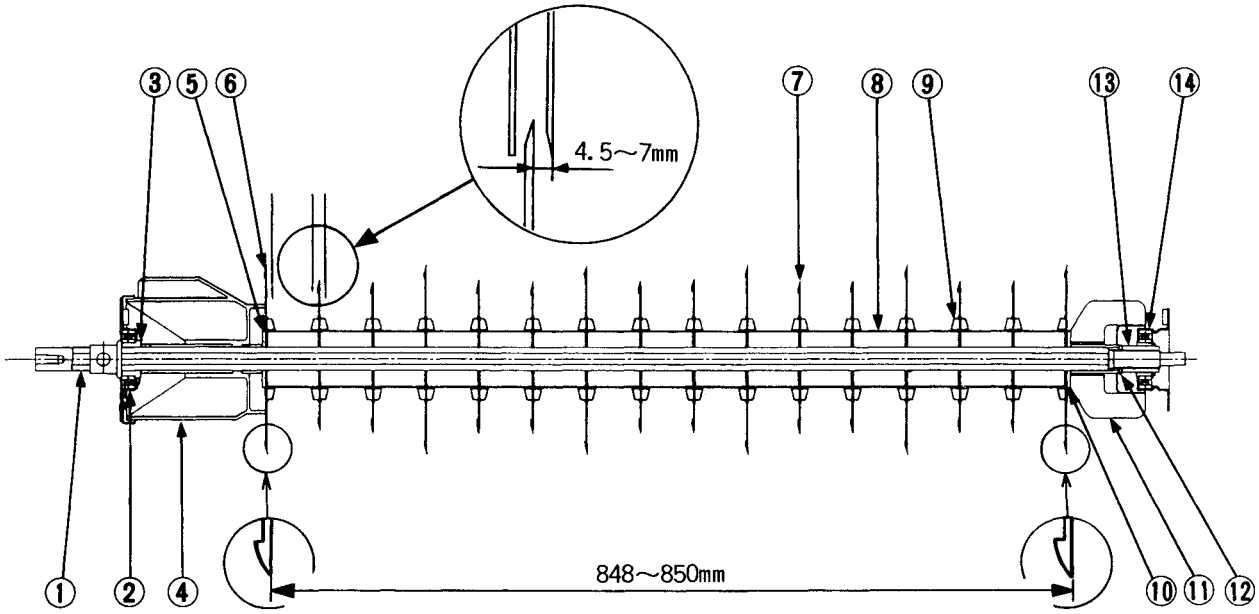


❼穂先側の軸受けを下にずらしながら，切断軸完備を外します。



❽軸を安定した所に置き，六角ナット左をゆるめ，順に分解します。(左ネジ)
❾刃の交換ができたら，分解した順序を間違えないよう組立ててください。
なお,歯の向きと回転方向は下図のようになります。





M-5090

図番	品　　番	品　　名	個数
①	57781－5241－0	セツダンジク	1
②	57781－5242－0	ジクウケ１	1
③	57666－5223－0	ジクウケカラー１	1
④	57704－5222－0	カキダシドラム	1
⑤	57781－5258－0	オサエザガネ３	1
⑥	57781－5244－2	セツダンバ200	6
⑦	57781－5261－2	セツダンバ170	10

図番	品　　番	品　　名	個数
⑧	57781－5245－0	53.8パイプ	15
⑨	57666－5229－2	マキツキトメザ	30
⑩	57781－5257－0	オサエザガネ２	1
⑪	57781－5246－0	カキダシホイール２	1
⑫	57781－5256－0	サラバネザガネ20	1
⑬	57781－5247－0	ロッカクナットヒダリ	1
⑭	57781－5248－2	ジクウケ２	1

補　足

＊軸の組付けは，刃物間寸法が848～850㎜になるよう締付けてください。
＊刃の向き，刃の組合せが逆にならないよう特に注意してください。

◆カッタ刃のすき間調整(4.5～７㎜)

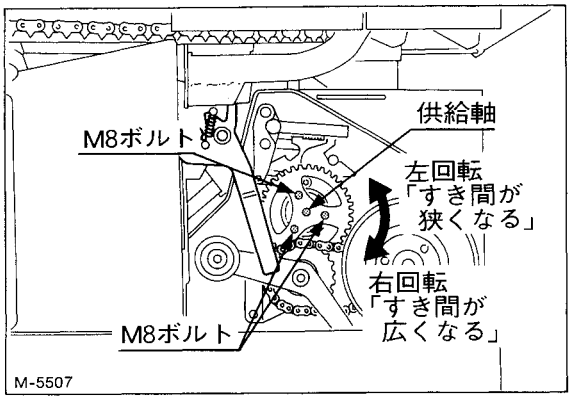
❶38ギヤー固定用のＭ８ボルト(３個)を外します。

重　要

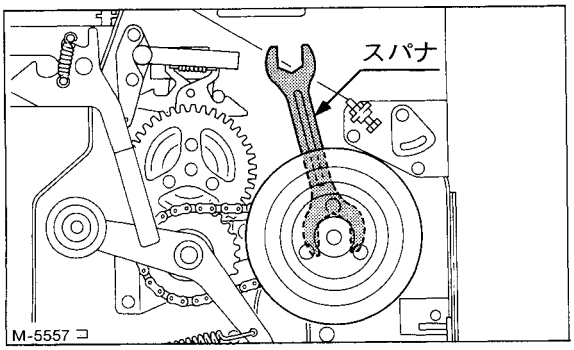
＊Ｍ８ボルトをゆるめる場合は，図の位置にスパナをかけてください。16歯車と38歯車の間にスパナ等をはさんで作業されますと，軸受等が破損する場合がありますので，注意してください。

❷供給軸を回転させすき間を調整します。
　＊右回転……すき間が広くなります。
　＊左回転……すき間が狭くなります。

❸調整が終ったら，元通りに各ボルト・ナットを組付けます。



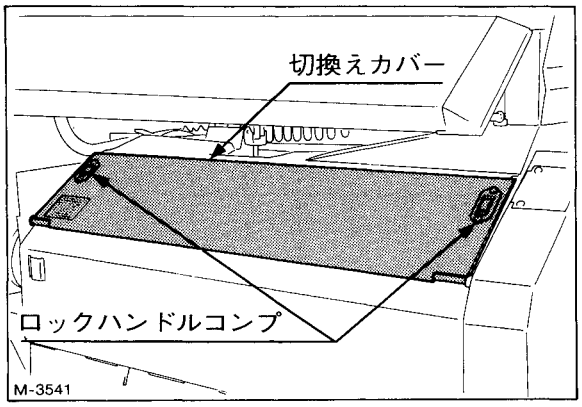
M-5507



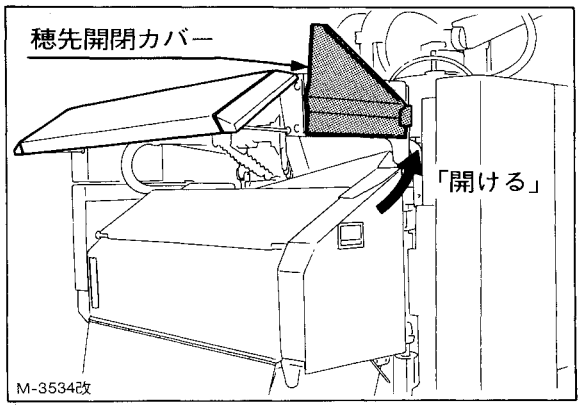
M-5557

■排ワラチェーン部，切断部の点検・掃除のしかた

❶カッタの切断部の点検・掃除はロックハンドルコンプ(２個)のレバーを引いて，切換えカバーを開けます。



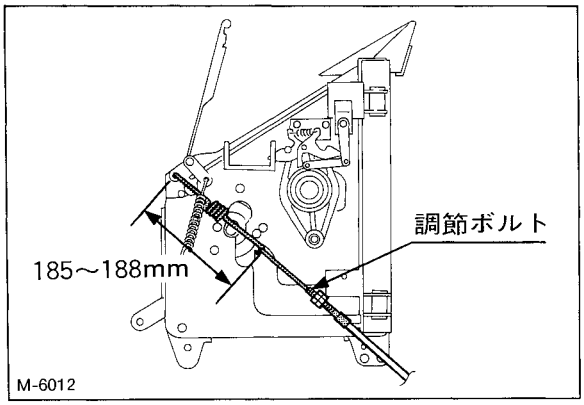
❷穂先側の点検・掃除は穂先開閉カバーを上にあげます。



■排ワラ切換えワイヤの調整

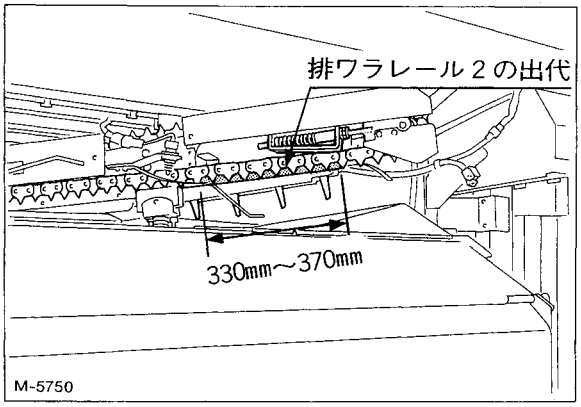
◆カッタ

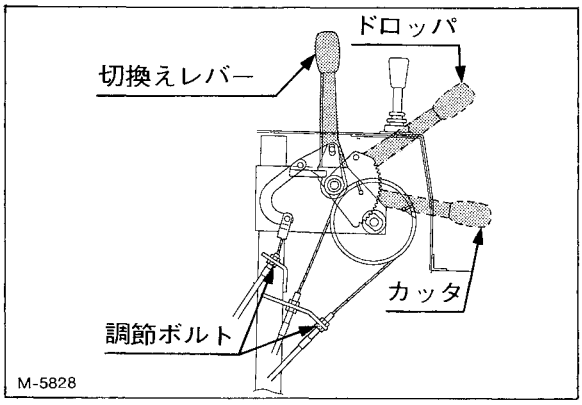
ワイヤスプリング取付長さ	185～188mm



◆排ワラレール２

排ワラレール２の出代	330～370mm





コンバインの簡単な手入れと処置

各部の点検と交換

注 意

＊オイル・冷却水の点検・交換と各部への注油，及びバッテリの取扱いについては，必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊オイル交換中は火気厳禁。
＊刈取部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。

■点検・給油(水)一覧表

項目 ＼ 時期		毎作業前	35時間目	50時間目	100時間目	200時間目	300時間目	400時間目	500時間目	600時間目	700時間目	800時間目	900時間目	参照ページ
エンジン部	燃料	○												———
	冷却水	○	冬期停止時は排出又は不凍液(50%)を入れること											52
	エンジンオイル R_1-301・351・401	○		△	以降100時間ごと交換									53
	エンジンオイル R_1-451・551				以降200時間ごと交換									
走行部	トランスミッションケースのオイル			△			△			△			△	54
	油圧オイルタンクのオイル			△			△			△			△	54
	刈取一方クラッチのグリース	分解時に給油												54
	バッテリ液	作業シーズンの前・後に点検，補給												55
	水平制御アーム軸受部のグリース【M仕様】	長期格納前に補給												57
刈取部	集中注油タンクのオイル	空になる前に給油												13
	各ギヤーケースのグリース	分解時補給												58
	各チェーン及び刈刃部	○												13, 60
脱こく部	脱こくチェーン駆動ケースのオイル	分解時に補給												57
	各ギヤーケースのグリース	分解時に補給												58
	排ワラチェーン(株元・穂先)	○												60
	各チェーン部	○												13, 61
	フィードチェーン	○												61
	排ワラチェーンテンション支持部	○												61
	トウミプーリのグリース	200時間ごとに塗布												58
グレンタンク部	アンローダケースツナギのグリース	長期格納前に補給												59
	アンローダケース3のグリース													59
	アンローダケース1のグリース	分解時に補給												59
	アンローダケース3のグリース													59
	アンローダケース4のグリース													59
	タンク駆動ケースのグリース													59

■ラジエータの冷却水の点検と交換

◆冷却水の補給

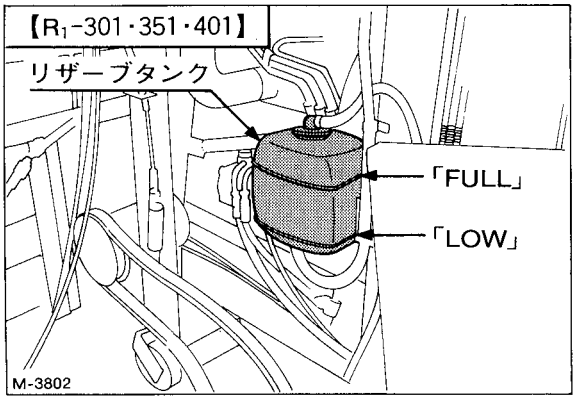
ラジエータ容量	R_1-301, 351, 401	5.5 ℓ
	R_1-451	7.7 ℓ
	R_1-551	8.2 ℓ
リザーブタンク容量		1.1 ℓ

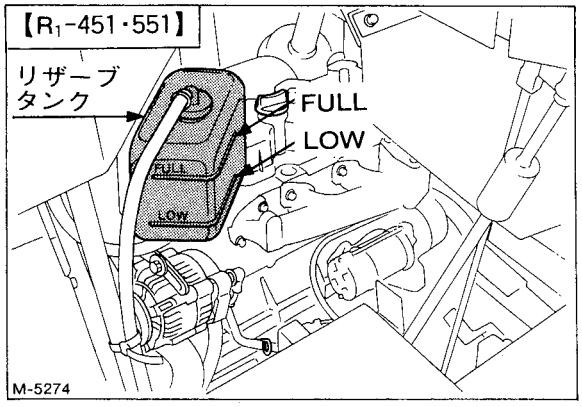
ラジエータにはリザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。

“FULLからLOWの間”であれば正常です。

通常は補給の必要はありませんが，リザーブタンクの冷却水がLOW以下の場合は，LOWとFULLのレベルの間まで清水を補給してください。

FULL以上は入れないでください。

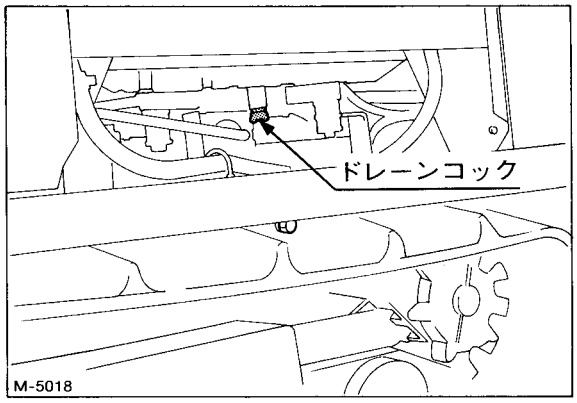




◆交換のしかた

(1)ラジエータ下部のドレーンコックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。

リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。



(2)排水・洗浄後，給水するときはドレーンコックを閉め，ラジエータをいっぱいにし，リザーブタンクに適量給水してください。

注 意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後メインスイッチ“入”で水温計が“C”の位置であることを確認してからにしてください。

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータに給水するか，又は冷却水を完全に排水してください。

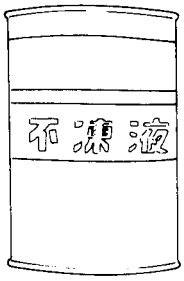
〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)50％が入っています。〕

重 要

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を適正量入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。

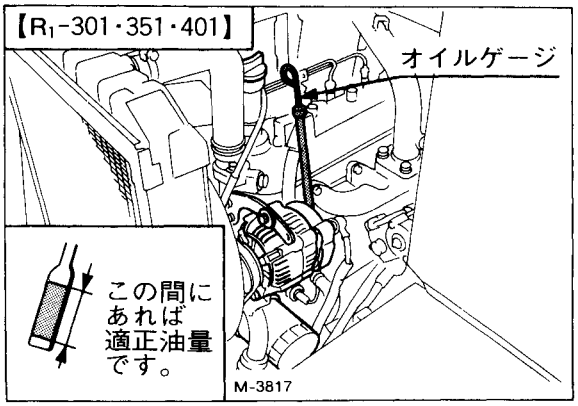


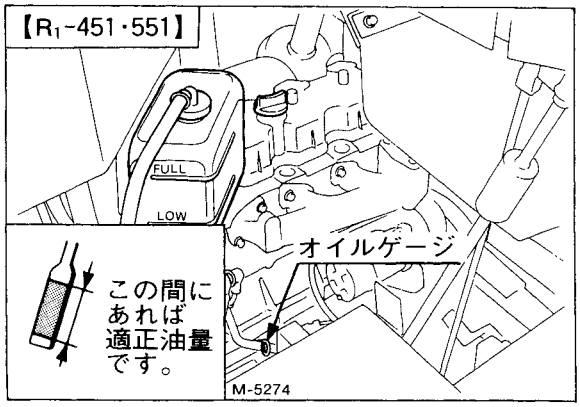
不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとスラッジが生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液ロングライフクーラントの有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。

■エンジンオイルの点検と交換

◆点検





機　種	オイル量	オイルの種類	
		気温15℃以上のとき	気温15℃未満のとき
R1-301, 351 401	6ℓ	クボタ純オイルディーゼルエンジン用D30又はD10W30	クボタ純オイルディーゼルエンジン用D10W30
R1-551	9.7ℓ		
R1-451	7.6ℓ	クボタ純オイルディーゼルエンジン用D30スーパーCD，D10W30スーパーCD	クボタ純オイルディーゼルエンジン用D10W30スーパーCD

クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気　温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W－30
0～25℃	SAE20又は10W－30
25℃以上	SAE30又は10W－30

10W—30はオールシーズン用です。

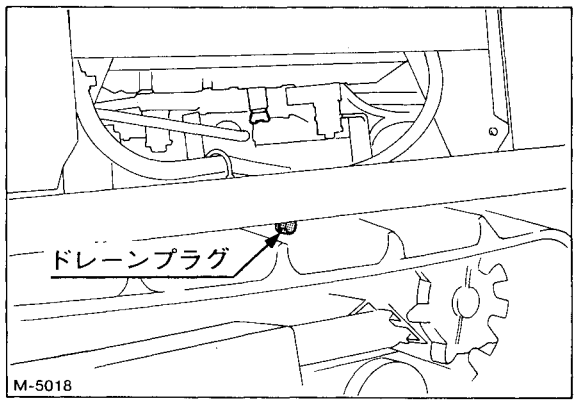
重　要

＊R1-451はターボ付きエンジンのため，CC級オイルの使用はできません。CD級以上のオイルをご使用ください。

◆交換

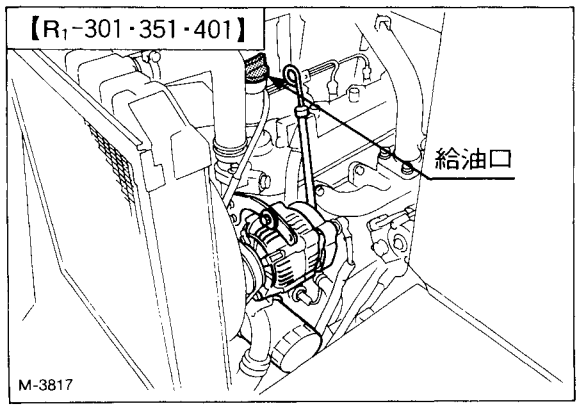
【排油のしかた】

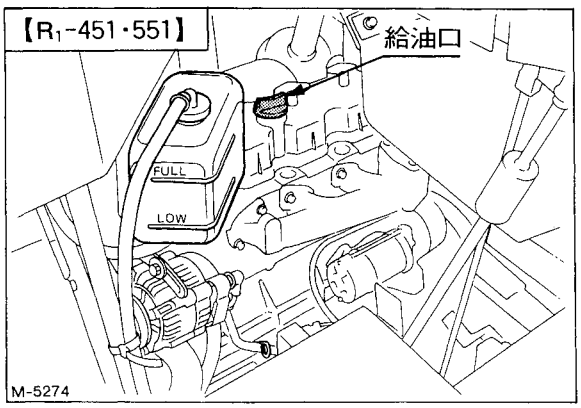
オイル給油栓を外してから，ドレーンプラグを外し，オイルを排出してください。
給油栓を閉めたままでは完全に排出できません。
エンジンの暖かいうちに排出しますと，オイルの流動性が良く早く抜取ることができます。



【給油のしかた】

ドレーンプラグを締付けて，給油口から適量給油し，オイル給油栓をきちんと締付けてください。



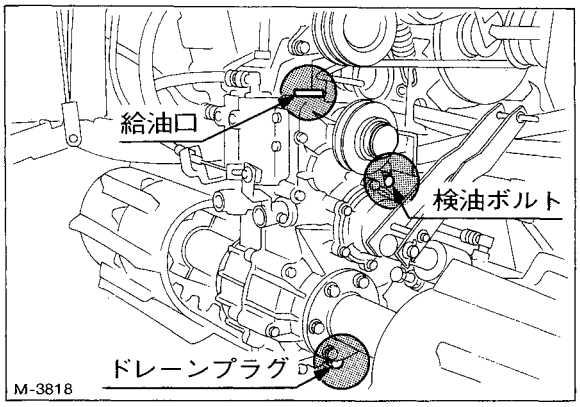


■トランスミッションケースのオイル

◆点検

検油ボルト(M８)を外してオイルが出てくれば適正量です。

不足のときは，給油口から付属のジョウゴを使用して補給してください。



◆交換

トランスミッションケース下部のドレーンプラグを外して古いオイルを排出させ，排出後はドレーンプラグを元のように締付けてください。その後，給油口から給油してください。

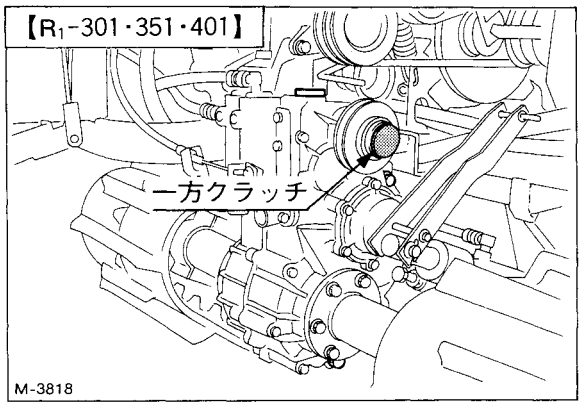
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルUDT	5.0ℓ 10ℓ【T仕様】

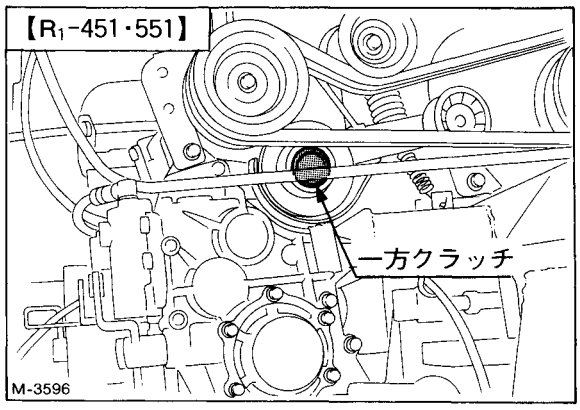
重　要

＊湿式ブレーキのオイルと共通ですので，他のオイルは使用しないでください。

■刈取一方クラッチのグリース

分解時，一方クラッチ及びベアリングボール部にグリースを封入してください。



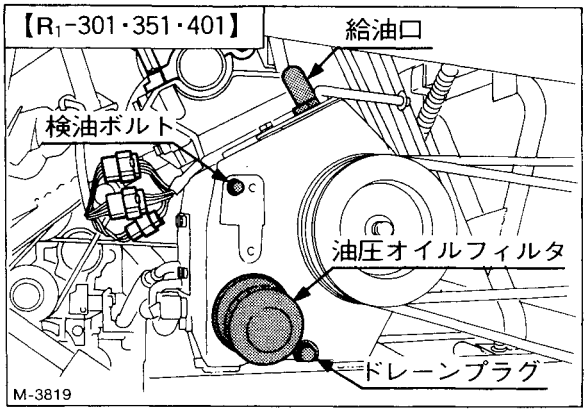


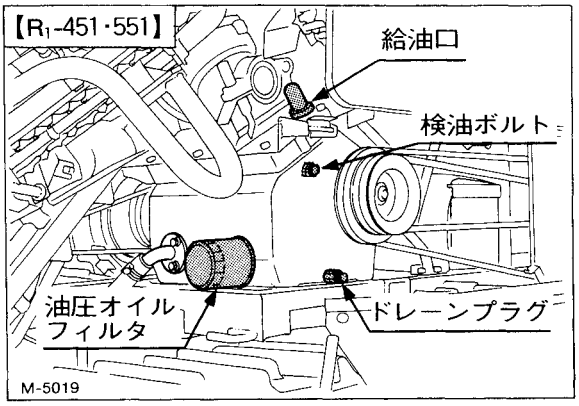
■油圧オイルタンクのオイル

◆点検

検油ボルト(M８)を外してオイルが少し出てくれば適正量です。

不足のときは，給油口から付属のジョウゴを使用して補給してください。





◆交換

ケースの左側壁下側のドレーンプラグを外し，古いオイルを排出させ，排出後はドレーンプラグを元のように締付けてください。その後，給油口から給油してください。

機　種	オイルの種類	オイル量
R1-301・351・401	クボタ純オイル UDT	22ℓ
R1-451・551		26ℓ

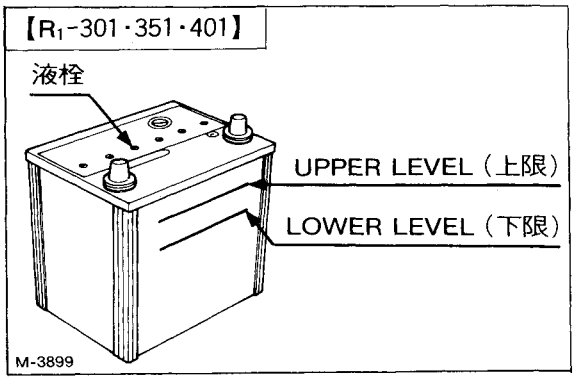
■バッテリの点検と交換

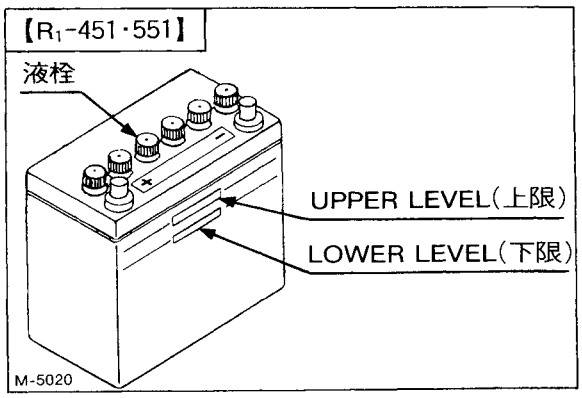
注 意

＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。
▶もし怠ると…
希硫酸によってヤケドすることがあります。
＊バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。
＊バッテリの点検及び取外し時には，エンジンを停止し，メインスイッチを"OFF"にしてください。

◆バッテリ液の点検

バッテリのバッテリ液が液面線の間にあるかどうか点検し，不足のときは精製水を補充してください。





重 要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊精製水を多く入れすぎるとこぼれ出て，機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。
＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊エンジンの始動がしにくくなったり，ライトが暗くなってきましたら,早めに補充電をしてください。

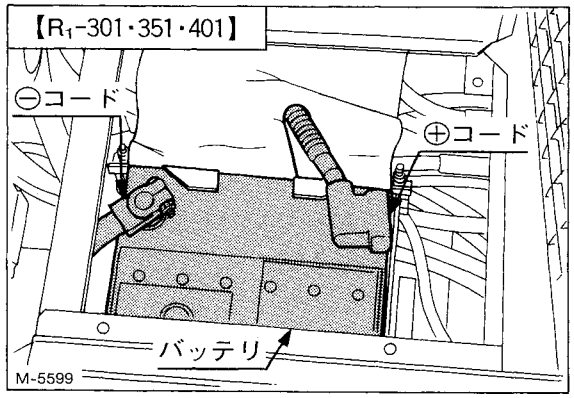
◆バッテリの補充電

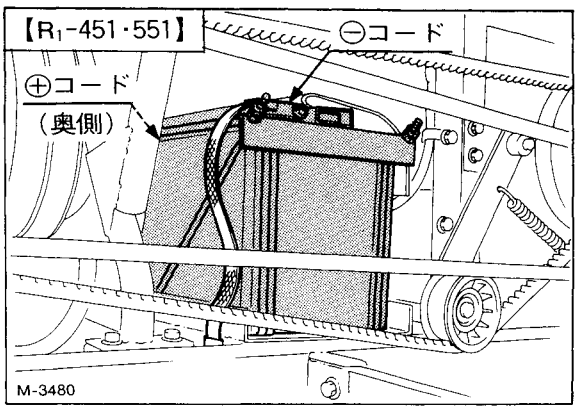
(1)充電は必ず本体からバッテリを取外して行なってください。電装品や配線を傷めることがあります。
(2)充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して，普通充電法で行なってください。
(3)大電流を通して短時間で充電する急速充電法を応急処置として行なったときは，作業後必ず補充電してください。

◆バッテリの取外し，取付け方法

(1)バッテリからコード線を外す場合は，必ず⊖側から外してください。逆にすると，工具などが接触したときショートします。
(2)バッテリを取付けるときは，⊕側を先に接続し，次に⊖側を接続してください。
(3)バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うと，電気系統の故障の原因になります。
(4)指定外のバッテリは使用しないでください。

機　種	指定バッテリ
R_1-301・351・401	65D23R-MF
R_1-451・551	95D31R

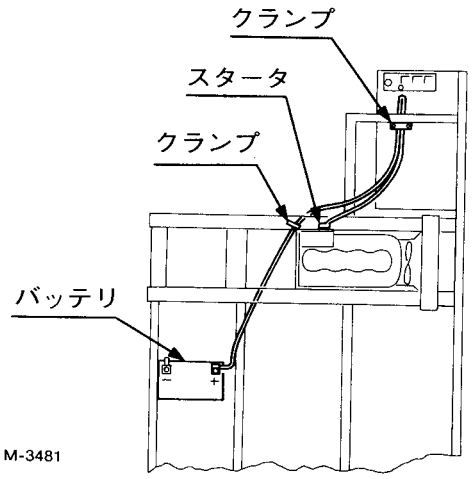




(5)⊕⊖のコードを元どおりの配線にしてください。⊕コードは他部品の鋭利な角に触れないよう，確実に組付けてください。

補　足

＊特にR_1-451,551はバッテリ⊕コードが長くなっておりますのでご注意ください。



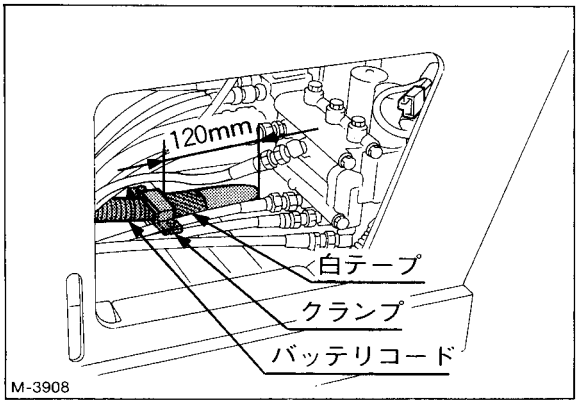
(6)【R_1-451,551】

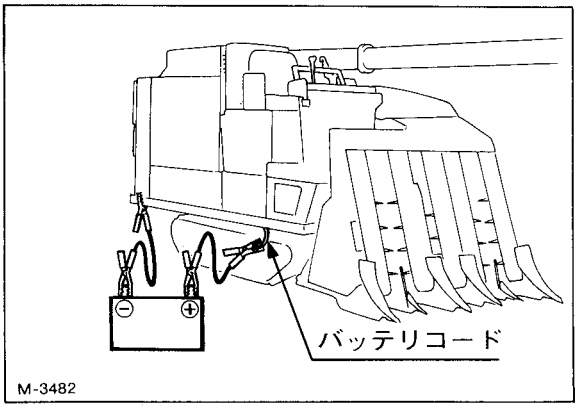
コンバイン左側を壁際に止めた状態で，バッテリが上ってエンジンが始動できない場合は，ステップ下部のバッテリコードを利用します。クランプを外し(M8ボルト2本)，黒テープをはがした後，先端のキャップを外して予備バッテリの⊕端子と接続し，アースは本体フレームに接続してエンジンを始動してください。使用後は必ずキャップをし，テープを巻いてクランプしてください。クランプの位置は必ず白テープのすぐ後にして，クランプから約120mm出して固定してください。

重　要

＊作業中バッテリコード先端がフレームに接触すると，ショートする危険性がありますので，絶対に接触させないでください。

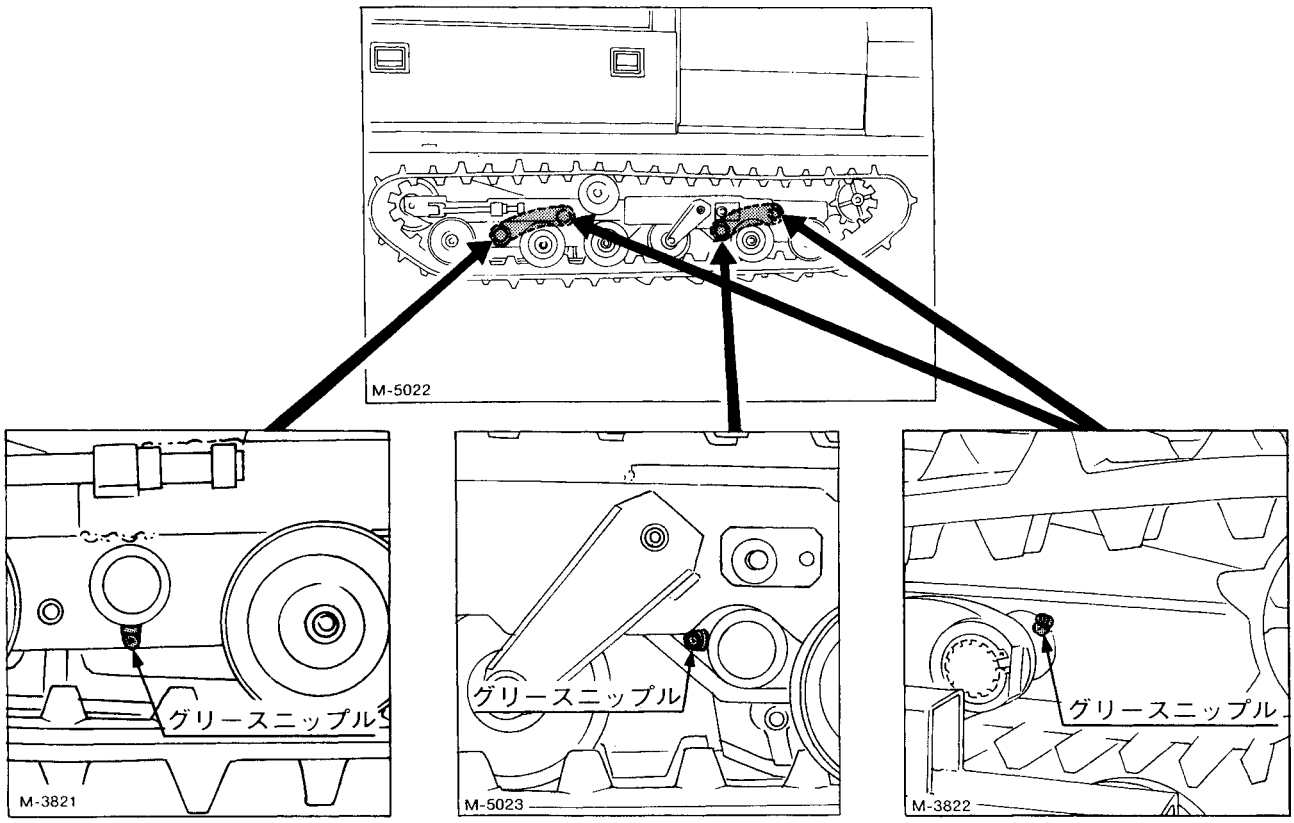
＊再度クランプにて固定するとき，確実にキャップをしてテープを5重程度巻いてください。また，クランプでコルゲートチューブをつぶさないよう注意して固定してください。





■車体水平制御アーム軸受部のグリース【M仕様】

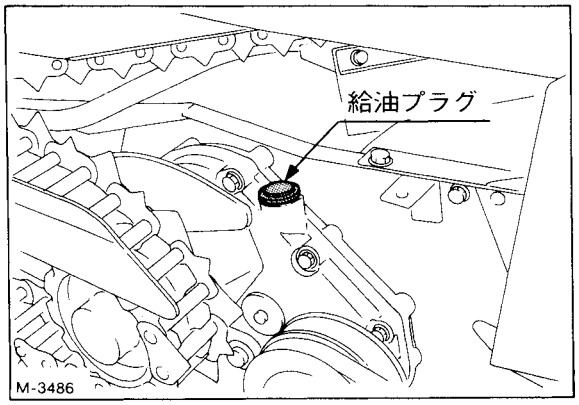
長期格納前，又は，分解時にグリースアップしてください。(左右合計８ヵ所)
このとき，水や泥が出てきた場合は，販売店にご相談ください。



■脱こくチェーン駆動ケースのオイル

給油プラグを外して，オイルが入っているか点検してください。

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルM90又はM80B 又はUDT	0.3ℓ

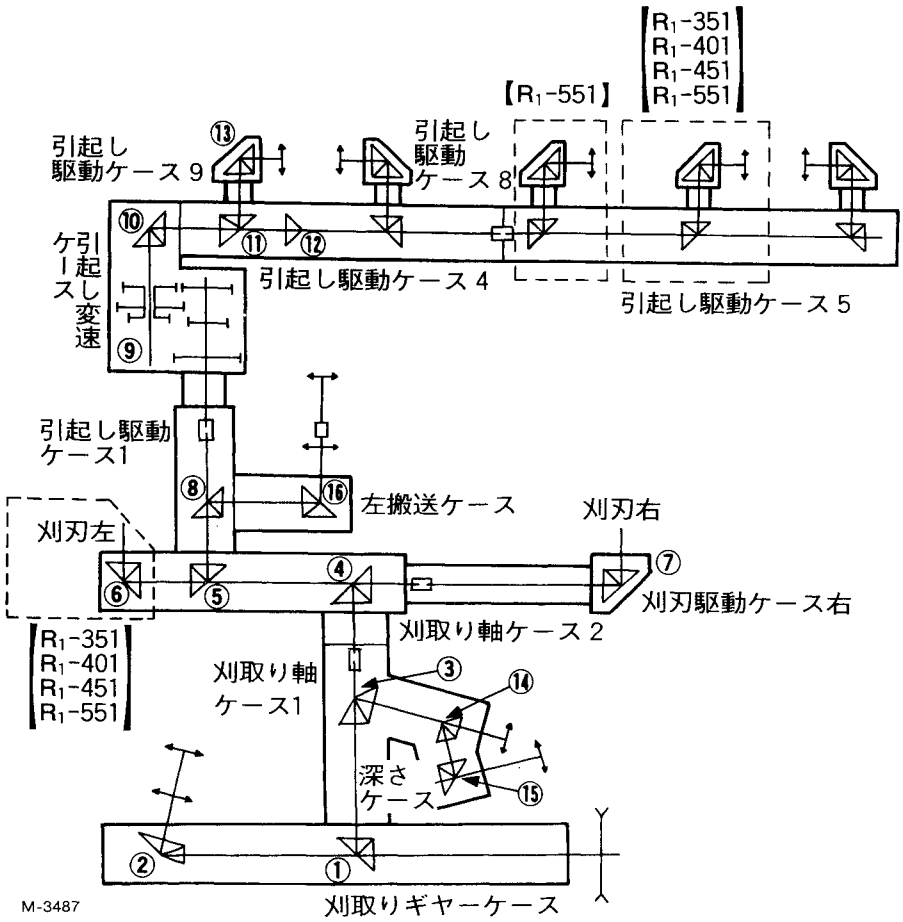


■各部グリースの補給

分解時にクボタスペアグリースを補給してください。

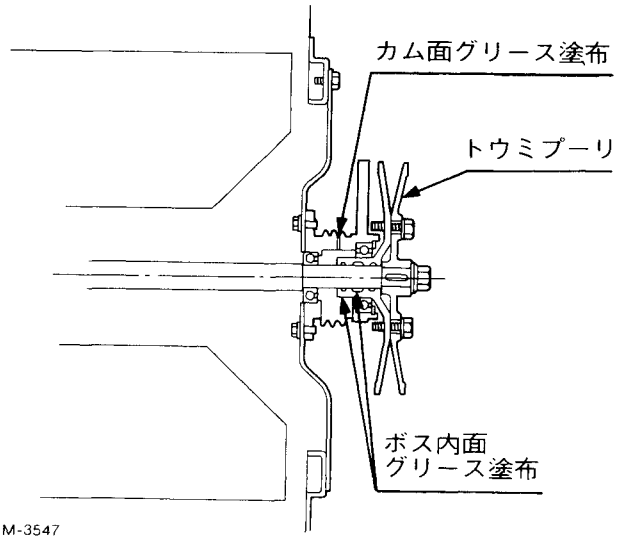
◆刈取り部

部　所	図No.	グリース封入量
刈取りギヤーケース	①	120 g
	②	100 g
刈取り軸ケース1	③	150 g
刈刃駆動ケース	④	150 g
	⑤	150 g
	⑥	70 g
刈刃駆動ケース右	⑦	70 g
引起し駆動ケース1	⑧	100 g
引起し変速ケース	⑨	150 g
	⑩	50 g
引起し駆動ケース4,5	⑪	50 g（各部）
	⑫	50 g
引起し駆動ケース8,9	⑬	50 g（各部）
右株元搬送ケース	⑭	70 g
深さケース	⑮	50 g
左搬送ケース	⑯	70 g
深さ回動ケース（深さモータ取付部）	図示なし	50 g及び歯面塗布



◆脱こく部

＊1番ベベルケース　60 g
（縦スクリュ駆動ケース部）
＊排ワラベベルケース　120 g
（排ワラチェーン駆動ケース部）
＊トウミプーリ部　200時間ごとグリース塗布
＊2番ギヤーケース　30 g
＊2番チェーンケース　50 g
＊2番ベベルケース　50 g



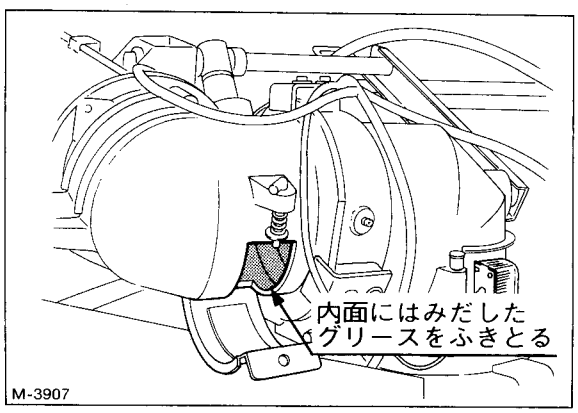
◆アンローダ部【グレンタンク仕様】

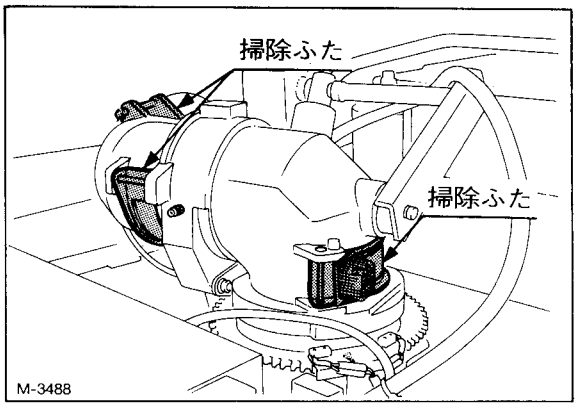
❶長期格納前にアンローダ回動部にクボタスペアグリースを補給してください。

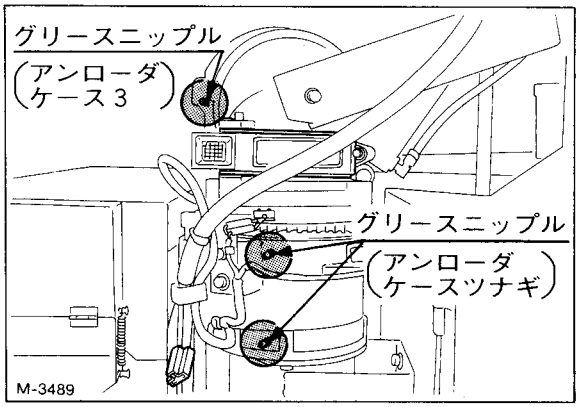
＊アンローダケースツナギ

＊アンローダケース３

アンローダケース３にグリース補給後は，掃除ふたを外して，内面にはみ出しているグリースをきれいにふきとってください。







❷分解時にクボタスペアグリースを補給してください。

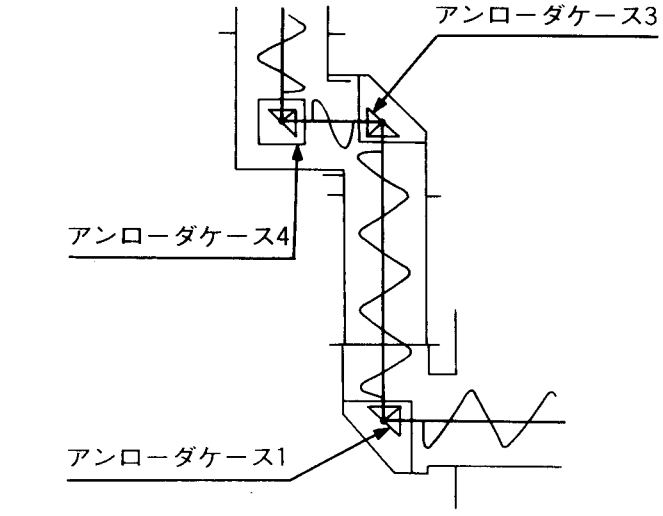
＊アンローダケース１　100 g

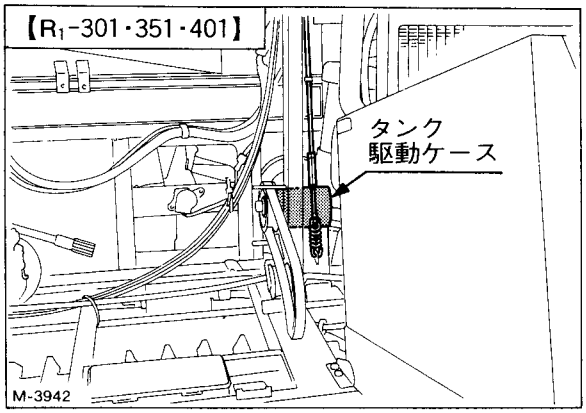
＊アンローダケース３　100 g

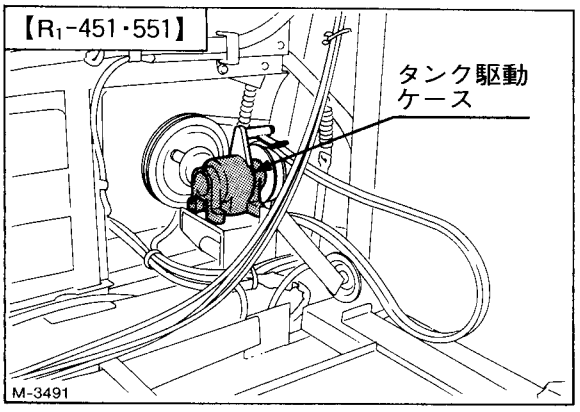
＊アンローダケース４　100 g

＊

タンク駆動ケース	R_1-301・351・401	250 g
	R_1-451・551	200 g



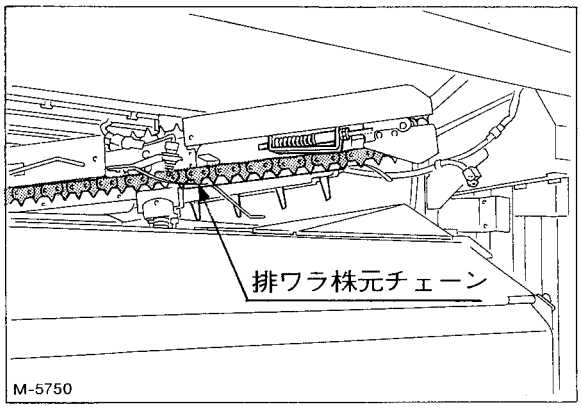




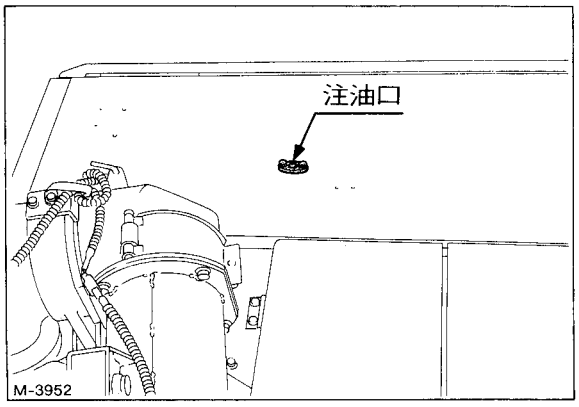
■毎作業前注油箇所

※印部は，集中注油装置で自動注油できます。
☆印部は，R_1-351，401，451，551のみ集中注油装置で自動注油できます。
◎印部は，R_1-451，551のみ集中注油装置で自動注油できます。

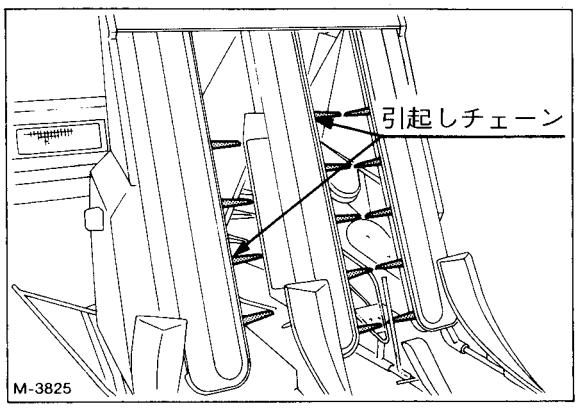
◎(1)排ワラ株元チェーン
毎日作業前に脱こく部を中速回転しながら，たっぷり注油してください。注意しないと爪が早期摩耗します。(クボタ純オイルM90)



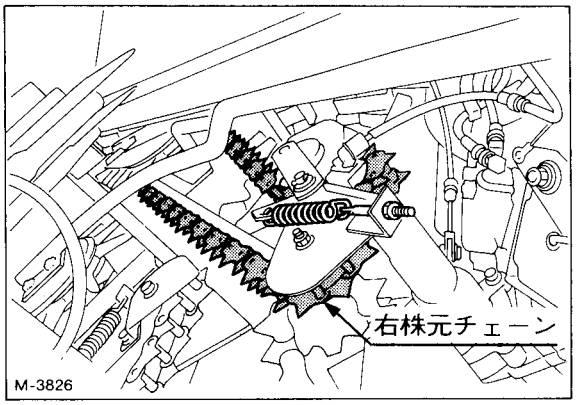
◎(2)排ワラ穂先チェーン
毎日作業前に脱こく部を中速回転しながら，たっぷり注油してください。注意しないと爪が早期摩耗します。(クボタ純オイルM90)



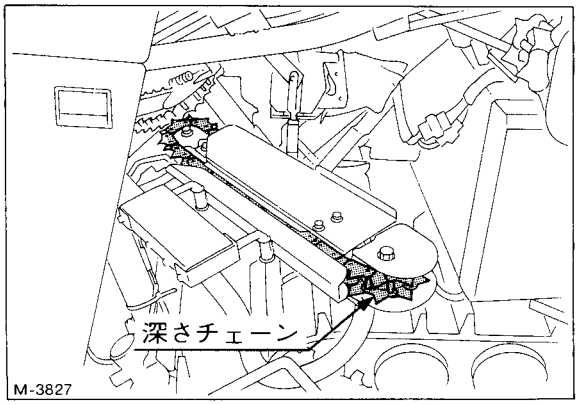
※(3)引起しチェーン



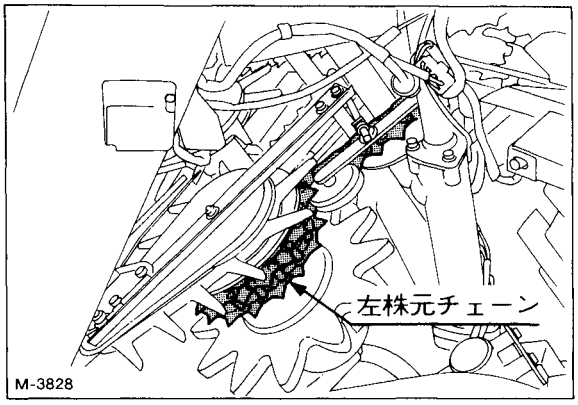
※(4)右株元チェーン



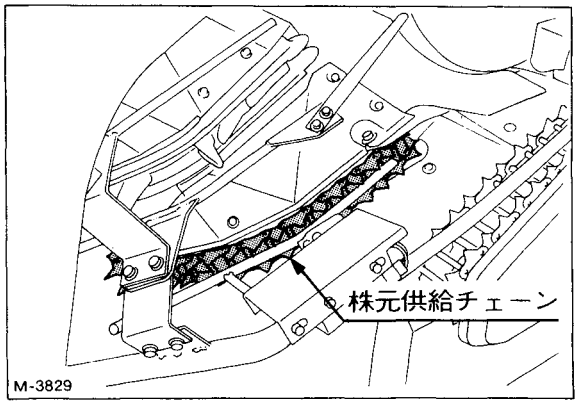
☆(5)深さチェーン



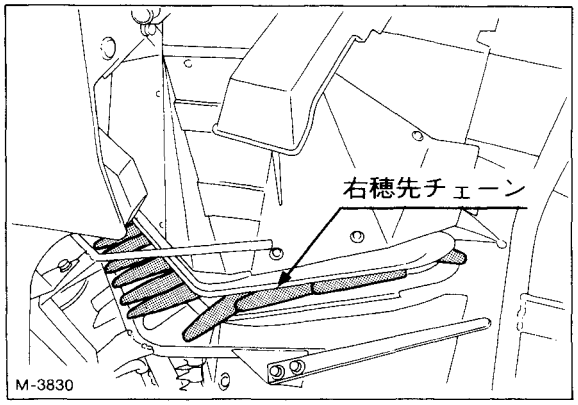
※(6)左株元チェーン



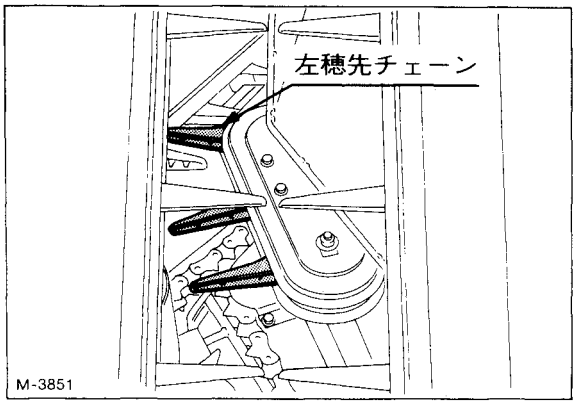
☆(7)株元供給チェーン



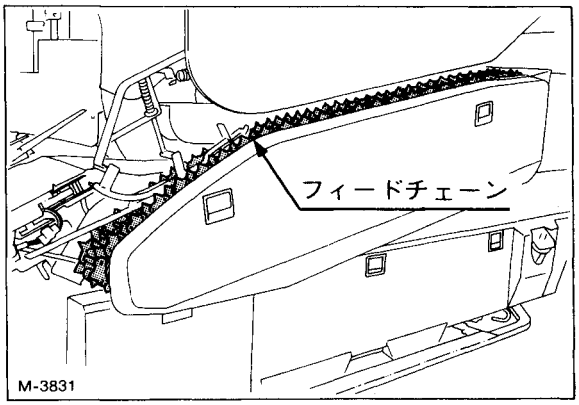
※(8)右穂先チェーン



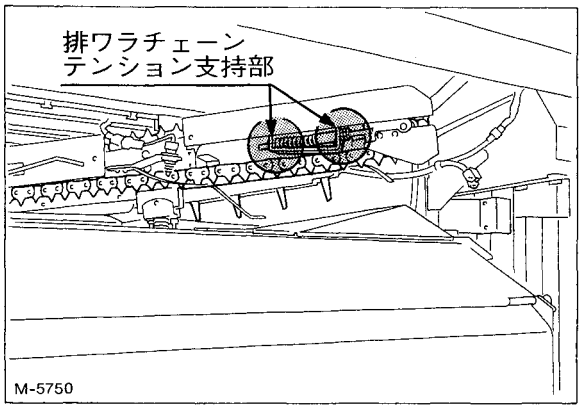
※(9)左穂先チェーン



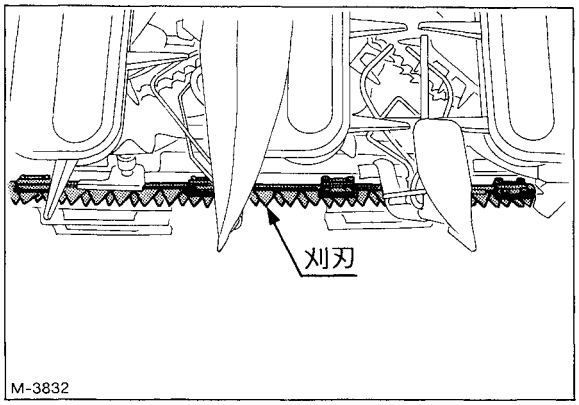
◎(10)フィードチェーン



(11)排ワラチェーンテンション支持部



※(12)刈刃



定期点検と処置

注　意

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，必ずエンジンを停止させ，各レバー類を“切”にして，回転部を止めてから作業をしてください。

＊取外した回転部のカバー類は，衣服などを巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

＊エンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。

❶エンジンを停止する。

❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。

❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

エンジンが冷えていないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部等より熱湯が吹出し，あるいは高温部に接触してヤケドする恐れがあります。

定期点検は，下記の時間ごと(○又は△印)に整備をしてください。
定期点検一覧表は一般的な目安です。異常を感じたときはその都度，調整をしてください。
下記の項目について処置をしたら，○又は△印の中に✓印をつけてください。
○印は点検，調整，△印は交換をしてください。

■定期点検一覧表

注１：ベルト類は亀裂又は帆布のはがれたとき必ず交換してください。
　２：専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先・弊社支店又は㈱クボタアグリにご相談ください。

項目＼時期		20時間目	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	600時間目	2年	参照ページ
エンジン部	エアークリーナエレメントの清掃と交換		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△		64
	フューエルフィルタの洗浄と交換			○		○		○		△		○	○		65
	オイルフィルタカートリッジの交換 R_1-301・351・401		△	以降200時間ごと交換											65
	オイルフィルタカートリッジの交換 R_1-451・551		△	以降400時間ごと交換											65
	ラジエータの点検			○		○		○		○		○	○		67
	ラジエータホースの締付け点検と交換					○				○			○	△	65
	フューエルパイプの締付け点検と交換				○			○			○		○	△	64
	オイルドレーンゴムホースの締付け点検と交換				○			△			○		△	△	64
	ファン駆動ベルトの点検と交換		○	○			△		○		○	△	○		74
	防じん網，ラジエータフィン，オイルクーラフィンの清掃		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		67
走行・操作部	駐車ブレーキワイヤの調整と交換		○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	67
	駐車ブレーキシューの点検と交換【T仕様】							○				△	○	△	68
	パワーブレーキワイヤの調整と交換		○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	68
	刈取りクラッチの調整と交換		○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○		69
	脱こくクラッチの調整と交換		○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○		69
	刈取りオートクラッチワイヤの調整と交換		○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○		69
	クローラの張り調整と交換		○		○		○		○		○		△		75
	HSTオイルフィルタの交換		△					△					△		66
	油圧オイルフィルタカートリッジの交換		△					△					△		66

項目 ＼ 時期		20時間目	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	600時間目	2年	参照ページ
走行・操作部	HST吸入フィルタの洗浄と交換		○					○					△		66
	ベルトの点検と交換	○		○		○		○		○		△	○		72
	足回り部品の交換											△		△	75
	ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	70
刈取部	突起付ベルトの調整と交換		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△		74
	右穂先チェーンの調整と交換			○		○		△		○		○	△		76
	右株元チェーンの調整と交換		○	○		○		△		○		○	△		77
	※中穂先チェーンの交換									△					76
	※中株元チェーンの調整と交換		○	○		○		○		△		○	○		77
	左穂先チェーンの交換					○				△			○		76
	左株元チェーンの交換		○	○		○		○		△		○	○		77
	引起しチェーン・スプロケットの調整と交換		○	○		○		△		○		○	△		76
	株元供給チェーンの調整と交換		○	○		○		○		△		○	○		77
	深さチェーンの調整と交換		○	○		○		○		△		○	○		78
	刈刃のすき間調整と交換			○		△		○		△		○	△		79
	刈刃クランクピンの交換							△					△		80
	刈刃クランクローラの交換							△					△		80
	方向センサ，穂先センサ，株元センサの交換											△			——
脱こく部	ワラ切刃の交換					△				△			△		81
	樹脂網の交換					○				△			○		87
	フィードチェーンの調整と交換		○	○		○		○		○		△	○		78
	排ワラ株元チェーンの張り調整と交換		○	○		○		○		○		○	△		78
	排ワラ穂先チェーンの張り調整と交換		○	○		○		○		○		○	△		78
	排ワラ穂先搬送爪の交換				△			△			△		△		78
	ベルトの点検と交換	○		○		○		○		○		△	○		72
	ツース（2バンコテイバ）の交換											△			82
	ツース（2バンハネ）の交換											△			82
グレンタンク部	ベルトの点検と交換	○		○		○		○		○		△	○		73
	クラッチワイヤの調整		○	○		○		○		○		△	○		73
カッタ部	カッタ駆動ベルトの点検と交換	○		○		○		○		○		△	○		72
	排ワラ切換えワイヤの調整		○	○		○		○		○		△	○		50
	カッタ刃の交換 R_1-301	85時間ごと交換													48
	カッタ刃の交換 R_1-351・401・451	65時間ごと交換													48
	カッタ刃の交換 R_1-551	50時間ごと交換													48

【注】

(1) ※はR_1-551のみ。

(2) グレンタンク部はグレンタンク仕様のみ。

■エアークリーナの清掃

◆エレメント

エレメントの清掃は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。(エアーの)圧力は7kg/cm²をこえないよう注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。
カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

【参考】

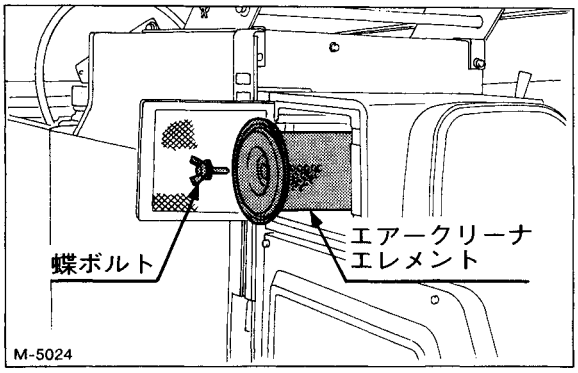
＊エレメント洗浄剤
ND―1500(日本ドナルドソン製)

補　足

＊清掃時は必ずエレメントの注意書を参照してください。
＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

◆エレメントの交換

エレメントは300時間ごとに交換が必要です。



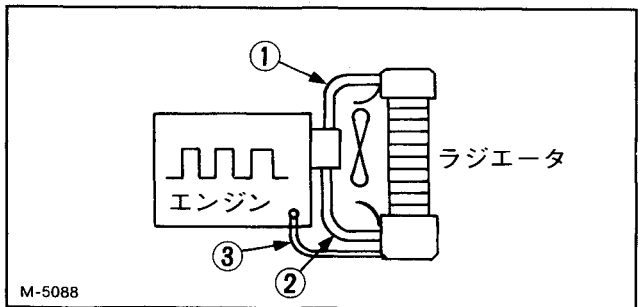
品　名	品　番
エアークリーナエレメントアッシ	52200-2611-4

■パイプ・ホース類の点検

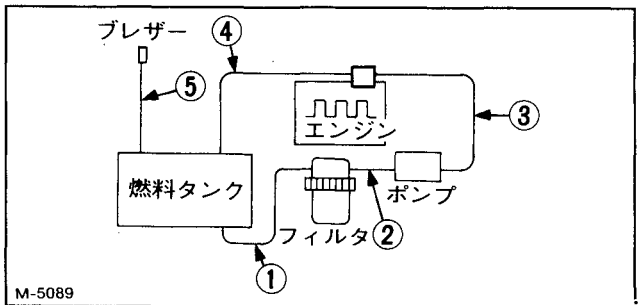
注　意

＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起しますので，必ず点検してください。
▶もし怠ると…
火災など傷害事故の危険があります。
＊運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出して危険です。

燃料系ゴムホース・ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に2年(オイルドレーンゴムホースは300時間又は2年)ごと，又は，傷んだときに新品と交換する必要があります。パイプ・ホース類が傷んだり締付けバンドがゆるんでいないか常に注意してください。



品　名		品　番
ラジエータホース	①ウォータパイプ1	52500-2527-3【R_1-301・351・401】
		55611-8153-0【R_1-451】
		58600-2555-0【R_1-551】
	②ウォータパイプ2	52500-2528-3【R_1-301・351・401】
		58511-2571-0【R_1-451】
		58600-2556-0【R_1-551】
	③ドレーンパイプ	52500-2529-0【R_1-301・351・401】
		15461-7334-0【R_1-451】
		58600-2557-0【R_1-551】
エンジンオイルドレーンホース		52500-2116-0



品　名		品　番
燃料ゴムホース	①フューエルパイプ1アッシ	52500-2575-0【R_1-301・351・401】
		52200-2681-0【R_1-451】
		59700-2681-0【R_1-551】
	②フューエルパイプ2アッシ	52500-2576-0【R_1-301・351・401】
		52200-2683-0【R_1-451】 59700-2683-0【R_1-551】
	③フューエルパイプ3アッシ	52500-2577-0【R_1-301・351・401】
		52200-2685-2【R_1-451】 59700-2681-0【R_1-551】
	④フューエルパイプ4アッシ	52500-2578-0【R_1-301・351・401】
		52200-2687-0【R_1-451】
		58600-2687-0【R_1-551】
	⑤フューエルパイプ5アッシ	58600-2691-0

重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

◆ラジエータホースの点検

(1)ラジエータホースの締付け点検は，200時間運転ごと又は6ヶ月ごとに行なってください。

1. 締付けバンドがゆるんでいたり，水漏れのある場合はバンドを確実に締付けてください。
2. ラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしているときにはホースを交換し，バンドを確実に締付けてください。

(2)2年ごとにラジエータホース及びバンドを交換してください。

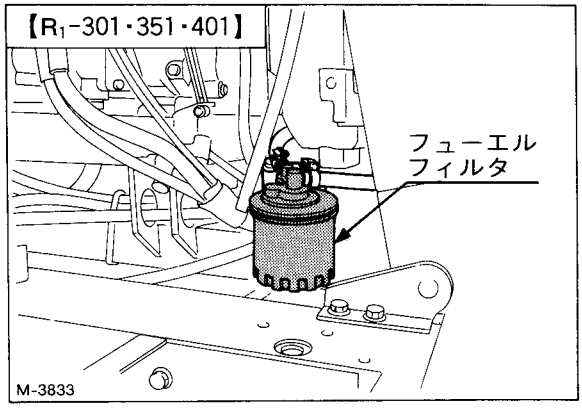
それ以前でもチェックしたとき，ラジエータホースが膨れたり，固くなったり，ひび割れしていれば交換してください。

■フューエルフィルタの交換

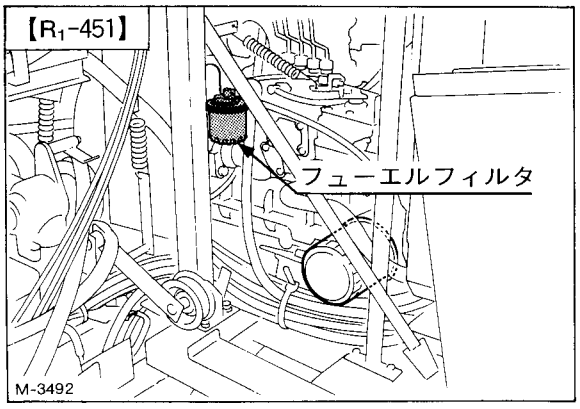
フューエルフィルタのカートリッジは400時間ごとに，手，又は，工具で外し交換をしてください。

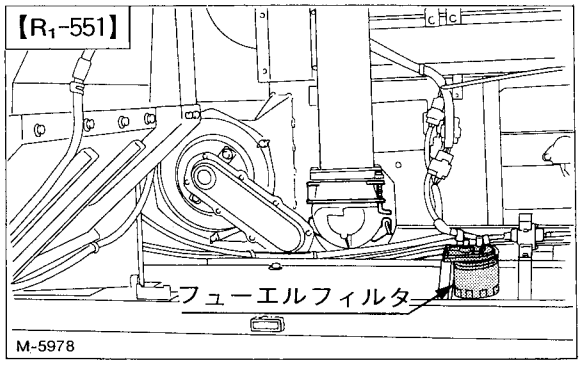
特に水，又は，ゴミが混入した場合以外は，清掃の必要はありません。

新しいカートリッジを組付けたときは，パッキンに燃料を薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。



品　　名	品　　番
フィルタエレメント	15221-4317-2

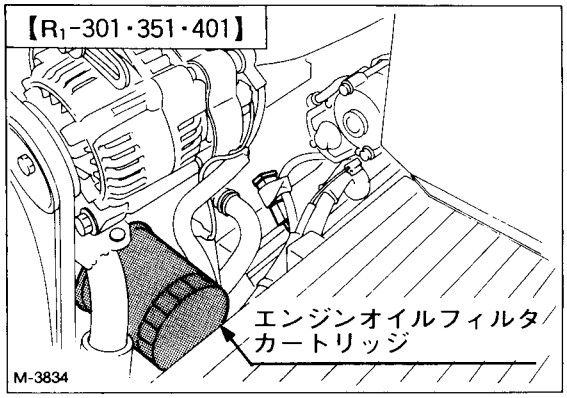




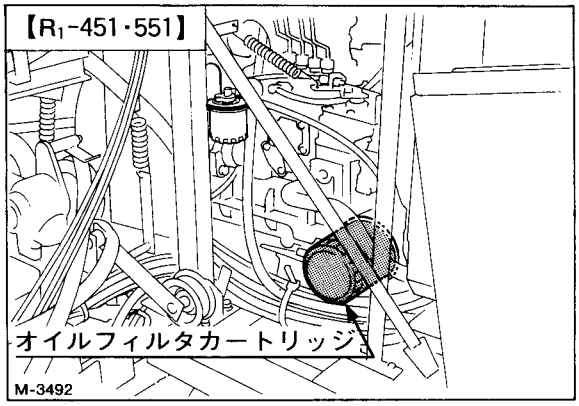
品　　名	品　　番
フィルタエレメント	15221-4317-2

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

(1)エンジンオイルフィルタカートリッジを外します。新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けてください。



品　　名	品　　番
オイルフィルタカートリッジ	16271-3209-0

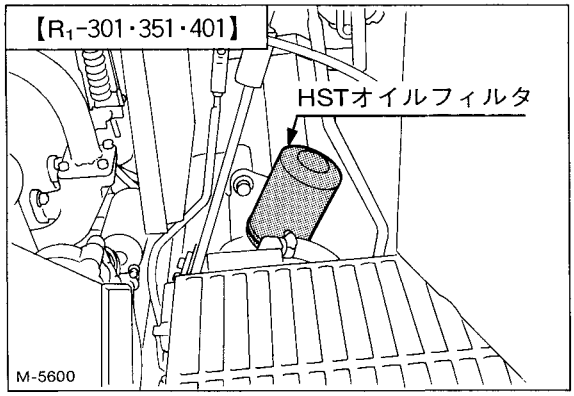


品　　名	品　　番
オイルフィルタカートリッジ	17321-3243-2

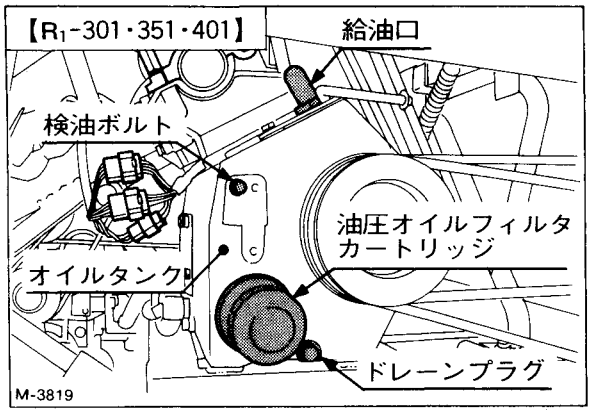
(2)カートリッジを交換すると，カートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。オイルゲージの上の刻線までオイルを補給した後，5分程度エンジンを運転して各部を点検してからエンジンを止め，再度油量を確めておいてください。

■HSTオイルフィルタ及び油圧オイルフィルタカートリッジの交換

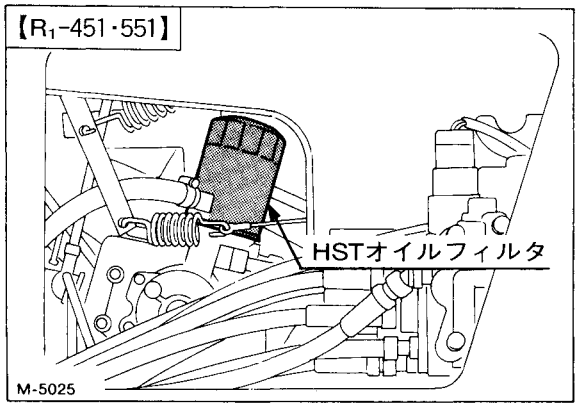
❶ドレーンプラグを抜いてタンク内のオイルを排油します。
❷オイルフィルタを外します。
❸新しいカートリッジをフィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。(フィルタのガスケットにオイルを薄く塗る。)
❹オイルフィルタは，最初は50時間使用後に，以後は300時間使用ごとに交換してください。



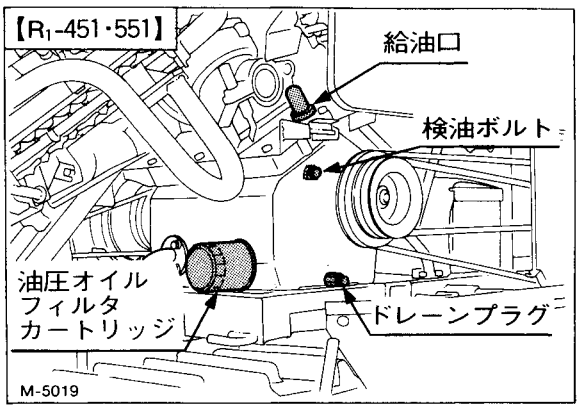
品　　名	品　　番
オイルフィルタ	32701-3795-0



品　　名	品　　番
オイルフィルタ	52500-1215-0



品　　名	品　　番
フィルタ(オイル)	32701-3795-0



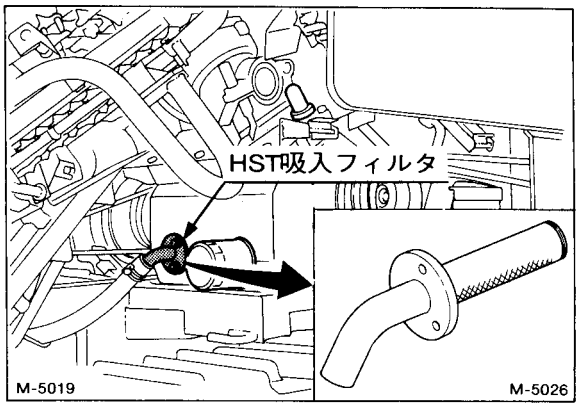
品　　名	品　　番
オイルフィルタカートリッジ	52200-1224-0

補　足

＊HST及び油圧オイルフィルタは，必ず指定品番のものをご使用ください。
＊カートリッジの交換時，オイルタンクのオイルも交換してください。(54ページ参照)

■HST吸入フィルタの洗浄・交換【R1-301・351・401T仕様，R1-451・551】

❶油圧オイルフィルタ交換時，同時にHST吸入フィルタの洗浄・交換をしてください。
❷洗浄は軽油等で，フィルタ網面に付着したゴミをきれいに落してください。油圧ホースを抜いて，ボルト(M8×3本)を外すと，フィルタはオイルタンクより抜けます。

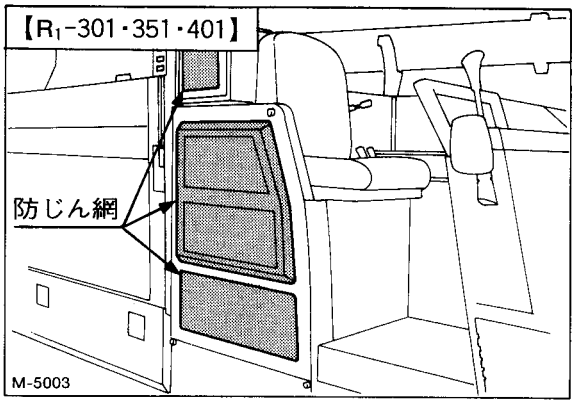


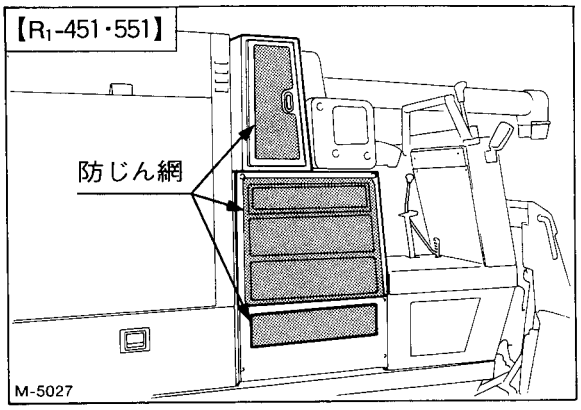
品　名	品　番
フィルタ（HSTスイコミ）	52849-2751-0【R_1-301・351・401】
	58600-2751-2【R_1-451・551】

■ラジエータ吸気部の清掃

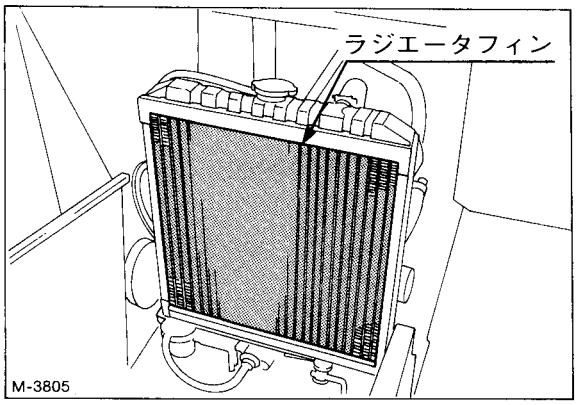
オーバヒート警報(連続ブザー)が鳴るときは,

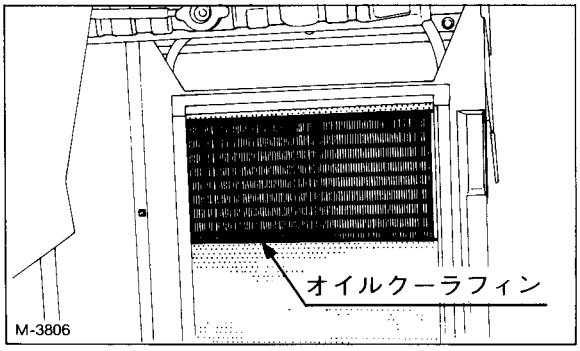
❶防じん網を清掃してください。(この場合必ずエンジンを停止しておこなってください。)





❷ラジエータフィンの目詰まりを清掃してください。圧縮空気を利用すればすみずみまで清掃できます。(同様にオイルクーラフィンも清掃してください。)





重　要

＊ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。特殊フィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

＊エアークリーナの吸入口には絶対水をかけないでください。エンジン不調又は破損の原因となります。

■各部ワイヤの調整

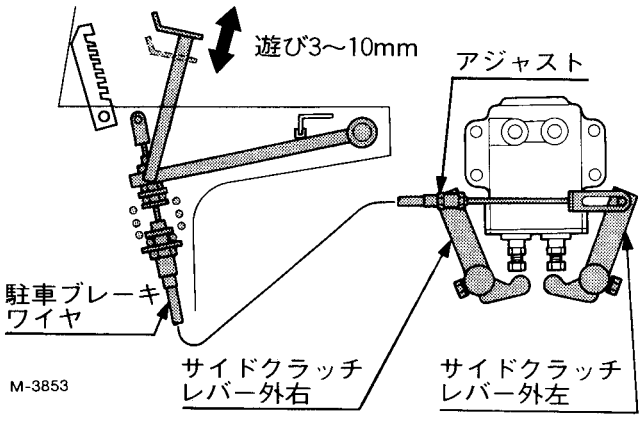
注　意

＊点検・調整時は，刈取りクラッチを"切"にしてください。

◆駐車ブレーキワイヤ

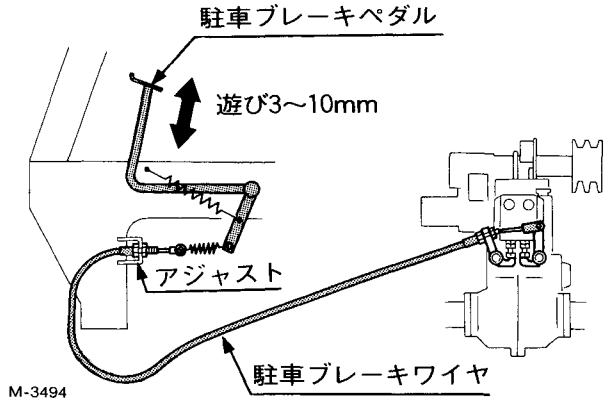
駐車ブレーキペダルの遊びが3～10㎜に調整してください。

＊【R_1-301・351・401T仕様以外】



品　名	品　番
駐車ブレーキワイヤ	52500-3287-4

＊【R_1-451・551】



品　　名	品　　番
駐車ブレーキワイヤ	58600-3216-0

補　足

＊定期交換部品ですので500時間目又は２年ごとに交換してください。

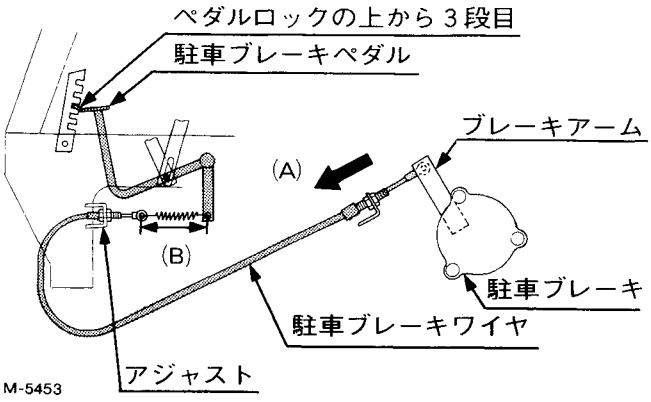
◆駐車ブレーキ関係【T仕様】

＊駐車ブレーキワイヤの調整

駐車ブレーキペダルをペダルロックの切欠の上から３段目にかけスプリングのフック内寸法が(B)になるよう駐車ブレーキワイヤのアジャストで調整してください。

＊駐車ブレーキの交換

駐車ブレーキを交換するときは，ブレーキアームを(A)方向に手でいっぱい引っ張った状態でボルト(Ｍ８，３本)を締め込んでください。



機　　種	フック内寸法(B)
R_1-301・351・401T仕様	111～113mm
R_1-451・551T仕様	115～117mm

品　　名	品　　番
駐車ブレーキワイヤ	52270-3216-2
駐車ブレーキシュー	52270-1891-0

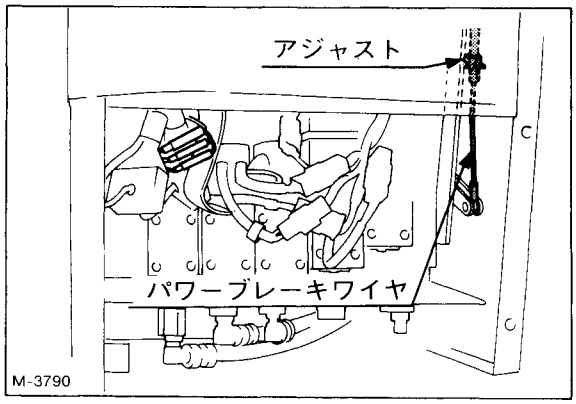
補　足

＊定期交換部品ですので500時間目又は２年ごとに交換してください。

◆パワーブレーキワイヤ

パワーステアリングレバー(７ページ参照)により，ブレーキを早い目にきかせたいときは，ワイヤを張る方向に調整してください。

(ただし，早くしすぎるとクラッチが切れてすぐブレーキがききますので，ショックが多くなります。適量に調整してください。)



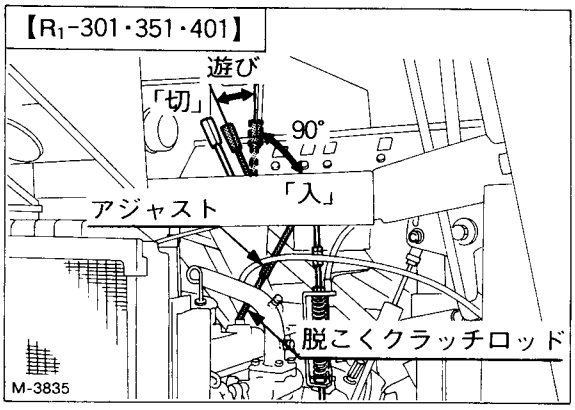
品　　名	品　　番
パワーブレーキ	52500-3152-0【R_1-301・351・401】
ワイヤ	52200-3363-0【R_1-451・551】

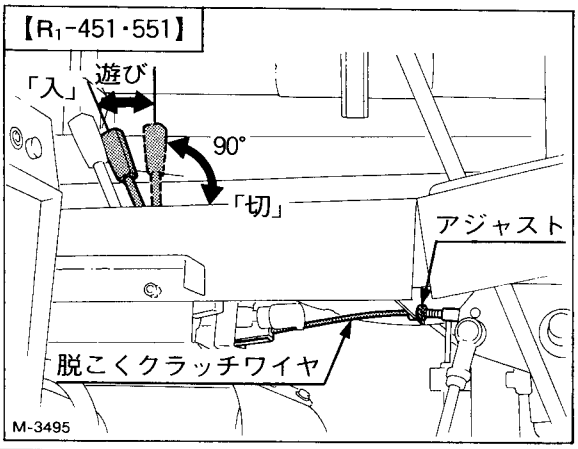
補　足

＊定期交換部品ですので500時間目又は２年ごとに交換してください。

◆脱こくクラッチ

クラッチ**"切"**からレバーが垂直の間で遊びになるよう，ロッド(R_1-451,551はワイヤ)の調整をしてください。





品　　名	品　　番
脱こくクラッチワイヤ	58600-3165-0【R_1-451・551】

◆刈取りオートクラッチワイヤ及び刈取りクラッチ

(1)フィードチェーンクラッチと刈取りクラッチのタイミングがずれた場合，次の要領で調整してください。

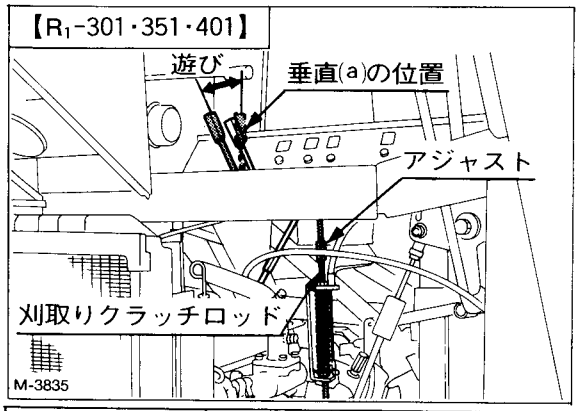
❶オートクラッチ切換えグリップを**"入"**にしてください。

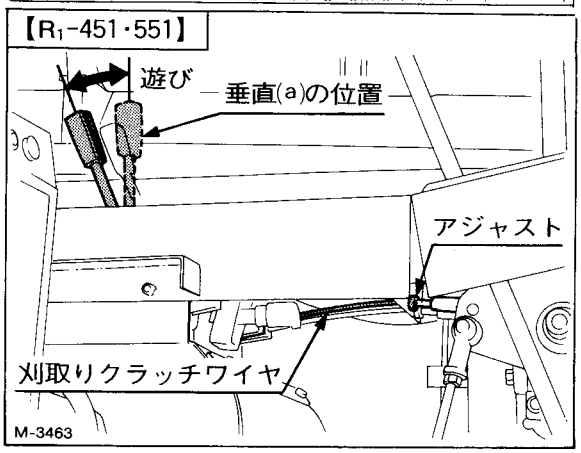
❷オートクラッチワイヤ調整前に，刈取りクラッチロッド(R_1-451,551はワイヤ)の調整をしてください。

❸刈取りクラッチレバーが**"切"**の状態から垂直(a)の位置までが遊びとなるようアジャストを調整してください。

❹脱こく機側オートクラッチワイヤのたるみを5～7㎜(R_1-451,551は3～5㎜)に調整してください。

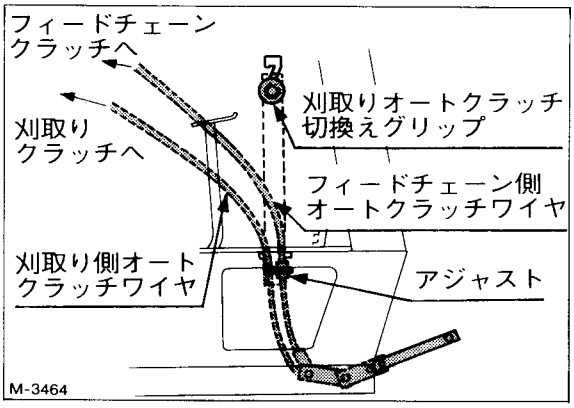
❺最後に刈取り側オートクラッチワイヤの調整を行ないます。





品　　名	品　　番
刈取りクラッチワイヤ	58600-3164-2【R_1-451・551】

(2)刈取り作業中で刈取りとフィードチェーンがほぼ同時，又はやや刈取りが早い目に切れる状態に調整してください。



品　　名	品　　番
オートクラッチ	52512-3293-2【R_1-301・351・401】
ワイヤ　ダッコク	58600-3541-2【R_1-451・551】
オートクラッチ	52512-3281-3【R_1-301・351・401】
ワイヤ　カリトリ	58600-3192-2【R_1-451・551】

注　意

＊点検・調整時は，刈取りクラッチを"切"にしてください。

◆その他のワイヤ

下記ページを参照してください。

＊排ワラ切換えワイヤ……50ページ

＊グレンタンククラッチワイヤ……73ページ

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

注　意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
▶もし怠ると……
火災，損傷の危険があります。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプにゆるみがないこと。

(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。

(3)各スイッチが確実に作動すること。

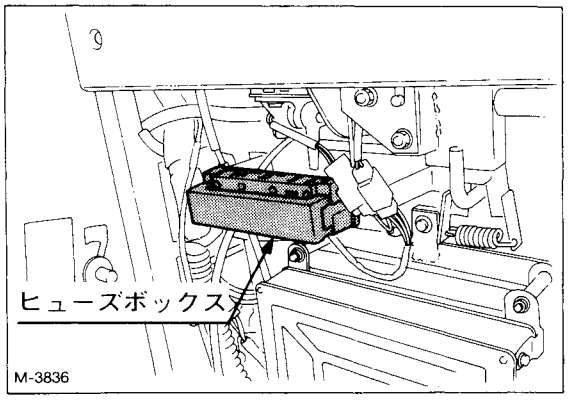
■ヒューズ，電球の交換

◆ヒューズの交換

❶ヒューズボックスのふたを外します。

❷ヒューズを外します。

❸切れたものと同容量のヒューズと交換します。



◆保護回路

ヒューズ容量		保護回路
20A【R_1-301·351·401】		エンジンソレノイド
15A	【R_1-301·351·401】	AESリレーマイコンユニット
	【R_1-451·551】	AESモータマイコンユニット
15A		オルタネータ フューエルポンプ 注油スイッチ
15A		こぎ深モータ モンロー アンローダ
15A		トウミモータ

ヒューズ容量	保護回路
15A	チャフモータ
15A	ピタコンモータ
20A	マイコンユニット
20A	ライト
20A【R_1-551】	ライト
15A	結束機
25A	アンローダ
7.5A	ラジオ
5A	ラジオ(時計)
30A	キャビン

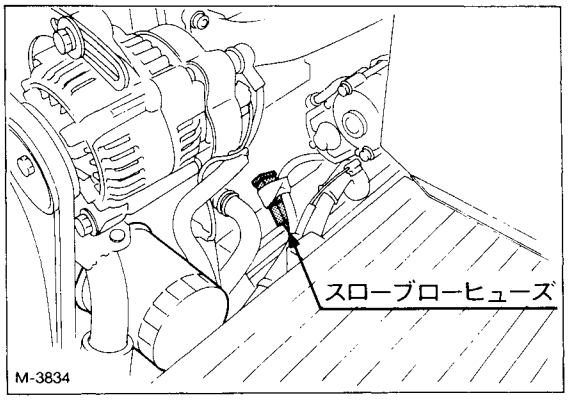
品　名	容量	品　番
オートヒューズ	5A	37410-5552-0
	7.5A	58622-4148-0
	15A	35820-7556-0
	20A	36919-5665-0
	25A	56605-4215-0
	30A	52241-1162-0

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，購入先で点検・修理してください。

◆スローブローヒューズの交換

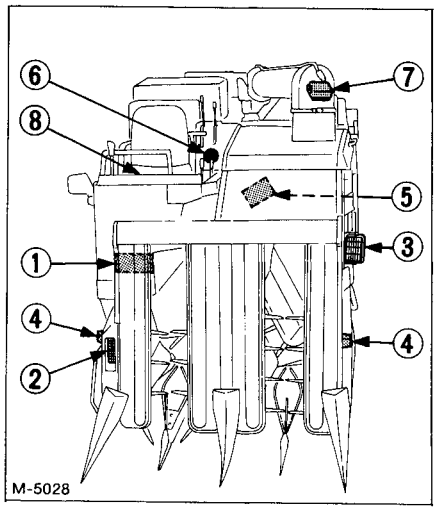
スローブローヒューズは配線を保護するためのものです。他の部品と当らないようにしてください。もし切れた場合は，必ず切れた原因を調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。



品　名	容量	品　番
スローブローヒューズ	40A	34670-3453-0【R_1-301·351·401】
	60A	52200-4117-0【R_1-451·551】

◆電球の点検

球切れがないか作業前に点検してください。



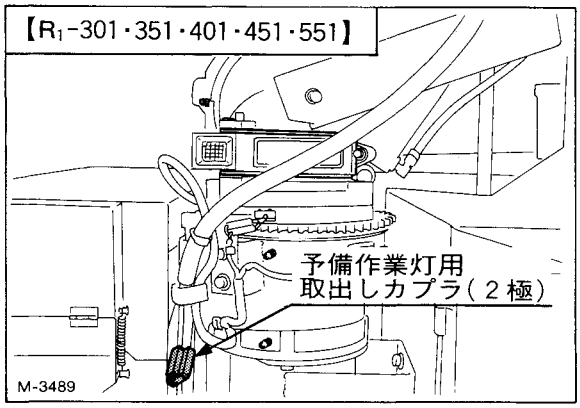
	部位（取付位置）	機　種　名	電球の品番
1	前照灯（操作塔）	R_1-301	56713-4172-0
2	前照灯（刈取り右側）	R_1-351·401·451·551	34150-3421-0
3	前照灯（刈取り左側）	全機種	52200-4186-0
4	ウィンカランプ	全機種	36200-7517-0
5	こぎ口照射灯	全機種	56713-9516-0
6	クラッチレバー照射灯	全機種	66704-5556-0
7	オーガ先端作業灯	グレンタンク仕様·全機種	52200-4187-0
8	ランプ付スイッチ	全機種	52200-4233-0
—	バックライト	R_1-451·551	34150-3421-0

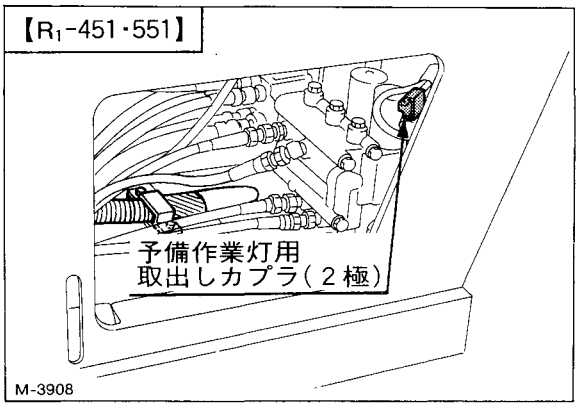
■予備作業灯の使い方

電球の容量は12V25W以下のものを使用してください。予備作業灯電源はアンローダ，デッキの箇所にあります。

重　要

＊予備作業灯電源を他の電源に使用しないでください。

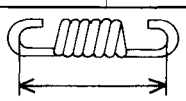




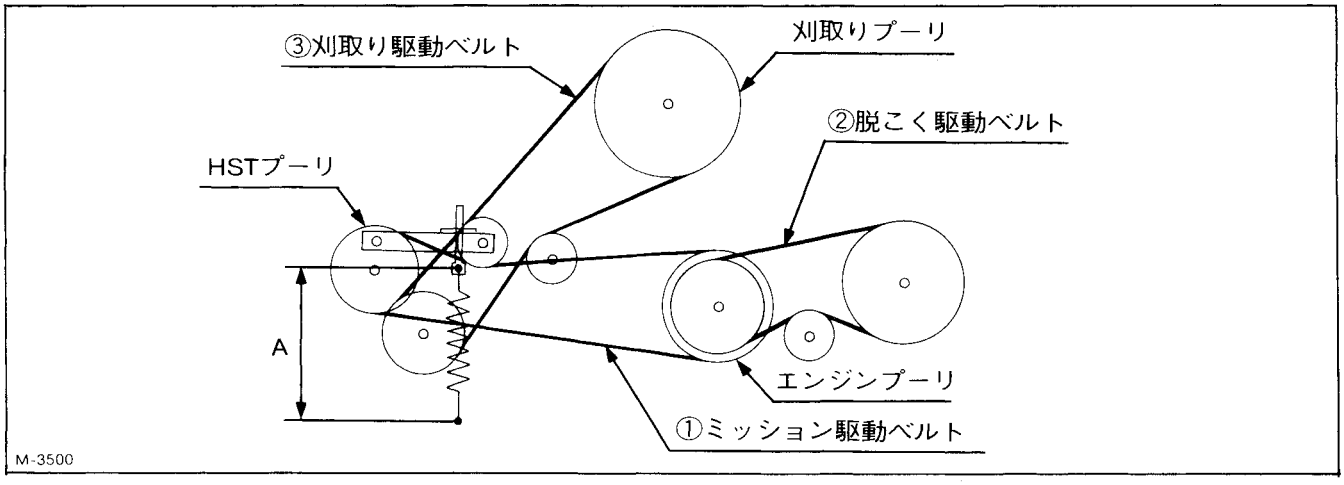
■各部ベルトの張り調整

下表ベルトは，バネ取付け寸法(フック間)が規定の範囲になるように，調節ボルト・ワイヤ調節ボルトの調整をしてください。

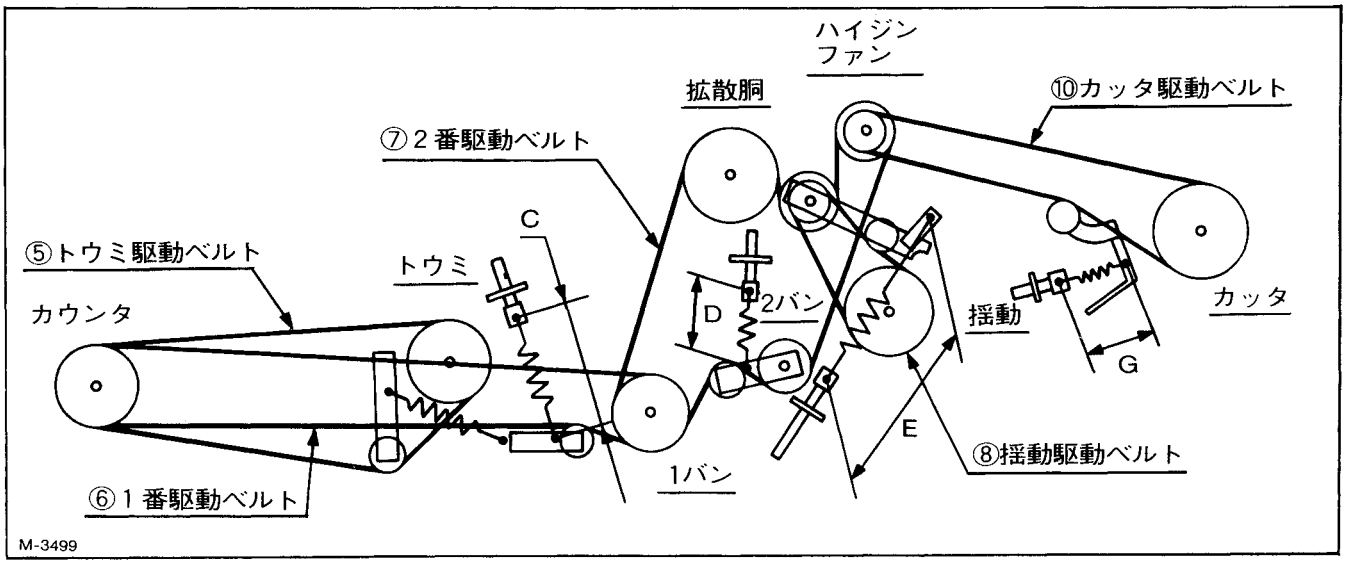
No.		ベルトの別称	機　種	品　番	サイズ	本数	バネ取付け寸法
エンジン回り	①	ミッション駆動ベルト	R_1-301·351·401	52791-1142-3	特B48	2	193mm(A寸法)
			R_1-301·351·401【T仕様】	52849-1142-0	特B42	2	195mm(A寸法)
			R_1-451·551	58600-1146-2	特B59	3	211mm(A寸法)
			R_1-451·551【T仕様】	52270-1146-0	特B54	3	
	②	脱こく駆動ベルト	R_1-301·351·401	52500-1192-3	コグC38	2	クラッチ調整の項参照(69ページ)
			R_1-451·551	52200-1157-0	特B41	3	
	③	刈取り駆動ベルト	R_1-301	52500-1288-0	特B54	1	クラッチ調整の項参照(69ページ)
			R_1-301【T仕様】	52489-1288-0	特B41	1	
			R_1-351·401	52700-1288-0	特B56	1	
			R_1-351·401【T仕様】	52867-1288-0	特B43	1	
			R_1-451	52800-1175-0	特C49	1	
			R_1-451【T仕様】	52870-1175-0	特C45.5	1	
			R_1-551	52200-1175-0	特C58.5	1	
			R_1-551【T仕様】	52270-1175-0	特C54	1	
脱こく機回り	④	こぎ胴駆動ベルト	R_1-301·351·401	53871-7111-2	特B146	2	286mm(B寸法)
			R_1-451·551	53961-7118-0	特C148	2	
	⑤	トウミ駆動ベルト	R_1-301·351·401	53881-7114-0	特殊B67	1	無調整
			R_1-451·551	53971-7114-0	特殊B85	1	
	⑥	1番駆動ベルト	R_1-301·351·401	53871-7113-0	特B101	1	160mm(C寸法)
			R_1-451·551	53961-7113-0	特C117	1	
	⑦	2番駆動ベルト	R_1-301·351·401	53881-7112-0	特B108	1	165mm(D寸法)
			R_1-451·551	53971-7112-0	特C108	1	
	⑧	揺動駆動ベルト	全機種	53961-7115-0	特B42	1	396mm(E寸法)
	⑨	排ワラチェーン駆動ベルト	全機種	53961-7117-0	特B38	1	145mm(F寸法)
	⑩	カッタ駆動ベルト	R_1-301·351·401	57782-5225-2	特B55	1	165mm(G寸法)
			R_1-451·551	57781-5255-0	特B55	1	
グレンタンク回り	⑪	グレンタンク駆動ベルト	R_1-301·351·401	58050-8124-0	特B45	1	142mm(H寸法)
			R_1-451·551	57304-8124-0	特C54コグ	1	198～202mm(H寸法)
	⑫	グレンタンク駆動ベルト(クラッチ)	R_1-301·351·401	58050-8137-0	特C45	1	133mm(クラッチ入時)(I寸法)
			R_1-451·551	57304-8137-0	特C54.5	1	283~287mm(クラッチ入時)(I寸法)

★ バネ取付け寸法とは、  図と照合してください。

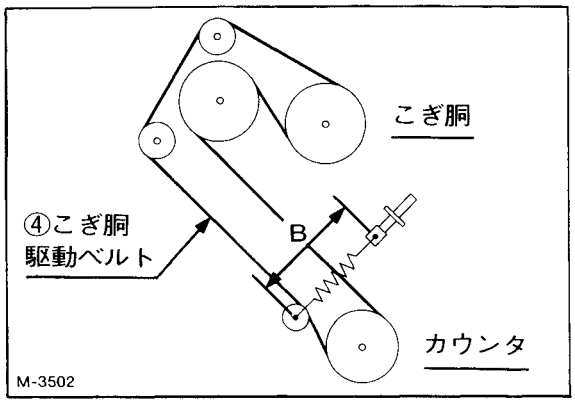
＊エンジン回り



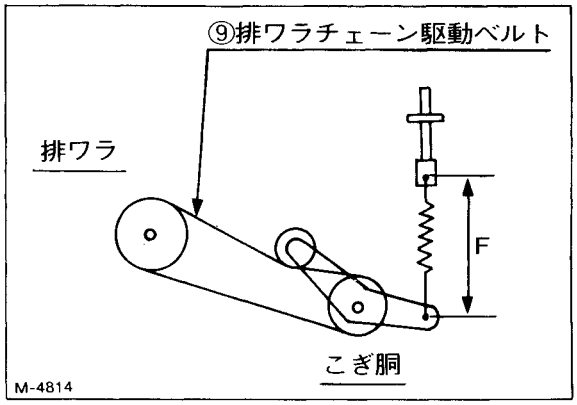
＊脱こく機左側回り



＊こぎ胴駆動ベルト



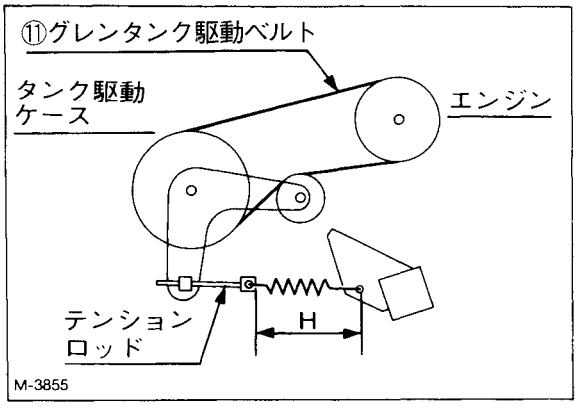
＊排ワラチェーン駆動ベルト



◆グレンタンク駆動ベルト

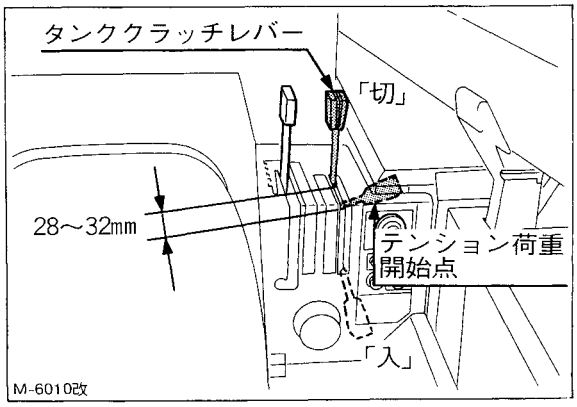
＊【R_1-301・351・401】

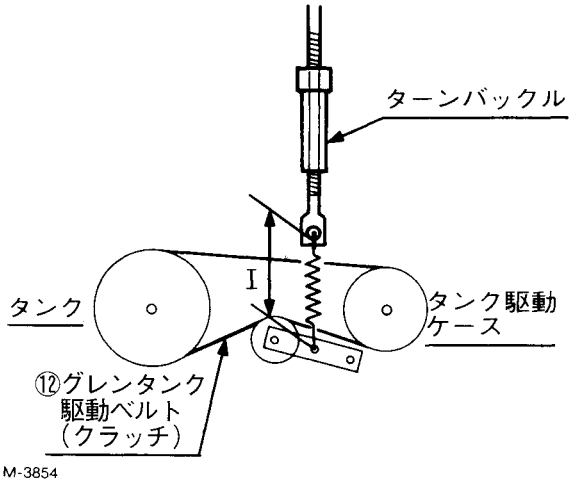
(1)テンションスプリングの長さ(フック内側間)が，H寸法になるようにテンションロッドで調整してください。(72ページ参照)



(2)タンククラッチを**"入"**にした場合，テンションスプリングの長さが，I寸法になるようにターンバックルで調整してください。(72ページ参照)

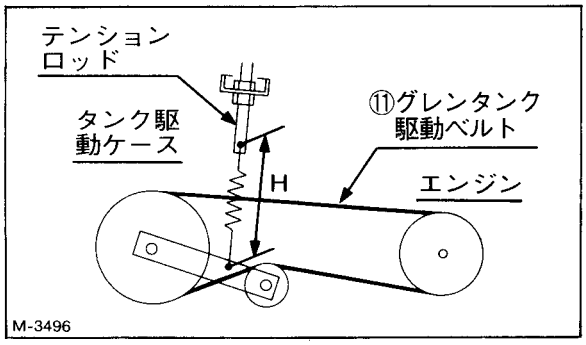
(タンククラッチレバーを28～32㎜動かしたときに，テンション荷重がかかるように調整してください。)





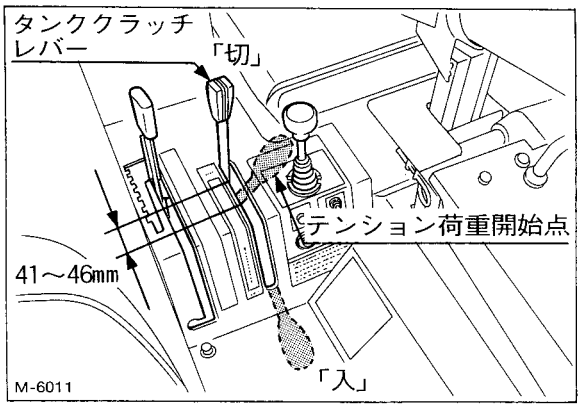
＊【R_1-451・551】

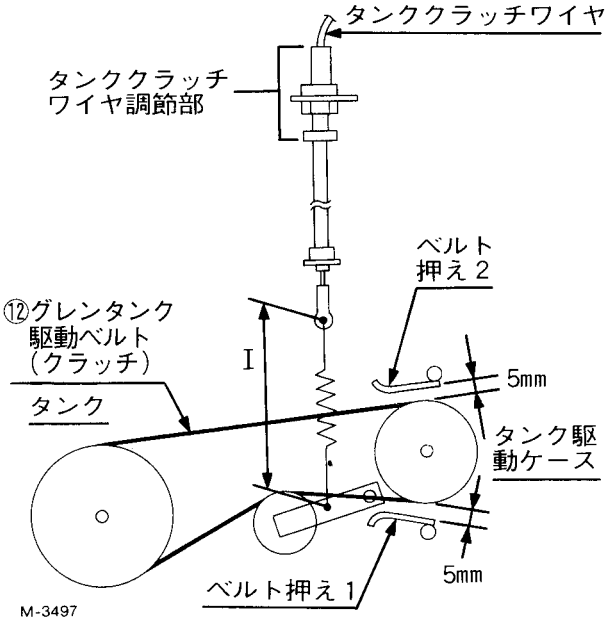
(1)テンションスプリングの長さ(フック内側間)が，H寸法になるようにテンションロッドで調整してください。(72ページ参照)



(2)タンククラッチを**"入"**にした場合，テンションスプリングの長さが，I寸法になるようにタンククラッチワイヤ調節部で調整してください。(72ページ参照)

(タンククラッチレバーを41～46㎜動かしたときに，テンション荷重がかかるように調整してください。)



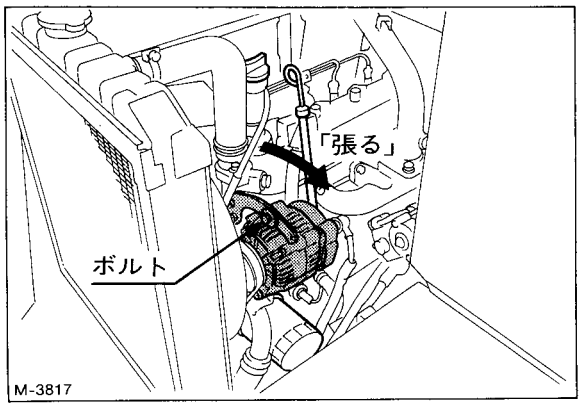


品　　名	品　　番
タンククラッチワイヤ	57304-8135-0

◆ファン駆動ベルト

ダイナモの取付けボルトをゆるめ，ダイナモを手で引張りながら，取付けボルトを締付けます。

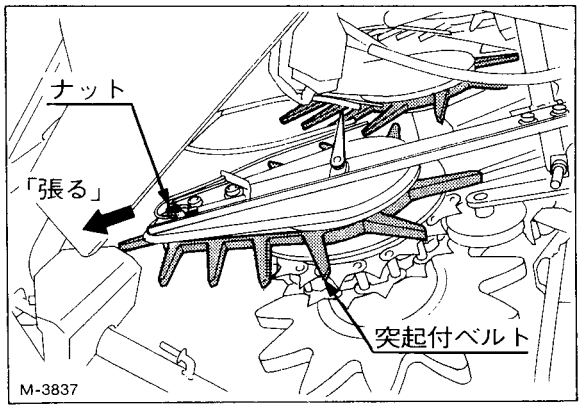
ベルト中央部のたわみ	5～10㎜



◆突起付ベルト

アイドラプーリの取付けネジ(M10)をゆるめ，ベルトを引張って張り，ネジを締付けます。

ベルト中央部のたわみ	5～10㎜



品　　名	品　　番
突起付ベルト	56718-6212-2

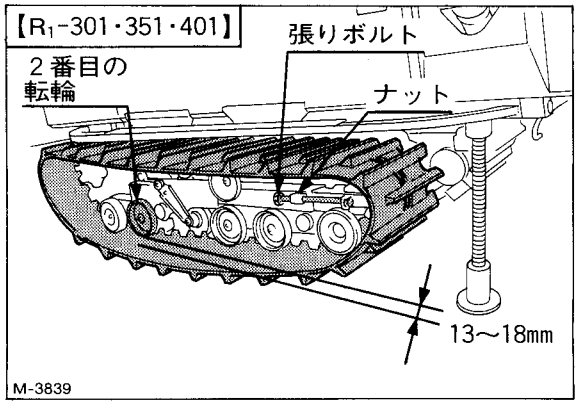
■クローラの張り調整

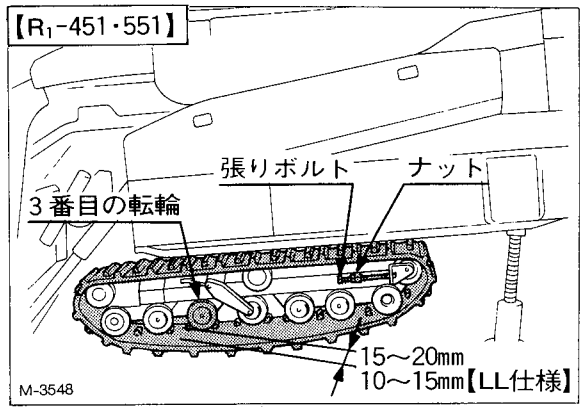
❶クローラ張り用ナットをゆるめて，張りボルトを締めます。

❷フレーム後部をジャッキアップし，前から2番目の転輪(R_1-451·551は3番目の転輪)とクローラのすき間を調整します。

❸左右同じ張り具合になっているか確認してください。

R_1-301·351·401	2番目の転輪とクローラとのすき間	13～18mm以内
R_1-451·551	3番目の転輪とクローラとのすき間	15～20mm以内
		10～15mm以内【LL仕様】





■クローラ交換時の組付け注意

クローラを交換するときは，下表のクローラはオフセットしておりますので，図示のとおり組付けてください。(R_1-351·401 の W 形，LL 形，R_1-301·351·401·M仕様のS形(幅400)，R_1-451·551はすべてオフセットしておりません。)

型式	R_1-301	R_1-351, 401	R_1-301		R_1-351, 401
モンロ	なし		なし	付	付・なし
クローラ	S形(幅350)	S形(幅400)	L形(幅420)	L形(幅450)	
グレンタンク	右 左	オフセットなし	右 左		
ホッパ	右 左				

M-4028

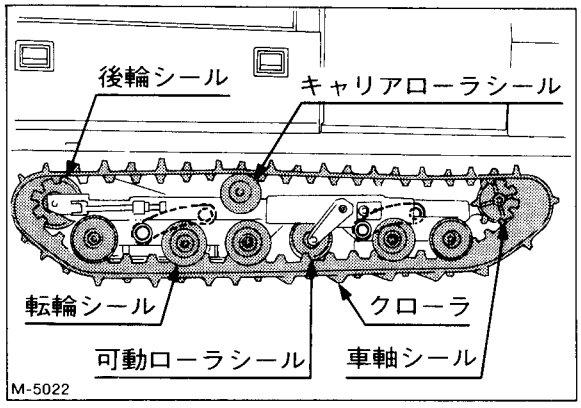
■足回り部品の定期交換

(1)足回り部品は500時間目又は2年ごとに交換してください。

(2)交換箇所

- 車軸スプロケット·シール関係
- 転輪·シール関係

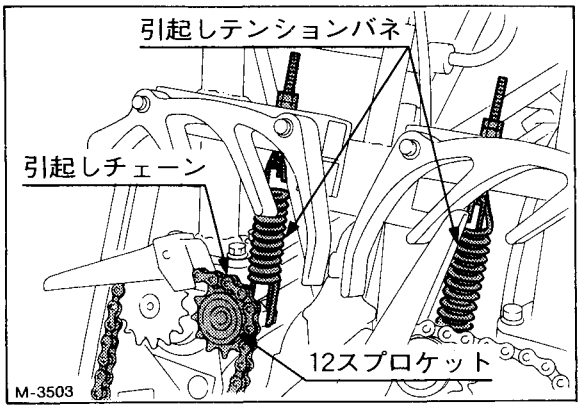
  [R_1-451, 551はオイルバス式です。分解時，約100cc給油してください。使用オイルは，クボタ純オイルM90又はM80B又はUDT]
- キャリアローラ·シール関係
- 後輪·シール関係
- 可動ローラ·シール関係

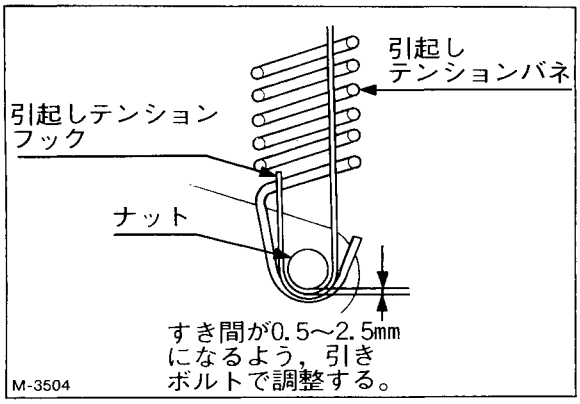


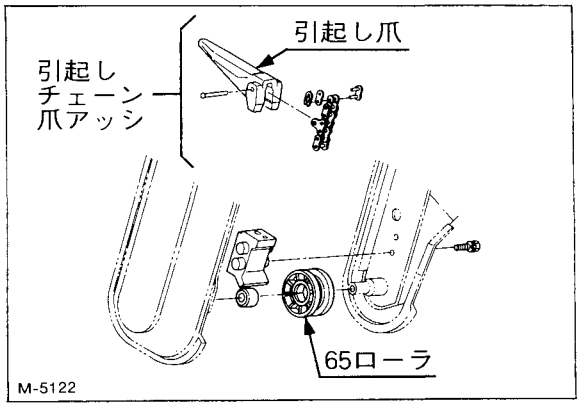
■各部チェーンの張り調整

◆引起しチェーン

すき間	0.5～2.5mm





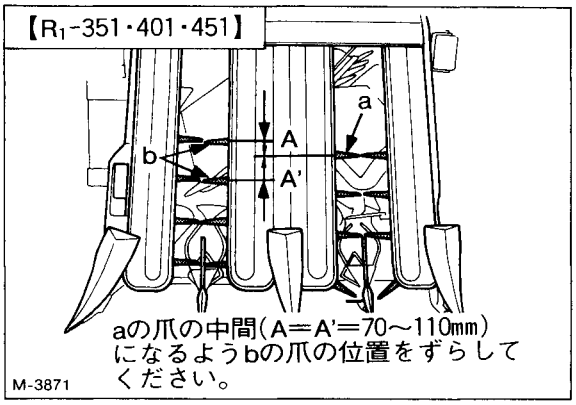


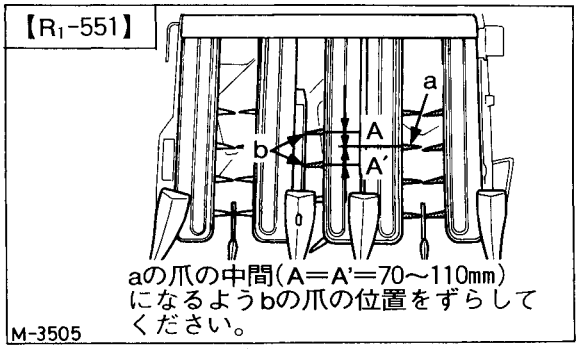
品　　名	品　　番
引起しチェーン爪アッシ	52200-5401-0
引起し爪	56713-5422-0
12スプロケット	56713-5414-0
65ローラ	52200-5416-0

補　足

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン２リンク(25.4mm)を外してください。

＊引起し爪の左右が接触しないよう，下図のように引起しチェーンを組付けてください。

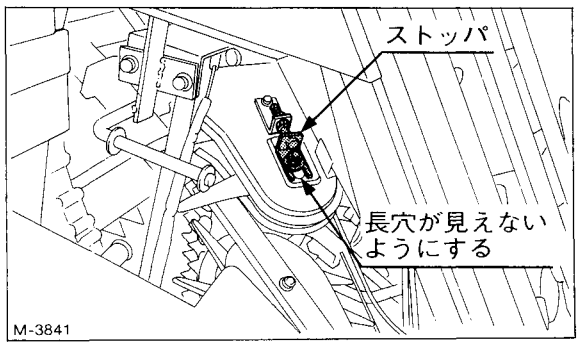


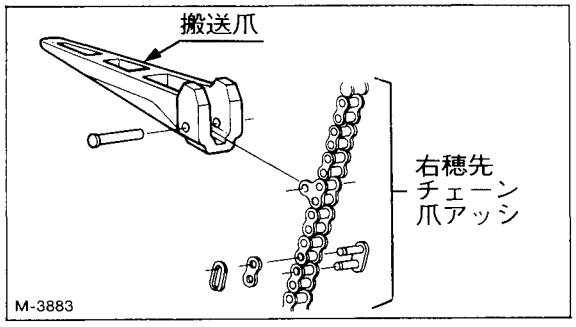


＊間違って組付けると，爪起立時，左右の爪が当り破損します。

◆右穂先チェーン・左穂先チェーン・中穂先チェーン【R1-551】

自動テンションになっていますから，チェーンが伸びて長穴が見えてきますと，ストッパを移動して，長穴と軸が軽く当るように調整してください。





品　　名	品　　番
右穂先チェーン爪アッシ	56713-6703-0【R_1-301】
	52800-6703-0【R_1-351·401·451】
	52200-6703-0【R_1-551】
左穂先チェーン爪アッシ	56713-6501-0【R_1-301】
	52800-6501-0【R_1-351·401·451】
	52200-6501-0【R_1-551】
中穂先チェーン爪アッシ	52200-6905-0【R_1-551】
搬送爪	56713-6523-0

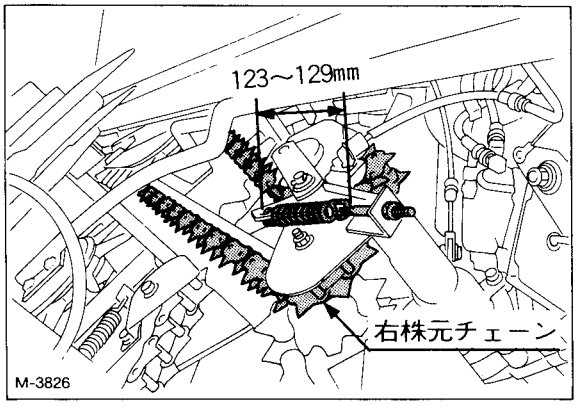
補　足

＊チェーンが伸びて自動テンションがきかなくなったら，チェーン２リンク(25.4mm)を外してください。

◆右株元チェーン

＊【R_1-301】

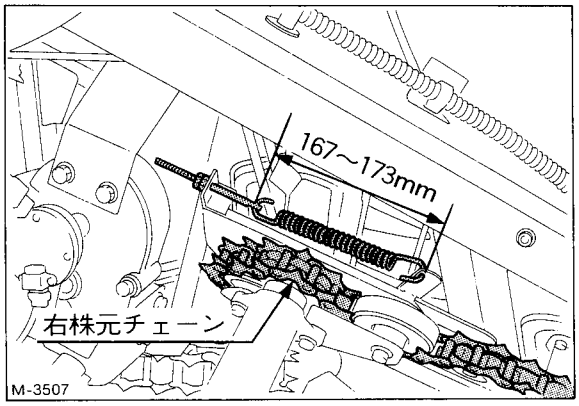
スプリング取付け長さ	123～129mm



品　　名	品　　番
右株元チェーン	56713-6360-0

＊【R_1-351·401·451·551】

スプリング取付け長さ	167～173mm



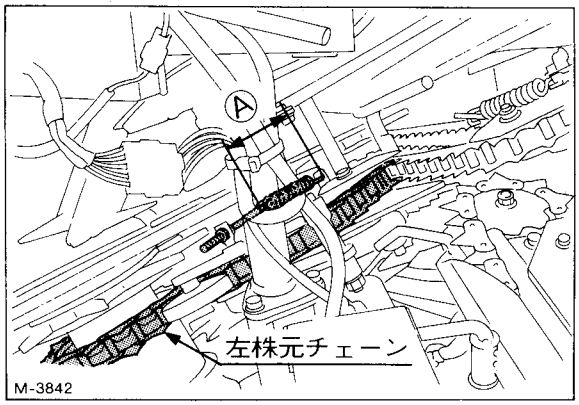
品　　名	品　　番
右株元チェーン	52800-6360-0【R_1-351·401·451】
	52200-6360-0【R_1-551】

補　足

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ(33mm)を外してください。

◆左株元チェーン

機種名	スプリング取付け長さⒶ
【R_1-301·551】	123～129mm
【R_1-351·401·451】	128～132mm



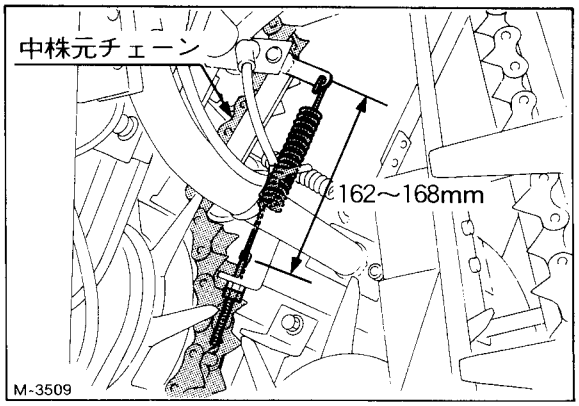
品　　名	品　　番
左株元チェーン	52500-6320-0【R_1-301】
	52800-6320-0【R_1-351·401·451】
	52200-6320-0【R_1-551】

補　足

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ(33mm)を外してください。

◆中株元チェーン【R_1-551】

スプリング取付け長さ	162～168mm

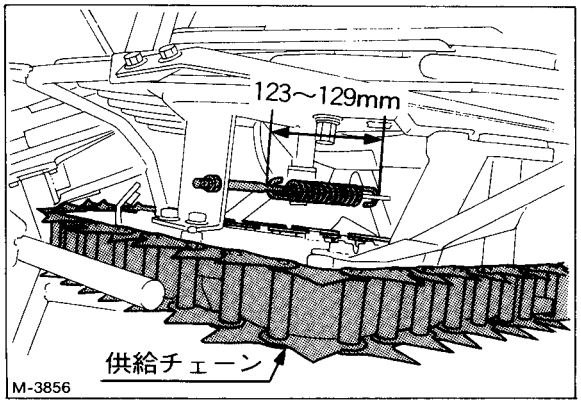


品　　名	品　　番
中株元チェーン	52200-6910-0

◆株元供給チェーン

＊【R_1-301】

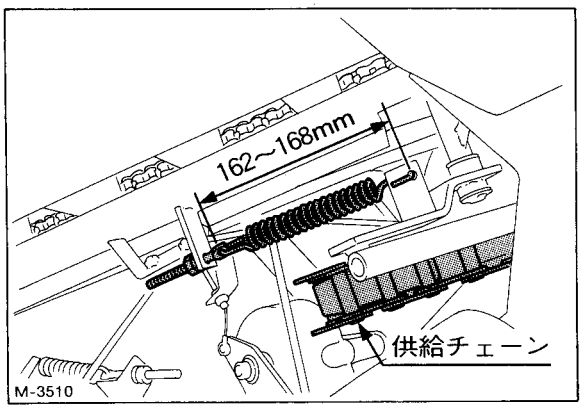
スプリング取付け長さ	123～129mm



品　　名	品　　番
株元供給チェーン	56713-6610-0

＊【R_1-351・401・451・551】

スプリング取付け長さ	162～168mm



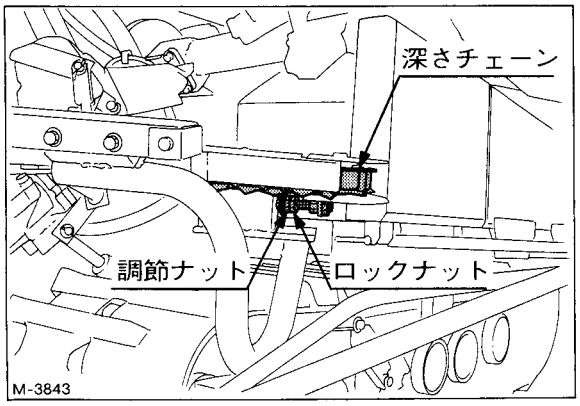
品　　名	品　　番
株元供給チェーン	56713-6610-0

補　足

＊チェーンの張り代がなくなったとき，チェーン半コマ(33mm)を外してください。

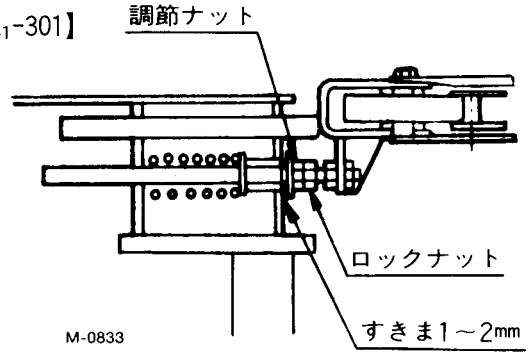
◆深さチェーン

すき間	1～2mm

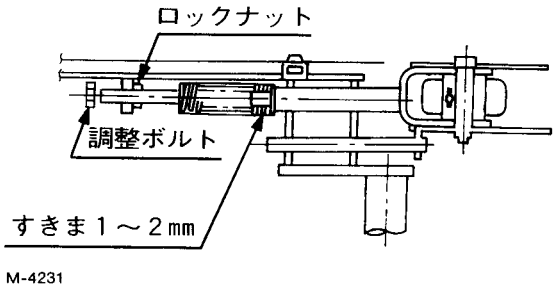


品　　名	品　　番
深さチェーンアッシ	56713-7130-0【R_1-301】
	52200-7130-0【R_1-351・401・451・551】

＊【R_1-301】

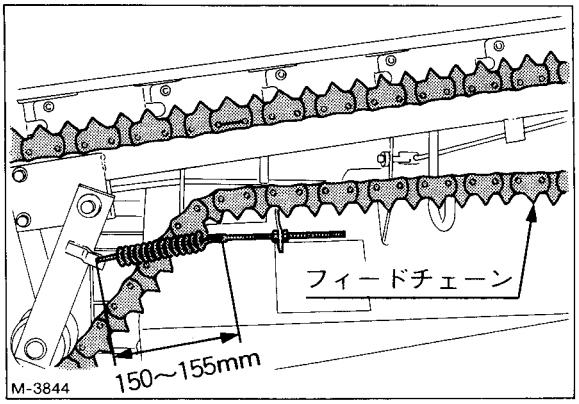


＊【R_1-351・401・451・551】



◆フィードチェーン

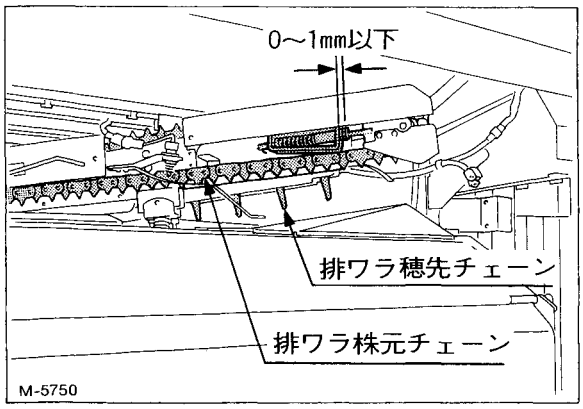
スプリング取付け長さ	150～155mm

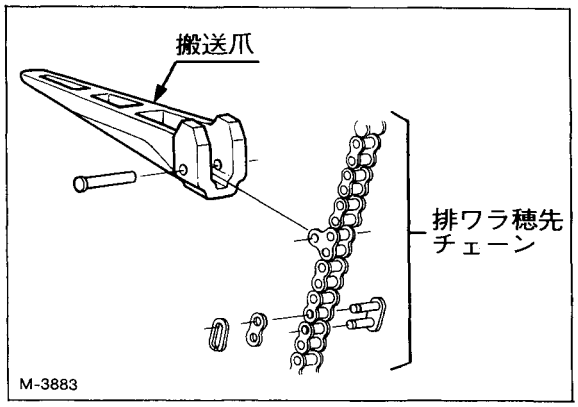


品　　名	品　　番
フィードチェーン	53871-4211-0【R_1-301・351・401】
	53962-4225-0【R_1-451】
	53935-5341-0【R_1-551】

◆排ワラ株元チェーン，排ワラ穂先チェーン

カラーの出代	0～1mm以下





品　　名	品　　番
排ワラ株元チェーン	53971-4310-0
排ワラ穂先チェーン	53961-4410-2
搬送爪	53961-4421-0

■縦スクリュ軸の組付け

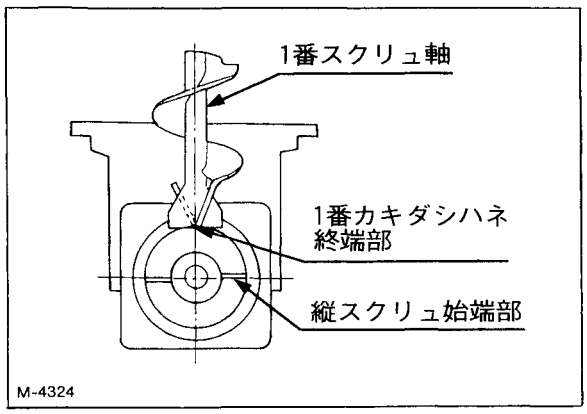
◆縦スクリュ組付け時の注意事項

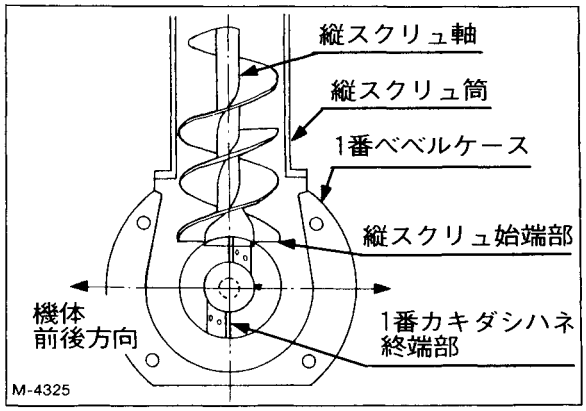
縦スクリュを抜き，再度組付けるときは，スクリュの位置が下記の位置になるように組付けてください。

❶1番カキダシハネ終端部が，機体前後方向に垂直になるようにセットします。

❷縦スクリュ始端部が，機体前後方向に平行になるようにセットします。

❸組付け後必ず縦スクリュを1回転させて，干渉しないことを確認してください。





■刈刃の調整・交換

注　意

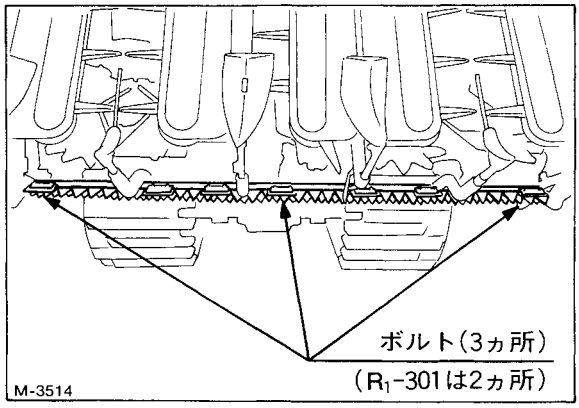
＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。

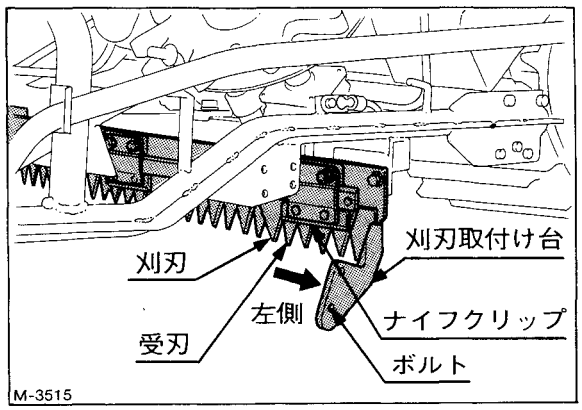
＊危険ですので，手袋をして，2人で刈刃の両端をもって，着脱作業をしてください。

◆刈刃の取外し

❶刈刃取付け台のボルトを外して，刈刃が垂直になるまで回動します。

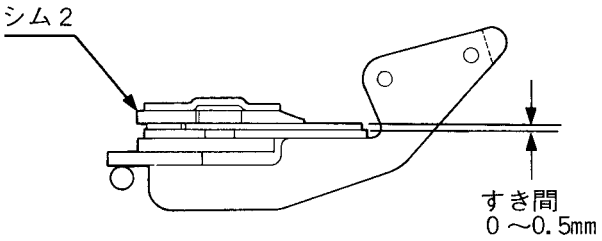
❷左側に移動して，止めピンから外します。





◆刈刃の調整

❶受刃台からナイフクリップを取外します。
❷泥などを取除きます。
❸刈刃と受刃のすき間が０～0.5㎜になるよう調整し，刈刃が手で動くようにしてください。（シム２の増減で調整します。）



M-3516

◆刈刃の取付け

❶刈刃を垂直にして，右側の止めピンから差し込み，中央・左側の順に穴に合せてから，刈刃全体を右側に移動させます。
❷刈刃取付け台の前を持上げ，左右のナイフヘッドとローラの位置を合せてから，ボルト穴まで持上げてください。

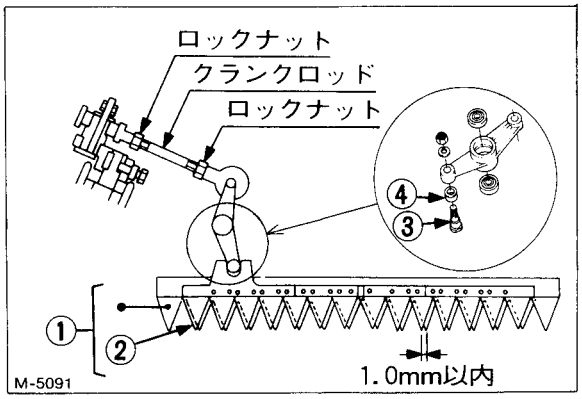
補　足

＊刃が摩耗すると刈跡が見苦しくなったり，刈取り搬送姿勢が悪くなって無駄な動力を費やしますので，刈刃全体を交換してください。

◆刈刃クランクロッドの調整

❶刈刃の左右を内側へ最大移動するところで，刈取り部の回転を停止します。
❷クランクロッドの左右のロックナット２個をゆるめます。
（左・右ネジがあるので注意してください。）
❸クランクロッドを回して，刈刃と受刃のセンタずれが1.5㎜以内（R_1-301は1.0㎜以内）になるよう，調整してください。
❹R_1-351･401･451･551の機種は刈刃中央部で，左右の刈刃のすき間が４～６㎜になっていることを確認してください。すき間が少なければ，再度❸の調整をして，４～６㎜になるように調整してください。
❺ロックナットを締付けます。
ネジロックを塗布してください。

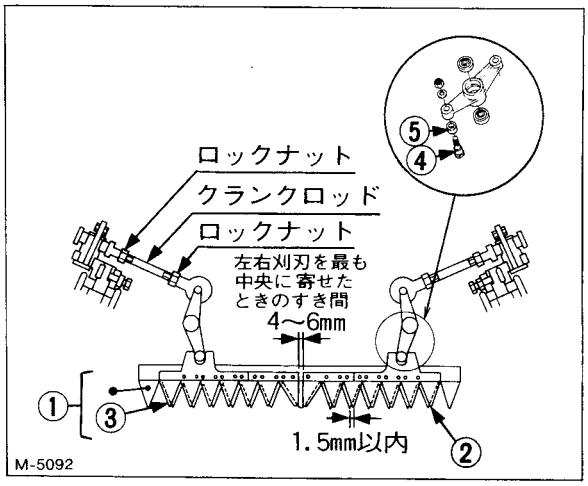
＊【R_1-301】



M-5091

	品　　名	品　　番
①	刈刃アッシ	52500-5901-0
②	刈刃コンプ	52500-5920-0
③	刈刃クランクピン	52200-5817-0
④	刈刃クランクローラ	52200-5818-0

＊【R_1-351･401･451･551】



M-5092

	品　　名	品　　番
①	刈刃アッシ	52800-5901-0【R_1-351･401･451】
		52200-5901-2【R_1-551】
②	刈刃左コンプ	52200-5920-3
③	刈刃右コンプ	52800-5930-0【R_1-351･401･451】
		52200-5930-3【R_1-551】
④	刈刃クランクピン	52200-5817-0
⑤	刈刃クランクローラ	52200-5818-0

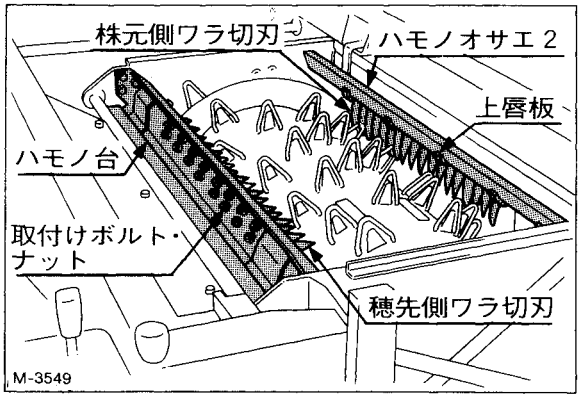
■ワラ切刃の交換

注 意

＊刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。

＊危険ですので,手袋をして,２人で刈刃の両端をもって，着脱作業をしてください。

ワラ切刃はカセットで，こぎ室フレームから取外すことができます。



品　　名	品　　番
株元側ワラ切刃	53567-1319-0
穂先側ワラ切刃	53843-2123-0

◆穂先側のワラ切刃の外しかた

❶こぎ室カバーを開けます。

❷ワラ切刃取付けボルト･ナットを外します。

補 足

＊こぎ室カバーを開けるときは，グレンタンクのアンローダを上げて行なってください。

◆株元側のワラ切刃の外しかた

❶こぎ室カバーを開けます。

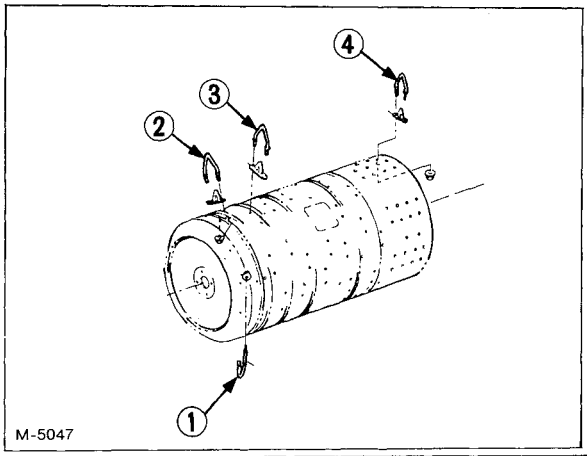
❷ハモノオサエ２の取付ボルトを外します。

❸ハモノオサエ２を上唇板から外します。

❹ワラ切刃取付けボルトを外します。

補 足

＊ワラ切刃を取付けるときは,取付け方向を確認して，正しく取付けてください。



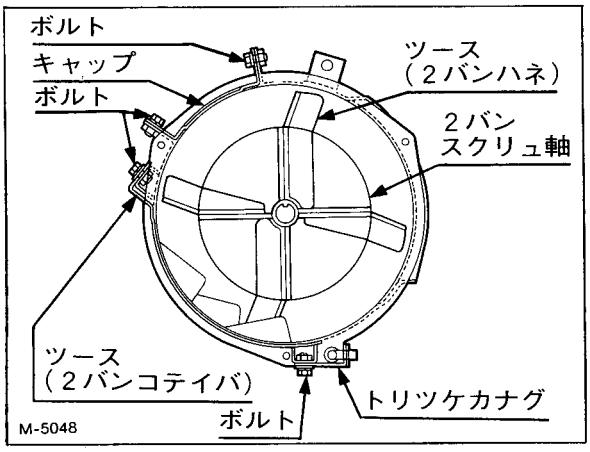
No.	品　　名	品　　番
①	ダイ１セイソシ	53582-7212-0
②	ダイ１ホキョウシ	53821-2244-0
③	ダイ２ホキョウシ	53821-2247-0
④	ナミハ	53821-2248-3

■ツースの交換

〔グレンタンク仕様〕グレンタンクオープン(85ページ参照)を行なってから，以下の操作をしてください。

◆ツース(2バンコテイバ)の交換

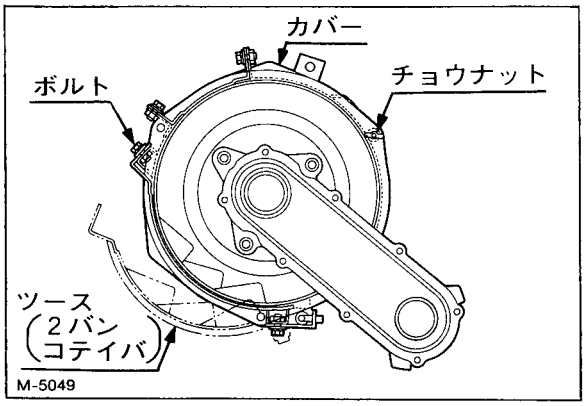
❶ツース(2バンコテイバ)の取付けボルト(4本)を外し，ツース(2バンコテイバ)を外してください。
❷キャップの取付けボルト(4本)を外して，キャップを外してください。
❸新しいツース(2バンコテイバ)を，トリツケカナグに仮りどめ(ボルト2本)した後，2バンショリケースに沿わせてください。
❹キャップ点検窓からツース(2バンコテイバ)が，ツース(2バンハネ)の中央にくるよう調節してボルト(4本)を締めてください。
❺キャップを取付けてください。

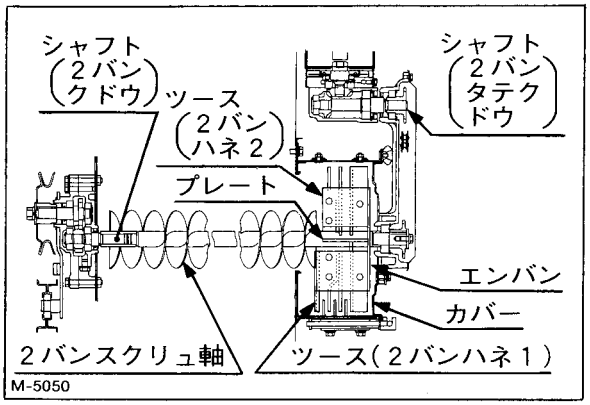


❻組付け後，必ず2バンスクリュ軸を1回転させて，干渉しないことを確認してください。

◆ツース(2バンハネ)の交換

❶ツース(2バンコテイバ)の取付けボルト(2本)を外し，ツース(2バンコテイバ)を下げてください。
❷2バンショリケースのカバーを取付けているチョウナット(3ヶ)を外し，2バンスクリュ軸を手前に抜いてください。
❸ツース(2バンハネ1，2)の取付けボルト(3本)を外し，ツース(2バンハネ1，2)を外してください。
❹新しいツース(2バンハネ1，2)を，2バンスクリュ軸のエンバンとプレートの部分に当てて取付けボルト(3本)を締めてください。
❺シャフト(2バンクドウ)，シャフト(2バンタテクドウ)のスプライン部にグリースをぬってください。
❻2バンスクリュ軸を押込んで組付けてください。
❼カバーのチョウナットを締めてください。
❽ツース(2バンコテイバ)の取付けボルト(2本)を締めてください。
❾組付け後，必ず2バンスクリュ軸を1回転させて，干渉しないことを確認してください。





品　　名	品　　番
ツース(2バンコテイバ)	53971-3136-5
ツース(2バンハネ1)	53971-3133-2
ツース(2バンハネ2)	53971-3134-2

各部開閉のしかた

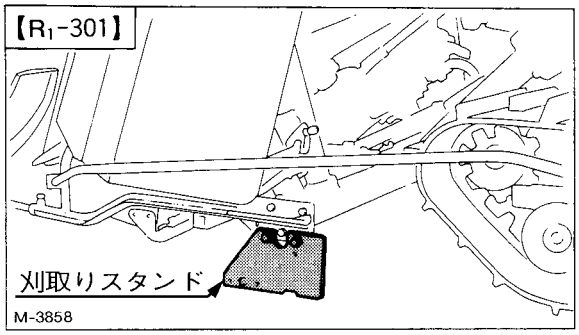
“刈取部の脱着”“エンジンルームのフルオープン”“グレンタンクオープン”“フルアップこぎ胴”“カッタオープン”が容易にできますので，**機械内部の点検整備**がやりやすくなりました。

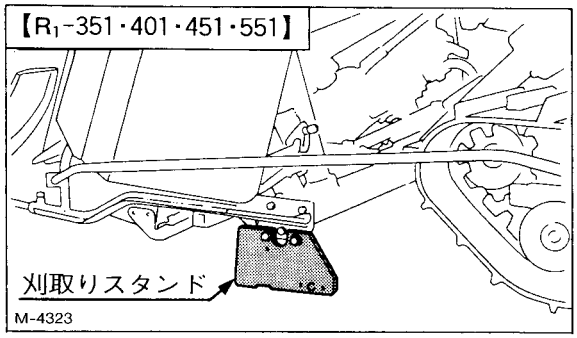
注　意

＊各部の開閉を行なうときは，必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊オーバヒート等でエンジンカバーを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジンを停止する。
❷エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
❸点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
エンジンが冷えてないとき，エンジンカバーを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部等より熱湯が吹出し，あるいは高温部に接触してヤケドする恐れがあります。

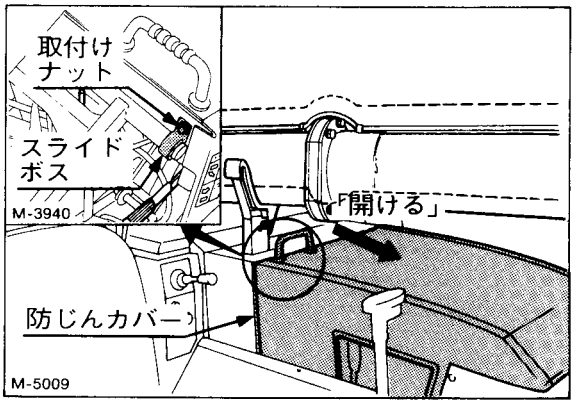
■刈取り部の脱着

❶刈取りスタンド左・右を図のように付けてから，刈取部を地面まで下げます。
（刈取りスタンドの前後の向きは，銘板を参照ください。）

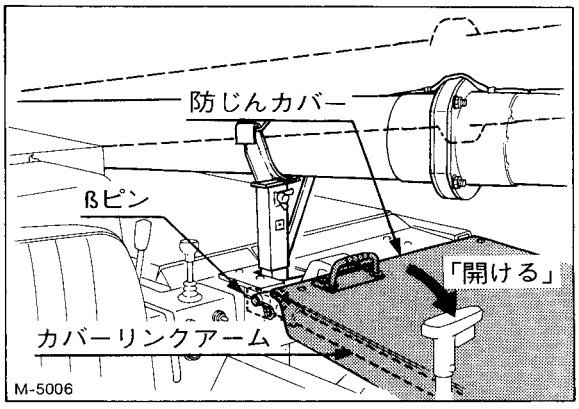




❷防じんカバーを開け，次に
＊【R1-301，351，401】
スライドボスの取付けナット（４個）を外してください。



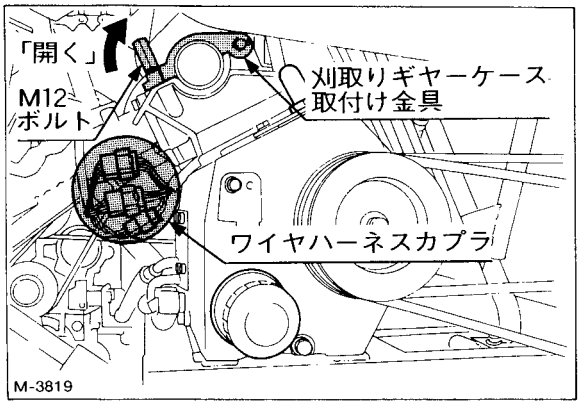
＊【R1-451，551】
βピンを抜いて，カバーリンクアームを外してください。



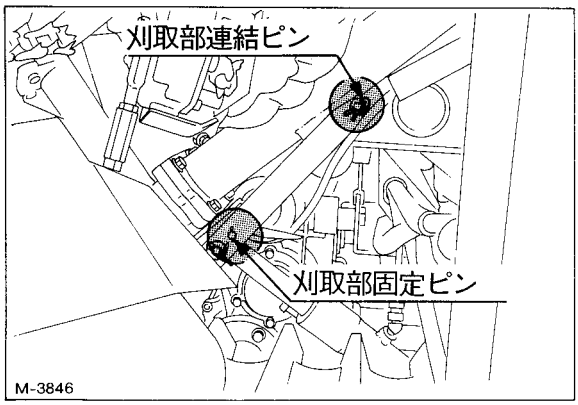
補　足
＊βピンを横に回転させると，着脱が容易にできます。

❸＊通常の点検整備

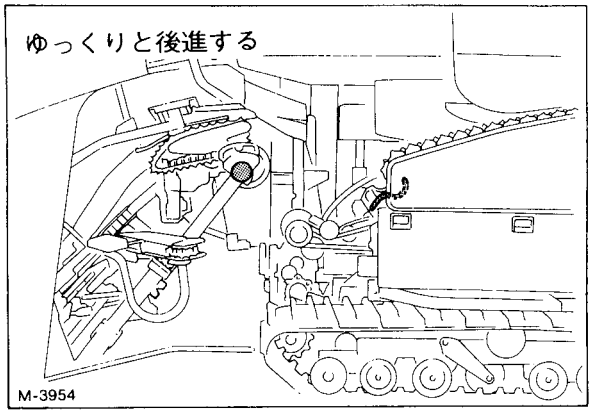
○刈取部固定ピン(下側)を外します。
○ワイヤハーネスのカプラ(３コ)を引抜きます。
○注油ホースを外します。
○M12ボルト２本を外し**“刈取りギヤーケース取付け金具”**を開き，刈取部を前に倒して**“刈取りギヤーケース”**を浮かします。



＊刈取部を完全に分離する場合
（必要な場合のみ）
上記の作業に加えて
○刈取り部連結ピン(上側)を外します。
○刈取り駆動ベルトを外します。



❹エンジンをかけ**ゆっくり後進**すると刈取部が外れ，内部の点検整備が容易にできます。



❺再び刈取部を装着するときは，逆の手順でゆっくり取付けてください。

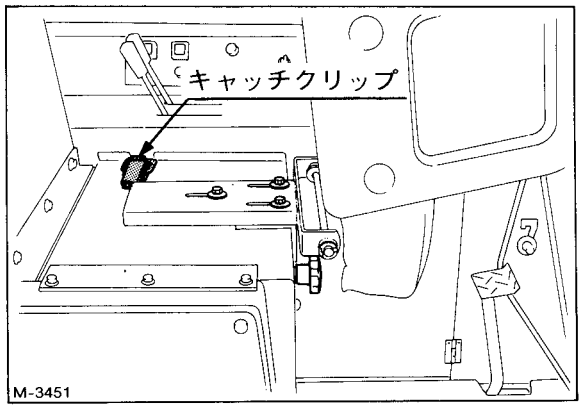
＊刈取部を完全に分離した場合
昇降シリンダを縮めた状態にして，ゆっくり前進し，まず**刈取部連結ピン**を取付けます。
そしてさらに前進し，**刈取部固定ピン**を取付けます。

注　意

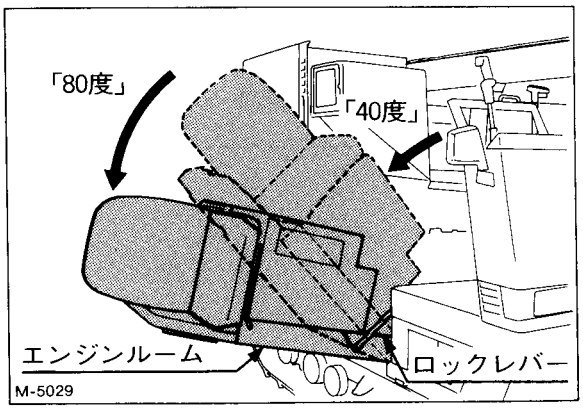
＊エンジン回転は2000回転／分以上とし，副変速は“倒伏”にして，シフトレバーは最低速で行なってください。
＊平たんなコンクリートの上で作業してください。

■エンジンルームのフルオープン

❶シートフレーム部のキャッチクリップを外します。



❷ロックレバーを上にあげ，エンジンルームを外側に倒して，エンジンルームを開放します。
エンジンルームは安全のため，40度開放で一度止まります。さらに80度までオープンするためには，ロックレバーを再度，上に上げると開きます。

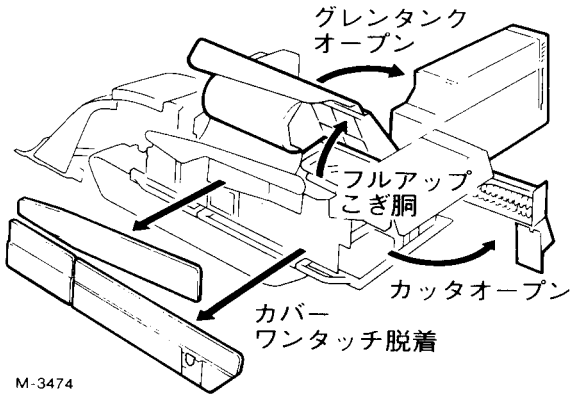


◆フルアップこぎ胴　(87ページ参照)

◆グレンタンクオープン【グレンタンク仕様】　(85ページ参照)

◆カッタオープン　(47ページ参照)

◆カバーワンタッチ脱着



■グレンタンクオープン

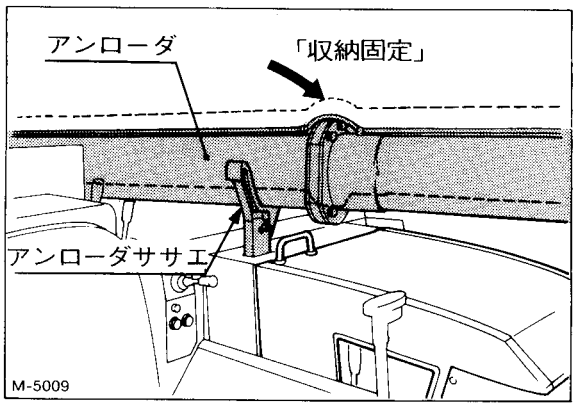
注　意

＊グレンタンクの開放は必ず空にして行なってください。

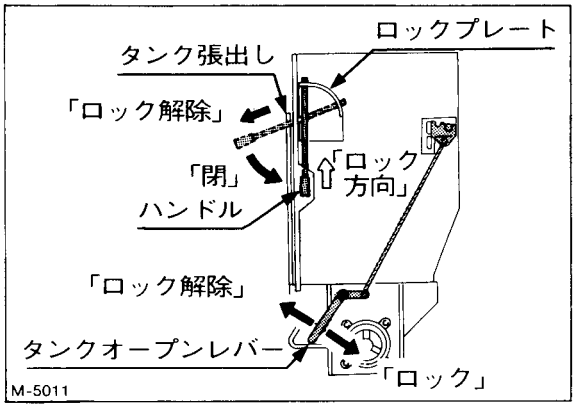
＊シフトレバーを“停止”，刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーを“切”にしてください。

❶グレンタンクに穀粒が入っている場合は，**“アンローダが詰まった場合”**(45ページ参照)の項を参照して，グレンタンクを空にしてください。

❷アンローダをアンローダササエに収納固定してください。

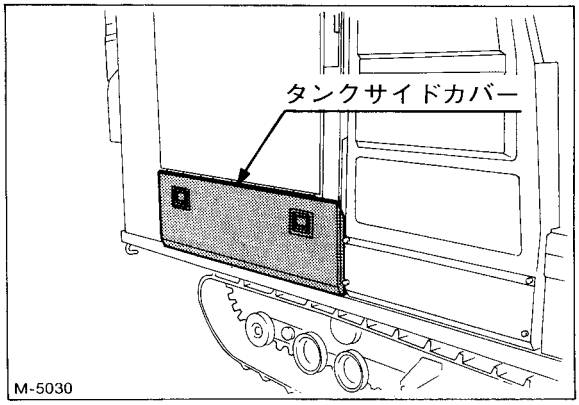


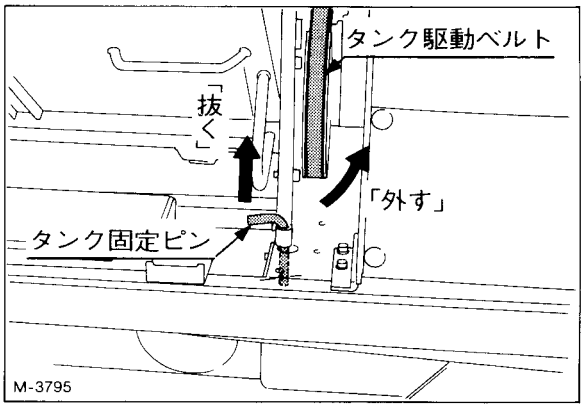
❸タンク張出しを閉じてください。



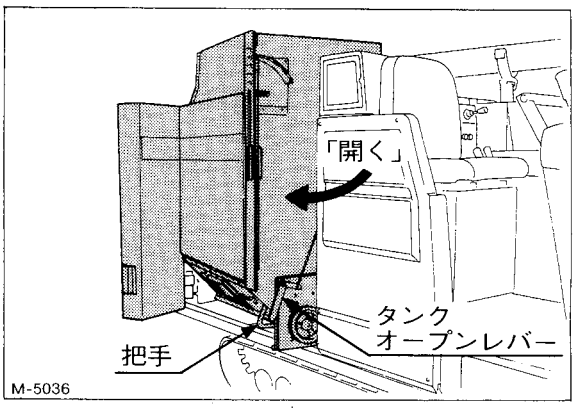
(R_1-551はリモコン式です。18ページ参照)

❹タンクサイドカバーを外し，ベルトを外して，タンク固定ピンを抜いてください。

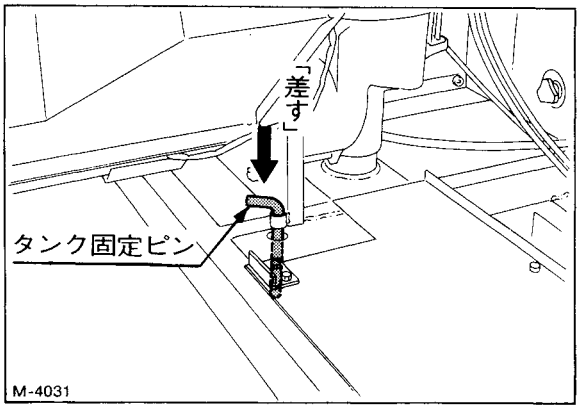




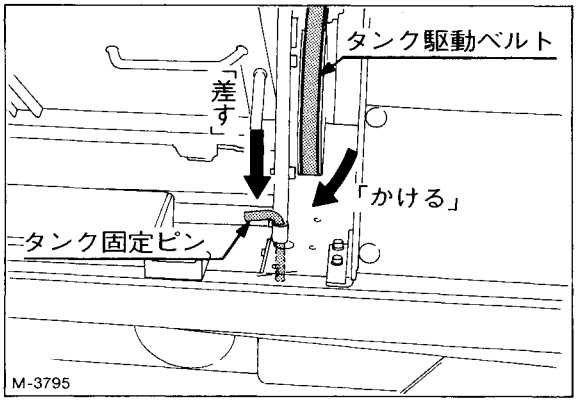
❺タンクオープンレバーを引き，把手をもってグレンタンクを開いてください。



❻グレンタンクを開いた後は，タンク固定ピンで固定してください。

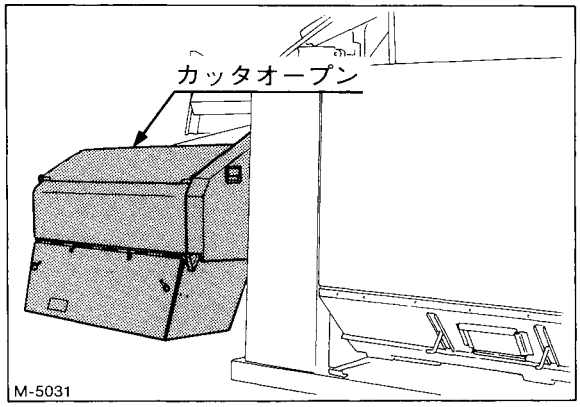


❼グレンタンクを閉じるときは，前述の逆の順番で確実にグレンタンクを固定し(タンク固定ピン)，ベルトをかけ忘れないようにしてください。



重　要

＊カッタが開放されているときは，グレンタンクを開放しないでください。



◆スクリュ組付け時の注意事項

＊【水平部アンローダ】

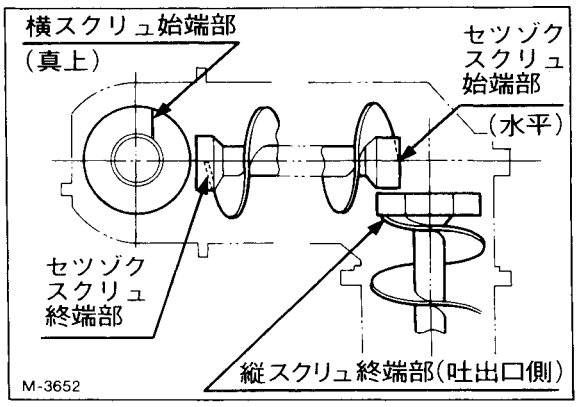
水平部アンローダを分解し，再度組付けするときは，スクリュの位置が下記の位置になるように組付けてください。(90°遅れた位置)

❶縦スクリュ終端部が吐出口側にくるようにセットします。(後方より見て左側)

❷セツゾクスクリュ始端部が水平になるように組付けます。(後方より見て向う側)

❸セツゾクスクリュ終端部が水平になるようにセットします。(後方より見て向う側)

❹横スクリュ始端部が真上になるように組付けます。



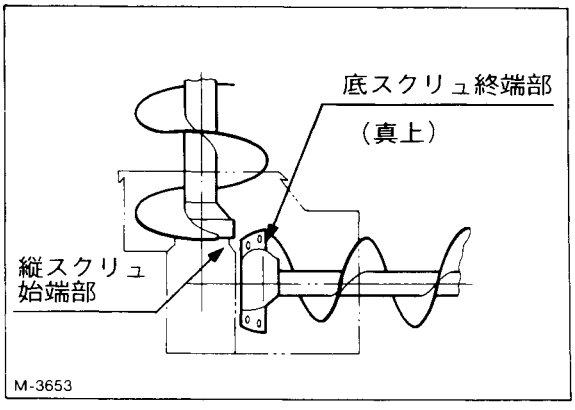
＊【グレンタンク底スクリュ】

グレンタンクの底スクリュを抜き，再度組付けするときは，スクリュの位置が下記の位置になるように組付けてください。(90°遅れた位置)

❶底スクリュ終端部が真上になるようにセットします。

❷縦スクリュ始端部が水平になるようにセットします。(側方より見て手前側)

❸上記の位置関係が狂わないように組付けてください。



■フルアップこぎ胴

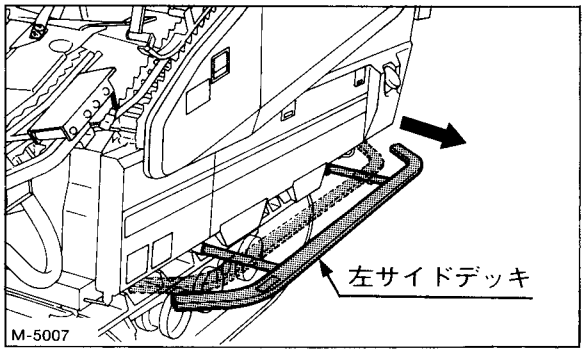
注　意

＊左サイドデッキは刈取り作業時や走行時は，必ず収納してください。
＊こぎ胴をフルアップしたときは，必ずオープンストッパで固定してください。

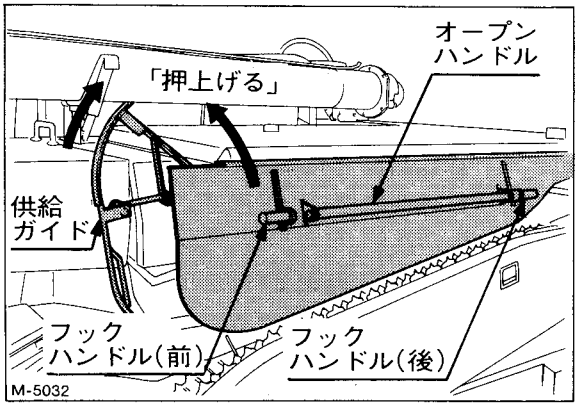
(1)レールに稈が詰まったときや，こぎ室内にワラくずが詰まったときの解除に，こぎ胴をオープンすると便利です。
(2)こぎ胴受アミを脱着するときにも，こぎ胴をオープンして行ないます。

◆こぎ胴オープンのしかた

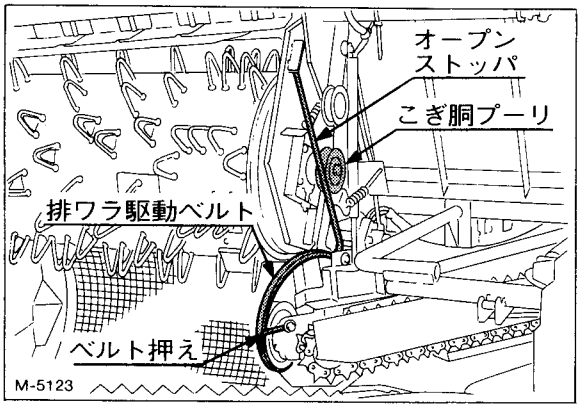
❶左サイドデッキを出して上に乗ります。



❷供給ガイドを上げます。【R_1-301】
❸フックハンドル前・後を上に押上げます。オープンハンドルを持って，こぎ胴を上に押上げます。



❹排ワラ駆動ベルトをこぎ胴プーリから外し，オープンストッパをセットします。



◆こぎ胴セットのしかた

❶供給ガイドを**“上”**げます。【R_1-301】
❷オープンストッパを外し収納します。排ワラ駆動ベルトをこぎ胴プーリにセットします。
❸オープンハンドルを両手で持って，こぎ胴を下へ押下げます。
❹フックハンドルが**“閉”**の位置にあることを確認してください。
❺フックハンドルが**“閉”**の位置になければ，手で押込んで必ず**“閉”**の位置にセットしてください。
❻排ワラ駆動ベルトが確実にセットされているか確認してください。

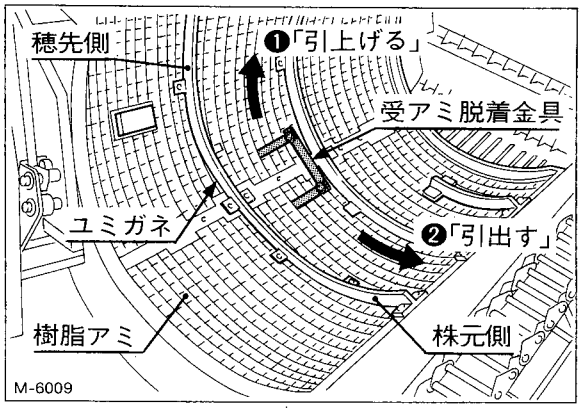
重　要

＊フックハンドルが“閉”の位置にセットされていない状態で刈取り作業をすると，こぎ室フレームが変形することがあります。
＊供給ガイドが“下”がった状態でこぎ胴セットすると，変形することがあります。【R_1-301】

■こぎ胴受アミの脱着のしかた

◆外しかた

❶こぎ胴をオープンしてください。
❷付属部品の中にある受アミ脱着金具を，受アミフレームに引掛けて受アミを引上げたのち，手前上方に受アミを引出します。



品　名	品　番
樹脂アミ	53881-2114-0【R_1-301・351・401】
	53971-2131-0【R_1-451・551】

重　要

＊こぎ胴をオープンするときには，グレンタンクのアンローダを上げ，必ずオープンストッパで固定してください。【グレンタンク仕様】

＊受アミ交換のとき，同時にユミガネ及び取付けボルトも交換してください。

◆受アミの調整のしかた

（樹脂アミを長く使っていただくために）

受アミは，長く使えるように180°回転させて使用することができます。受アミの一部が摩耗したとき，次の手順で部品を外して取付け位置を変えて，フレームを180°回転させ受アミを取付けてください。

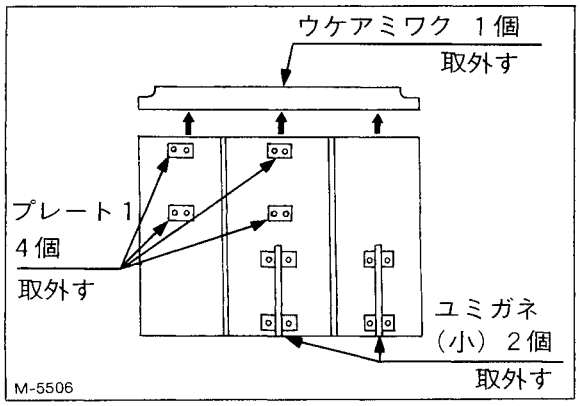
＊R_1-451・551の場合

❶受アミから次の部品を取外します。

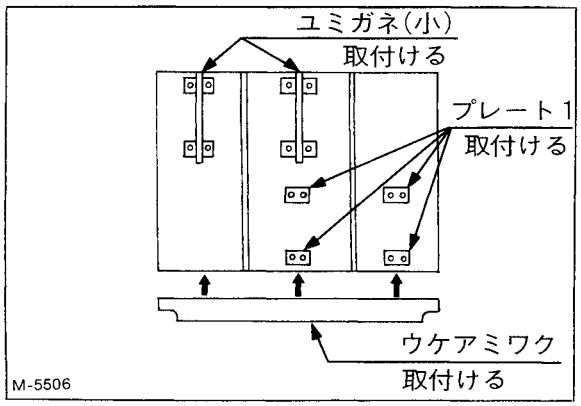
＊ウケアミワク……1個

＊プレート1……4個

＊ユミガネ(1)……2個



❷外した部品を次のように取付けます。



❸180°回転させてコンバインに取付けます。

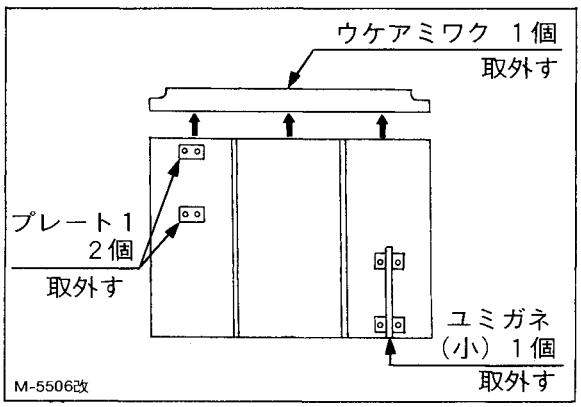
＊R_1-301・351・401の場合

❶受アミから次の部品を取外します。

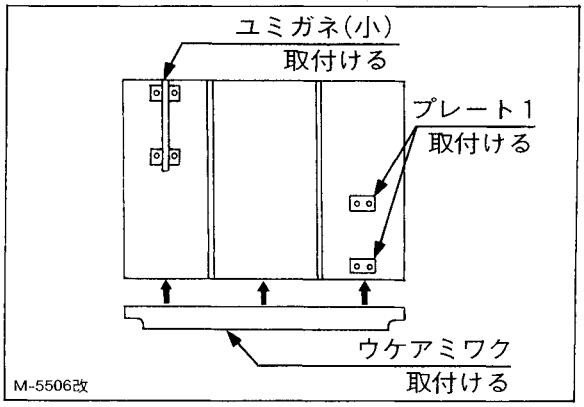
＊ウケアミワク……1個

＊プレート1……2個

＊ユミガネ(1)……1個



❷外した部品を次のように取付けます。

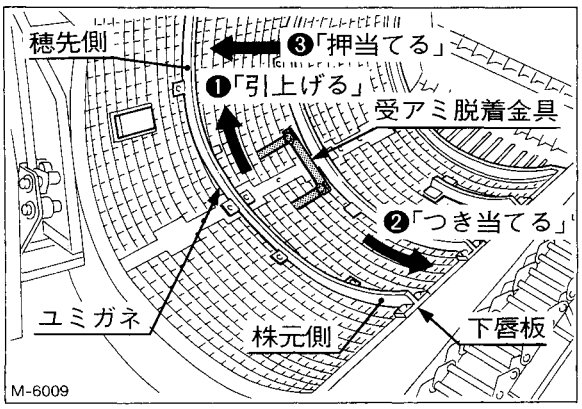


❸180°回転させてコンバインに取付けます。

◆取付けかた

❶受アミ脱着金具を受アミフレームに引掛けて受アミを引上げてください。

❷受アミの株元側を，下唇板につきあて，穂先側を受アミガイドに押当ててください。

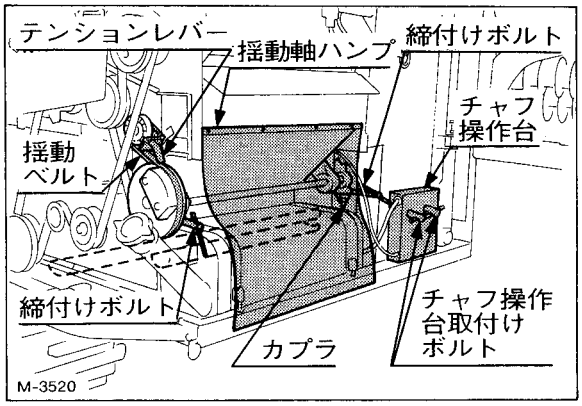


❸こぎ胴をセットしてください。

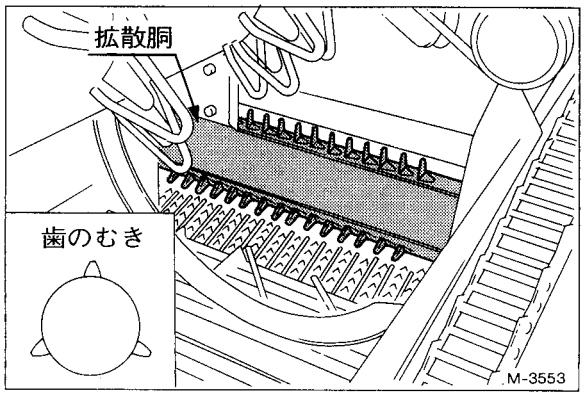
■シーブケーススライドの脱着

◆抜出しかた

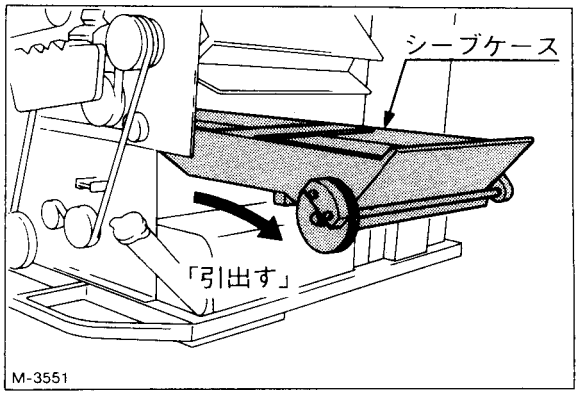
❶チャフ操作台取付けボルト(２本)を外します。
❷ハーネスのカプラを外します。
❸チャフ操作台をストローラックの上にのせます。



❹テンションレバーを外し，揺動ベルトを外します。
❺揺動軸受けの締付けボルト(２本)を外します。
❻拡散胴を回転させて歯のむきを図のようにします。



❼シーブケースを引出します。

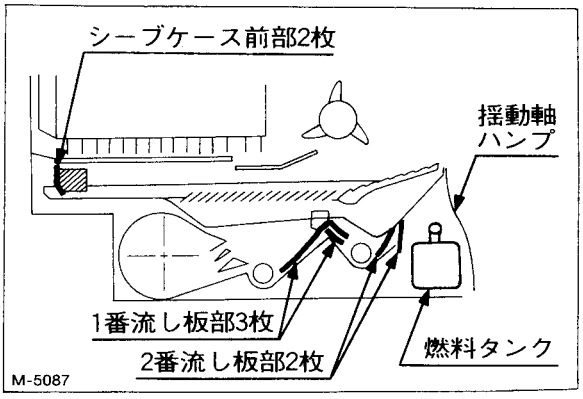


◆取付けかた

❶ストローラックの上にチャフ操作台をのせます。
❷拡散胴の歯のむきを合せます。
❸シーブケースをそう入します。

補　足

＊選別ハンプ１を前に曲げて，１番流し板を越してください。
＊２番ハンプを２番流し板の中に入れてください。
＊こぎ胴をオープンして(87ページ参照)，こぎ胴受アミを外し，フロントハンプを図のように組付けてください。



❹揺動軸受けの締付けボルトを締付けます。
❺揺動ベルトを入れて，テンションレバーをセットします。
❻チャフ操作台をボルトで締付けます。
❼ハーネスのカプラをはめます。
❽揺動軸ハンプが燃料タンクの後ろ側に垂れ下がるようにセットします。
❾こぎ胴受アミを取付け，こぎ胴をセットします。

機内の掃除のしかた

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終ったときには，機内の残留穀粒をきれいに取除いておきましょう。

注　意

＊清掃する場合は，回転物など大変危険ですので，必ず脱こくクラッチを切り，必ずエンジンを停止してから行なってください。

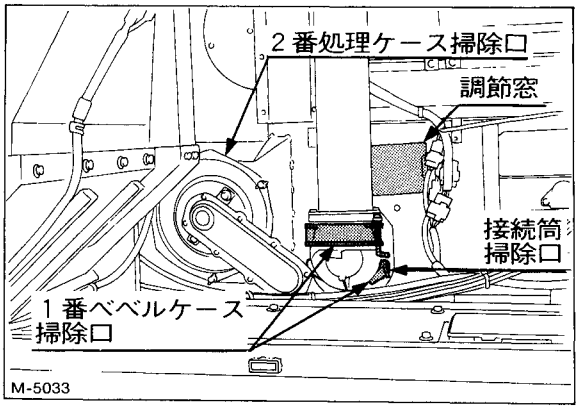
＊空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，グレンタンク及びカッタを閉じてください。

❶３分間空運転します。
❷カッタを開きます。(47ページ参照)
❸シーブケースを抜き出します。(89ページ参照)
❹カッタを閉じます。
❺こぎ胴をオープンします。(87ページ参照)
❻こぎ胴受アミを外します。(87ページ参照)
❼こぎ胴をセットします。
❽グレンタンクを開きます。(85ページ参照)
❾２番処理ケース掃除口・１番スクリュ掃除口・１番スクリュケース掃除口・２番スクリュケース掃除口・接続筒掃除口・１番ベベルケース掃除口を開き，掃除をしてください。
❿グレンタンクを閉じます。
⓫１～３分間の空運転の後，カッタ・こぎ室カバー・グレンタンクを開き，お手持ちの動力散布機や，コンプレッサ・ブロワなどを使って掃除してください。
⓬更に１分間の空運転を３～４回くり返すと，機内の残留穀粒が取除けます。
⓭ブロワなどを使って，もう一度機内を掃除してください。

補　足

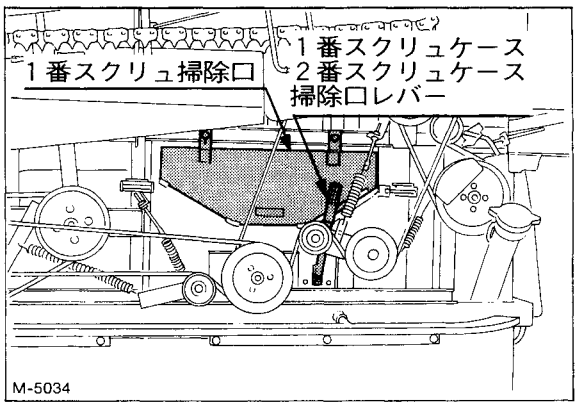
＊水洗するときは，電装品にできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊掃除口を閉じるときは，レバーを２・３回動かして掃除口に穀粒の付着がないことを確めてから閉じてください。
＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れていると穀粒が機内に付着して残留穀粒が多くなります。
＊掃除の後，掃除口には確実にフタをしておいてください。フタを忘れると穀粒が飛散します。

■掃除口の箇所



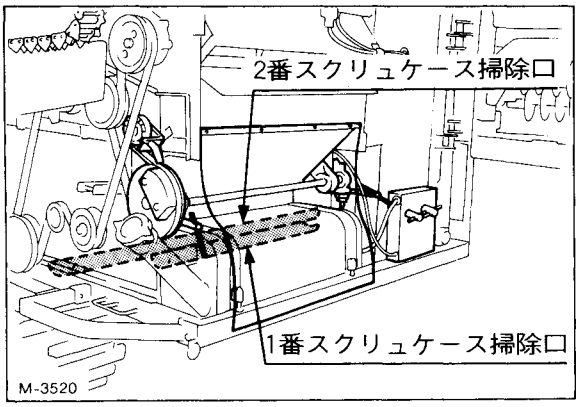
補　足

＊グレンタンクを開くときには，アンローダをアンローダ受けに収納してください。【グレンタンク仕様】



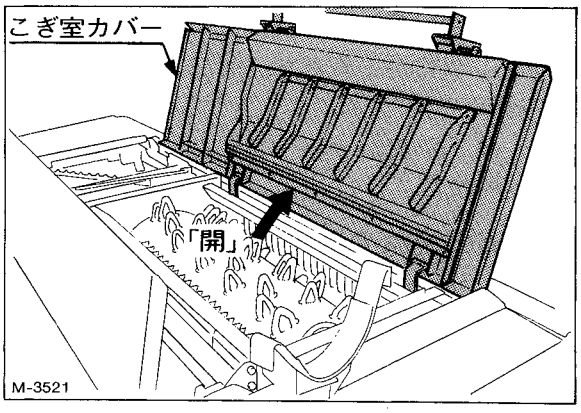
補　足

＊こぎ胴をオープンするときには，グレンタンクのアンローダを上げてください。【グレンタンク仕様】



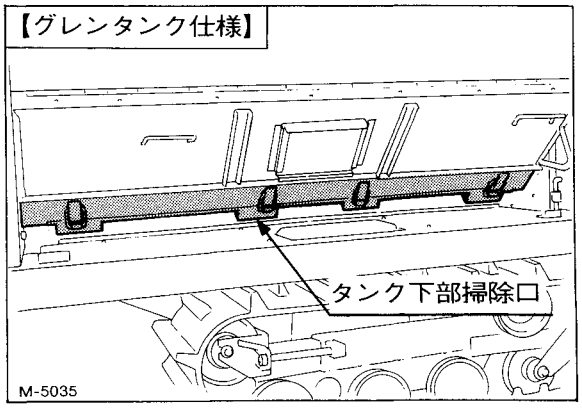
補　足

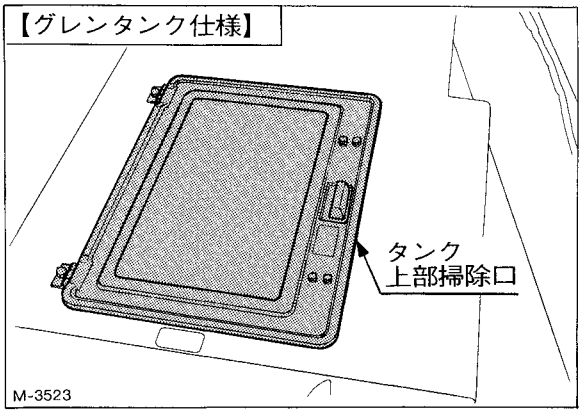
＊カッタをオープンするときには，タンクサイドカバーを外してください。

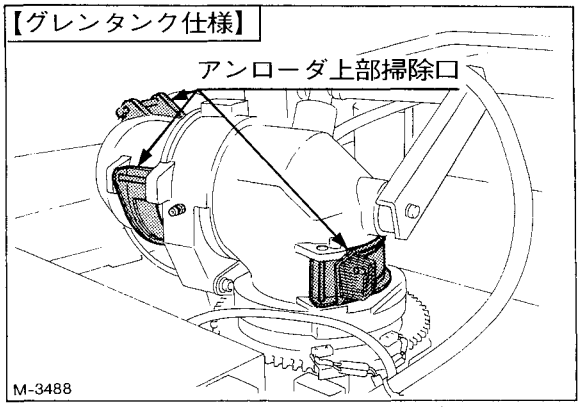


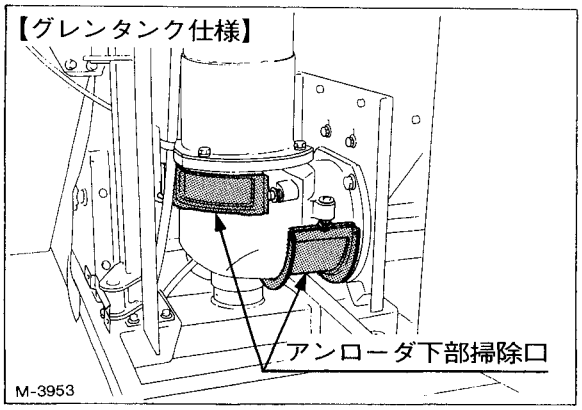
補　足

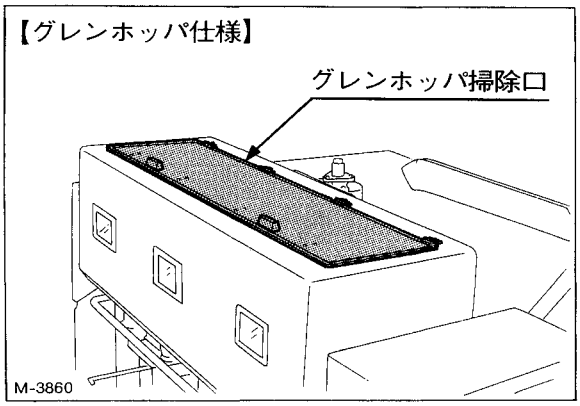
＊こぎ室カバーを開けるときには，グレンタンクのアンローダを上げてください。【グレンタンク仕様】











長期格納のしかた

(1)各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。

(2)各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やワラくずを，完全に取除いてください。

(3)各回転部分や摩擦しゅう動部分には，十分注油し，さびないよう配慮してください。

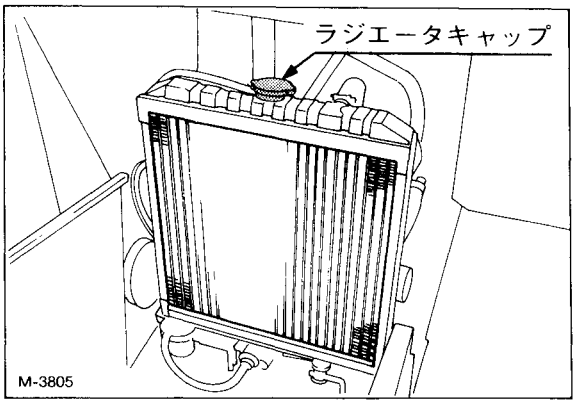
(4)各チェーンにも十分注油して，さびないよう配慮してください。

(5)各部に穀粒やワラくずが残っていると，ネズミの巣になったり配線部をかじられて，次の年の作業にさしつかえますからきれいに取除いてください。
（クボタ純正部品ラットガードを配線にスプレーすると効果的です。(115ページ参照)）

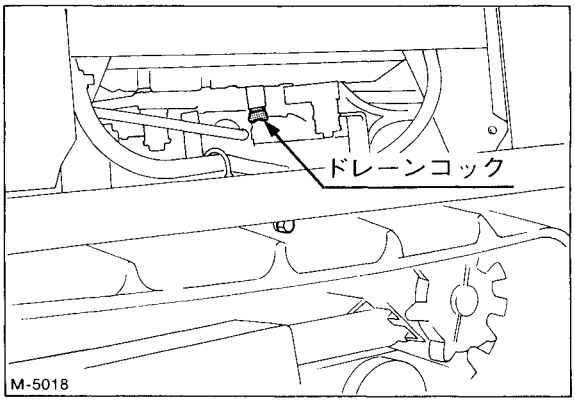
(6)塗料のはげた所には補修塗料を塗って，さびがでないようにしてください。

(7)ラジエータの冷却水は冬期の凍結割れ防止のため，排水するか，不凍液(ロングライフクーラント)を水に混ぜて入れてください。
冷却水を抜取るときは，次の要領で行なってください。

❶ラジエータのキャップを開きます。



❷排水用ドレーンコックを開きます。



❸ドレーンコックは開いたままにし，キャップに**“水なし”**と書いた札をかけておきます。

(8)エンジンは，必ずアクセルレバーをいっぱい戻して止めておいてください。

(9)メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管してください。

(10)バッテリは機体から取外して，液を規定量にしてから充電し，直射日光の当たらない乾燥したところに保存してください。

バッテリは保存中でも自然放電するので，夏は1カ月に1回，冬は2カ月に1回補充電する必要があります。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。

(11)刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーは**“切”**にしておいてください。

(12)戸外に置く場合は，雨水がかからないようにシートでおおっておいてください。

(13)チャフ調節ダイヤルを**“開固定”**にし，トウミ調節ダイヤルを目盛**“3”**にして脱こく機を回し，エンジンフル回転で脱こく機を止めてください。

補　足

＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは御買上げのJA農協や販売店の修理工場に依頼してください。

結束ケース・結束部(ケッセツブカンビ)・電気系統・カッタ刃の交換

■使用済の資材の処分について

交換した廃油・バッテリ・ゴム・プラスチック類は公害源になることがありますので処分の注意が必要です。下記を参考にして実施してください。

廃油・バッテリ……ガソリンスタンドに持ち込んで廃棄を依頼する。

ゴム・プラスチック類……市町村の実施している公害物収集に出すか専門の廃棄業者に依頼する。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！

ページ

ビービーと断続ブザーが鳴る 94

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる 95

発進するとエンジンが止まる 【T仕様】 95

エンジンがかからない 96

作物を刈取らずに押倒していく 97

作物を搬送しない，搬送姿勢が乱れる 98

刈りあとが悪い 99

こぎ残りがでる 99

もみの飛散が多い 100

2番処理ケースが詰まる 100

選別が悪い 101

カッタの切れワラが長くなった 102

ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにすること			原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
＊イージーチェッカを見る。	負荷メータが点滅している。	減速する。	負荷がかかり過ぎている。	＊こぎ深さ制御位置調節レバー(自動のとき) ＊手動こぎ深さスイッチ(手動のとき)	＊こぎ深さ制御位置が適正か確認する。	15,16ページ
				ワラ切刃	＊ワラ切刃が摩耗していないか点検し，摩耗しているときは研摩するか交換する。	81ページ
				こぎ室送じん	＊こぎ室送じん調節を**“標準”**又は**“開”**にする。	38ページ
	モミランプが点滅している。	刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを**“切”**にする。	グレンタンクが満杯。	グレンタンク	＊モミを排出する。	42ページ
			ホッパが満杯。	ホッパ，もみ袋	＊モミを袋に入れる。 ＊モミ袋を交換する。	43,44ページ
	2番/1番ランプが点滅している。		1番又は2番処理ケースが詰まっている。	1番スクリュ 2番処理ケース	＊ケース内及び筒の中のモミ・ワラを取除く。	90ページ
	シーブランプが点滅している。		シーブ上に詰まりが発生している。	シーブケース	＊シーブ上のモミ･ワラを取除く。 ＊チャフ調節ダイヤルを**“開”**の方向へ調節する。	89ページ
＊水温計を見る。	水温計がHの位置にある。		冷却水の温度が上がりすぎている。	冷却水	＊冷却水の有無・漏れの点検をする。	52ページ
				ファンベルト	＊ゆるみを点検する。	74ページ
				防じんカバー ラジエータ オイルクーラフィン	＊泥やゴミが付着していれば取除く。	67ページ
＊こぎ深さ自動ランプを見る。	こぎ深さ自動ランプが点滅している。		こぎ深さセンサ部に浮ワラ・雑草がからんでいる。	こぎ深さセンサ	＊浮ワラ・雑草を取除く。	——

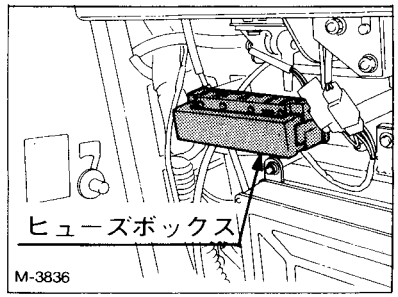
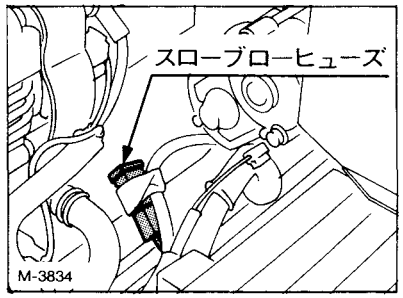
ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる

すぐにすること		原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，イージーチェッカをみる。 ＊刈取りクラッチレバー，脱こくクラッチレバーを**“切”**にする。	刈取りランプが点滅している。	刈取り搬送チェーンが詰まっている。	刈取り部	＊刈取り部にワラが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。	83ページ
	排ワラランプが点滅している。	排ワラ搬送チェーンが詰まっている。	搬送部	＊搬送部(フィードチェーン，排ワラチェーンのバトンタッチ部・カッタの入口部)にワラが詰まっていないか点検し，詰まりがあれば取除く。 ＊フィードチェーンの詰まりは，こぎ胴をオープンして取除く。	87ページ
		カッタ部が詰まっている。	カッタ部	＊カッタの刃が摩耗していないか点検し，摩耗している場合は研摩するか交換する。	48ページ
		結束作業において，ビルにひもが巻付いているか又はひも切れ，ひもの消費。	結節部 結束ひも	＊結節部にひも，ワラなどが巻付いていないか点検し，巻付いていれば取除く。 ＊ひもがなければ補充する。	——

発進するとエンジンが止まる　【T仕様】

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
＊旋回切換レバーを見る。	切換レバーが**“スピンターン”“ソフトターン”**のどちらにも確実に入っていない。	旋回切換レバー	旋回切換レバーを**“スピンターン”“ソフトターン”**のどちらかに確実に入れてから発進する。	9ページ

エンジンがかからない

すぐにすること	原因		点検箇所	処置	参照ページ
＊メインスイッチを**“切”**の位置にする。	セルモータは回る	燃料がない。	燃料ゲージ	＊燃料があるか点検し，ない場合は補給する。（**火気厳禁**）	22ページ
		フューエルフィルタ	フューエルフィルタ	＊フューエルフィルタの目詰まりがないか点検し，洗浄する。 ＊フューエルパイプの折れ，破損を点検し，異常があれば交換する。	65ページ
		燃料の種類	燃料の種類	＊ディーゼル軽油，又はクボタディーゼル重油を補給する。	22ページ
	セルモータが回らない	シフトレバーが**“停止”**になっていない。	シフトレバー	＊シフトレバーを**“停止”**にする。 （シフトレバーを**“停止”**にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しない構造になっています。）	25ページ
		バッテリが上がっている。	バッテリ （ホーンの音が小さい）	＊補充電する。 ＊バッテリ液を点検し，不足の場合は市販のバッテリ精製水を補給する。	55ページ
		ヒューズ・スローブローヒューズが切れている。	ヒューズボックス スローブローヒューズ	＊点検し，切れている場合は予備ヒューズと取替える。（スローブローヒューズはバッテリボックスの内側にあります。） （アンペア数に注意）  M-3836  M-3834	70ページ

作物を刈取らずに押倒していく

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバーを切る。 ＊必ずエンジンを止める。 **注意** **＊株の抜けた作物は，根をカマで切り，直接脱こく機のフィードチェーンに供給してください。**	刈刃や搬送部に根・株・泥・石や木片などの異物がかみ込んでいる。	刈刃部	＊異物を取除き，刈刃部を点検する。	——
		搬送部	＊異物を取除き，周辺を点検する。	——
	刈取り駆動ベルトがスリップしている。	刈取り駆動ベルト 刈取りクラッチ 【HD，SD仕様】 （オートクラッチがついていますので，刈取り部を下げて点検する。）	＊刈取りクラッチを張る。	69ページ
	株の引抜きにより，搬送詰まりしている。	自動車体水平制御装置【M仕様】	〔自動の場合〕 ＊刈取りフレームが地面に平行になるよう，傾斜角調節ダイヤルにより修正する。 〔手動の場合〕 ＊手動操作レバーで，修正する。	21ページ
		デバイダ	＊デバイダの先端が同じ高さになるよう調節する。	36ページ
		作業速度	＊倒伏ほ場での作業速度は，デバイダが株に突込まないよう，操作のできる適正な速度で刈取ってください。	36ページ

作物を搬送しない，搬送姿勢が乱れる

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチレバーを切る。 ＊必ずエンジンを止める。	チェーンや突起付ベルトがゆるんでいる。	チェーンのテンション 突起付ベルト	＊適正な張り調節を行なう。	76ページ 74ページ
	こぎ深さ調節が適正でない。	＊自動こぎ深さ制御装置(自動のとき) ＊手動こぎ深さスイッチ(手動のとき)	＊こぎ深さ制御位置調節レバーを調整して，脱こく供給口の**“こぎ深さ指示マーク”**に穂先が合うように調節する。 (作業中確認してください。)	15ページ
	引起し部で搬送姿勢が乱れる。	引起し変速レバー 副変速レバー	＊引起し変速レバー，副変速レバーを切換える。	6,36ページ
		スライドレール	＊引起しフレームのスライドレールを調整する。	36ページ
	低速作業で搬送姿勢が乱れる。	副変速レバー	＊通常は**“標準”**で作業しますが，あぜぎわ刈りなどで低速(0.1～0.3m/秒)での作業時，フィードチェーンで株元が引張られる場合は，副変速レバー**“倒伏”**で作業してください。	6,36ページ

刈りあとが悪い

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，刈取りクラッチを切る。 ＊必ずエンジンを止める。	刈刃部に土・草がたまっている。	刈刃部	＊取除く。	——
	刈刃が浮き上がっている。	刈刃部	＊刈刃と受刃のすき間を調節する。	79ページ
	刈刃が刃こぼれ又は折れている。	刈刃部	＊刈刃を交換する。	79ページ

こぎ残りがでる

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止し，搬送部にある作物を流しきる。	こぎ深さが浅い。	＊こぎ深さ制御位置調節レバー（自動のとき） ＊手動こぎ深さスイッチ（手動のとき）	＊こぎ深さ制御位置調節レバーで，脱こく機入口の**“こぎ深さ指示ラベル”**の指示の位置に穂先を合せる。	15ページ
	エンジンの回転数が低い。	回転計	＊回転を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	37ページ
	こぎ胴の回転数が低い。	脱こくクラッチのテンションスプリング こぎ胴のテンションスプリング	＊表をみてテンションを張る。	72ページ

もみの飛散が多い

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	エンジン回転数が高い。	回転計	＊回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	37ページ
	こぎ室送じん調節が開きすぎ。	こぎ室送じん調節	＊こぎ室送じん調節を**“標準”**又は**“閉”**の方へ調節する。	38ページ
	脱こく制御の調節が不適当。	稲麦切換えスイッチ トウミ調節ダイヤル チャフ調節ダイヤル	＊稲麦切換えスイッチを作物に合せる。 ＊トウミ調節ダイヤルを**“弱”**の方へ調節する。 ＊チャフ調節ダイヤルを**“開”**の方へ調節する。	14ページ
	シーブケース波板補助の調節が閉じすぎ。	シーブケース波板補助	＊シーブケース波板補助を機体前方へ調節する。	38ページ

2番処理ケースが詰まる

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊脱こくクラッチを切って，エンジンを止める。	2番処理ケースに異物かみこみ。	処理固定歯	＊処理固定歯を開けて異物を取除く。	90ページ
	2番スクリュの回転数が不足。	ベルトの張り	＊表を見て，テンションを張る。	72ページ

選別が悪い

現　　象	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
[稲] ＊小枝梗が多い。 ＊穂切が多い。 [麦] ＊のげが取れない。 ＊稈が取れない。 （脱皮しない）	エンジン回転数が低い。	回転計	＊回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	37ページ
	こぎ室送じん調節が開きすぎ。	こぎ室送じん調節	＊こぎ室送じん調節を**“標準”**又は**“閉”**の方向へ調節する。	38ページ
	チャフ調節が開きすぎ。	チャフ調節ダイヤル	＊チャフ調節ダイヤルを**“閉”**の方向へ調節する。	14ページ
[稲・麦] 切ワラ・ゴミが入る。	エンジン回転数が低い。	回転計	＊回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	37ページ
	トウミ調節が弱すぎる。	トウミ調節ダイヤル	＊トウミ調節ダイヤルを**“強”**の方向へ調節する。	14ページ
	チャフ調節が開きすぎ。	チャフ調節ダイヤル	＊チャフ調節ダイヤルを**“閉”**の方向へ調節する。	14ページ
	シーブケース波板補助の調節が開きすぎ。	シーブケース波板補助	＊シーブケース波板補助を機体後方へ調節する。	38ページ
	シーブケースの１番流し板部のハンプが正しく組込まれていない。	シーブケースの１番流し板のハンプ	＊シーブケースの１番流し板部のハンプを正しくセットする。	89ページ
[稲・麦] 穀粒の傷みが多い。	エンジン回転数が高い。	回転計	＊回転計をみながらアクセルレバーで，指針を緑目盛の最下限に合せる。	37ページ
	こぎ室送じん調節が閉めすぎ。	こぎ室送じん調節	＊こぎ室送じん調節を**“開”**の方向へ調節する。	38ページ
	トウミ調節が弱すぎる。	トウミ調節ダイヤル	＊トウミ調節ダイヤルを**“弱”**の方向へ調節する。	14ページ
	チャフ調節が開きすぎ。	チャフ調節ダイヤル	＊チャフ調節ダイヤルを**“開”**の方向へ調節する。	14ページ

カッタの切れワラが長くなった

すぐにすること	原　　因	点　検　箇　所	処　　置	参照ページ
＊刈取り作業をやめ，必ずエンジンを止める。	カッタの刃が切れない。	カッタの刃	＊新しい刃と交換する。	48ページ
	こぎ深さが深くなりすぎている。	＊こぎ深さ制御位置調節レバー(自動のとき) ＊手動こぎ深さスイッチ(手動のとき)	＊制御位置調節レバーで脱こく機入口の**“こぎ深さ指示マーク”**の指示の位置に穂先を合せる。	15ページ
	カッタ刃のすき間が広い。	刃のすき間	＊すき間の調節	49ページ

付　表

主要諸元

商品名			R_1-301							
区分		上段	K	D	HD	SD	DM	HDM	SDM	SDMC
		下段	KL	DL	HDL	SDL	DML	HDML	SDML	SDMLC
機体寸法	全長(mm)	ホッパ仕様	4095							—
		G仕様	—	4095						
	全幅(mm)		1650(補助ステップ取外し時)							1900
	全高(mm)		1945							2570
重量(kg)		ホッパ仕様	1880				2100			—
		G仕様	—	2060			2280			2405
エンジン	名称		クボタV1405-HC							
	形式		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル							
	総排気量(cc)		1422							
	出力/回転速度(PS/rpm)		31/3000							
	使用燃料/燃料タンク容量(ℓ)		ディーゼル軽油又はクボタディーゼル重油/50							
走行部	クローラ(幅×接地長)(mm)		350×1300				400×1300			
			420×1300				450×1300			
	クローラ中心距離(mm)		915							
	平均接地圧(kgf/cm²)	ホッパ仕様	0.207				0.202			—
			0.172				0.179			
		G仕様	—	0.226			0.219			0.231
				0.189			0.195			0.206
	変速方式		スカイロードマチックHST							
	走行速度(m/秒)	前進	(副変速)低：0～0.84，標準：0～1.25，走行：0～2.05							
		後進								
刈取り部	刈幅(mm)		1150～1200							
	刈取条数(条)		3							
	刃幅(mm)		1150							
	刈高さ範囲(mm)		35～150							
	適応作物範囲(全長)(mm)		550～1300							
	倒伏適応性(度)		追刈り：85°以下，向刈り：70°以下							
	変速段数(段)		走行副変速同調：2＋引起し：2							
脱こく部	脱こく方式		下扱単胴軸流式							
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800							
		回転数(rpm)	480							
	処理胴径×幅(mm)		拡散胴：140×725，2番処理胴：240×100							
	選別方式		揺動，圧風，全幅吸引式							
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(ℓ)	—	850						
		排出高さ×長さ(mm)		3900(オプション4600)×3000(オプション4000)						
		排出時間(秒)		100～130						
		こく粒排出範囲(度)		300						
		排出昇降範囲(度)		45						
		旋回方式/昇降方式		電動モータ式/油圧式						
		メンテナンス		グレンタンクオープン						
	ホッパ仕様	こく粒取出し方式	ホッパ袋詰方式 3口							—
		容量(袋)	4							
カッタ			SR_1-30C(切断長：50mm・150mmの2段切換)							
諸装置	自動化装置	負荷表示	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	—	—	—	○	—	—	○	○
		自動方向制御	—	○	○	○	○	○	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	—	—	—	○	—	—	○	○
		自動脱こく制御	—	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	—	—	—	—	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	—	—	○	○	—	○	○	○
		G仕様 アンローダ自動旋回	—	—	—	○	—	—	○	○
		ホッパ仕様 自動シャッタ	—	—	○	○	—	○	○	—
	刈取り防じんカバー		—	—	○	○	—	○	○	—
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		—	—	—	—	—	—	—	○
	オプション	ワラ処理関係	カッタ後部装着用結束機(結束位置自動制御付)，カッタ後部装着用ストンパ結束機，結束用集束ドロッパ，ドロッパ，カッタ用拡散装置							
		その他	スイスイデバイダ，洗車ポンプ，キャノピ(グレンタンク仕様のみ装着可能)							
作業能率(分/10a)			16～30							

注）①機体寸法、重量：カッタ付の場合 ②G仕様：グレンタンク付き ③全高：車体水平制御は最下限位置の場合

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

商品名			R_1-351・R_1-401							
区分		上段	K	D	SD	DM	SDM	SDMLL	SDMC	SDMLLC
		下段	KL	DL	SDL	DML	SDML SDMW		SDMLC SDMWC	
機体寸法	全長(mm)	ホッパ仕様	4155					—		
		G仕様	4155							
	全幅(mm)		1650(補助ステップ取外し時)						1900	
	全高(mm)		1945						2570	
重量(kg)		ホッパ仕様	1975			2160		—		
		G仕様	2155			2340		2410	2465	2535
エンジン	名称		R_1-351：クボタV1405-HC/R_1-401：クボタV1505-C							
	形式		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル							
	総排気量(cc)		R_1-351：1422/R_1-401：1498							
	出力/回転速度(PS/rpm)		R_1-351：31/3000/R_1-401：35/3000							
	使用燃料/燃料タンク容量(ℓ)		ディーゼル軽油又はクボタディーゼル重油/50							
走行部	クローラ(幅×接地長)(mm)		400×1300 / 450×1300					450×1435	400×1300 / 450×1300	450×1435
	クローラ中心距離(mm)		1000							
	平均接地圧(kgf/cm²)	ホッパ仕様	0.190 / 0.169			0.208 / 0.185		—		
		G仕様	0.207 / 0.184			0.225 / 0.200		0.187	0.237 / 0.211	0.196
	変速方式		スカイロードマチックHST							
	走行速度(m/秒)	前進	(副変速)低：0～0.84，標準：0～1.25，走行：0～2.05							
		後進								
刈取り部	刈幅(mm)		1400～1450							
	刈取条数(条)		4							
	刃幅(mm)		1386							
	刈高さ範囲(mm)		35～150							
	適応作物範囲(全長)(mm)		550～1300							
	倒伏適応性(度)		追刈り：85°以下，向刈り：70°以下							
	変速段数(段)		走行副変速同調：2+引起し：2							
脱こく部	脱こく方式		下扱単胴軸流式							
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800							
		回転数(rpm)	480							
	処理胴径×幅(mm)		拡散胴：140×725，2番処理胴：240×100							
	選別方式		揺動，圧風，全幅吸引式							
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(ℓ)	850							
		排出高さ×長さ(mm)	3900(オプション4600)×3000(オプション4000)							
		排出時間(秒)	100～130							
		こく粒排出範囲(度)	300							
		排出昇降範囲(度)	45							
		旋回方式/昇降方式	電動モータ式/油圧式							
		メンテナンス	グレンタンクオープン							
	ホッパ仕様	こく粒取出し方式	ホッパ袋詰方式 3口					—		
		容量(袋)	4							
カッタ			SR$_1$-30C(切断長：50mm・150mmの2段切換)							
諸装置	自動化装置	負荷表示	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	—	—	○	—	○	○	○	○
		自動方向制御	—	○	○	○	○	○	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	—	—	○	—	○	○	○	○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	—	—	—	○	○	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○	○	○	○
		G仕様 アンローダ自動旋回	—	○	○	○	○	○	○	○
		ホッパ仕様 自動シャッタ	—	○	○	○	○	—	—	—
	刈取り防じんカバー		—	○	○	○	○	○	—	—
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		—	—	—	—	—	—	○	○
	オプション	ワラ処理関係	カッタ後部装着用結束機(結束位置自動制御付)，カッタ後部装着用ストンパ結束機，結束用集束ドロッパ，ドロッパ，カッタ用拡散装置							
		その他	スイスイデバイダ，洗車ポンプ，キャノピ(グレンタンク仕様のみ装着可能)							
作業能率(分/10a)			R_1-351：14～30/R_1-401：14～25							

注) ①機体寸法、重量：カッタ付の場合 ②G仕様：グレンタンク付き ③全高：車体水平制御は最下限位置の場合

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

商品名			R_1-301			R_1-351・401	
区分			SDMLL	SDMT	SDMTL	SDMT	SDMTL
機体寸法	全長(mm)	ホッパ仕様	—			—	
		G仕様	4095			4155	
	全幅(mm)		1650(補助ステップ取外し時)				
	全高(mm)		1945				
重量(kg)		ホッパ仕様	—			—	
		G仕様	2350	2340		2400	
エンジン	名称		クボタV1405-HC			R_1-351：クボタV1405-HC/R_1-401：クボタV1505-C	
	形式		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル			水冷4サイクル4気筒立形ディーゼル	
	総排気量(cc)		1422			R_1-351：1422/R_1-401：1498	
	出力/回転速度(PS/rpm)		31/3000			R_1-351：31/3000/R_1-401：35/3000	
	使用燃料/燃料タンク容量(ℓ)		ディーゼル軽油/50				
走行部	クローラ(幅×接地長)(mm)		450×1435	400×1300	450×1300	400×1300	450×1300
	クローラ中心距離(mm)		915			1000	
	平均接地圧(kgf/cm²)	ホッパ仕様	—			—	
		G仕様	0.182	0.225	0.200	0.231	0.205
	変速方式		スカイロードマチックHST				
	旋回方式		ブレーキターン	スピン・ソフトターン		スピン・ソフトターン	
	走行速度(m/秒)	前進	低：0～0.84 標準：0～1.25 走行：0～2.05	低：0～0.88 標準：0～1.26 走行：0～2.30		低：0～0.88 標準：0～1.26 走行：0～2.30	
		後進					
刈取り部	刈幅(mm)		1150～1200			1400～1450	
	刈取条数(条)		3			4	
	刃幅(mm)		1150			1386	
	刈高さ範囲(mm)		35～150				
	適応作物範囲(全長)(mm)		550～1300				
	倒伏適応性(度)		追刈り：85°以下，向刈り：70°以下				
	変速段数(段)		走行副変速同調：2+引起し：2				
脱こく部	脱こく方式		下扱単胴軸流式				
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×800				
		回転数(rpm)	480				
	処理胴径×幅(mm)		拡散胴：140×725，2番処理胴：240×100				
	選別方式		揺動，圧風，全幅吸引式				
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(ℓ)	850				
		排出高さ×長さ(mm)	3900(オプション4600)×3000(オプション4000)				
		排出時間(秒)	100～130				
		こく粒排出範囲(度)	300				
		排出昇降範囲(度)	45				
		旋回方式/昇降方式	電動モータ式/油圧式				
		メンテナンス	グレンタンクオープン				
	ホッパ仕様	ホッパ容量(口数×袋)	—			—	
		袋受棒脱着	—			—	
カッタ			SR$_1$-30C(切断長：50mm・150mmの2段切換)				
諸装置	自動化装置	負荷表示	○			○	
		自動車速制御	○			○	
		自動方向制御	○			○	
		自動こぎ深さ制御	○			○	
		自動刈高さ制御	○			○	
		自動脱こく制御	○			○	
		自動車体水平制御	○			○	
		刈取りオートクラッチ	○			○	
		G仕様	アンローダ自動旋回	○			○
		ホッパ仕様	自動シャッタ	—			—
	刈取り防じんカバー		○			○	
	集中注油装置		○			○	
	キャビン		—			—	
	オプション	ワラ処理関係	カッタ後部装着用結束機(結束位置自動制御付)，カッタ後部装着用ストンパ結束機，結束用集束ドロッパ，ドロッパ，カッタ用拡散装置				
		その他	スイスイデバイダ，洗車ポンプ，キャノピ				
作業能率(分/10a)			16～30			R_1-351：14～30/R_1-401：14～25	

注）①機体寸法、重量：カッタ付の場合 ②G仕様：グレンタンク付き ③全高：車体水平制御は最下限位置の場合

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

商品名			R_1-451						R_1-551				
区分			K KL	D DL	SD SDL	DM DML	SDM SDML	SDMC SDMLC	D DL	SD SDL	DM DML	SDM SDML	SDMC SDMLC
機体寸法	全長(mm)	ホッパ仕様	4515					—	—				
		G仕様	4515(Gタンクオーガ含む4910)										
	全幅(mm)		1690(補助ステップ取外し時)					1950	1920				2070
	全高(mm)		1990					2750	2210				2750
重量(kg)		ホッパ仕様	2410			2530		—	—				
		G仕様	2610			2730		2860	2725		2845		2975
エンジン	名称		クボタV1512-DI-T-C-2						クボタF2803-DI-C				
	形式		水冷4サイクル4気筒立形直噴ディーゼル(ターボ)						水冷4サイクル5気筒立形直噴ディーゼル				
	総排気量(cc)		1499						2746				
	出力/回転速度(PS/rpm)		42/2700						60/2700				
	使用燃料/燃料タンク容量(ℓ)		ディーゼル軽油/50										
走行部	クローラ(幅×接地長)(mm)		450×1510										
	クローラ中心距離(mm)		1035						1105				
	平均接地圧(kgf/cm²)	ホッパ仕様	0.177			0.186		—	—				
		G仕様	0.192			0.201		0.210	0.201		0.209		0.219
	変速方式		スカイロードマチックHST										
	走行速度(m/秒)	前進	(副変速)低：0～0.84，標準：0～1.25，走行：0～2.20						低：0～0.84，標準：0～1.25，走行：0～2.20				
		後進											
刈取り部	刈幅(mm)		1400～1450						1650～1700				
	刈取条数(条)		4						5				
	刃幅(mm)		1386						1636				
	刈高さ範囲(mm)		35～150										
	適応作物範囲(全長)(mm)		550～1300										
	倒伏適応性(度)		追刈り：85°以下，向刈り：70°以下										
	変速段数(段)		走行副変速同調：2+引起し：3										
脱こく部	脱こく方式		下扱単胴軸流式										
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×1000										
		回転数(rpm)	480										
	処理胴径×幅(mm)		拡散胴：140×725，2番処理胴：240×100										
	選別方式		揺動，圧風，全幅吸引式										
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(ℓ)	1190						1500				
		排出高さ×長さ(mm)	4600×4000						4750×4000				
		排出時間(秒)	130～160						160～200				
		こく粒排出範囲(度)	300										
		排出昇降範囲(度)	45										
		旋回方式/昇降方式	電動モータ式/油圧式										
		メンテナンス	グレンタンクオープン										
	ホッパ仕様	ホッパ容量(口数×袋)	3口＋4袋						—				
		袋受棒脱着	○										
カッタ			SR$_1$-55C(切断長：50mm・150mmの2段切換)										
諸装置	自動化装置	負荷表示	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動車速制御	—	—	○	—	○	○	—	○	—	○	○
		自動方向制御	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動こぎ深さ制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動刈高さ制御	—	—	○	—	○	○	—	○	—	○	○
		自動脱こく制御	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		自動車体水平制御	—	—	—	○	○	○	—	—	○	○	○
		刈取りオートクラッチ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		G仕様 アンローダ自動旋回	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		G仕様 張出しリモコン	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○
		ホッパ仕様 自動シャッタ	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—
	刈取り防じんカバー		—	○	○	○	○	—	○	○	○	○	—
	集中注油装置		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャビン		—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○
	オプション	ワラ処理関係	カッタ後部装着用結束機(結束位置自動制御付)，カッタ後部装着用ストンパ結束機，結束用集束ドロッパ，ドロッパ，カッタ用拡散装置										
		その他	スイスイデバイダ										
作業能率(分/10a)			14～20						12～14				

注) ①機体寸法、重量：カッタ付の場合 ②G仕様：グレンタンク付き ③全高：車体水平制御は最下限位置の場合

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

商品名			R_1-451			R_1-551					
区分			SDMLL	SDMT SDMTL	SDMTLL	SDMLL	SDMLLC	SDMT SDMTL	SDMTLL	SDMTC SDMTLC	SDMTLLC
機体寸法	全長(mm)	ホッパ仕様	—			—					
		G仕様	4515(Gタンクオーガ含む4910)								
	全幅(mm)		1690			1920	2070	1920		2070	
	全高(mm)		1990			2210	2750	2210		2750	
重量(kg)		ホッパ仕様	—			—					
		G仕様	2775		2815	2890	3020	2890	2930	3020	3060
エンジン	名称		クボタV1512-DI-T-C-2			クボタF2803-DI-C					
	形式		水冷4サイクル4気筒立形直噴ディーゼル(ターボ)			水冷4サイクル5気筒立形直噴ディーゼル					
	総排気量(cc)		1499			2746					
	出力/回転速度(PS/rpm)		42/2700			60/2700					
	使用燃料/燃料タンク容量(ℓ)		ディーゼル軽油/50								
走行部	クローラ(幅×接地長)(mm)		450×1780	450×1510	450×1780	450×1780		450×1510	450×1780	450×1510	450×1780
	クローラ中心距離(mm)		1035			1155					
	平均接地圧(kgf/cm²)	ホッパ仕様	—			—					
		G仕様	0.173	0.204	0.176	0.180	0.188	0.213	0.183	0.222	0.191
	変速方式		スカイロードマチックHST								
	旋回方式		ブレーキターン	スピン・ソフトターン		ブレーキターン		スピン・ソフトターン			
	走行速度(m/秒)	前進	低:0~0.84 標準:0~1.25 走行:0~2.20	低:0~0.88 標準:0~1.26 走行:0~2.30		低:0~0.84 標準:0~1.25 走行:0~2.20		低:0~0.88 標準:0~1.26 走行:0~2.30			
		後進									
刈取り部	刈幅(mm)		1400~1450			1650~1700					
	刈取条数(条)		4			5					
	刃幅(mm)		1386			1636					
	刈高さ範囲(mm)		35~150								
	適応作物範囲(全長)(mm)		550~1300								
	倒伏適応性(度)		追刈り:85°以下, 向刈り:70°以下								
	変速段数(段)		走行副変速同調:2+引起し:3								
脱こく部	脱こく方式		下扱単胴軸流式								
	こぎ胴	径×幅(mm)	424×1000								
		回転数(rpm)	480								
	処理胴径×幅(mm)		拡散胴:140×725, 2番処理胴:240×100								
	選別方式		揺動, 圧風, 全幅吸引式								
こく粒取出部	グレンタンク仕様	タンク容量(ℓ)	1190			1500					
		排出高さ×長さ(mm)	4600×4000			4750×4000					
		排出時間(秒)	130~160			160~200					
		こく粒排出範囲(度)	300								
		排出昇降範囲(度)	45								
		旋回方式/昇降方式	電動モータ式/油圧式								
		メンテナンス	グレンタンクオープン								
	ホッパ仕様	ホッパ容量(口数×袋)	—			—					
		袋受棒脱着	—			—					
カッタ			SR1-55C(切断長:50mm・150mmの2段切換)								
諸装置	自動化装置	負荷表示	○			○					
		自動車速制御	○			○					
		自動方向制御	○			○					
		自動こぎ深さ制御	○			○					
		自動刈高さ制御	○			○					
		自動脱こく制御	○			○					
		自動車体水平制御	○			○					
		刈取りオートクラッチ	○			○					
		G仕様 アンローダ自動旋回	○			○					
		G仕様 張出しリモコン	—			○					
		ホッパ仕様 自動シャッタ	—			—					
	刈取り防じんカバー		○			○					
	集中注油装置		○			○					
	キャビン		—			—	○	—		○	
	オプション	ワラ処理関係	カッタ後部装着用結束機(結束位置自動制御付), カッタ後部装着用ストンパ結束機, 結束用集束ドロッパ, ドロッパ, カッタ用拡散装置								
		その他	スイスイデバイダ								
作業能率(分/10a)			14~20			12~14					

注) ①機体寸法、重量:カッタ付の場合 ②G仕様:グレンタンク付き ③全高:車体水平制御は最下限位置の場合

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊サービスブック	1
＊取扱説明書	1
＊ボディカバー	1
＊もみ袋	2(ホッパ仕様)
＊小物部品	1セット
＊刈取りスタンド	2
＊ADCセンサバー	2
＊受アミ脱着金具	1

＊工具

8－10スパナ	1
10－12スパナ	1
12－14スパナ	1
14－17スパナ	1
12－14ボックススパナ	1
ハンドル	1
⊕ドライバ	1
⊖ドライバ	1
プライヤ	1
オイル差し	1
ジョウゴ	1
給油パイプ	1
10L型レンチ	1【R_1-451·551】
12L型レンチ	1【R_1-451·551】
14L型レンチ	1【R_1-451·551】

特別付属品(別売)

■スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

機　種	品　番	品　名
R_1-301·351·401·451	58154－00000	RM45スイスイデバイダ
R_1-551	58152－00000	RM55スイスイデバイダ

■洗車ポンプ

コンバイン本体より動力を取出し，洗車ポンプを装着することができます。

機　種	品　番	品　名
R_1-301·351·401	58285－00000	洗車ポンプ

■キャノピ

機　種	品　番	品　名
R_1-301G·351G·401G	58277－00000	CP301キャノピ
R_1-451G	58278－00000	CP451キャノピ
R_1-551G	58279－00000	CP551キャノピ

■種子用部品

稲，麦の種子採取専用機にするための交換部品。

機　種	品　番	品　名
R_1-301·351·401	53881－9130－0	種子用部品アッシ
R_1-451·551	53971－9130－0	種子用部品アッシ

■アンローダ操作スイッチ

アンローダ先端でアンローダの作業ができます。

品　番	品　名
58217－00000	アンローダ操作スイッチ

■延長アンローダ

延長アンローダを簡単に取付けることができ，速くて高い所に排出できます。

機　種	品　番	品　名
R_1-301·351·401	58050－9101－0	延長アンローダアッシ

■カッタ後部装着用結束機

稈長に応じて自動スライドし，株揃い・寄せ装置もついています。

品　番	品　名
57971－02000	KR_1－55SYN

■カッタ後部装着用ストンパ結束機

自動スライド，株揃い装置もついたストンパ専用の結束機です。

品　番	品　名
57981－02000	KR_1－55SRN

■カッタ用拡散装置

拡散も，条散布も1台2役の本格的拡散装置です。

品　番	品　名
57297－00000	WR_1－55

■大径ひもケース

大径ひも(3バイクン)を使用することにより約6反の連続作業が可能です。

品　番	品　名
57832－00000	DH－551ケースアッシ(ひも)

■3バイクン(大径結束ひも)

従来結束ひもより3倍の長さがあり1本のひもで4～6反の連続作業が可能です。

品　番	品　名
57971－9112－2	ひも(PP大径ひも)
57971－9111－2	ひも(ジュート大径ひも)

■ドロッパ

着脱が簡単で，手元切換えがついています。

品　番	品　名
57287－00000	DR_1－55

■結束用集束ドロッパ

結束した束を3・4束ずつまとめて落しますので，回収が楽になります。

品　番	品　名
57876－00000	D3－CS

■セラミック回転刃

従来切断刃の3倍以上の耐久性があります。

品　番	品　名
57781－9120－0	セツダンバ(200，セラミック)
57781－9110－0	セツダンバ(170，セラミック)

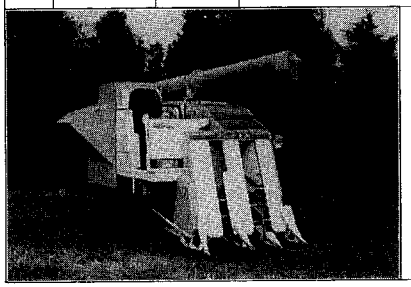
■ハネ，アッシ

麦作業において，カッター部への噛込みが悪い場合使用してください。

品　番	品　名
57746－9110-0	ハネ，アッシ(53×165カキダシ)

コンバイン（自脱型）検査成績表

合格番号	型式名	依頼者名	住所
92046	クボタ　R8803G	株式会社　クボタ	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号



- 乗用型，3条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：22.8kW｛31PS｝／3000rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速（主変速）
  ギヤ変速3段（副変速）
- 走行速度：前　進 0～2.07m／s
  後　進 0～2.07m／s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置
  自動こぎ深さ制御装置，自動車速制御装置
  自動選別制御装置，自動車体水平制御装置付

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ（作業状態，カッタ付き）
- 全長：413cm（デバイダ先端～カッタ後部）
- 全幅：246cm（グレインタンク～左分草桿）
- 全高：215cm（アンローダ先端）
- 質量：2317kg

2．機　関
- 型式：クボタV1405－HC
- 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
- 出力：22.8kW{31PS}/3000rpm
- 始動方式：セルモータ式

3．走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST（無段）
- 副変速：3段
- 走行速度：前進
  0～0.85，0～1.26，0～2.07m/s
  後進
  0～0.85，0～1.26，0～2.07m/s

4．前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：120cm
- 昇降方式：油圧式（刈刃の高さ4～45cm）

(1)　引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2)　刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：115cm

(3)　搬送装置
- 突起付Vベルト，スターホイル，
  タインドチェーン，搬送チェーン

5．脱穀・選別部
- こぎ胴，揺動板（篩），2番処理機構，圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×80.2cm
- こぎ胴回転数：稲　480rpm，麦　480rpm

6．穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：900ℓ（満杯容量）

7．排わら処理装置
- ディスク形カッタ（集束装置付き），結束装置

II　検　査　成　績

1．作業の性能

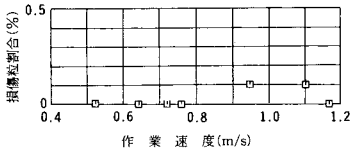
(1)　能率試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

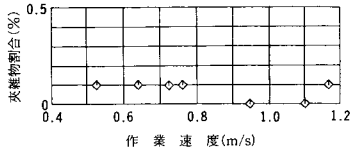
供試作物・品種	条間×株間	作物全長	作物条件 含水率 穀粒	作物条件 含水率 わら	概略もみ収量（含水率14%換算）
水稲　朝の光	32×14cm	95cm	21.1%	61.8%	580kg/10a

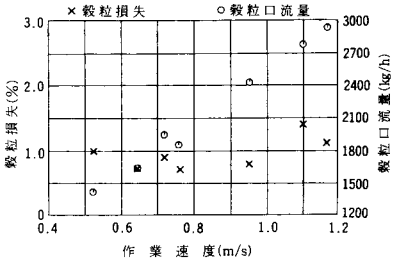
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
69.8×29.5m	2006㎡	3条左廻り刈り	1.12m/s	2339kg/h	28.7a/h	23.5a/h

(2)　精度試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

供試作物・品種	条間×株間	作物全長	作物条件 含水率 穀粒	作物条件 含水率 わら	概略もみ収量（含水率14%換算）
水稲　朝の光	31×16cm	98cm	23.1%	67.6%	690kg/10a







2．騒　　音：93dB(A)

3．安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

4．そ の 他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，自動車速制御装置，自動選別制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間（刈取及びそれに伴う回行に要する時間）で除した単位時間当たりの作業面積をいう。

ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。

騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

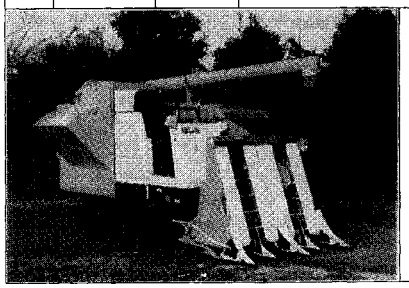
III　付　　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたコンバインの第Ⅰ類自脱型に属するものである。

本機は，既合格機クボタR8803G（合格番号89054）と脱穀選別部の構造が異なる。

コンバイン（自脱型）検査成績表

合格番号	91070	型式名	クボタ　R8808G
		依頼者名	株式会社　クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号



- 乗用型，4条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：25.7kW｛35PS｝／3000rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速（主変速）
  ギヤー変速3段（副変速）
- 走行速度：前　進0～2.07m／s
  後　進0～2.07m／s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置
  自動こぎ深さ制御装置，自動車速制御装置
  自動選別制御装置，自動車体水平制御装置付

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ（作業状態カッタ付き）
- 全長：414cm（デバイダ先端～カッタ後部）
- 全幅：240cm（グレインタンク～左分草桿）
- 全高：213cm（アンローダ）
- 質量：2380kg

2．機　関
- 型式：クボタV　1505－C
- 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
- 出力：25.7kW{35PS}/3000rpm
- 始動方式：セルモータ式

3．走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST
- 副変速：3段
- 変速段数：前進　無段変速（副変速3段）
  （0～0.85，0～1.26，0～2.07m/s）
  後進　無段変速（副変速3段）
  （0～0.85，0～1.26，0～2.07m/s）

4．前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：145cm
- 昇降方式：油圧式（刈刃の高さ4～45cm）

(1)　引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2)　刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：138.6cm

(3)　搬送装置
突起付Vベルト，スターホイール，
タインドチェーン，搬送チェーン

5．脱穀・選別部
こぎ胴，処理胴，揺動板（篩）
圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×80.2cm
- こぎ胴回転数：稲　480rpm，麦　480rpm

6．穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：850ℓ（満杯容量）

7．排わら処理装置
ディスク形カッタ（集束装置付き）
結束装置

II　検　査　成　績

1．作業の性能

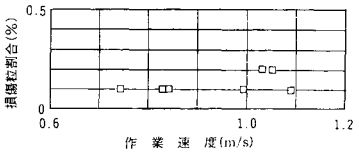
(1)　能率試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

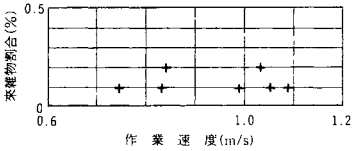
供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量（含水率14%換算）
水稲　朝の光	29×17cm	99cm	24.5%	66.9%	600kg/10a

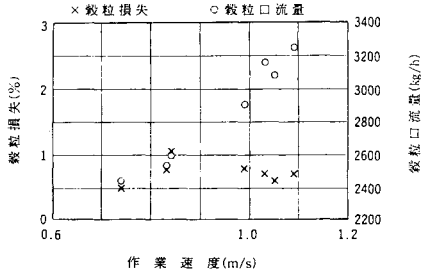
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
54.5×42.1m	2261.2m²	4条左廻り刈り	0.96m/s	3002kg/h	33.3a/h	26.3a/h

(2)　精度試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量（含水率14%換算）
水稲　朝の光	30×19cm	97cm	22.0%	69.0%	810kg/10a







2．騒　　音：89dB(A)
3．安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置
4．そ の 他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，自動車速制御装置，自動選別制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間（刈取及びそれに伴う回行に要する時間）で除した単位時間当たりの作業面積をいう。
ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。
騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

III　付　　記

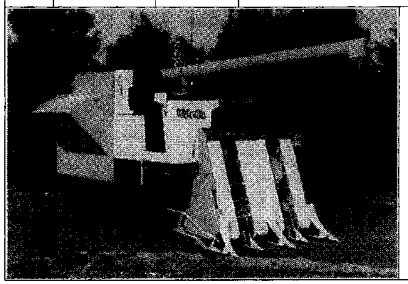
本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたコンバインの第II類自脱型に属するものである。

本機は，既合格機クボタR8808G（合格番号89056）と2番還元部の構造が異なる。

コンバイン（自脱型）検査成績表

合格番号	91071	型式名	クボタ　R8802G
		依頼者名	株式会社　クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

生物系特定産業技術研究推進機構



- 乗用型，4条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：30.9kW｛42PS｝／2700rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速(主変速)
  ギヤー変速3段(副変速)
- 走行速度：前　進0～2.05m／s
  後　進0～2.05m／s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置
  自動こぎ深さ制御装置，自動車速制御装置
  自動選別制御装置，自動車体水平制御装置付

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ(作業状態カッタ付き)

- 全長：500cm(アンローダ先端～カッタ後部)
- 全幅：242cm(グレインタンク～左分草桿)
- 全高：226cm(アンローダ)
- 質量：2755kg

2．機　関

- 型式：クボタV 1512-DI-T-C-2
- 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
- 出力：30.9kW{42PS}/2700rpm
- 始動方式：セルモータ式

3．走行部

- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST
- 副変速：3段
- 変速段数：前進　無段変速(副変速3段)
  (0～0.84,0～1.25,0～2.05m/s)
  後進　無段変速(副変速3段)
  (0～0.84,0～1.25,0～2.05m/s)

4．前処理部

- デバイダ最外側先端間隔：145cm
- 昇降方式：油圧式(刈刃の高さ4～45cm)

(1) 引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2) 刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：138.6cm

(3) 搬送装置
突起付Vベルト，スターホイール，
タインドチェーン，搬送チェーン

5．脱穀・選別部

こぎ胴，処理胴，揺動板(篩)
圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×100.2cm
- こぎ胴回転数：稲　480rpm，麦　480rpm

6．穀粒処理部

- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：1190 l (満杯容量)

7．排わら処理装置

ディスク形カッタ(集束装置付き)
結束装置

II　検　査　成　績

1．作業の性能

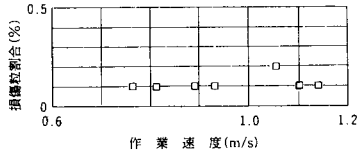
(1) 能率試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

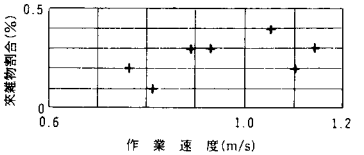
供試作物・品種	条間×株間	作物全長	作物条件 含水率 穀粒	作物条件 含水率 わら	概略もみ収量(含水率14%換算)
水稲　朝の光	30×16cm	95cm	22.1%	68.2%	610kg/10a

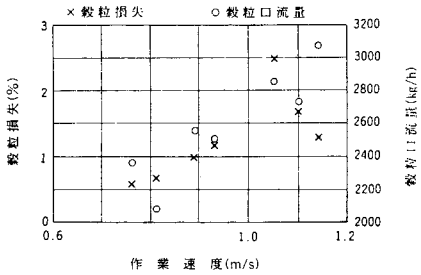
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
69.5×35.8m	2435.4m²	4条左廻り刈り	1.09m/s	3212kg/h	39.4a/h	32.3a/h

(2) 精度試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

供試作物・品種	条間×株間	作物全長	作物条件 含水率 穀粒	作物条件 含水率 わら	概略もみ収量(含水率14%換算)
水稲　朝の光	30×18cm	97cm	22.3%	69.9%	710kg/10a







2．騒　　音：88dB(A)
3．安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置
4．そ の 他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，自動車速制御装置，自動選別制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間（刈取及びそれに伴う回行に要する時間）で除した単位時間当たりの作業面積をいう。
ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。
騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

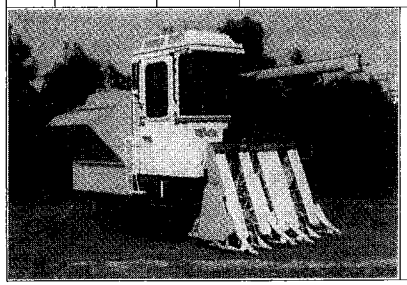
III　付　　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたコンバインの第II類自脱型に属するものである。

本機は，既合格機クボタR8802G（合格番号89053）と2番遣元部の構造が異なる。

コンバイン（自脱型）検査成績表

合格番号	91072	型式名	クボタ　R9101G
		依頼者名	株式会社　クボタ
		住所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号



- 乗用型，5条刈
- 穀粒処理方式：タンク式
- 機関出力：44.1kW｛60PS｝／3000rpm
- 走行変速方式：HSTによる無段変速（主変速）
  ギヤー変速3段（副変速）
- 走行速度：前　進 0～2.05m／s
  後　進 0～2.05m／s
- 自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置
  自動こぎ深さ制御装置，自動車速制御装置
  自動選別制御装置，自動車体水平制御装置付

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ（作業状態カッタ付き）
- 全長：499cm（アンローダ先端～カッタ後部）
- 全幅：258cm（グレインタンク～左分草桿）
- 全高：275cm（キャビン）
- 質量：3008kg

2．機　関
- 型式：クボタF2803－DI－C
- 種類：水冷4サイクル5気筒ディーゼル
- 出力：44.1kW{60PS}/2700rpm
- 始動方式：セルモータ式

3．走行部
- 形式：ゴムクローラ
- 主変速：HST
- 副変速：3段
- 変速段数：前進　無段変速（副変速3段）
  （0～0.84，0～1.25，0～2.05m/s）
  後進　無段変速（副変速3段）
  （0～0.84，0～1.25，0～2.05m/s）

4．前処理部
- デバイダ最外側先端間隔：165cm
- 昇降方式：油圧式（刈刃の高さ4～45cm）

(1)　引起し装置
- 形式：タインドチェーン方式

(2)　刈取装置
- 形式：往復動刃
- 刃幅：163.6cm

(3)　搬送装置
突起付Vベルト，スターホイール，
タインドチェーン，搬送チェーン

5．脱穀・選別部
こぎ胴，処理胴，揺動板（篩）
圧風ファン，吸引ファン
- 脱穀方式：下こぎ式
- こぎ胴の径と幅：42.4×100.2cm
- こぎ胴回転数：稲　480rpm，麦　480rpm

6．穀粒処理部
- 処理方式：タンク式
- 呼称容量：1500 l（満杯容量）

7．排わら処理装置
ディスク形カッタ（集束装置付き）
結束装置

II　検　査　成　績

1．作業の性能

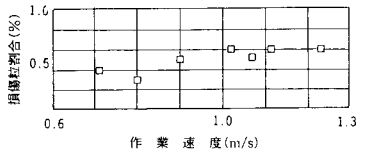
(1)　能率試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

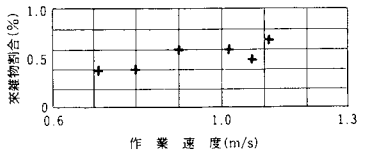
供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量（含水率14%換算）
水稲　朝の光	30×17cm	100cm	23.7%	65.6%	630kg/10a

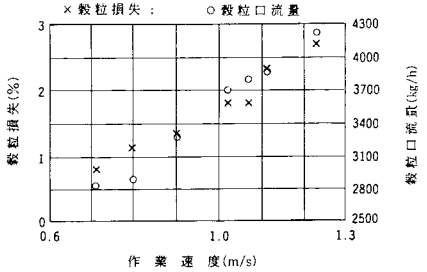
供試ほ場区画	機械刈面積	作業方法	作業速度	穀粒口流量	正味ほ場作業量	ほ場作業量
66.0×31.0m	2016.9m²	5条左廻り刈り	1.19m/s	4399kg/h	50.2a/h	39.8a/h

(2)　精度試験（試験場所：埼玉県北足立郡吹上町）

供試作物・品種	作物条件 条間×株間	作物全長	含水率 穀粒	含水率 わら	概略もみ収量（含水率14%換算）
水稲　朝の光	30×18cm	95cm	23.6%	70.7%	700kg/10a







2．騒　　音：85dB(A)

3．安全装備：可動部・高温部・突起部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

4．そ の 他：自動方向制御装置，自動刈高さ制御装置，自動こぎ深さ制御装置，自動車速制御装置，自動選別制御装置，自動車体水平制御装置は円滑に作動した。

正味ほ場作業量：機械刈面積を正味作業時間（刈取及びそれに伴う回行に要する時間）で除した単位時間当たりの作業面積をいう。

ほ場作業量：機械刈面積を収穫開始から終了までの全作業時間で除した単位時間当たりの作業面積をいう。なお，作業人員は運転者1名である。

騒　　音：刈取作業時の運転者耳元での騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められたコンバインの第III類自脱型に属するものである。

クボタ純オイル

■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルはコンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

お買い求めは，販売店またはJA農協へご用命ください。

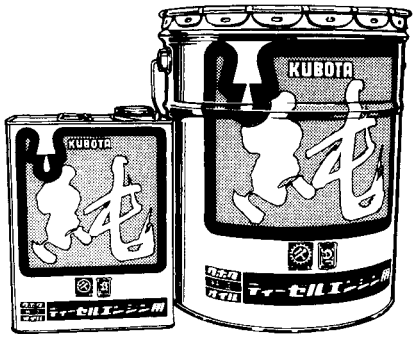
●エンジンには……

■クボタ純オイル

D30又はD10W30

ターボ付エンジンはD10W30スーパーCD，又はD30スーパーCD

（ディーゼルエンジン用）



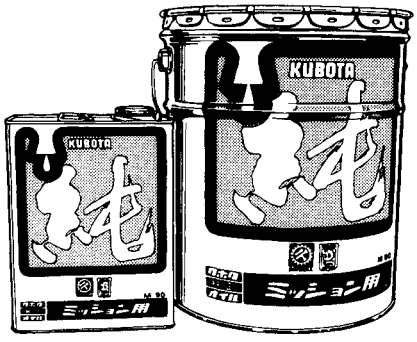
4ℓ　20ℓ

Z-1002

●脱こく機，結束機には……

■クボタ純オイル

M90



Z-1004

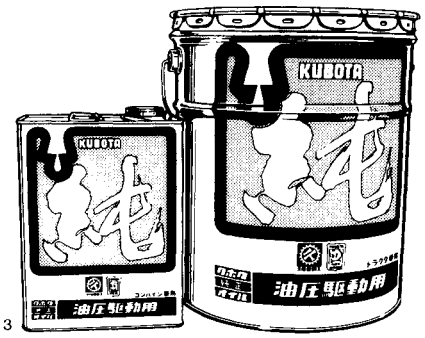
4ℓ　20ℓ

●オイルタンク(HST)には……

■クボタ純オイル

UDT

（ミッション・油圧兼用）

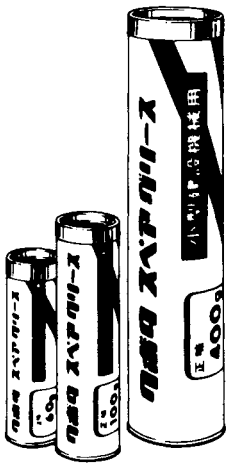


Z-1013

4ℓ　20ℓ

●グリースアップには……

■クボタスペアグリース



Z-1005

60　100　400

ラットガード

ラットガード クボタ純正品
ネズミよけスプレー塗料

品　番	品　名
07909-24590	ラットガード

■ネズミよけ塗料は…

- 機械の配線コード，ベルト，管，ホースなどへ
- ネズミの巣となりそうなところへ
- かじられたくないものを保管するカバー・袋・箱・ケースなどへ
- 家具・建具・調度品などへ

■ネズミよけ塗料の効果的なご使用は…

- ネズミが物を噛じる場合の習性は，かどの部分から噛じり始めます。決して平面部分から噛じり始めることはありませんので，かどの部分を重点的にネズミよけ塗料を塗布してください。
- 電線・管等の断面積の円形のもの，又は細いものは２～３cmの距離からノズルを軽く押えながら全体的に塗布してください。
- ネズミの通路を防ぐ場合は，ウエス・紙などでフタをし，その上からネズミよけ塗料で塗布してください。
- ネズミの巣となりそうなところへは，その周辺から中心に向って，厚めにネズミよけ塗料を塗布してください。

■ネズミよけ塗料の適用範囲は…

- ネズミはもちろんのこと，モグラ，イタチ，ウサギ，鹿などの動物にも効果があります。

■塗布後の有効期間は…

- 塗布する厚み，場所などの条件により有効期間は異なりますが，容器に表示の量（１カンで2.8㎡）を使用した場合，次の効果があります。

	条件の良いところ	標　準	条件の悪いところ
味覚効果	1.5年~2年	1年~1.5年	6ヵ月~1年
臭気効果	8ヵ月~1年	6~8ヵ月	3~6ヵ月

※条件の悪いところは，
直射日光の当るところ。風雨にさらされやすいところ。湿気の多いところなどです。

※条件の悪いところでは，容器に表示の量より厚めに塗布してください。有効期間が長くなります。

M-1027　420mℓ

注　意

(1)ネズミよけ塗料は，殺鼠剤ではありません。ネズミにかじられそうなところへ塗布することにより，ネズミの害から守るための製品です。

(2)ご使用に際しては，製品に記載の注意事項を守ってください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06) 648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03) 3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011) 214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022) 267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052) 564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092) 473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011) 662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022) 384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048) 862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722) 41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862) 79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092) 606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722) 41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286) 61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752) 5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720) 40-1121
堺部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722) 45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286) 63-6336
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752) 2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720) 40-1797
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011) 376-2335

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188) 45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022) 384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048) 862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025) 285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762) 75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586) 24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722) 41-8550

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859) 33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862) 79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878) 74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092) 606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096) 357-6181

品番 58672—8511—8

Kubota